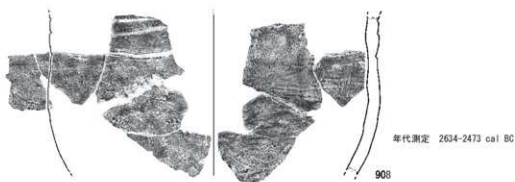




907

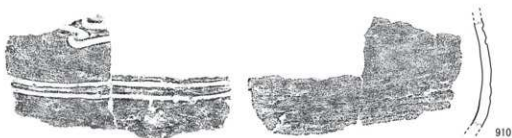


年代測定 2634-2473 cal BC

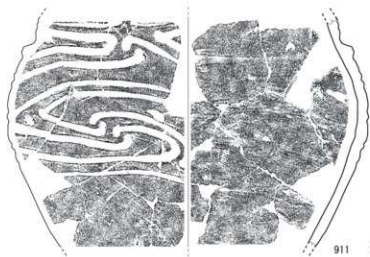
908



909



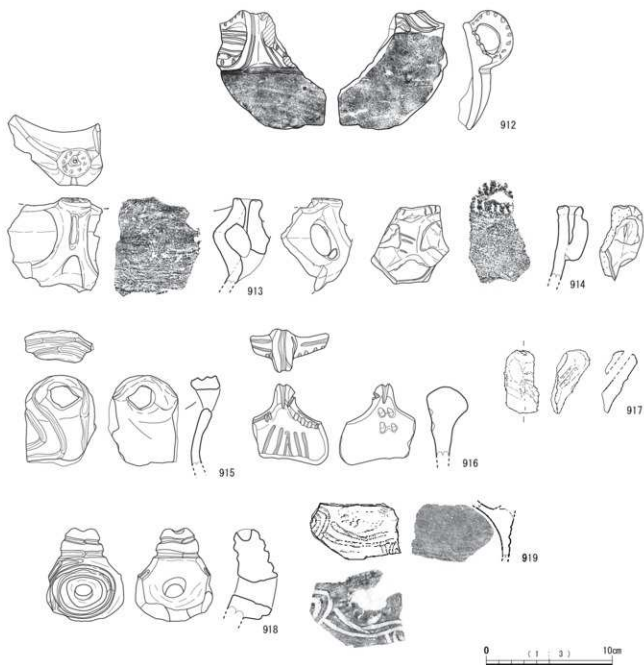
910



911

0 (1:3) 10cm

第2-58図 VIIIb,c類土器 (胴部)(2)



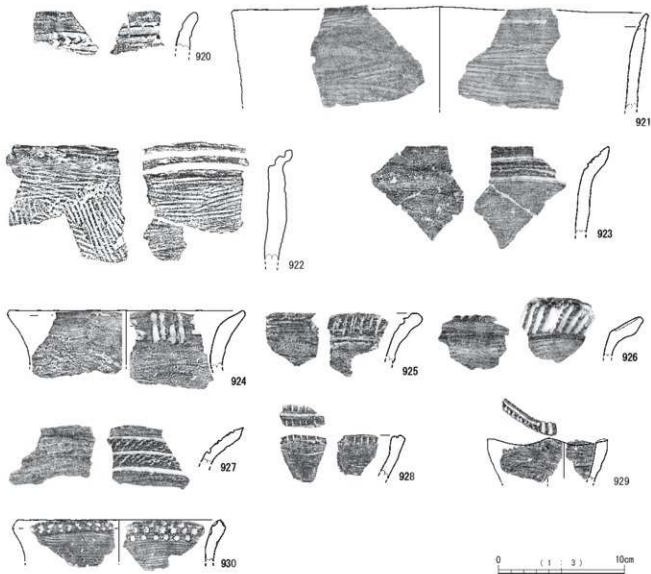
第2-59図 VII類土器（波頂部・装飾）

い。878はわずかに残る胴部の文様が本遺跡のVI類にみられる凹線であるが、口縁部外面を肥厚させ、口唇部に凹線をもつVIIa類に似た口縁部の形態からここに含めた。878は頸部で大きく外反し口縁部はやや内湾気味に開く。波頂部には粘土紐による装飾が施され、上面から見ると大きな輪状となる。装飾部分に凹線を施す。口縁部外面と口唇部にも凹線を巡らせる。胴部には平行沈線による曲線文が描かれると推測される。胎土には金色の雲母が混じる。

VIIc類（第2-54~56図 879~899）

口唇部を上面向けて形成し、沈線を1条巡らせるもの。口縁端部の角は丸みを帯び不明瞭である。口縁部外面の形態はVIIb類に類似し、VIIa類のように明瞭には肥厚させない。胴部は、有文のものと無文のものが出土する。

879~887は胴部上位に直線的な文様（879~882）や、矩形や窓枠状の文様を横位に展開させるもの（883~887）で、VIIb類に類例の多い文様パターンである。879と880は口唇部に沈線を施した後に、前者は匙状工具、後者は貝殻腹縁により連続刺突を施す。885~887にみら



第2-60図 IXa類土器(1)

れるような口縁部直下に連続刺突を巡らせる特徴はⅥa類、Ⅶb類の一部にもみられる。884-886の口唇部には凹線のみではなく、円形の刺突や弧状の平行沈線が施される。

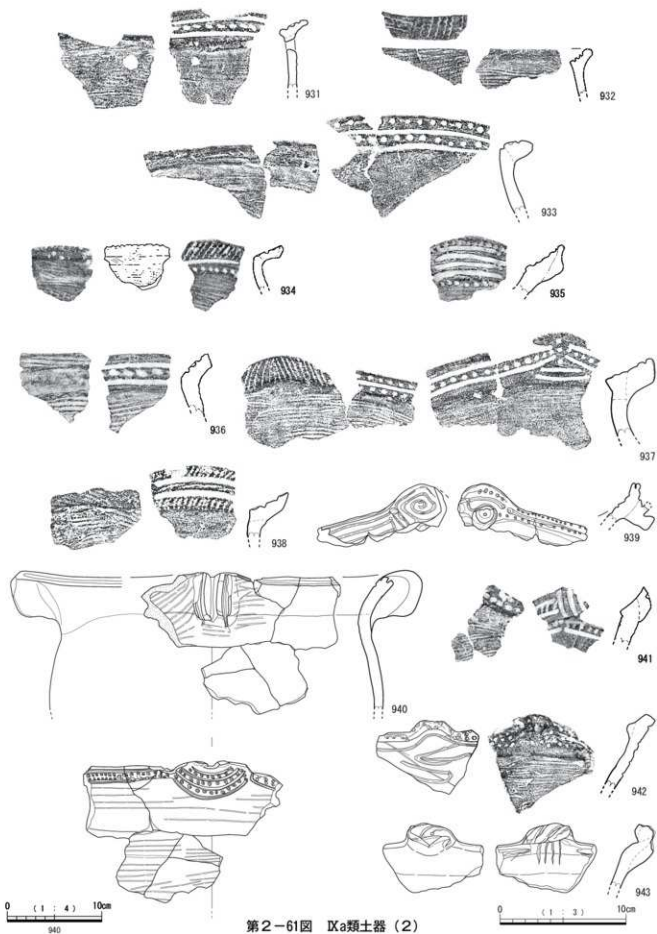
888-892は、崩れた印象の平行沈線文を描くものである。文様の沈線を部分的に波打たせる。口縁部の器壁は内面側にわずかに肥厚し、外反の度合いは低く、胴部はあまり張らない。

889・891は胴部の文様に曲線的なモチーフが確認できるものであるが、小片のため全容は不明である。Ⅶa類と比較すると明瞭さには欠けるが、口縁部外面をわずかに肥厚させる。889の口唇部の沈線は、丸みを帯びた口縁部より少し下がった内面側に巡る。

893は細い平行沈線間に棒状工具による円形の連続刺突文を施したモチーフを描くものである。Ⅶa類土器の750-752(第2-31図)には類似するモチーフが描かれる。

口縁部の器壁の厚みは均一で、形態としてはⅦa類に類似する。胴部には斜位の平行沈線文が描かれる。894も頸部が大きくくびれて外反する。頸部のくびれた部分に平行沈線文を巡らせる特徴は893と類似する。胴部には斜位の平行沈線文を描く。

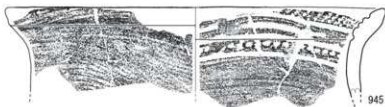
895-899は口唇部に凹線を巡らせるタイプのなかで、胴部が無文のものである。残存部の状況から、頸部の外反角度が小さく、胴部はあまり張らないものが多いと推測される。口縁端部をわずかに内湾させる傾向がみられる。IXa類にも類似する口縁部形態であるといえるが、比較すると口縁端部の稜は緩い。895は口縁部外面の直下に不明瞭だが浅い沈線を粗く巡らせる。外面には工具によるナデ調整が施される。897・898は粗いナデ調整で仕上げられる。898の外面にはハの字状の疵痕が確認できるが文様かは不明である。896は口唇部に平坦面を形成し、外傾させる。凹線をもたず、IXb類の範疇である



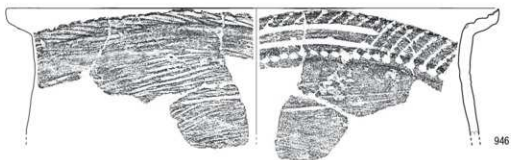
第2-61図 Ka類土器(2)



944



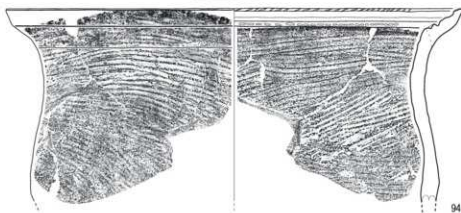
945



946

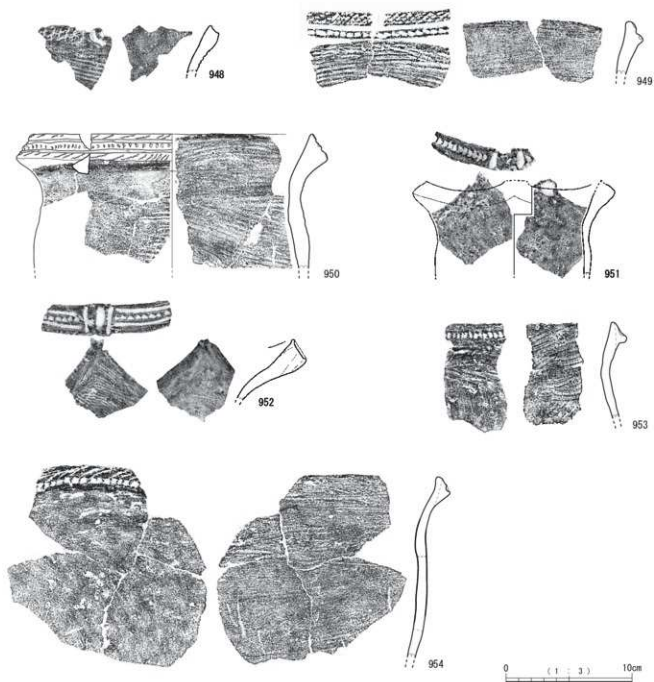


947



0 (1:3) 10cm

第2-62图 D_a類土器(3)



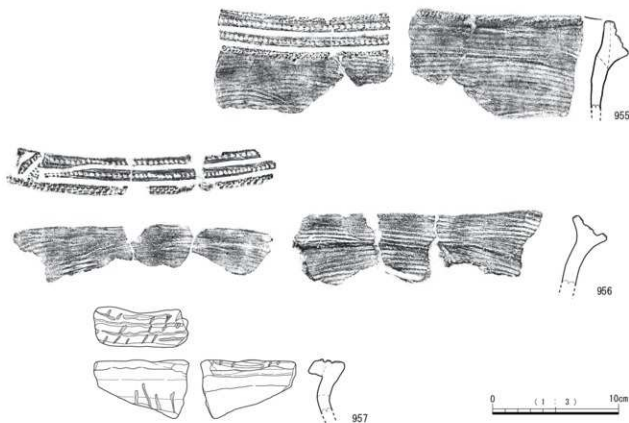
第2-63図 IXb類土器 (1)

可能性もあるが、比較すると複雑な仕上げであり、全体的な形態としてはⅧc類に近いと判断し、ここに含めた。899は4か所に突起を有する緩い波状口縁を呈する。幅広い波頂部にも凹線が描かれる。内外面ともに貝殻条痕で調整される。焼けた破片と、焼けていない破片が接合しているため、破砕後に被熱している。

Ⅷb, c類胴部 (第2-57・58図 900-911)

900-911はⅧb類の胴部であると推測される。Ⅷa類胴部と比較すると文様の密度が薄く横位に展開するパター

ンのものをここに含めた。901は器壁が非常に薄い。903-905は付着炭化物の年代測定の結果を得た資料(報告No.4)である。903の付着炭化物の ^{14}C 年代は 4080 ± 30 yrBP 1σ , 2σ 暦年代範囲が2697-2567calBC (70.8%)で、904の外面に付着した煤を年代測定した結果 ^{14}C 年代が 3950 ± 30 yrBP 1σ , 2σ 暦年代範囲が2498-2398calBC (59.2%)で、905の外面に付着した煤を年代測定した結果 ^{14}C 年代が 4060 ± 30 yrBP 1σ , 2σ 暦年代範囲が2671-2554calBC (63.1%)である。小片のため確定的にⅧ類とすることは難しかったが、文様のパターンからⅧa類



第2-64図 IXb類土器 (2)

に該当する可能性が高いと推測する。

900~908は胴部上位に文様帯が集約され、矩形・アーチ状・平行線状の文様が横位に展開される。907は明るい黄褐色の胎土で、白色粒と金色の雲母を特に多く含む特徴的な胎土である。搬入品の可能性も考えられる。908の外面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代が 4050 ± 30 yrBP 1σ , 2σ 暦年代範囲が2634-2473calBC (91.7%)である。909~911は文様帯が胴部下位に及ぶものである。909はほぼ等間隔に円形刺突を施した破片で、外反すると推測される器形からここに含めたが、Ⅷ類の範疇に入る可能性も考えられる。911はやや太めの斜位の平行沈線を主体とし、曲線的なモチーフを描く。胴部が丸く張り出す器形であると推測される。

Ⅷ類波頂部、裝飾 (第2-59図 912~919)

912~919はⅧ類に該当すると考えられる波頂部裝飾や、特殊な形態の土器片である。912~914のような橋状把手や、915~918のような穿孔をもつものも出土した。918は、穿孔部分の周りを内面側から打ち欠いて円形に成形する。916は深鉢の波頂部で、口唇部に凹線を巡らせるタイプであると推測される。口縁端部の稜は不明瞭で丸みを帯びる。917は調整の粗さから、穿孔を持つ筒状の把手として図化したのが正面を上面向けた注口部分である可能

性も考えられる。正面に曲線文、側面に短い平行沈線文が描かれる。919は丸みを帯びた深鉢の上胴部片であり、把手が剥離した痕跡が確認できる。外面には平行沈線による曲線文が描かれ、把手の付け根部分には貝殻腹縁刺突を数か所施す。赤みの強い胎土で内面には丁寧なミガキが施される。混和材の種類が少なく、粒子が細かな精製された胎土を使用しており、特殊用途が想定され、また搬入品の可能性も考えられる。

IX類

口縁部内面の上位、あるいは平坦面を作った口唇部に、平行沈線文、貝殻や筥状工具による連続刺突文、貝殻腹縁刺突文などの組み合わせによる文様帯を形成する。Ⅷ類土器と比較すると文様のバリエーションが少ない。上面施文タイプ。平坦口縁と波状口縁とがある。胴部は無文が主流で、内外面に粗い貝殻条痕を施すものが多い。一部は口縁部外面にも文様を有する。口縁端部の形態は先細るものと、丸みを帯びるもの、面取りにより角張るものが出土する。口縁部部にまで口唇部の文様が及ぶものもみられる。口縁部の形態によりIXa類、IXb類に細分した。松山式に該当する一群である。

Ka類 (第2-60~62図 920~947)

口縁部の内側や、口唇部上面に文様帯をもつものうち、口唇部が内傾するもの。器面と文様帯との境目が緩く不明瞭なものと明瞭に角付けられるものとが出土する。

920~929は口縁部内面の上位に文様帯を形成するものである。金色の雲母を含むものの比率が高い。920、921はわずかに外反する口縁部内面の内側に沈線を描く。器壁は直線的に立ち上がる。Ⅷ類の口縁部内面に凹線を描くものも比較すると、その位置はさらに下がる。922~927は口縁部が短く外反し、外反した内面に文様帯を形成する。内面の稜は緩く丸みを帯びる。922・923・926・927は口縁部外面にわずかな平坦面を形成する。930は口唇部や口縁部内外面に多重の連点文を横位に施す。巻貝を使用し、胴部にも浅く刺突する。928・929はともに小形の浅い鉢状の形態で、丸みのある口唇部を内径させ、文様帯を形成する。928は内外面に丁寧にナデ仕上げられ祭祝用の台付皿などの特殊な器種の可能性もある。

931~938は内傾する口唇部文様帯の幅がやや広くなり、その内面の稜が明瞭なものである。沈線の上下または平行沈線の間に連点や貝殻線刺突文を巡らせる傾向がみられる。934~936・938は口縁部の外面に平坦面を形成する。

939~942は波頂部で、口縁部の内面のみではなく外面にも文様を描く。939・940・943のように装飾をもつものも出土した。942の胎土は混和材の粒子が他と比較して細く、金色の雲母の入らない特徴的なもので、薩摩半島で作られた可能性もある。外面の文様の特徴からはⅧ類の範疇である可能性もあるが、沈線と連点を組み合わせた口唇部の文様の特徴からここに含めた。943は大きく開く器形で、波頂部に細い粘土紐2本をねじり合わせた飾りを輪状にして貼り付ける。波頂部内面には貝殻線刺突文を縦位に4条施す。口縁部内面の口唇部と胴部の境目の稜は緩い。金色の雲母が混じる。

944~947は口縁部内面の幅の広い文様帯をもつものである。このうち945~947の文様帯には、口縁部側から貝殻線刺突文→平行沈線文→巻貝や筒状工具による連続刺突文を巡らせ、文様のパターンが共通する。口縁部外面に平坦面を形成する。944・945の口縁部は緩く外反し、屈曲部から上を文様帯とする。内面の稜は形成しない。946・947は口縁部を強く外側に屈曲させる。947の内面の稜は明瞭である。調整は944は内外面ともにナデ調整で、945・946は内面は丁寧にナデ、外面は貝殻条痕により調整される。947は内外面ともに貝殻条痕により調整される。

Ka類は胎土の色調に赤みが強い傾向がみられ、金色の雲母が多量に混じるものが多い。

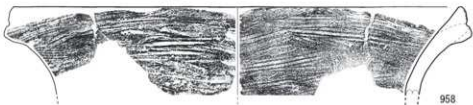
Kb類 (第2-63~66図 948~971)

口縁部内面に文様帯を有するものと口唇部に平坦面を形成し文様帯とするものなかで、平坦面が外傾するもの。Ka類と比較して、文様帯の幅が広いが、最大でも約4cm幅で、総じて細めである。口唇部の各様が明瞭で断面が三角形のものが多い。口縁部は丸みを帯びるものが主流で、平坦面を作りそこに貝殻線などを連続して刺突するものも少数出土した。内外面の調整は、貝殻条痕によるものが主流である。

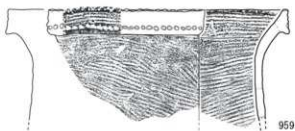
948~957は口唇部平坦面に描かれた文様帯の外傾する角度が小さく、より上面施文型であるといえるものである。948~954は文様帯の幅が狭い。948は口唇部に斜位の貝殻線刺突文を少し押し引きながら密に施し、その後縦位の貝殻線刺突文を規則的な間隔で施す。円形のモチーフの一部が残存する。949~954は文様の構成はKa類に類似する。平行沈線間に連続刺突を施すもの(950・952)のみならず、また、連続刺突は半月状の形態で、巻貝状工具を使用したことが推測される。951・952は波頂部片で、ともに波頂部頂点のあたりに数条の縦位の沈線を描く。波頂部は外側に大きく張り出す。955・956は文様帯の幅が広いものである。口径50cmを超える大型と推測される。955と956は胎土・文様・調整の特徴が一致するため同一個体の可能性が高い。口唇部は平たく形成され、貝殻線刺突文を施す。平行沈線間には巻貝による連続刺突を施す。角四石を多く含み、赤みの強い胎土である。957は口縁部の内面に粘土を貼り付けることにより、口唇部文様帯を形成する。口縁部の断面は逆「L」字状の形態である。沈線と刺突を巡らせる文様の特徴からここに含めた。胴部外面にも縦位の沈線が数条確認できる。

958~970は口唇部平坦面の外傾する角度が大きく、文様帯がやや横向きに形成されるものである。頸部に大きく外反しながら開く傾向がみられ、胴部はあまり張り出さない。この器形のもの、混和材に金色の雲母を含むもの(966、967、970)が少なく、角四石が目立つ胎土を使用するものが多い。

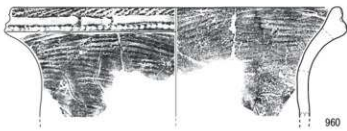
959と963の口縁部には平坦面を形成し、貝殻線刺突を密に施す。961・963は他と比較すると粗い沈線が巡る。964は刺突輪郭がシャープである。半管状の工具による逆「C」の字状の連続刺突を施す。口縁部内側の平坦面を作り小さな円形の連続刺突を施す。胎土の色調が明るく、混和材が細かく端正なつくりであり搬入品の可能性も考えられる。また、965は波頂部片で、波頂部は外側に大きく張り出す。波頂部外面には粘土の貼り付け痕が明瞭に残る。962の外面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代が3910±30yrBP 1σ、2σ暦年年代範囲が2469-2337calBC(86.7%)、965の外面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代



958



959



960



961



962

年代測定 2469-2337 cal BC



963



964

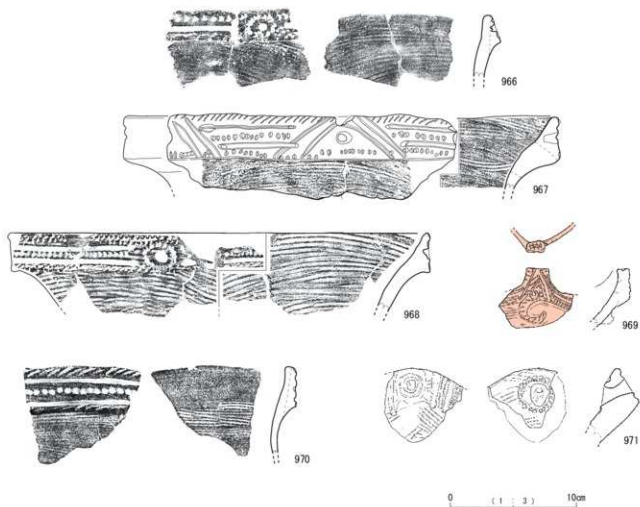


965

年代測定 2151-2029 cal BC

0 (1:3) 10cm

第2-65図 D**b**類土器(3)



第2-66図 IXb類土器(4)

が 3710 ± 30 yrBP 1 σ , 2 σ 暦年代範囲が2151-2029calBC (79.7%)である。

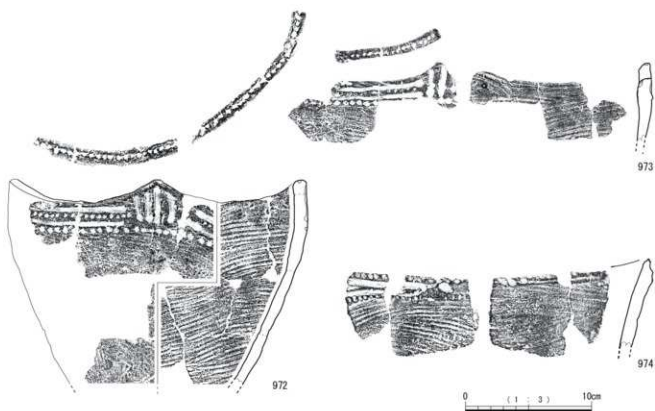
966-970は平坦口縁である。967-970は文様帯の幅が広い。966-968は文様帯のなかに円形の凹点を中心としたモチーフを描く。970は器壁が薄く、今回報告する包含層のIX類のなかでも口縁部の文様帯が最も横向きに形成されるものである。市来式の範疇である可能性も考えられる。969・971は波頂部裝飾部分の破片で、文様構成や口唇部文様帯が外傾するタイプと判断しここに含めた。969は黒色を呈し、外面には赤色顔料が付着する。波頂部の平坦面の中心を巻貝により刺突し、浅い刻目を数条施す。文様は緻密に描かれ貝殻線刺突を施す。内外面と断面に煤が付着する。大きく開く器形と推測され、台付皿などの特殊な形態であることや、祭祀用などの特殊な用途の遺物の可能性も考えられる。精緻なつくりで搬入品の可能性が高い。971は深鉢の裝飾部分の小片である。孔を有し内面側は孔の周りを小さな円形刺突で囲む。

IX類 (第2-67図 972-974)

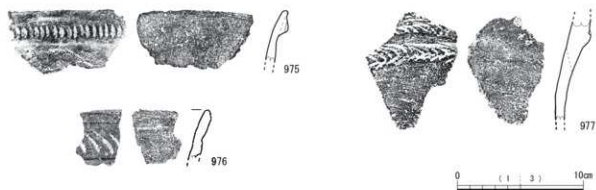
972-974は、口唇部や口縁部に肥厚帯をつくらず、口縁部-胴部の器壁はほぼ均一な厚みである。3点ともに波状口縁である。胴部最上位に集約され、口唇部にも施文する。972・973は胎土の特徴や文様の構成が同じで、同一個体の可能性も捨てきれないが、972は23.4cm、973は28.0cmと推定口径に差があり、口唇部に施される連点の大きさも違うため別個体の可能性もある。973の波頂部表面には径約3mmの角張った孔が深さ2mm程度で施される。974は口唇部にごく細い沈線と刻目を施す。沈線文と連続刺突文で文様帯を構成することからIX類土器に併存すると捉えてここに含める。波頂部外面に縦位の沈線を施すことや、円形の凹点をもつことからIX類土器との関連が窺える。a類、b類への細分は難しかった。

IX類 (第2-68図 975-977)

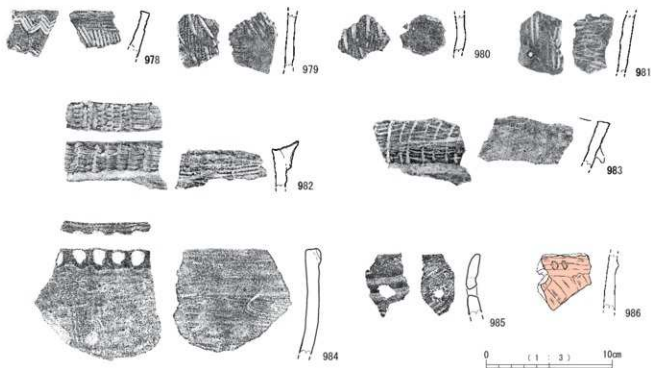
口縁部と頸部との境目に縦い連「く」の字状の段を形成する。段の直上あるいは上下に貝殻線刺突文を巡らせるものである。976・977は段の角度はごく緩く、丸尾



第2-67图 IX類土器



第2-68图 X類土器



第2-69図 XI類土器

式の範疇であると考えられる。975は976・977と比較すると外側に大きく隆起しており、屈曲角度も大きい。より古い段階（市来式）の特徴も併せもつがここに含めた。

Ⅺ類（第2-69図 978～986）

Ⅳ類～Ⅹ類への分類は難しいが、形態的な特徴や胎土から縄文時代後期前半に該当する可能性をもつ遺物であると判断したもの。

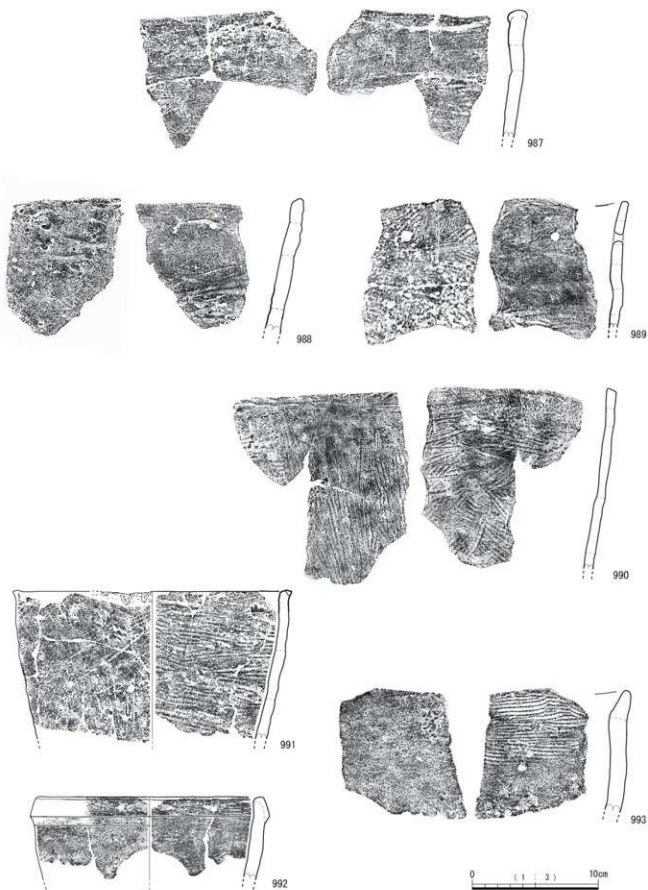
978は、直線的に立ち上がる口縁部片で、口縁端部を内面側に少し張り出させる。口唇部を平たく形成し明瞭に角付ける。外面上位に、波状の脚描文を描く。内面は胴部上位に下→上の粗い条痕を施し、口縁部の付近は横ナデにより調整する。胎土の色調は明るく混和材は砂状に入る。979・980は同一個体の可能性が高い。C-15区の近世の溝の埋土に流れ込んだ状態で出土した。979は頸部片で、口縁部にむかって外反すると推測される。980は下胴部片で、底部に向かって丸みを帯びながらすばまると推測される。器面には縄文を回転させ、その後で縦に短沈線を規則的に描く。沈線の施文具は巻貝の可能性もある。他の時期の遺物の可能性もあるためⅤa類（磨消縄文系）とは区別しここに含める。981は分類は難しいが胎土や調整の特徴により、縄文時代後期前半の土器片と捉えた。982・983は分類できたものとは形態の異なる突帯をもつものである。982は突帯の先端を尖らせ、外面と上面には貝殻腹縁を押し引く。983は口縁部外面の器面に直接縦位の貝殻腹縁刺突文を連続して施し、そ

の下に下垂する突帯を貼り付ける。胎土の色調が暗く少し紫がかかる特徴的なもので、搬入品の可能性も考えられる。Ⅴb類（擬似縄文系）とは区別しここに含める。984は口縁部最上位に薄い突帯を貼り付け大ぶりの円形刺突を巡らせる。口唇部に食い込ませるように口縁部外面の際を刻む。焼成が良く明るい色調のため、第3分冊に報告する突帯文期の遺物の可能性もあるが、刻目の位置からⅤ類（宮之迫式系）の口唇を連続して押圧するタイプに該当する可能性を捨てきれずここに含めた。985・986は穿孔をもつ。985は薄く、口縁部が短く外反する。頸部に平行な凹線を施す。外面と穿孔部の内側に煤が付着する。986には外面に赤色顔料が付着する。蛍光X線分析の結果、鉄を多く含有し、ベンガラの可能性がある。

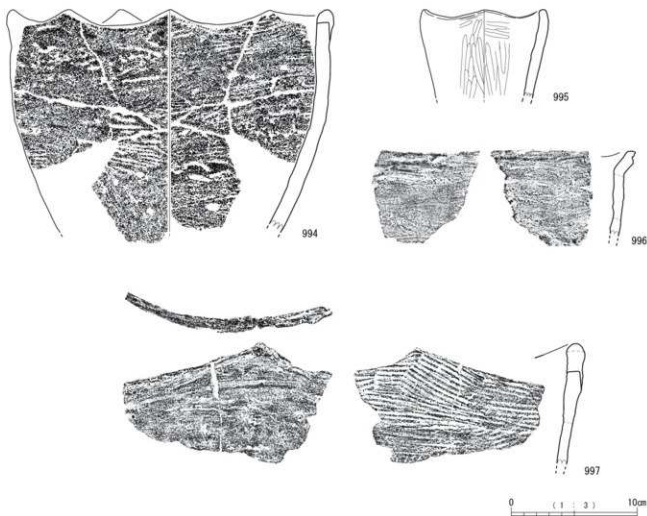
無文土器（第2-70～72図 987～1001）

口縁部～胴部に文様をもたないもの。平坦口縁・波状口縁ともに出土した。口縁部の形態は内湾、直口、外反と様々である。有文のものと同様に口縁部や口唇部を肥厚させる形態のものも出土した。粗いナデ調整か貝殻条痕により調整され、指頭痕の凹凸が残るものも多く、総じて粗雑なつくりである。帰属時期を判断することが難しいものを含むことを前置きする。

987～989、993は緩い波状口縁であると推測できるものである。内外面は貝殻条痕後粗いナデ調整で仕上げる。989の孔は内外面から施される。外面は摩滅が著しいが貝殻条痕後にナデ調整を施したことが観察できる。胎土



第2-70図 縄文時代後期の無文土器（1）



第2-71図 縄文時代後期の無文土器(2)

の色調は暗く、やや硬質で灰色の小角礫を多く含み、後期前半のものとは違いがみられることから他の時期の遺物の可能性も考えられる。

990～992は平坦口縁のものうち口縁部が内湾するものである。990は器壁がやや外傾しながら立ち上がる。内面の貝殻条痕は斜格子状に施される。早期末～前期初頭の条痕系土器の可能性もある。988は外面に布目痕が付く可能性があり、内面はミガキ様のナデ調整である。粗製ではあるが焼成も良く胎土の色調が明るい。縄文時代晩期の遺物の可能性もある。991は口縁部がわずかに残存し、口縁部最上位にごく小さな山形の突帯を貼り付け、貝殻腹縁による深い刻目を入れる。そのほかは無文で、つくりの粗さからここに含めた。992は口縁部外面を肥厚させる。Ⅷa類のような口縁部の形態である。

994～997は明瞭に波状口縁とわかるものである。994・995・997は口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。波頂部の器壁にはわずかに厚みをもたせ、小さな山形に成形する。残存部の状況から大型の994には8か所、小型の995には4か所の波頂部をつくると推測される。995

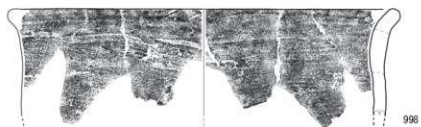
は内外面に丁寧にミガキを施し、外面上位には煤が薄く付着する。祭祀などの特殊な用途の遺物の可能性もある。996は波頂部を欠損する。口縁部外面をわずかに肥厚させる。肥厚帯の下位には粘土の貼り付け痕が残る粗雑なつくりである。赤みの強い胎土を使用し、金色の雲母を多く含む。

998～1000は頸部で緩くびれを形成し、口縁部が外傾するものである。998・1000は器壁が厚く、口縁部は外反しながら開き、短い。1000は口縁端部のみ肥厚する。999は口縁部がやや長く、口縁端部でわずかに内湾する。998は内外面を工具によりナデて仕上げ、999、1000は貝殻条痕を施す。

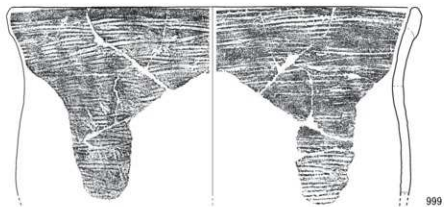
1001は頸部～下腹部片で、穿孔は外面から施される。

特殊な底部・脚 (第2-73図 1002～1018)

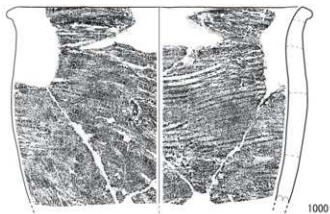
底部片や脚のなかで、特殊な形態のものをまとめた。1002～1009は深鉢や台付皿等の杯部あるいは脚や底部片である。1003は扁平な皿状の形態であると推測される。口縁部外面を肥厚させ、大きな凹みを形成しそのなかに



998



999



1000



1001

0 (1 : 3) 10cm

第2-72図 縄文時代後期の無文土器 (3)

横線の沈線を描く。口唇部に凹線を巡らせ、棒状あるいは把手状の装飾をもつと推測される。1002は厚みのある底部片で、底面の剥離痕から6か所程度柱状の脚が突起をもつと推測される。1004は底面に脚部の剥離痕と突起による装飾が確認できる。突起の中央には深い凹みを形成する。1006はレンズ状の形態の底部で、残存部の状況から4か所の脚が付くことが想定される。脚の付け根には弧状の沈線を描く。赤色顔料が明瞭に付着する。分析の結果ベンガラの可能性が高い。1009は、器壁が丸みを帯びながら立ち上がる鉢状の形態であると考えられる。底面には3か所の剥離痕が確認できる。内面には粗い貝殻条痕を施し粘土の痕が多く残る粗いつくりである。1003と1004は文様の特徴からⅧ類の範疇の可能性が考えられる。

1005～1010は接地面近くに文様をもつ深鉢の底部片である。Ⅴ類の時期に多くみられる形態である。1005は接地面近くに指頭による凹点を連続させる。底面には白い粉状の付着物が付き、まだら状の圧痕が確認できる。鯨の頭椎骨の圧痕の可能性もある。1010、1011は細い沈線による平行沈線文を描く。底部は丁寧なナデ仕上げである。

1007～1018は透かしを有する脚である。1007・1008はドーナツ状の台座にやや細めの棒状の脚を貼り付けるものである。つくりがやや粗い。1007には平行沈線文が描かれる。1012は貝殻腹縁刺突を横位に施す。埋設土器1号からはⅧc類土器と考えられる深鉢の底部に四か所の脚の剥離痕が確認できるもの(527)が出土しており、同じような形態の器種の脚部片であると推測される。1016～1018は沈線や刺突による装飾を施し、器面も丁寧に調整された精緻なつくりである。1017には赤色顔料が明瞭に付着し、蛍光X線分析の結果、ベンガラの可能性が高い。また、白色の物質も所々に付着するが、成分は不明である。脚はⅧ類～Ⅸ類の時期の遺物と考えられる。なかでも、1014～1018の文様の特徴はⅨ類に近い。

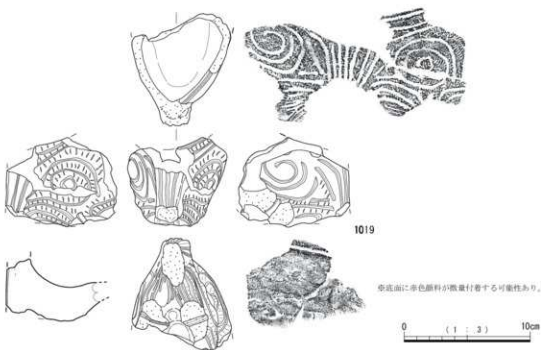
特殊な器種 (第2-74図 1019)

1019は上面からみると湾曲しながら先端がすぼまり、残存部のみをみると、舟あるいは鳥の嘴や猪などの獣の鼻頭と似た形態の土器である。底面には剥離痕が確認できるため、脚または装飾が付き、その付け根に孔径5mmほどの孔を貫通させると推測される。文様は渦巻文を主体とし、その間に緻密な貝殻による文様を充填させる。ヘナタリを回転させた可能性も考えられる。口唇部には凹線を施す。文様としては、Ⅷb類土器、Ⅷc類土器の特徴を併せもつ。また、同心円状のモチーフからは、小池原下層式などの磨消縄文系の土器との関連も考えられる。右側面の疑似縄文は明瞭に確認できるが、左側面はいていかにナデ消されている。胎土は青みがかった明るい黄褐色で、断面は灰色を呈する。混和材は石英と角閃石を中心とし、白雲母も少量含む。混和材の粒子は細かく量も少ない。精良な胎土を使用する。搬入品の可能性が高い。また、底部は被熱により黒ずみ、内面も黒色を呈する。祭祀などの特殊な用途に使用されたことも窺える。底面にごく少量の赤色顔料が付着している可能性もある。

※スクリーントーン図は裏面を示す。



第2-73図 特殊な底部・脚



上面



右側面



正面



左側面



発掘から見た出土状況

第2-74図 特殊器種および写真

底部 (第2-76~83図 1020~1106)

1020~1106は底部片である。出土エリアは先に報告した縄文時代後期前半の土器と同様に、包含層の土器と同様に3~17区に集中する。分布の状況と、胎土や形態そして底面に残る圧痕や調整の技法などから縄文時代後期前半の土器の底部であると考えられる。形態は接地面近くでややくびれ、胴部が大きく開きながら立ち上がるものが多い傾向にある。遺構内や包含層から出土した完形の土器の形態から鑑みてVI~VII類に該当する底部片が多いと推測する。

1020~1045は底面に網代痕を明瞭に残すものである。大ききの規格は様々で、約6~13cmの範囲に入る底径のものがほとんどである。1028・1029・1031・1033のように底面中心部を円形に欠くものも出土し、これは胴部器壁と一体化させて輪状に成形した中に、円盤状の粘土別塊を足して底面を作ったことによる。網代痕のついた円盤状の底部片も多く出土し、その一部を報告している(第2-94図など)。網代の編み方は1本ずつを垂直に交差させた籠目編み(1024~1040, 1045)、2本飛ばしの籠目編み(1042)、矢羽根編み(1037~1044)等様々である。1043は籠目編みと矢羽根編みを組み合わせる。また、1039のように細い蔓状のものを編んだ圧痕が残るものも出土している。1043には網代の継ぎ目をナデ消した痕跡がみられる。

1045の底面からはクロゴキブリの卵鞘の圧痕が検出、同定された。この種が、縄文時代後期前半の本遺跡で生息したことを示す資料である。1045の形態は接地面近く

でやや強くくびれ、胴部は外側に大きく開くと推測される。胎土は、金色の雲母や白色粒が多く混じりⅦ類やⅧ類に類似したものが多く、第Ⅸ章に分析の結果を報告する。

1046~1071は底面の網代痕をナデて仕上げたものである。これらは底径が10cm以下のものが多く、やや小形であることが推測される。1049~1061は底面の一部をナデ消す。網代痕の凹凸は滑らかになり、1020~1045ほど判然としない。1046~1071はほぼ全面を丁寧にナデる。成形時に付いたと考えられる網代の凹凸が残るものも多い。

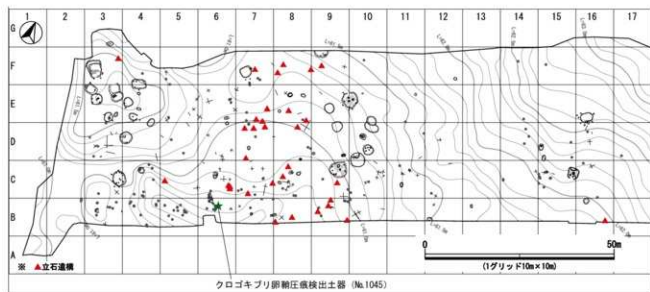
1072~1075は底面に中心から円形に編む振り編みの圧痕がつくものである。

1076~1078は底面に葉脈痕が付くものである。本遺跡で確認できたものは小形の傾向がみられる。

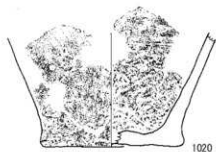
1079~1106は上げ底あるいは高台を有するものである。底面をナデて仕上げるものがほとんどだが、成形時に付いたと考えられる網代痕の凹凸がわずかに残るものも多い。1079~1085は明瞭な上げ底を呈し、底面をナデて調整する。1083のように指でナデた痕が残るものや、1085のように貝殻条痕を施すものが出土する。1082は胴部下に平行沈線文が確認できるためⅦ類の範疇であると考えられる。

1086~1090は高台を有するもののうち、底面との境目がやや不明瞭なものである。

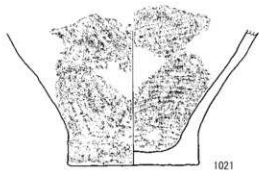
1091~1106は底面と高台の境目が明瞭に角付けられる。高台は約1cm程の高さのものが主流だが、1094・1097のように1.5cmを超えるものも出土する。



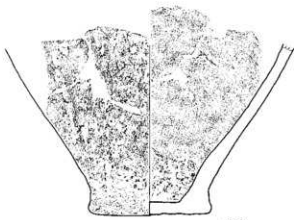
第2-75図 底部片分布図



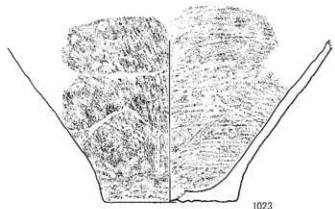
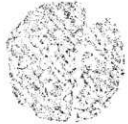
1020



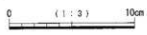
1021



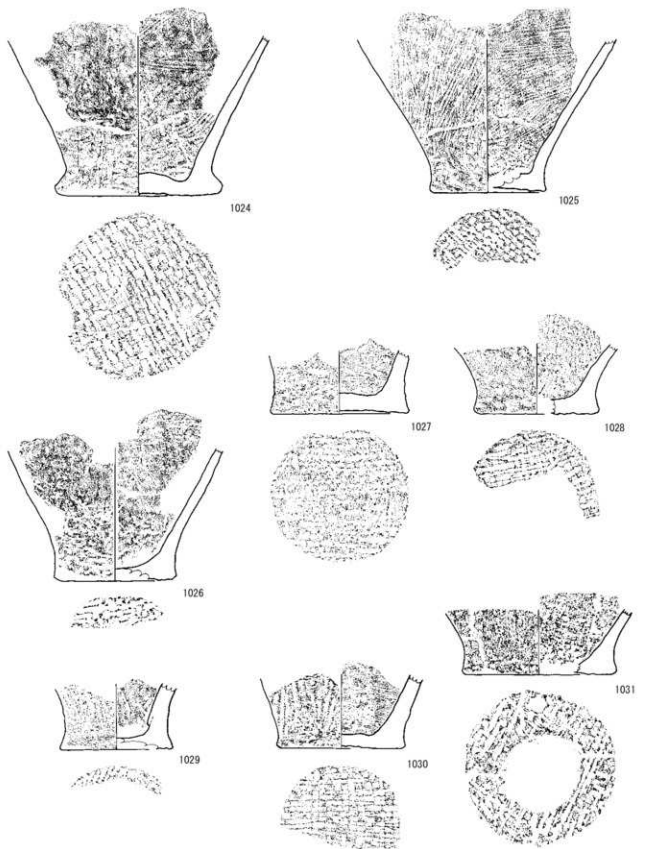
1022



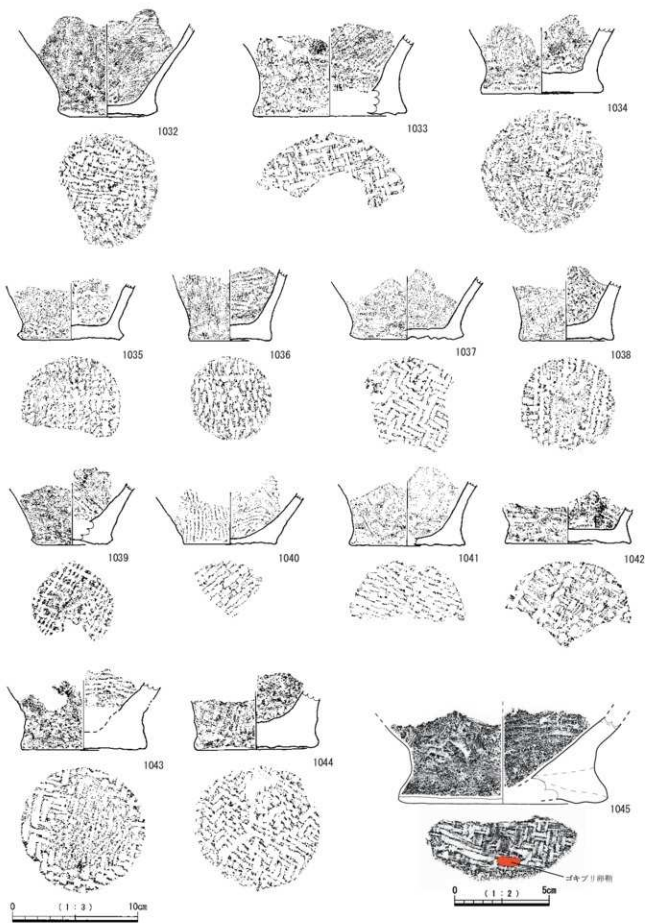
1023



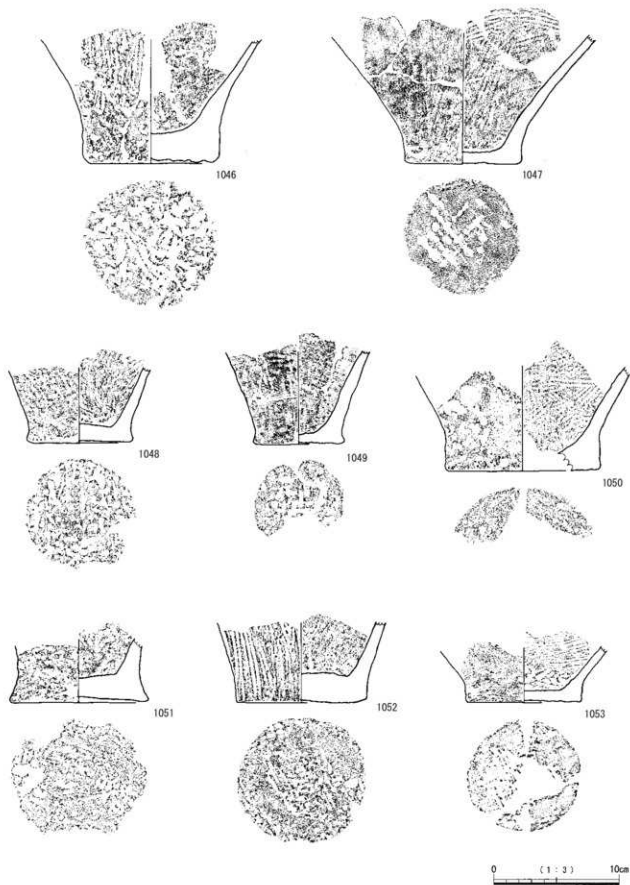
第2-76図 後期前半の底部(1)



第2-77図 後期前半の底部(2)



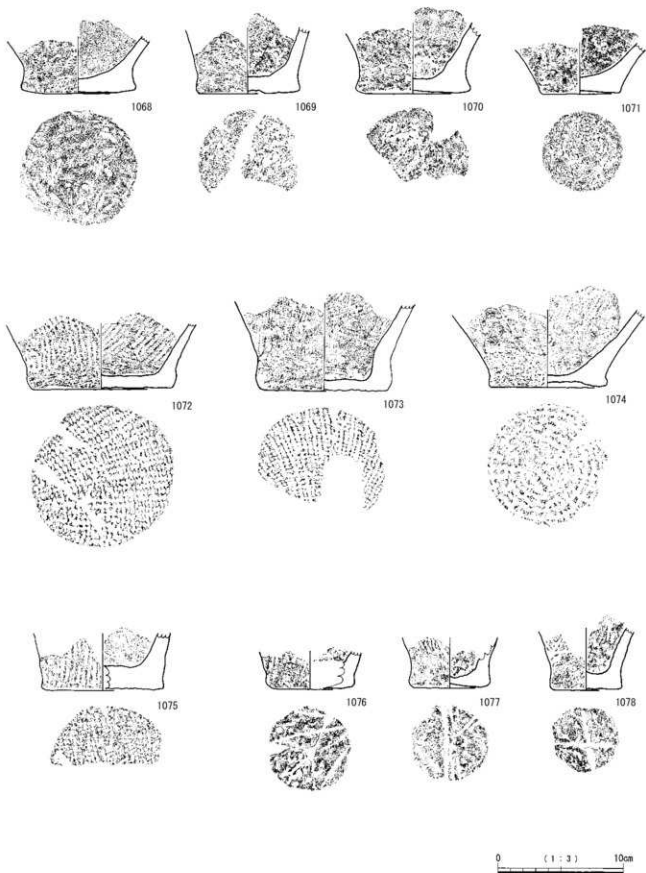
第2-78図 後期前半の底部(3)



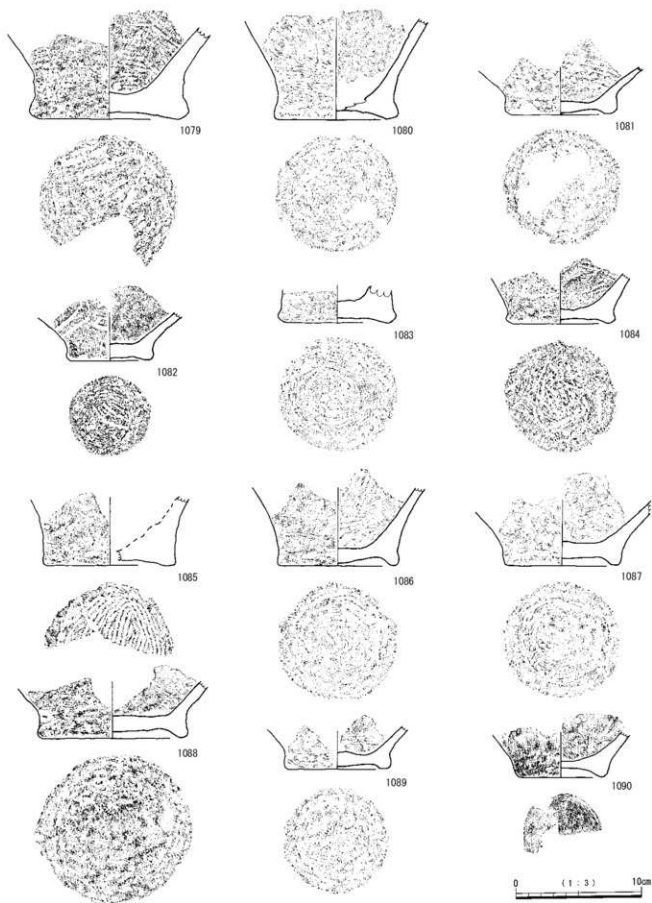
第2-79図 後期前半の底部(4)



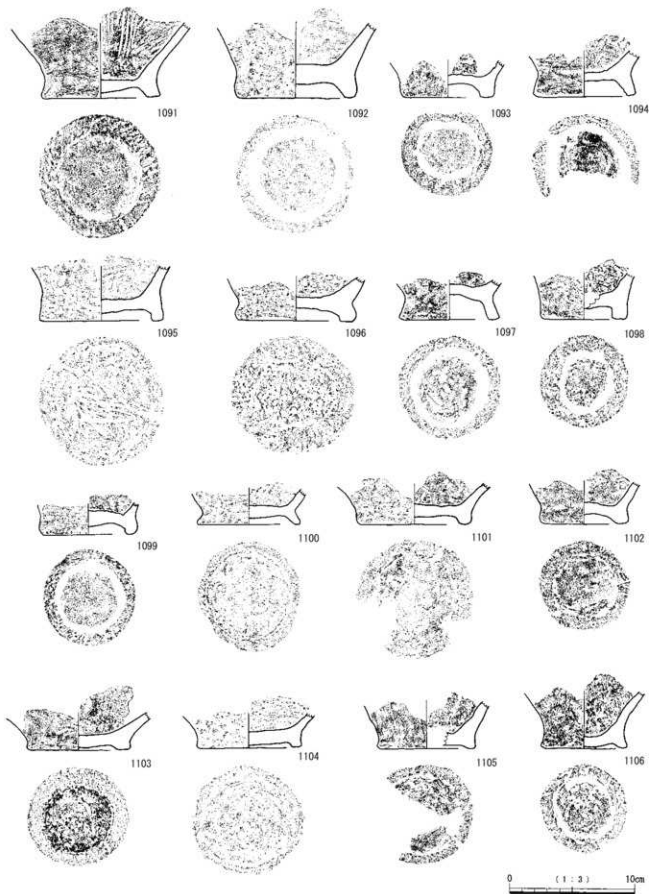
第2-80図 後期前半の底部(5)



第2-81図 後期前半の底部(6)



第2-82図 後期前半の底部(7)



第2-83図 後期前半の底部(8)

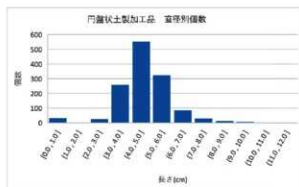
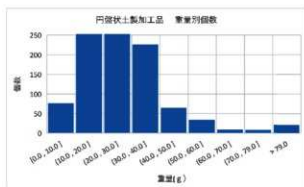
円盤状土製加工品 (第2-86~96図 1107~1365)

本遺跡の包含層からは円盤状土製加工品(通称:メンコ)が多量に出土した。本報告ではうち1323点を無作為に抽出し、遺跡における分布状況(第2-85図)を調べ、重量、直径を計測した(第2-84図)。有文のものについては、分類が可能なものは観察表に示した。後期前半の土器と分布エリアが重なり、有文のものからはV~Ⅷ類すべての時期に製作されたことが窺える。また、そのうち258点について以下の分類を遺物の図の下に示して掲載する。

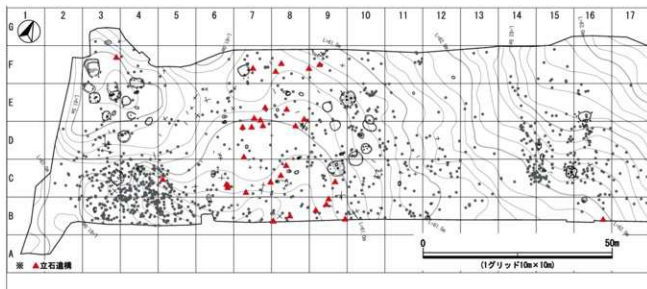
なお、Ⅰ類の口縁部片は必ずしも円盤状に丸みを帯びる形態ではないが、縁辺の一部を意図的に打ち掻いたり、研磨痕がみられて土製品であると判断したものについてここに含めた。また、Ⅲ類とした底部片のなかには、底部の頂で示した底面を成形した際の粘土割塊の可能性をもつものもみられるが、口縁部片と同様に人為的な加工痕がみられるものをここに含めた。

【包含層出土の円盤状土製加工品の分類について】

部位等	文様	成形技法など	国取番号
Ⅰ類 口縁部片	A類 有文	a 縁辺を打ち掻いて成形	第2-86図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-86図
		c 全周を研磨して成形	第2-86図
	B類 無文	a 縁辺を打ち掻いて成形	第2-86図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-86図
		c 全周を研磨して成形	第2-86図
Ⅱ類 胴部片	A類 有文	a 縁辺を打ち掻いて成形	第2-87・88図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-88~91図
		c 全周を研磨して成形	第2-91・92図
	B類 無文	a 縁辺を打ち掻いて成形	第2-93図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-93図
		c 全周を研磨して成形	第2-93図
Ⅲ類 底部片	a 縁辺を打ち掻いて成形	第2-94図	
	b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-94図	
	c 全周を研磨して成形	第2-94図	
Ⅳ類 欠損品		加工された後に欠損するもの	第2-95図
V類 未製品		加工の痕跡が確認できる土器片	第2-96図



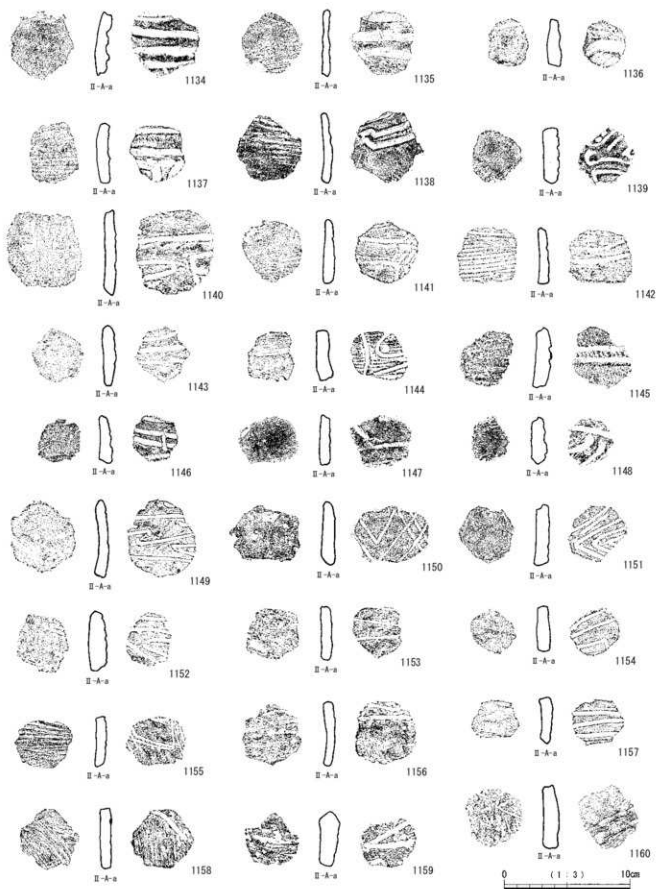
第2-84図 円盤状土製加工品重量、直径計測値



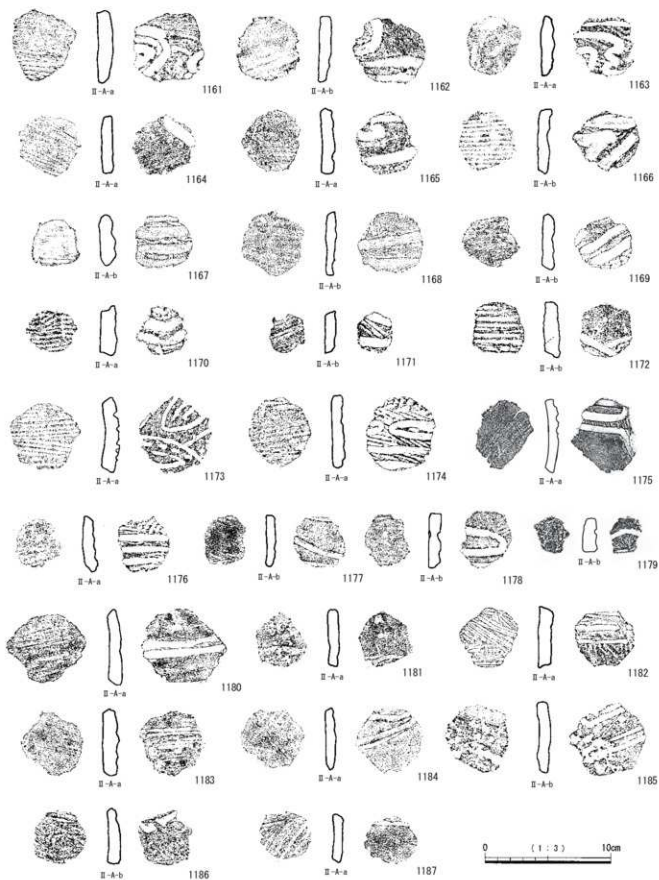
第2-85図 円盤状土製加工品分布図



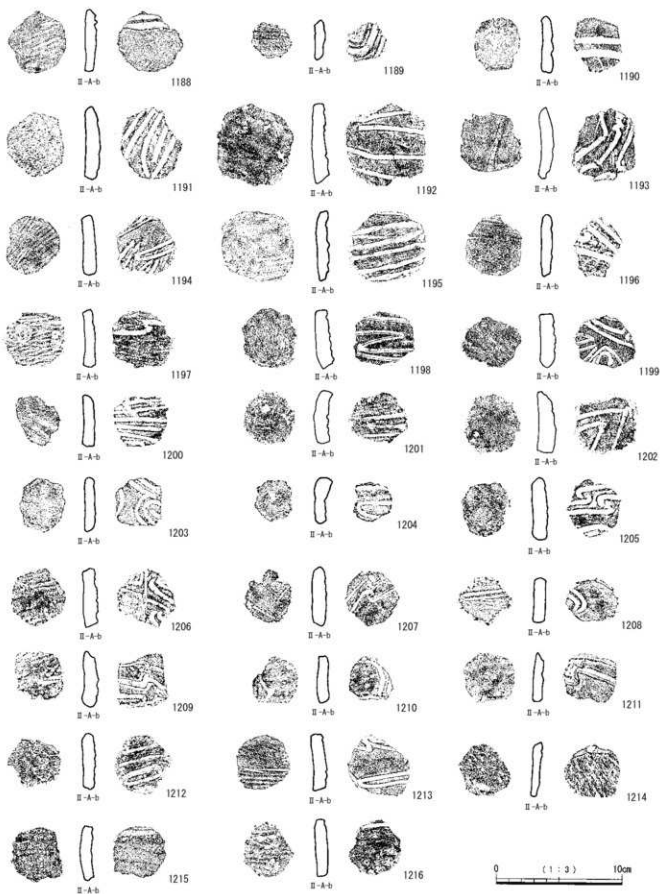
第2-86図 円盤状土製加工品(1)



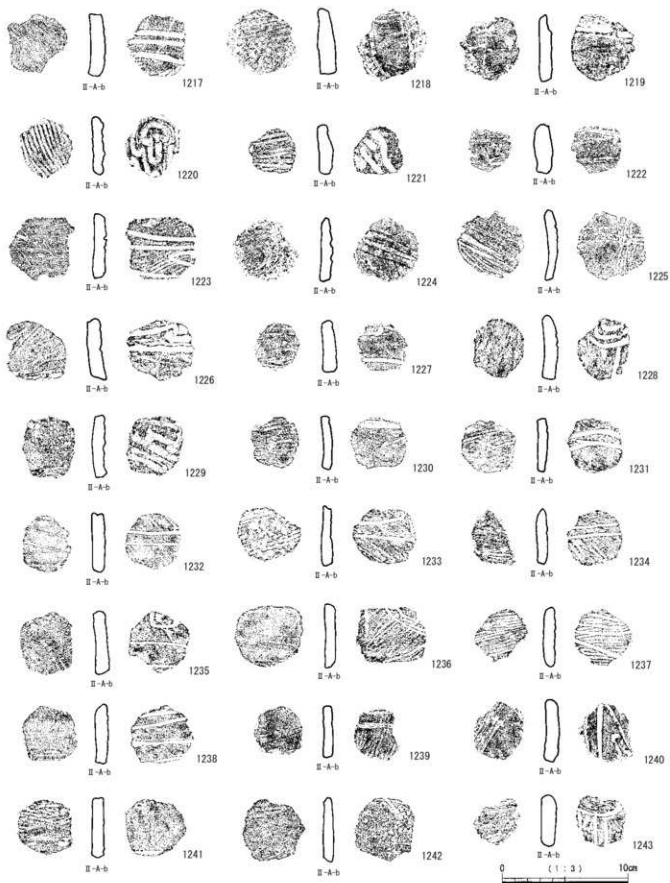
第2-87図 円盤状土製加工品 (2)



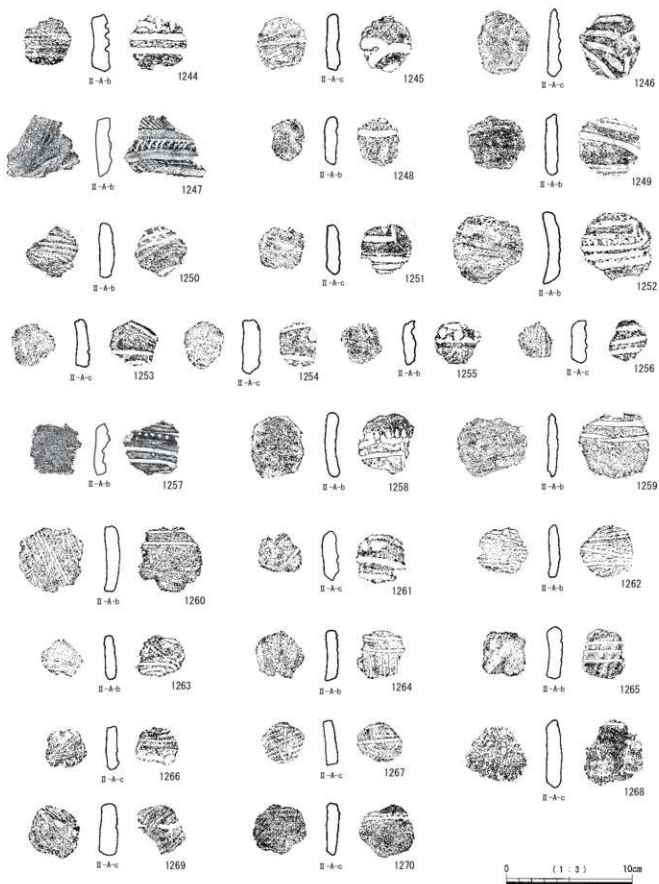
第2-88图 円盤状土製加工品(3)



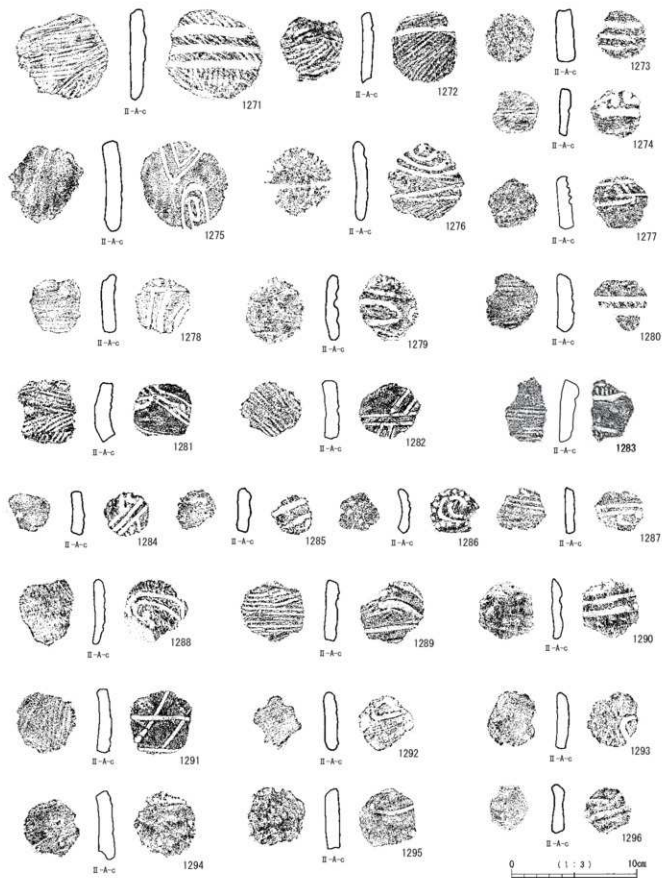
第2-89図 円盤状土製加工品(4)



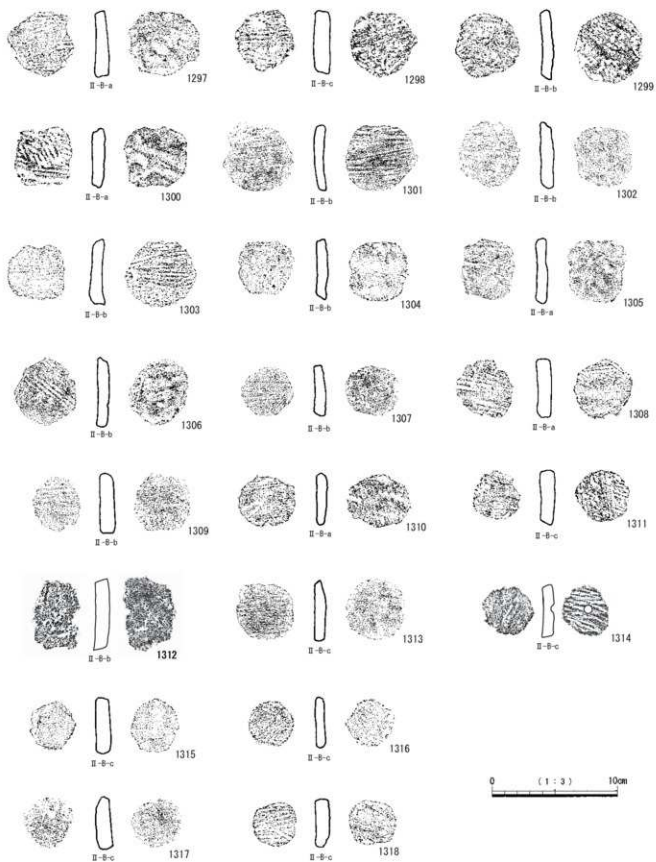
第2-90図 円盤状土製加工品 (5)



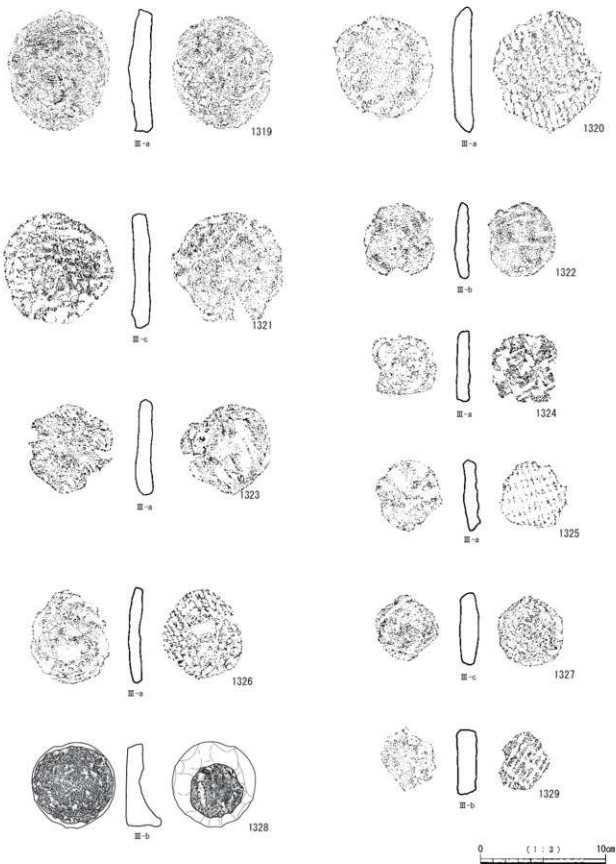
第2-91図 円盤状土製加工品 (6)



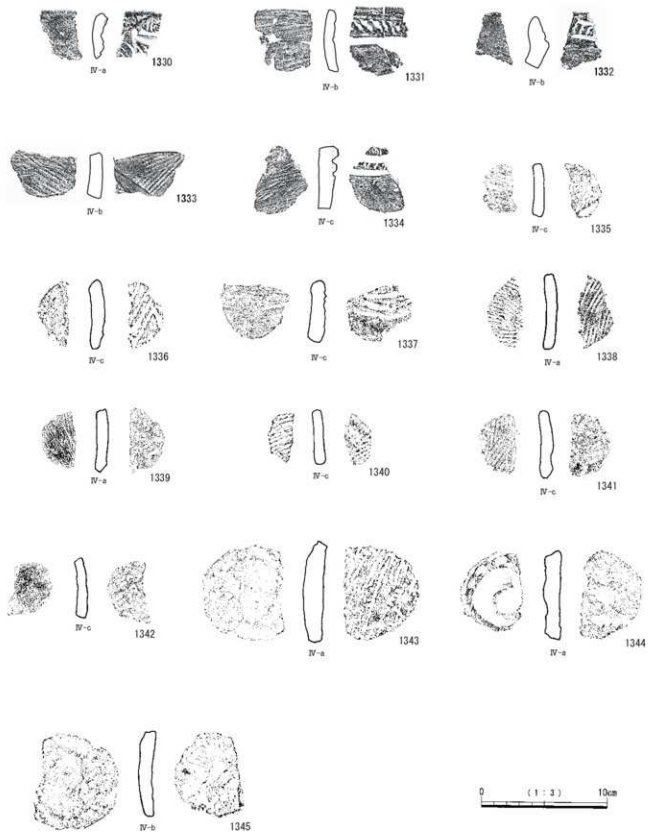
第2-92図 円盤状土製加工品 (7)



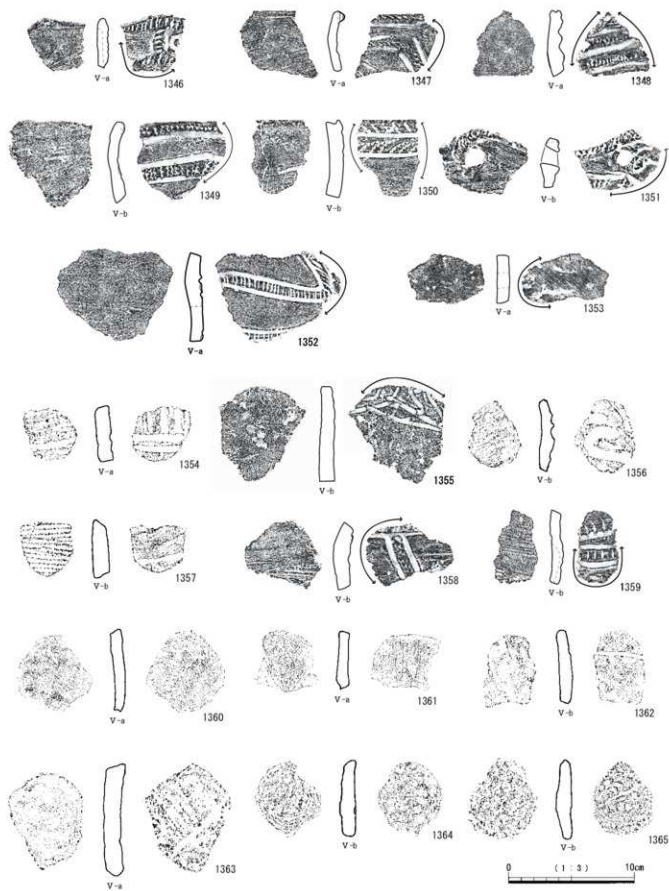
第2-93図 円盤状土製加工品 (8)



第2-94図 円盤状土製加工品 (9)



第2-95図 円盤状土製加工品 (10)



第2-96図 円盤状土製加工品 (11)

第2-2表 後期包舍層土器観察表2

調査年度	調査番号	採種	分類	出土区	層	器 種										追加番号	備考	対照品							
						外面	内面	外面	内面	石灰石	内四石	硝子	彩色	金銀	火山				磁石	その他					
2-17	619	深鉢	Ⅲ	E-16	Bb	ナデ	ナデ	椀	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	6403							
	620	深鉢	Ⅲ	D-10	Bb	目録表+ナ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	52394	年代測定試料	-					
	621	深鉢	Ⅲ	C-3-4	Bb	ナデ	目録表+ナ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	31413	植	-					
	622	深鉢	Ⅲ	E15	Bb	ナデ	目録表+ナ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	2453		-					
	623	深鉢	Ⅲ	C-4	Bb	ヘラナデ	目録表+ナ	灰瓶	灰瓶	○	○	○	○	○	○	○	○	27110	赤色顔料付合	-					
	624	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰	楕円形	○	○	○	○	○	○	○	○	-	輸入品か	75					
	625	深鉢	Ⅲ	B-C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	7281		75					
	626	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	738	輸入品か	75		
	627	深鉢	Ⅲ	E-7	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2874		-	
	628	深鉢	Ⅲ	B-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3516		-	
2-18	629	深鉢	Ⅲ	B-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	28697	輸入品か	75	
	630	深鉢	Ⅲ	C-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3036		-	
	631	深鉢	Ⅲ	B-5	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	32006		-	
	632	深鉢	Ⅲ	D-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	29093		-	
	633	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3100	分析試料	-	
	634	深鉢	Ⅲ	D-16	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13852		-	
	635	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1464		-	
	636	深鉢	Ⅲ	B-9	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	32989		-	
	637	深鉢	Ⅲ	D-16	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6613		-	
	638	深鉢	Ⅲ	C-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	26800		-	
2-19	639	深鉢	Ⅲ	E-14	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	15986		-	
	640	深鉢	Ⅲ	D-14	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11057		-	
	641	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11337		-	
	642	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13789		-	
	643	深鉢	Ⅲ	B-6	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	28924		-	
	644	深鉢	Ⅲ	B-C-16-17	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	SH108上	SH10→青銅SH13	-
	645	深鉢	Ⅲ	D-5	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49813		75	
	646	深鉢	Ⅲ	D-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	29095		-	
	647	深鉢	Ⅲ	D-9	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49271	輸入品か	-	
	648	深鉢	Ⅲ	E-14	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13866		-	
2-20	649	深鉢	Ⅲ	D-16	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6139	輸入品か	75	
	650	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4107		75	
	651	深鉢	Ⅲ	B-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	29699	地	75	
	652	深鉢	Ⅲ	D-11	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	24391		-	
	653	深鉢	Ⅲ	B-5	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	31728		-	
	654	深鉢	Ⅲ	D-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13868		-	
	655	深鉢	Ⅲ	C-9	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	47320		-	
	656	深鉢	Ⅲ	F15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20470		75	
	657	深鉢	Ⅲ	B-4	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22883		75	
	658	深鉢	Ⅲ	B-13-7	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	28944		75
2-21	659	深鉢	Ⅲ	D-16	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6695		-	
	660	深鉢	Ⅲ	C-5	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	35842		75	
	661	深鉢	Ⅲ	D-9	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49288		-	
	662	深鉢	Ⅲ	B-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	39031		-	
	663	深鉢	Ⅲ	C-14	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9983		-	
	664	深鉢	Ⅲ	D-9	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	45678	地	75	
	665	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13863		75	
	666	深鉢	Ⅲ	C-14	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4733		-	
	667	深鉢	Ⅲ	E-F-7-8	Bb	目録表+ナ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	23538		-
	668	深鉢	Ⅲ	B-9	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	59672	地	75
2-22	669	深鉢	Ⅲ	E-7	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50905		-	
	670	深鉢	Ⅲ	-	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	SH108上	SH10→青銅SH16	75
	671	深鉢	Ⅲ	E-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	36566		-
	672	深鉢	Ⅲ	C-8	Bb	ヘラナデ	ヘラナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	54337	地	-
	673	深鉢	Ⅲ	D-15	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	
	674	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	目録表+ナ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	
	675	深鉢	Ⅲ	C-6	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	38716		75
	676	深鉢	Ⅲ	D-9	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	49259	地層の(イ)イイ	-
	677	深鉢	Ⅲ	B-8	Bb	ナデ	ナデ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	23028		75
	678	深鉢	Ⅲ	C-D-14-15	Bb	目録表+ナ	目録表+ナ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10982		74
2-23	679	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	目録表+ナ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17238	地	74
	680	深鉢	Ⅲ	C-14-15	Bb	ナデ	目録表+ナ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14538		74
	681	深鉢	Ⅲ	C-14	Bb	ナデ	目録表+ナ	灰瓶	12.5cm	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10381		76
	682	深鉢	Ⅲ	C-25	Bb	ナデ	ナデ																		

第2-3表 後期包合層土器観察表3

器種 器番号	器種 番号	器種 分類	出土 区	層	器 種				石 灰 石	内 肉 石	刷 毛	金 色 装 飾	火 山 カ ガ シ	粒 石	その他	出土 番号	備考	対照 品
					外面	内面	外面	内面										
2-25	700	深鉢	Ⅲb	C-4	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	4624	76	—
2-25	701	深鉢	Ⅲb	B-5	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	34528	76	—
2-25	702	深鉢	Ⅲb	C-15	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	51398	76	SD1→近世SD13
2-25	703	深鉢	Ⅲb	C-25	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1617	76	—
2-25	704	深鉢	Ⅲb	F-16	Ⅱb	ナデ	ナデ	明赤	明赤	○	○	○	○	○	○	2043	76	—
2-25	705	深鉢	Ⅲb	C-12	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	2474	76	—
2-25	706	深鉢	Ⅲb	C-14	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1038	76	—
2-25	707	深鉢	Ⅲb	C-4	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	34523	76	—
2-25	708	深鉢	Ⅲb	C-15	Ⅱa	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	948	76	—
2-25	709	深鉢	Ⅲb	E-6	Ⅱb	段縁部+ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3570	76	—
2-25	710	深鉢	Ⅲb	C-25	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	4212	76	年代測定試料
2-26	711	深鉢	Ⅲb	B-4	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3125	76	—
2-26	712	深鉢	Ⅲb	C-4	Ⅱb	段縁部	段縁部	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3806	76	—
2-26	713	深鉢	Ⅲb	C-14	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1033	76	—
2-26	714	深鉢	Ⅲb	C-D-16-17	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	6248	76	—
2-26	715	深鉢	Ⅲb	C-28	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	8574	76	—
2-26	716	深鉢	Ⅲb	B-11	Ⅱa	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	5194	76	—
2-26	717	深鉢	Ⅲb	C-14	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	13384	76	—
2-26	718	深鉢	Ⅲb	B-4	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	34054	76	—
2-26	719	深鉢	Ⅲb	C-15	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1359	76	—
2-26	720	深鉢	Ⅲb	C-6	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	4278	76	—
2-26	721	深鉢	Ⅲb	C-4	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3603	76	—
2-26	722	深鉢	Ⅲb	C-12	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	15484	76	—
2-26	723	深鉢	Ⅲb	C-4	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3616	76	—
2-26	724	深鉢	Ⅲb	E-10	Ⅱa	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	5438	76	—
2-26	725	深鉢	Ⅲb	C-14	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1476	76	—
2-26	726	深鉢	Ⅲb	E-2	Ⅱ	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	5027	76	—
2-26	727	深鉢	Ⅲb	C-5	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3006	76	—
2-26	728	深鉢	Ⅲb	C-15	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1335	76	—
2-28	729	深鉢	Ⅲb	B-4	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	一長	76	—
2-28	730	深鉢	Ⅲb	B-4	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	2371	76	—
2-28	731	深鉢	Ⅲb	C-5	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	46325	76	—
2-28	732	深鉢	Ⅲb	C-5	Ⅱb	ナデ	段縁部	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	642	76	刷毛 段縁部斜行
2-28	733	深鉢	Ⅲb	D-16	Ⅱb	工具+ナデ	工具+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	6179	76	—
2-28	734	深鉢	Ⅲa	E-3	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	2766	76	—
2-28	735	深鉢	Ⅲa	C-15	Ⅱ	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	SD1_残土	76	SD1→近世SD12
2-29	736	深鉢	Ⅲa	E-14	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1462	76	—
2-29	737	深鉢	Ⅲa	E-8	Ⅱa	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	24193	76	—
2-29	738	深鉢	Ⅲa	B-9	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	26338	76	—
2-29	739	深鉢	Ⅲa	B-3	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	40525	76	—
2-29	740	深鉢	Ⅲa	C-5	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	32257	76	—
2-30	741	鉢	Ⅲa	C-4	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3678	76	—
2-30	742	鉢	Ⅲa	B-5	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	33742	76	—
2-30	743	深鉢	Ⅲa	B-10	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	28528	76	—
2-30	744	深鉢	Ⅲa	C-4	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	34145	76	—
2-30	745	深鉢	Ⅲa	D-16	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	6265	76	—
2-30	746	深鉢	Ⅲa	E-16	Ⅱa	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3654	76	—
2-30	747	深鉢	Ⅲa	C-15	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	残土	76	—
2-30	748	深鉢	Ⅲa	D-22	Ⅱb-V	ナデ	段縁部	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	24075	76	—
2-30	749	深鉢	Ⅲa	E-5	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3662	76	—
2-30	750	深鉢	Ⅲa	12T	Ⅱ	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	127_20	76	—
2-31	751	深鉢	Ⅲa	D-14	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1184	76	—
2-31	752	深鉢	Ⅲa	B-11	Ⅱa-V	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	4541	76	—
2-31	753	深鉢	Ⅲa	B-7	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3405	76	—
2-31	754	深鉢	Ⅲa	D-14	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	11051	76	—
2-31	755	深鉢	Ⅲa	D-3	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3937	76	—
2-31	756	深鉢	Ⅲa	C-16	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	19415	76	—
2-31	757	深鉢	Ⅲa	B-4	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3211	76	—
2-31	758	深鉢	Ⅲa	C-4	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	31415	76	—
2-31	759	深鉢	Ⅲa	B-4	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	37421	76	—
2-31	760	深鉢	Ⅲa	12T	Ⅱ	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	127_15	76	刷毛調査 トレンテ
2-31	761	深鉢	Ⅲa	B-6	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	32573	76	—
2-31	762	深鉢	Ⅲa	B-3	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3658	76	—
2-31	763	深鉢	Ⅲa	B-5	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3030	76	—
2-31	764	深鉢	Ⅲa	E-10	Ⅱa	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	5436	76	—
2-31	765	深鉢	Ⅲa	B-3	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3332	76	—
2-31	766	深鉢	Ⅲa	B-4	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3212	76	—
2-31	767	深鉢	Ⅲa	D-15	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	SD1	76	SD1→近世SD13
2-31	768	深鉢	Ⅲa	SD6	Ⅱ	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	—	76	—
2-31	769	深鉢	Ⅲa	B-10	Ⅱ	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	5501	76	—
2-31	770	深鉢	Ⅲa	D-16	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	658	76	—
2-34	771	深鉢	Ⅲa	C-4	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3610	76	—
2-34	772	深鉢	Ⅲa	F-8	Ⅱb	ナデ	工具+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	2617	76	—
2-34	773	深鉢	Ⅲa	C-3	Ⅱb	段縁部+ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	4129	76	—
2-34	774	深鉢	Ⅲa	D-16	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	6621	76	—
2-34	775	深鉢	Ⅲa	B-12	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	430	76	—
2-34	776	深鉢	Ⅲa	B-6	Ⅱb	ナデ	段縁部	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3179	76	—
2-34	777	深鉢	Ⅲa	C-15	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1763	76	—
2-35	778	深鉢	Ⅲa	B-5	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3361	76	—
2-35	779	深鉢	Ⅲa	D-14	Ⅱb	ナデ	ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	1974	76	—
2-36	780	深鉢	Ⅲa	C-6	Ⅱb	ナデ	段縁部+ナデ	12.5cm	12.5cm	○	○	○	○	○	○	3228	76	—

第2-4表 後期包含層土器観察表4

図号 器番号	器種	分類	出土区	層	器面修整等				施 工				加工 番号	備考	刃渡 長さ			
					外面	内面	外面	内面	石炭石 片	角石 片	彩色 器	彩色 器				火山 ガラス	靑石	その他
2-36	781	深鉢	Ⅲ-A	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	4999	77
	782	深鉢	Ⅲ-A	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	4952	77
	783	深鉢	Ⅲ-A	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	30172地	78
	784	深鉢	Ⅲ-A	C-12	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	12653地	77
	785	深鉢	Ⅲ-A	B-4	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	32294 年代測定試料	79
	786	深鉢	Ⅲ-A	E-36	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	6607	79
	787	深鉢	Ⅲ-A	C-14	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	10865	79
2-37	788	メソコ	Ⅲ-A	D-16	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	DR39-153	DR39+古墳DR37
	789	深鉢	Ⅲ-A	C-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	5110	5H10+古墳SH13
	791	深鉢	Ⅲ-A	C-25	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	983	79
	792	深鉢	Ⅲ-A	E-6	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	35281	79
	793	深鉢	Ⅲ-A	C-11	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	5276	79
	794	深鉢	Ⅲ-A	D-10	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	54359	79
	795	深鉢	Ⅲ-A	E-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	44423	79
	796	深鉢	Ⅲ-A	C-15	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	36328 1-7	FR39(時期不明)
	797	深鉢	Ⅲ-A	D-14	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	10320地	79
	798	深鉢	Ⅲ-A	C-25	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	17417	PSH(時期不明)
	799	深鉢	Ⅲ-A	D-14	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	4711地	79
	800	深鉢	Ⅲ-A	C-14	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	14375	79
2-38	801	深鉢	Ⅲ-A	12T	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	12T_202	藤原康夫トレンチ
	802	深鉢	Ⅲ-A	B-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	33244地	79
	803	深鉢	Ⅲ-A	D-16	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	7435	79
	804	深鉢	Ⅲ-A	C-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	23268	79
2-40	805	深鉢	Ⅲ-A	C-15	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	8498	79
	806	深鉢	Ⅲ-A	B-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	33327	79
	807	深鉢	Ⅲ-A	C-4	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	26294地	79
	808	深鉢	Ⅲ-A	D-12	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	52596地	79
	809	深鉢	Ⅲ-A	F-8	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	23397地	80
2-41	810	深鉢	Ⅲ-A	E-4	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	31783	79
	811	深鉢	Ⅲ-A	B-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	33254地	80
	812	深鉢	Ⅲ-A	D-12	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	33254地	80
	813	深鉢	Ⅲ-A	C-3-12-F-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	4598	79
	814	深鉢	Ⅲ-A	D-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	36923	79
	815	深鉢	Ⅲ-A	D-14	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	11044	79
	816	深鉢	Ⅲ-A	D-15	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	2532地	79
2-42	817	深鉢	Ⅲ-A	B-4	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	32147地	79
	818	深鉢	Ⅲ-A	12T	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	12T地	79
	819	深鉢	Ⅲ-A	C-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	27594地	79
	820	深鉢	Ⅲ-A	C-6	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	23962	79
	821	深鉢	Ⅲ-A	C-12	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	24452	80
	822	深鉢	Ⅲ-A	C-15	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	5538	79
	823	深鉢	Ⅲ-A	C-15	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	501 東上層	SD1→元SD12
2-43	824	深鉢	Ⅲ-A	D-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	36009地	80
	825	深鉢	Ⅲ-A	C-4	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	31432地	年代測定試料
	826	深鉢	Ⅲ-A	F-13	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	22291	79
	827	深鉢	Ⅲ-A	C-2-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	41763地	81
	828	深鉢	Ⅲ-A	B-C-6	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	25335地	79
	829	深鉢	Ⅲ-A	C-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	41763地	79
	830	深鉢	Ⅲ-A	B-4	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	33433地	79
	831	深鉢	Ⅲ-A	E-14	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	13954	79
	832	深鉢	Ⅲ-A	D-9	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	27900	79
	833	深鉢	Ⅲ-A	C-15	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	1381	80
2-44	834	深鉢	Ⅲ-A	B-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	31104地	79
	835	深鉢	Ⅲ-A	C-6	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	22292	80
	836	深鉢	Ⅲ-A	D-16	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	6611地	79
	837	深鉢	Ⅲ-A	B-6	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	22066	79
	838	深鉢	Ⅲ-A	F-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	45655	79
	839	深鉢	Ⅲ-A	E-36	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	5886	79
	840	深鉢	Ⅲ-A	D-16	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	5627	79
	841	深鉢	Ⅲ-A	B-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	32853地	79
	842	深鉢	Ⅲ-A	C-2-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	41763地	81
2-45	843	深鉢	Ⅲ-A	B-C-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	39763地	79
	844	深鉢	Ⅲ-A	C-12	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	12292	79
	845	深鉢	Ⅲ-A	D-16	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	5660	79
	846	深鉢	Ⅲ-A	C-8	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	26274地	79
	847	深鉢	Ⅲ-A	D-16	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	3896	80
2-46	848	深鉢	Ⅲ-A	C-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	26511地	79
	849	深鉢	Ⅲ-A	B-5	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	32828	79
	850	深鉢	Ⅲ-A	E-8	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	41012	79
	851	深鉢	Ⅲ-A	C-8	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	35374地	79
2-47	852	深鉢	Ⅲ-A	B-4	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	32153	79
	853	深鉢	Ⅲ-A	B-C-6	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	31519地	79
	854	深鉢	Ⅲ-A	C-D-8	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	21908地	81
	855	深鉢	Ⅲ-A	B-9	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	4384	79
2-48	856	深鉢	Ⅲ-A	CⅢ-D-12	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	20335地	81
	857	深鉢	Ⅲ-A	C-8	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	22969	79
	858	深鉢	Ⅲ-A	C-8	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	35366地	79
	859	深鉢	Ⅲ-A	B-3	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	32378	79
2-49	860	深鉢	Ⅲ-A	C-15	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	889	79
	861	深鉢	Ⅲ-A	E-F-10	Ⅲ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	○	○	○	33038地	79

第2-5表 後期包合層土器観察表5

図号 番号	調査 番号	図種	分類	出土区	層	器 種						石炭石 片	内角石 片	磁器	金器	火山 ガラス	瓦	その他	出土 量	備考	写真 掲載
						外面	内面	外面	内面	外面	内面										
2-49	862	深鉢	Ⅲ	C-6	Bb	ナデ	ナデ	に高い青焼	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2951個	—	—
	863	深鉢	Ⅲ	C-8	Bb	ナデ	ナデ	明赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2802個	—	—	
	864	深鉢	Ⅲ	B-5	Bb	ナデ	ナデ	明赤焼	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3111個	—	—	
	865	深鉢	Ⅲ	D-E-6	Bb	ナデ	ナデ	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3245個	—	—	
	866	深鉢	Ⅲ	F-8	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2637個	—	—	
2-50	867	深鉢	Ⅲ	8T	Bb	ナデ	ナデ	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	87,34個	確認調査トレンチ	—	
	868	深鉢	Ⅲ	B-8	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2195個	—	—	
	869	深鉢	Ⅲ	E-8	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2243個	—	—	
	870	深鉢	Ⅲ	C-3	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2949個	—	—	
	871	深鉢	Ⅲ	F-14	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	青灰	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	428個	—	—	
2-51	872	深鉢	Ⅲ	D-12	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	1524個	81	—	
	873	深鉢	Ⅲ	D-6	Bb	ナデ	ナデ	灰青焼	明赤	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	4648個	81	—	
	874	深鉢	Ⅲ	D-14	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	1003個	81	—	
	875	深鉢	Ⅲ	D-16	Bb	ナデ	ナデ	工具ナデ	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	6765個	81	—	
	876	深鉢	Ⅲ	D-16	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	5641個	81	—	
2-52	877	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	灰焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2305個	—	—	
	878	深鉢	Ⅲ	B-3	Bb	ナデ	ナデ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3234個	81	—	
	879	深鉢	Ⅲ	B-9	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	灰焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	5385個	81	—	
	880	深鉢	Ⅲ	D-15	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	5103, 雑土	SD3→近世SD13	81	
	881	深鉢	Ⅲ	D-3	Bb	ナデ	ナデ	明赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3985個	81	—	
2-54	882	深鉢	Ⅲ	E-14	Bb	ナデ	ナデ	明赤	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	1400個	—	—	
	883	深鉢	Ⅲ	B-3	Bb	工具ナデ	工具ナデ	灰焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2639個	81	—	
	884	深鉢	Ⅲ	C-14	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	15295個	81	—	
	885	深鉢	Ⅲ	D13	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	39561個	81	—	
	886	深鉢	Ⅲ	B-1-C-16	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	14925個	81	—	
2-55	887	深鉢	Ⅲ	C-4	Bb	ナデ	ナデ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3696個	81	—	
	888	深鉢	Ⅲ	C-17	Bb	ナデ	ナデ	灰焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	1367個	81	—	
	889	深鉢	Ⅲ	E-4	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	灰焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3174個	81	—	
	890	深鉢	Ⅲ	D-15	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	5103, 雑土	SD3→近世SD13	81	
	891	深鉢	Ⅲ	B-3	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	灰焼	明赤	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3249個	81	—	
2-56	892	深鉢	Ⅲ	12T	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	127, 169個	78	—	
	893	深鉢	Ⅲ	D-14	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	1524個	81	—	
	894	深鉢	Ⅲ	B-12-C-16	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	64個	—	—	
	895	深鉢	Ⅲ	B-3	Bb	ヘラナデ	ナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3330個	81	—	
	896	深鉢	Ⅲ	F-8	Bb	目録焼	目録焼	灰青焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2612個	81	—	
2-57	897	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	灰青	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	421個	—	—	
	898	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	工具ナデ	工具ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	1767個	81	—	
	899	深鉢	Ⅲ	D-E-4-7	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	明赤	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	30912個	81	—	
	900	深鉢	Ⅲ	C-14	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	灰青	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	355個	81	—	
	901	深鉢	Ⅲ	C-16	Bb	ナデ	ナデ	灰焼	明赤	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	809個	81	—	
2-58	902	深鉢	Ⅲ	C-14	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	14127個	81	—	
	903	深鉢	Ⅲ	D-8	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	明赤	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3096個	年代測定試料	—	
	904	深鉢	Ⅲ	C-2	Bb	ナデ	ヘラナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	4301個	年代測定試料	—	
	905	深鉢	Ⅲ	B-3	Bb	ナデ	目録焼	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	42076個	年代測定試料	—	
	906	深鉢	Ⅲ	B-5	Bb	ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	2728個	81	—	
2-59	907	深鉢	Ⅲ	E-7	Bb	ナデ	ナデ	目録焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	28533個	81	—	
	908	深鉢	Ⅲ	B-6	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	32449個	81	—	
	909	深鉢	Ⅲ	C-D-8	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	46575個	年代測定試料	—	
	910	深鉢	Ⅲ	C-3	Bb	ナデ	ヘラナデ	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	3139個	81	—	
	911	深鉢	Ⅲ	C-9	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	灰焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	46843個	81	—	
2-60	912	深鉢	Ⅲ	C-8	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	35361個	81	—	
	913	深鉢	Ⅲ	C-7	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	29829個	81	—	
	914	深鉢	Ⅲ	D-15	Bb	ナデ	ナデ	灰焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	4170個	81	—	
	915	深鉢	Ⅲ	B-16	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	13041個	81	—	
	916	深鉢	Ⅲ	B-12	Bb	ナデ	ナデ	ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	11394個	81	—	
2-61	917	深鉢	Ⅲ	D-7	Bb	ナデ	ナデ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	25413個	81	—	
	918	深鉢	Ⅲ	D-10	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	27406個	81	—	
	919	深鉢	Ⅲ	C-15	Bb	ナデ	ヘラナデ	明赤	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	9110個	81	—	
	920	深鉢	Ⅲ	E-3	Bb	ナデ	ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	52664個	81	—	
	921	深鉢	Ⅲ	D-12	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	明赤	明赤	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	15225個	81	—	
2-62	922	深鉢	Ⅲ	D-5	Bb	目録焼	目録焼	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	32129個	81	—	
	923	深鉢	Ⅲ	D-5	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	32449個	81	—	
	924	深鉢	Ⅲ	E-16	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	6407個	81	—	
	925	深鉢	Ⅲ	D-15	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	5103, 雑土	SD3→近世SD13	81	
	926	深鉢	Ⅲ	B-6	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	31029個	81	—	
2-63	927	深鉢	Ⅲ	B-7	Bb	目録焼+ナデ	目録焼+ナデ	に高い赤焼	灰青焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	31925個	81	—	
	928	深鉢	Ⅲ	D-15	Bb	工具ナデ	工具ナデ	に高い赤焼	に高い赤焼	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	5103, 雑土	SD3→近世SD13	81	
	929	深鉢	Ⅲ	B-10	Bb	ナデ	ナデ	に高い赤焼	灰	〇	〇	〇									

第2-7表 土器底部観察表1

調査年度	調査番号	分類	出土区	層	土										底径(cm)	口径(cm)	取上番号	備考	刃長 深さ	
					外面	内面	右裏石	左裏石	縁部	彩色	彩色	彩色	彩色	彩色						
2-76	1020	現代	C-4	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11.40	18.50	2092地	88
	1021	現代	12T	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.10	19.50	12T-15地	88	
	1022	現代	D-17	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.50	13.30	21983地	88	
	1023	現代	C-15	赤土	にぶい+黄褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.40	112.30	12047地	88	
2-77	1024	現代	B-C-6	赤土	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12.70	112.30	20439地	88	
	1025	現代	C-15	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.80	112.10	14319地	88	
	1026	現代	C-7	黄土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.00	9.20	33633地	88	
	1027	現代	C-3	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.90	4.60	41406地	88	
	1028	現代	B-3	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.00	5.20	43641地	88	
	1029	現代	C-7	赤土	明褐色	明褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.00	4.80	35419地	88	
	1030	現代	F-5	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.20	5.50	45658地	88	
	1031	現代	C-4-D-3	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12.00	4.90	36308地	88	
	1032	現代	B-5	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.80	6.80	33820地	88	
	1033	現代	F-4	赤土	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12.20	5.80	25031地	88	
2-78	1034	現代	D-14	赤土	にぶい+黄褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.80	5.10	9686地	88	
	1035	現代	C-7	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.20	4.40	28809地	88	
	1036	現代	F-7	赤土	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.40	5.30	53527地	88	
	1037	現代	B-5	赤土	黒褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.00	4.50	33766地	88	
	1038	現代	C-16	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.50	4.40	13078地	88	
	1039	現代	B-4	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.50	4.50	36363地	88	
	1040	現代	D-14	赤土	黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.40	3.70	10023地	88	
	1041	現代	B-5	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.00	4.80	33882地	88	
	1042	現代	E-14	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.00	2.70	18402地	88	
	1043	現代	D-16	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.80	5.00	33514地	88	
2-79	1044	現代	D-19	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.90	3.90	49244地	88	
	1045	現代	B-6	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11.00	4.30	31969地	88	
	1046	現代→ナナ	D-3	赤土	黒褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.70	9.80	41862地	88	
	1047	現代→ナナ	B-4-5	赤土	にぶい+黄褐色	暗褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.20	9.90	31385地	88	
	1048	現代→ナナ	C-32	赤土	にぶい+黄褐色	暗赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.80	5.80	104319地	88	
	1049	現代→ナナ	B-6	赤土	赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.20	7.30	25073地	88	
	1050	現代→ナナ	12T	赤土	にぶい+黄褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	112.00	7.50	12T-999地	88	
	1051	現代→ナナ	C-2	赤土	にぶい+黄褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.80	4.50	33263地	88	
	1052	現代→ナナ	D-17	赤土	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.20	16.30	7900地	88	
	1053	現代→ナナ	B-7	赤土	にぶい+黄褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.20	4.10	32094地	88	
2-80	1054	現代→ナナ	B-4	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.10	3.60	32215地	88	
	1055	現代→ナナ	B-6	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.60	4.00	25403地	88	
	1056	現代→ナナ	C-4	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.20	5.50	39903地	88	
	1057	現代→ナナ	B-4	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.40	5.20	33573地	88	
	1058	現代→ナナ	D-14	赤土	にぶい+黄褐色	暗褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.20	2.70	4274地	88	
	1059	現代→ナナ	B-3	赤土	にぶい+黄褐色	黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.00	4.10	41206地	88	
	1060	現代→ナナ	12T	赤土	にぶい+黄褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.60	3.00	12T-79土	88	
	1061	現代→ナナ	D-3	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.50	12.40	27644地	88	
	1062	現代→ナナ	C-15	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.00	9.80	17828地	88	
	1063	現代→ナナ	B-5	赤土	にぶい+黄褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.00	7.20	30395地	88	
2-81	1064	現代→ナナ	D-5	赤土	黒褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.00	5.70	25540地	88	
	1065	現代→ナナ	B-3	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.80	2.10	46548地	88	
	1066	現代→ナナ	C-10	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.00	3.70	28009地	88	
	1067	現代→ナナ	D-11	赤土	にぶい+黄褐色	暗褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	111.00	3.60	5335地	88	
	1068	現代→ナナ	C-9	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.10	4.10	28173地	88	
	1069	現代→ナナ	F-7	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.80	5.10	23687地	88	
	1070	現代→ナナ	B-4	赤土	にぶい+黄褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.00	3.20	35533地	88	
	1071	現代→ナナ	D-35	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.60	4.30	101209地	88	
	1072	モヅリ	B-5	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11.20	5.10	32044地	88	
	1073	モヅリ	C-4	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.20	6.80	36118地	88	
2-82	1074	モヅリ	B-9+10、C-10	赤土	にぶい+黄褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.50	5.70	47074地	88	
	1075	モヅリ	D-5	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.80	4.50	32420地	88	
	1076	裏塚	C-4	赤土	黒褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.80	2.90	26274地	88	
	1077	裏塚	B-7	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.20	4.00	54178地	88	
	1078	裏塚	E-7	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.60	5.60	36250地	88	
	1079	その他	B-5	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12.30	16.70	30111地	88	
	1080	高台	D-7	赤土	にぶい+黄褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.80	7.70	47207地	88	
	1081	高台	F-5	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.80	3.50	29268地	88	
	1082	高台	C-6	赤土	明褐色	明褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.30	3.40	29668地	88	
	1083	高台	C-7	赤土	明褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.40	2.70	29805地	88	
2-83	1084	高台	B-9	赤土	にぶい+黄褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.60	3.60	28144地	88	
	1085	その他	C-4	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	10.20	5.20	33494地	88	
	1086	高台	C-8	赤土	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.40	6.10	32373地	88	
	1087	高台	F-15	赤土	にぶい+黄褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.90	4.20	20364地	88	
	1088	高台	B-9	赤土	明褐色	明褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11.90	4.00	29644地	88	
	1089	高台	C-9	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.30	3.20	58800地	88	
	1090	高台	C-11	赤土	黒褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.20	3.40	28977地	88	
	1091	高台	D-15	赤土	にぶい+黄褐色	にぶい+黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.20	5.50	4689地	88	

第2-8表 土器底部観察表2

群別番号	編年番号	分類	出土区	層	色 差		胎 土										底径(cm)	口径(cm)	取上番号	備考	写真掲載
					外面	内面	右裏石	右四石	黒色粒	金色	赤土	次山	野分土	軽石	その他						
																○					
2-8B	1092	高台	B-8	Ⅱa	に濃い青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.30	15.50	28020	—	—
	1093	高台	C-6	Ⅱa	黒黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.20	12.70	25562	—	—
	1094	高台	D-8	Ⅱa	に濃い青黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.00	13.20	29638他	—	—
	1095	高台	C-6	Ⅱa	に濃い青黒	に濃い黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.90	14.30	2342他	—	—
	1096	高台	E-11	Ⅱa	に濃い青黒	赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9.60	13.30	18288	88	88
	1097	高台	D-15	Ⅱa	に濃い青黒	青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.00	12.90	11929	—	—
	1098	高台	C-9	Ⅱ	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.80	13.40	48709	—	—
	1099	高台	F-14	Ⅱa	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.70	12.40	24042	—	—
	1100	高台	C-12	Ⅱa	に濃い青黒	赤・青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.20	12.50	11709	—	—
	1101	高台	C-16	Ⅱa	に濃い青黒	青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.80	13.00	4466	—	—
	1102	高台	B-7	Ⅱa	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.70	13.10	33931	—	—
	1103	高台	C-8	Ⅱa	に濃い青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.20	12.50	28322他	—	—
	1104	高台	C-10	Ⅱa	に濃い青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.40	12.50	27525	—	—
	1105	高台	B-9	Ⅱa	に濃い青黒	に濃い黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.70	13.40	47078他	—	—
	1106	高台	B-3	Ⅱa	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.30	14.30	40636	—	—

第2-9表 円盤状土製加工品観察表1

群別番号	編年番号	分類	出土区	層	色 差		胎 土										最大径(cm)	重量(g)	取上番号	備考	写真掲載
					外面	内面	右裏石	右四石	黒色粒	金色	赤土	次山	野分土	軽石	その他						
																○					
2-8B	1107	I-A-a	C-17	Ⅱb	に濃い橙	内	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	32.32	8696	Ⅱa	—
	1108	I-A-a	C-4	Ⅱb	黒灰	青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.00	20.49	31464	Ⅱc	—
	1109	I-A-a	C-4	Ⅱb	黒灰	に濃い橙	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	25.14	43172	Ⅱc	—
	1110	I-A-a	C-15	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.20	38.10	18620	—	—
	1111	I-A-a	B-4	Ⅱb	に濃い青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	29.00	18620	—	87
	1112	I-A-a	D-5	Ⅱb	に濃い青黒	に濃い黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	23.90	32329	Ⅱa	—
	1113	I-A-a	B-5	Ⅱb	黒灰	に濃い黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	19.46	40903	Ⅱb	—
	1114	I-A-a	D-16	Ⅱb	に濃い青黒	に濃い橙	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	20.52	5692	Ⅱb	—
	1115	I-A-a	B-4	Ⅱb	に濃い青黒	灰青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	17.93	39425	—	—
	1116	I-A-a	D-16	Ⅱb	橙	橙	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	22.75	6961	—	—
	1117	I-A-a	D-12	Ⅱb	に濃い赤黒	黒黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	17.33	24465	—	—
	1118	I-A-a	C-15	Ⅱb	に濃い赤	に濃い黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.60	30.99	14710	—	87
	1119	I-A-a	E-3	Ⅱb	に濃い青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.20	47.40	27707	—	87
	1120	I-A-a	D-14	Ⅱb	に濃い赤黒	灰青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.60	24.25	10424	Ⅱa	—
	1121	I-A-a	D-12	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	34.80	20911	—	—
	1122	I-A-a	C-15	Ⅱb	に濃い青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	25.13	19829	—	—
	1123	I-A-a	B-4	Ⅱb	に濃い青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	18.26	38432	—	—
	1124	I-A-a	12T	Ⅱ	に濃い赤黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.00	13.61	143	—	—
	1125	I-A-a	B-10	Ⅱb	灰黒	に濃い赤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	24.26	45284	Ⅱa	—
	1126	I-A-a	F-7	Ⅱ	明赤黒	明赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	20.19	48828	Ⅱ	—
	1127	I-A-a	E-6	Ⅱb	灰青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	29.28	44058	—	87
	1128	I-A-a	D-2	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	17.73	42887	—	—
	1129	I-B-a	B-3	Ⅱb	に濃い黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	31.02	33362	—	—
	1130	I-B-a	D-9	Ⅱa	黒黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	17.23	28926	—	—
	1131	I-B-a	E-6	Ⅱ	明黒	黒黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	31.21	52961	—	—
1132	I-B-a	F-7	Ⅱb	に濃い青黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	29.94	47415	—	—	
1133	I-B-a	F-4	Ⅱb	赤黒	赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	20.80	43041	—	—	
1134	Ⅱ-A-a	C-2	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.40	33.92	31066	—	87	
1135	Ⅱ-A-a	B-10	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.20	39.88	27602	V	—	
1136	Ⅱ-A-a	B-4	Ⅱb	に濃い赤黒	灰青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	17.11	39341	V	—	
1137	Ⅱ-A-a	C-5	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	23.68	32948	—	—	
1138	Ⅱ-A-a	D-14	Ⅱb	に濃い黒	黒黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.80	26.24	11066	—	—	
1139	Ⅱ-A-a	C-16	Ⅱb	赤黒	黒灰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	28.19	9571	Ⅱ	—	
1140	Ⅱ-A-a	D-16	Ⅱb	暗黒	暗黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.70	50.56	6196	—	—	
1141	Ⅱ-A-a	B-5	Ⅱb	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	25.03	33942	—	—	
1142	Ⅱ-A-a	D-8	Ⅱb	橙	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	19.30	30504	—	—	
1143	Ⅱ-A-a	B-6	Ⅱb	に濃い赤黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	21.31	36952	—	—	
1144	Ⅱ-A-a	B-5	Ⅱb	黒黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	24.03	33629	—	—	
1145	Ⅱ-A-a	C-3	Ⅱb	灰青黒	赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	32.22	40820	Ⅱb	—	
1146	Ⅱ-A-a	D-12	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い青黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.90	15.39	15527	—	—	
1147	Ⅱ-A-a	C-11	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	22.87	18425	—	—	
1148	Ⅱ-A-a	F-7	Ⅱa	に濃い赤黒	黒黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.80	18.25	23549	—	—	
1149	Ⅱ-A-a	D-17	Ⅱb	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.20	35.61	7794	Ⅱ	—	
1150	Ⅱ-A-a	C-11	Ⅱb	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	20.46	8245	—	—	
1151	Ⅱ-A-a	E-10	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	26.55	25229	—	87	
1152	Ⅱ-A-a	B-17	Ⅱb	黒黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	35.33	94129	—	—	
1153	Ⅱ-A-a	D-10	Ⅱb	灰黒	黒黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	21.63	44390	—	—	
1154	Ⅱ-A-a	F-11	Ⅱa	灰黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.10	16.43	23655	—	—	
1155	Ⅱ-A-a	C-11	Ⅱ	赤黒	黒黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	21.07	25002	Ⅱ	—	
1156	Ⅱ-A-a	B-4	Ⅱb	に濃い赤	黒黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	25.30	36628	—	—	
1157	Ⅱ-A-a	C-5	Ⅱb	に濃い赤黒	に濃い赤黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	19.91	36670	—	—	

第2-10表 円盤状土製加工品観察表2

試料番号	調査番号	分類	出土区	層	土質										最大径 (cm)	重量 (g)	出土番号	備考	写真撮影
					外面	内面	右裏 長石	角閃石 輝石	黒色泥 炭	白色泥 炭	火山 ガラス	緑石	その他						
2-87	1158	B-A-a	B-17	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	23.98	9423		
	1159	B-A-a	B-10	砂	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	21.53	32192		
	1160	B-A-a	F-18	砂	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	30.53	20464		
	1161	B-A-a	D-15	砂	黒褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	6.00	48.18	14687	Ⅴ	87
	1162	B-A-a	8T	砂	にぶい	黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.80	36.58	7	Ⅴ	
	1163	B-A-a	C-16	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	27.37	11818	Ⅴ	
	1164	B-A-a	B-5	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	28.63	30361	Ⅴ	
	1165	B-A-a	C-15	砂	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	29.97	14732	Ⅴ	
	1166	B-A-a	B-4	砂	黄褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	6.00	32.75	33882	Ⅴ	87
	1167	B-A-a	B-4	砂	にぶい	黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	29.61	43112	Ⅴ	
	1168	B-A-a	D-9	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	25.94	47232	Ⅴ	
	1169	B-A-a	B-5	砂	黒褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	23.29	44914	Ⅴ	
	1170	B-A-a	C-14	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	23.50	12688	Ⅴ	
	1171	B-A-a	C-16	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	3.40	12.03	8571		
	1172	B-A-a	C-16	砂	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	29.81	9668		
1173	B-A-a	C-8	砂	黒褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	6.00	45.54	34747	Ⅴ	87	
1174	B-A-a	C-4	砂	黒褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	6.00	37.02	44668	Ⅴ	87	
1175	B-A-a	B-9	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.80	26.58	—	Ⅴ	87	
1176	B-A-a	B-4	砂	黒褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	20.31	31160	Ⅴ		
1177	B-A-a	C-16	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	16.59	8507			
1178	B-A-a	B-11	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	18.94	10813			
1179	B-A-a	12T	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	2.70	7.14	—			
1180	B-A-a	B-5	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	6.70	43.04	35751			
1181	B-A-a	B-3	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	19.53	41541			
1182	B-A-a	C-5	砂	暗赤褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	32.11	30405			
1183	B-A-a	C-4	砂	黒褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.30	39.64	32504			
1184	B-A-a	C-10	砂	緑褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	26.99	47106			
1185	B-A-a	B-3	砂	にぶい	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.90	31.06	42540			
1186	B-A-a	B-4	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	22.25	38399			
1187	B-A-a	D-15	砂	にぶい	灰褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	17.96	10112			
1188	B-A-a	D-7	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	24.87	25208			
1189	B-A-a	D-7	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	9.26	42729	Ⅴ		
1190	B-A-a	D-10	砂	暗	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	21.01	29879			
1191	B-A-a	D-16	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.80	37.20	17003			
1192	B-A-a	C-10	砂	明赤褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	6.40	55.17	34875			
1193	B-A-a	B-13	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.30	32.38	15283			
1194	B-A-a	B-4	砂	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	29.06	32524	Ⅴ		
1195	B-A-a	D-6	砂	黒	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	6.30	45.48	46621			
1196	B-A-a	B-3	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	24.00	43990	Ⅴ		
1197	B-A-a	C-14	砂	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	23.79	356			
1198	B-A-a	D-8	砂	暗褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	34.19	46140			
1199	B-A-a	F-10	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	30.73	47322			
1200	B-A-a	C-11	砂	暗褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	20.83	12468			
1201	B-A-a	B-12	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	26.47	15230			
1202	B-A-a	E-5	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	34.77	32722			
1203	B-A-a	B-3	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	16.51	33314	Ⅴ		
1204	B-A-a	D-14	砂	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	3.70	14.08	9609			
1205	B-A-a	B-5	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	28.66	31927	Ⅴ	87	
1206	B-A-a	D-16	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	28.43	4927			
1207	B-A-a	D-14	砂	灰黄褐色	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	25.80	—	Ⅴ		
1208	B-A-a	B-3	砂	黒褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	17.20	41280			
1209	B-A-a	C-15	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	25.08	18671			
1210	B-A-a	D-10	砂	明赤褐色	暗褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	3.70	14.11	46961			
1211	B-A-a	E-8	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	17	22014			
1212	B-A-a	D-12	砂	黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	23.38	24386			
1213	B-A-a	C-14	砂	にぶい	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	33.24	4609	Ⅴ		
1214	B-A-a	E-8	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	15.66	30533			
1215	B-A-a	E-10	砂	にぶい	灰黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	23.08	54965			
1216	B-A-a	B-3	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	22.95	20689			
1217	B-A-a	D-14	砂	にぶい	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	33.53	11168			
1218	B-A-a	C-5	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.60	40.54	33057			
1219	B-A-a	F-11	砂	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	26.82	23055			
1220	B-A-a	C-14	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	21.13	10835	Ⅴ		
1221	B-A-a	B-3	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.00	21.86	40637			
1222	B-A-a	E-3	砂	にぶい	灰褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	26.18	37119			
1223	B-A-a	B-5	砂	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.80	35.71	30356	Ⅴ	87	
1224	B-A-a	F-7	砂	にぶい	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	27.68	25641			
1225	B-A-a	D-7	砂	にぶい	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.60	26.40	33014			
1226	B-A-a	F-11	砂	にぶい	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	5.40	38.47	29010	Ⅴ		
1227	B-A-a	E-7	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	4.10	22.85	25733			
1228	B-A-a	C-10	砂	にぶい	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	28.09	25992	Ⅴ		
1229	B-A-a	D-3	砂	にぶい	黄褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	27.91	30152			

第2-11表 円盤状土製加工品観察表3

試料番号	調査番号	分類	出土区	層	加工										最大径 (cm)	重量 (g)	出土 番号	備考	写真 掲載
					外面	内面	右長 石	左長 石	角長石	彩色 土	彩色 土	彩色 土	彩色 土	彩色 土					
1230	II-A-b	B-8	砂	にじみ赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	17.84	22201		
1231	II-A-b	C-7	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	21.51	45776		
1232	II-A-b	B-9	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	27.86	30723		
1233	II-A-b	F-11	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	21.94	履土		
1234	II-A-b	D-15	砂	にじみ赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	20.04	一様		
1235	II-A-b	I2T	砂	にじみ赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	33.78	74		
1236	II-A-b	D-9	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.70	31.66	34849		
1237	II-A-b	D-14	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	22.25	9984		
1238	II-A-b	C-16	砂	にじみ赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	30.03	12527		
1239	II-A-b	F-7	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.10	16.42	23995		
1240	II-A-b	C-2	砂	黒褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	27.97	42518		
1241	II-A-b	D-10	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	28.17	29123		
1242	II-A-b	C-16	砂	黒褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.40	28.54	20286		
1243	II-A-b	D-15	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	25.81	14538		
1244	II-A-b	C-3	砂	にじみ赤褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	29.66	42588		
1245	II-A-b	C-9	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	25.63	46837		
1246	II-A-b	C-13	砂	黒褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.40	26.49	9653		
1247	II-A-b	F-6	砂	黒褐色	灰赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.00	33.10	30030	灰	
1248	II-A-b	3T	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.90	15.55	159		
1249	II-A-b	D-15	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	27.02	5613	履土	
1250	II-A-b	D-12	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	23.88	10743		
1251	II-A-b	E-15	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.90	20.23	326		
1252	II-A-b	D-9	砂	黒褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.70	40.23	48450	履土	灰
1253	II-A-b	F-15	砂	黒褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.40	14.30	1424		
1254	II-A-b	B-16	砂	赤褐色	赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	24.20	16173		
1255	II-A-b	C-15	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.60	12.74	4667		
1256	II-A-b	C-16	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.70	16.59	19707		
1257	II-A-b	C-6	砂	灰褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	21.19	21688	履土	
1258	II-A-b	B-10	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	28.88	54803		
1259	II-A-b	D-4	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.70	29.44	41006		
1260	II-A-b	D-7	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	39.36	32677		
1261	II-A-b	E-10	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	25.53	54964		
1262	II-A-b	D-3	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	18.32	39306		
1263	II-A-b	B-4	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.90	13.92	38502		
1264	II-A-b	E-6	砂	暗赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.00	16.28	54261		
1265	II-A-b	D-14	砂	明赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	20.61	11011		
1266	II-A-b	D-13	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.70	13.49	22526		
1267	II-A-b	D-5	砂	にじみ赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.80	12.63	30116		
1268	II-A-b	C-17	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.40	36.41	9459		
1269	II-A-b	B-10	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	25.63	26527		
1270	II-A-b	C-4	砂	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	23.70	34141		
1271	II-A-b	D-8	砂	黒褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.70	88.26	45471	履土	灰
1272	II-A-b	C-4	砂	黒褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	28.94	36359		
1273	II-A-b	D-3	砂	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.10	27.97	53908		
1274	II-A-b	B-3	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.70	16.40	44657		
1275	II-A-b	D-15	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7.10	64.63	12832	履土	灰
1276	II-A-b	F-11	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.30	39.32	22014		
1277	II-A-b	D-8	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	21.85	48250		
1278	II-A-b	B-3	砂	暗赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	24.86	履土		
1279	II-A-b	C-8	砂	暗赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	28.01	36276		
1280	II-A-b	B-5	砂	赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	32.78	38663	履土	灰
1281	II-A-b	E-3	砂	黒褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	40.34	27737	履土	
1282	II-A-b	C-9	砂	赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	28.96	47181	履土	
1283	II-A-b	D-9	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	36.21	39109	履土	
1284	II-A-b	E-3	砂	赤褐色	灰褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3.80	13.44	43856	履土	灰
1285	II-A-b	C-16	砂	赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	14.69	11668		
1286	II-A-b	I2T	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	11.02	33	履土	
1287	II-A-b	C-16	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.10	13.58	12666		
1288	II-A-b	B-17	砂	にじみ赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	27.69	9414		
1289	II-A-b	E-11	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.30	33.86	44303		
1290	II-A-b	F-9	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	21.14	34031		
1291	II-A-b	D-9	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	34.08	28575		
1292	II-A-b	D-10	砂	暗赤褐色	黒褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	22.32	45489		
1293	II-A-b	C-6	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	22.29	23413		
1294	II-A-b	C-3	砂	にじみ赤褐色	灰褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.30	36.15	34489		
1295	II-A-b	B-12	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	31.75	9130		
1296	II-A-b	F-18	砂	赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	30.53	20545	履土	
1297	II-B-a	F-4	砂	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	6.10	45.39	31878		
1298	II-B-a	D-9	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	37.13	24238		
1299	II-B-a	B-4	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	31.37	42262	履土	灰
1300	II-B-a	B-8	砂	にじみ赤褐色	にじみ赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	33.26	28277		
1301	II-B-a	C-8	砂	にじみ赤褐色	明赤褐色	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5.90	32.49	28321		

第2-12表 円盤状土製加工品観察表4

試料番号	調査番号	分類	出土区	層	土										最大径 (cm)	重量 (g)	出土 番号	備考	写真 掲載
					外周	内面	右裏石 長石	角閃石 輝石	黒色粒	金色 雲母	次山 ガラス	輝石	その他						
1302	II-非-B	B-4	非	に深い層	に深い層									5.30	37.34	4311		--	
1303	II-非-B	E-10	焼	黒炭										5.50	25.61	5495		--	
1304	II-非-B	E-10	灰	黒炭	に深い層									5.00	26.99	5496		--	
1305	II-非-B	E-16	非	赤黒	赤黒									5.20	31.15	6271		--	
1306	II-非-B	12T	非	に深い層	に深い層									5.50	27.29	130		--	
1307	II-非-B	B-5	非	に深い層	に深い層									4.60	21.49	30258		--	
1308	II-非-B	E-9	非	黒炭	赤黒									5.00	35.11	2943		--	
1309	II-非-B	D-5	非	灰黄緑	明赤黒									4.80	30.80	35391		--	
1310	II-非-B	D-16	非	暗赤黒	暗赤黒									5.00	24.24	7224		--	
1311	II-非-B	C-7	非	に深い層	黒炭									4.60	26.08	46713		--	
1312	II-非-B	C-16	非	に深い層	に深い層									4.90	39.99	9325		--	
1313	II-非-B	B-5	非	赤黒	黒炭									4.90	27.75	42829		短	
1314	II-非-B	C-4	非	に深い層	黄緑									4.50	18.00	39601	孔あり貫通せず	短	
1315	II-非-B	E-16	非	に深い層	に深い層									4.50	26.94	7526		--	
1316	II-非-B	D-15	非	に深い層	に深い層									4.00	14.76	12607		--	
1317	II-非-B	B-8	非	に深い層	明赤黒									4.40	22.54	25761		--	
1318	II-非-B	D-8	焼	に深い層	に深い層									3.80	21.24	25718		--	
1319	III-a	C-2	非	黒炭	に深い層									9.70	143.70	43811		--	
1320	III-a	D-11	非	黒炭	に深い層									9.70	131.00	15289	削代	--	
1321	III-a	F-4	非	に深い層	に深い層									9.20	129.00	37138		--	
1322	III-b	F-4	焼	灰黄緑	に深い層									5.80	39.48	51716		--	
1323	III-a	C-5	非	に深い層	に深い層									7.60	76.26	33039	削代	--	
1324	III-a	C-8	非	明赤黒	明赤黒									5.60	39.92	種上	削代	--	
1325	III-a	C-20	非	に深い層	に深い層									5.80	37.70	35726	削代	短	
1326	III-a	D-5	非	明焼	明焼									7.60	49.51	25388	削代	--	
1327	III-c	B-3	非	黒	黒									5.80	47.14	29709	削代	--	
1328	III-b	C-15	非	に深い層	に深い層									6.70	108.81	8861	削代	--	
1329	III-b	C-4	非	明焼	明焼									5.20	39.14	31437		--	
1330	III-a	C-4	非	焼灰	に深い層									4.30	11.17	34236		--	
1331	III-b	D-4	非	焼灰	に深い層									5.20	28.86	46941	Vc	--	
1332	III-b	F-11	非	に深い層	灰黄緑									4.10	16.49	種上	削代	--	
1333	III-b	C-14	非	に深い層	に深い層									5.70	29.22	18718		--	
1334	III-c	D-13	焼土	に深い層	に深い層									5.50	34.93	18159	種上	--	
1335	III-c	C-14	非	に深い層	に深い層									4.40	14.49	8830		--	
1336	III-c	B-3	非	赤黒	赤黒									5.50	17.49	4232		--	
1337	III-c	B-3	非	に深い層	に深い層									5.80	36.62	40228	種上	--	
1338	III-a	B-3	非	赤黒	赤黒									6.10	17.76	3781		--	
1339	III-a	D-16	非	明赤黒	灰黒									5.00	17.39	2222		--	
1340	III-c	C-3	非	に深い層	黒炭									4.50	10.10	42726		--	
1341	III-c	B-6	非	に深い層	黒炭									5.40	21.72	20260		--	
1342	III-c	B-6	非	に深い層	に深い層									5.30	17.59	34683		--	
1343	III-a	C-4	非	に深い層	に深い層									8.10	94.22	33660		--	
1344	III-a	B-2	非	に深い層	に深い層									8.10	57.38	31584	V	短	
1345	III-b	B-13	非	に深い層	に深い層									7.20	51.41	9831		--	
1346	V-a	C-5	非	に深い層	に深い層									4.70	14.38	33633	種上	--	
1347	V-a	B-5	非	に深い層	に深い層									6.20	29.73	30145		--	
1348	V-a	B-10	非	に深い層	に深い層									5.40	33.11	36756	種上	--	
1349	V-b	ST	焼	に深い層	灰黄緑									7.30	52.92	不明	不明	削代	--
1350	V-b	B-6	非	に深い層	灰黄緑									6.10	45.89	22867	種上	--	
1351	V-b	B-5	非	焼灰	に深い層									6.80	31.87	34486	種上	--	
1352	V-a	C-5	非	灰黒	に深い層									9.80	85.62	30341	種上	--	
1353	V-a	C-6	非	に深い層	に深い層									6.80	31.26	28675		--	
1354	V-a	B-7	非	に深い層	灰黄緑									4.70	29.76	33114	種上	--	
1355	V-b	C-16	非	に深い層	に深い層									8.00	72.31	13189		--	
1356	V-b	D-15	非	灰黒	に深い層									5.70	27.76	4163	種上	--	
1357	V-b	B-6	非	に深い層	黒炭									4.60	31.22	25522		--	
1358	V-b	D-8	非	焼灰	焼灰									6.70	41.74	29471		--	
1359	V-b	C-4	非	に深い層	灰黄緑									6.10	23.20	31425	種上	--	
1360	V-a	F-10	焼	黒	に深い層									6.60	40.20	54649		--	
1361	V-a	D-18	非	黒炭	に深い層									5.40	27.88	8214		--	
1362	V-b	C-4	非	焼灰	に深い層									6.10	32.41	33003		--	
1363	V-a	D-14	非	に深い層	に深い層									8.90	94.40	4719		--	
1364	V-b	F-8	非	に深い層	に深い層									6.00	40.99	24116		--	
1365	V-b	B-8	非	灰黄緑	灰黄緑									6.20	33.72	30630		--	

第七章 縄文時代後期末～弥生時代初頭の調査

縄文時代後期末から弥生時代初頭の遺物は調査区の全域にみられ、第2-97図に示したように時期ごとにもみる程度のもつとみられる。時期と生活区域は次のとおりである。

Ⅷ類：中岳Ⅱ式土器…5～20区、32～35区

Ⅸ類：上加世田式・入佐式土器…6～16区、34～37区

Ⅹ類：黒川式土器…8～14区、30～32区

Ⅺ類：干河原段階の土器…6～14区

Ⅻ類：刻目突帯文土器…6～38区

この時期の遺構は土坑4基、集石2基、石斧埋納遺構1基が検出されているが、時期を判断できる遺物がないものもあり、中には新しい時期の遺構が含まれていることも否めない。また、確認できた総数1,963点、74,150gの土器の内224点を掲載した。なお、石器については、20区から東側で出土したもので、明確に前期および中期に属するもの以外は本章の時期に使用された可能性がある。

第1節 遺構

(1) 土坑 (第2-99～102図)

土坑59号 (第2-99図)

検出状況：SK59はD-12区のⅥ層で検出された。後期前半に造成された地点であり、当時の地表面と検出面に極端な差はなかったと考えられる。長軸は0.33m、短軸0.25m、深さ13cm、推定面積は40.06㎡を測る。楕円形である。完形に復元できる土器が出土したが、足りない破片が多く底部が口縁部付近の内面に落ち込んだ状態であり、埋設された可能性は低い。掘り込みはほぼ土器が出土した範囲である。

分類：タイプⅡ

埋土：埋土は褐色のやや軟質である。

出土遺物：1366は口径33.4cm、胴部最大径30.8cm、底径8.2cm、器高27.2cmを測る深鉢形土器である。張り出しのある円盤状の底部から外開きして胴上部で内側に屈曲する。肩部は1cmほど短く、わずかに反しなながら立ち上がる。口縁部から口唇部にかけて同じ器厚であり、口唇部は平らに面取りする。口縁部には2か所もしくは4か所に山形の低い突起が付くと想定され、この部分だけ肥厚する。胴部外面がナデによる器面調整であるのに対し、肩部から口縁部の外面に明瞭な貝殻条痕がみられ、口縁部文様帯を意識しているようにも推察される。一方、内面は胴部以下が貝殻条痕で、口縁部はナデによる器面調整である。これらの特徴からⅩ類の黒川式土器に該当する。深さ

土坑60号 (第2-99図)

検出状況：SK60はD-36区のⅣc層で検出された。長軸は0.84m、短軸0.84m、深さ14cm、推定面積0.56㎡を測る。楕円率1.00の円形である。掘り込みの断面は深めの皿状である。

分類：タイプⅢ

埋土：暗褐色の砂質土である。

出土遺物：黒曜石のチップが1点出土した。周囲にはⅨ類の土器が多く、入佐式土器の時期と考えられる。

土坑61号 (第2-100・101図)

検出状況：SK61はE-36区のⅣc層で検出された。長軸は1.82m、短軸1.00mで、南側が一段深くになっている。深さは浅いところで34cm、深いところで58cmである。床面はどちらも平坦である。推定面積は1.51㎡を測る。楕円率0.55の楕円形である。深い部分の床面から27cm浮いたところに土器や割れた状態の石器を含む礫が全部で26点出土した。土坑が使われなくなり、自然に埋まる途中で土器などが廃棄された可能性もあるが、土坑の廃棄に伴う祭祀的な意味合いも考えられる。土器や石器は故意に割られた可能性もある。土坑の用途は不明である。

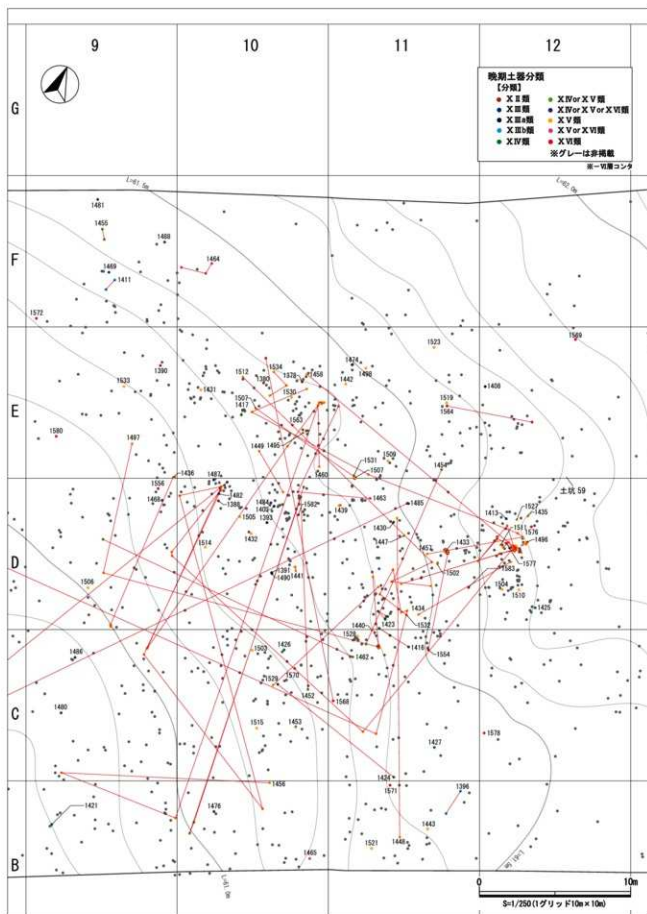
分類：タイプⅡ

埋土：黒褐色の砂質土で、炭化物をわずかに含む。

出土遺物：1367～1371は土器および土製加工品である。1367は深鉢の頸部から口縁部にかけての破片である。内傾する肩部から「く」字状に屈曲して直線的に外開きする口縁部に至る。屈曲部の内面はゆるい稜が入り、外面は調整具の痕跡がみられるが意識して段をつくることはない。口縁部はわずかに影らむが、口縁部文様帯はみられない。内外面ともミガキ様のナデである。胎土に金色の雲母を多く含む。色調は中岳Ⅱ式土器に類似する。器形からⅨ類の入佐式土器と考えられ、口縁部文様帯がみられないことから新段階に該当する。

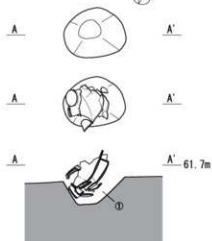
1368は深鉢の胴上部から口縁下部にかけての肩部に相当する破片である。内湾気味の胴上部から稜をもって内傾する肩部に至る。肩部は25mm幅と短く、「く」字状に屈曲して口縁部に至る。内面の肩部境は内湾するのみで明瞭でないが、内面の口縁部境には稜がみられる。外面の器面調整はヘラミガキで、内面はナデである。色調は栗色(極暗赤褐色)に近く中岳Ⅱ式土器に類似するが、器形は入佐式土器と共通することから、この時期が考えられる。

1369は胴上部から内側に屈曲する深鉢の破片である。内湾気味に開く胴上部から内側に屈曲する部分であり、疑似口縁の内側に粘土を貼り付けて成形している状況が観察できる。内外面ともナデによる器面調整である。器



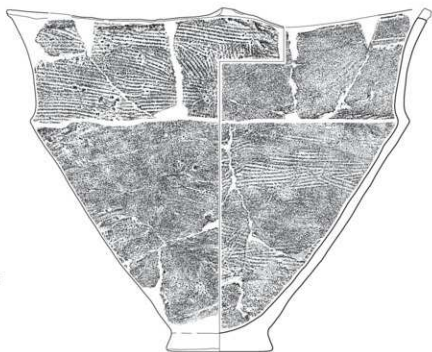
第2-98図 縄文時代後期末～弥生時代初頭の遺構配置図および遺物分布図2（部分拡大）

SK 59



① 褐色 (0103/1) やや粘質
黄赤バテ土微粒・白色バテ土微粒をわずかに含む
小石をごくわずかに含む
炭化物微粒をわずかに含む
写像がわずかに歪む 粒子やや粗い

0 (1:20) 50cm

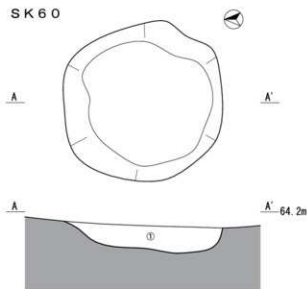


1366



0 (1:3) 10cm

SK 60

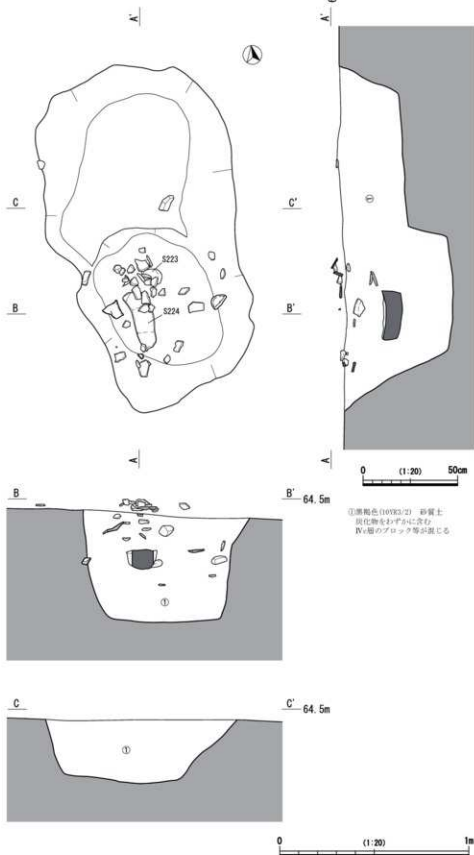


① 暗褐色 (0103/2) 砂質土

0 (1:20) 1m

第2-99図 土坑59・60号と土坑59号出土遺物

SK 61



第2-100図 土坑61号

形は入佐式土器に類似する。

1367~1369の3点は深鉢形土器であるが、胎土が異なりそれぞれ別個体である。

1370は深鉢の胴部破片を利用したもので、長辺の内面端部に磨滅した痕がある。対象物に約20度の角度で押し当てて、何かを研磨する道具として使用した可能性がある。1371は円盤状土製加工品の未製品としたものである。深鉢の胴部破片を利用したものと考えられる。

S223は安山岩製の磨・敲石類である。13.67cm×9.59cm×6.28cmで、重さは1.235gの内厚である。両面に磨面があり、一端に敲打痕がわずかにみられる。磨面は平坦に近い面と丸みを帯びた面がある。割れた状態で出土し、接合する。突った様な道具で故意に割られたような状況が窺える。

S224は花崗岩製の石皿V類である。15.7cm×33.4cm×12.1cm、重さ7,700gの四角柱状に割れてはいるが、使用面の凹みは深く27mmを測る。元々は海岸でみられるような50cm大の楕円形をした自然石であり、裏面に使用痕はみられない。凹面に磨面と敲打痕がみられ、敲打は磨面を再生し摩擦を得るためとも考えられる。割れ口の4面は赤色化し、被熱している。表裏面の赤色化が弱いのは銹物の粒子が密になっているためと推察される。分厚い花崗岩が四角柱状に、しかも主使用面だけが残っており、磨石とともに故意に割られた可能性もある。

石皿や磨石を故意に割って立石とするなど、祭祀的

な遺構を残したのは、縄文時代後期前半における小牧遺跡の特徴でもある。そのような行為が、約800年の時を経て残っている点は、南九州あるいは大隅半島の特色を示している可能性もある。

土坑内の炭化材を年代測定した結果、 ^{14}C 年代が3400 \pm 20、2 σ 暦年代範囲が1749-1638calBC (95.4%)で縄文時代後期中半に相当する年代であり、混入の可能性もある。

土坑62号 (第2-102図)

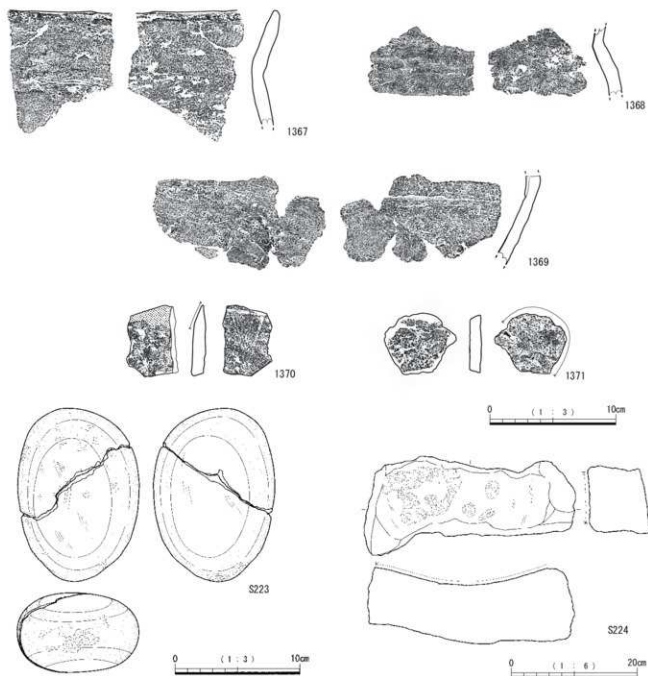
検出状況：SK62はF-38区のIVb層で検出された。検出面

での長軸は1.05m、短軸1.00m、深さ66cm。推定面積は0.21㎡を測る。楕円率0.88の円形である。床面より15cm上が最も広く、長軸1.16m、短軸1.05mとなる。断面形はフラスコ形で、アカホヤ火山灰層下のVI層まで掘り込んでいる。床面は平坦で丁寧に掘られている。

分類：タイプⅢ

埋土：埋土は6層に分かれ、レンズ状に堆積している。埋土の詳細は図中の注記のとおりである。

出土遺物：第3分層の補遺に図化した刻目突帯文土器(1595)が出土している。S225の石鎌が床直上で出土した。



第2-101図 土坑61号出土遺物

一部が鉄石英のように赤色となる珪質頁岩を素材とする。浅い凹形の三角形をしている。一方の側縁が欠けている点と、凹基部の押圧剥離が丁寧でないことから、製作途中で破損したものとも考えられる。

土坑内の「クリ？炭化子葉」を年代測定した結果、¹⁴C年代が3620±20、2σ暦年代範囲が2036-1912calBC(94.8%)で縄文時代後期前半に相当する年代であり、混入の可能性もある。

検出された区域はⅢ類の土器が多く、埋土から出土した刻目突帯文土器と同じである。埋土下部に黒色の砂質土が含まれることもこの時期の遺構と考えられる。県内での類例はあまりないが、他地域でこの時期のフラスコ状の貯蔵穴が知られている。

(2) 集石 (第2-103図)

集石74号 (第2-103図)

分類：タイプⅢ

検出状況：SS74はE-35区のⅣc層で検出された。掘り込みがあり、床直上出土もあるが、ほとんどの礫は底面よ

り6cm浮いた位置で重なりながらまとまって出土した。構成礫には砂岩96個、頁岩37個、凝灰岩9個、安山岩6個、軽石4個、泥岩2個があり、半数以上の礫89個が被熱している。SS75を切っている。

規模：構成礫数154個、総重量は19,032gで、1個平均の重さが124gである。礫は、長軸1.20m、短軸1.02mの範囲に広がる。掘り込みは114cm×103cmで、深さは検出面から14cmである。埋土は灰黄褐色の砂質土で炭化物を少量含む。

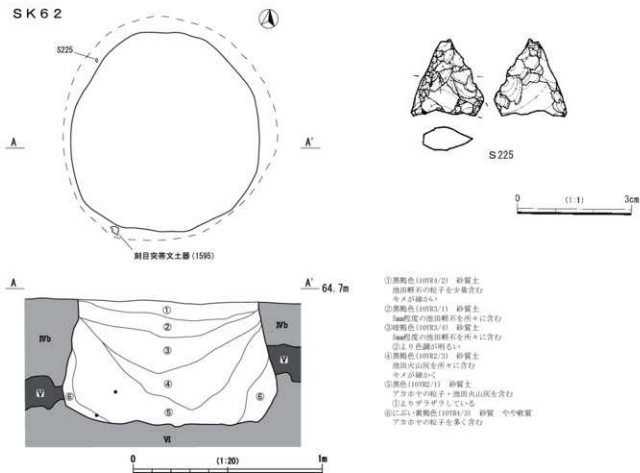
出土遺物：遺物はない。

集石内の炭化材を年代測定した結果、¹⁴C年代が2425±20、2σ暦年代範囲が545-408calBC(79.6%)である。検出された区域はⅢ類が多い。上加世田式や入佐式期の可能性もあるが、年代値は刻目突帯文土器期の弥生時代前期に相当する。隣接する36・37区で刻目突帯文土器が出土しているため、この時期で妥当である。

集石75号 (第2-103図)

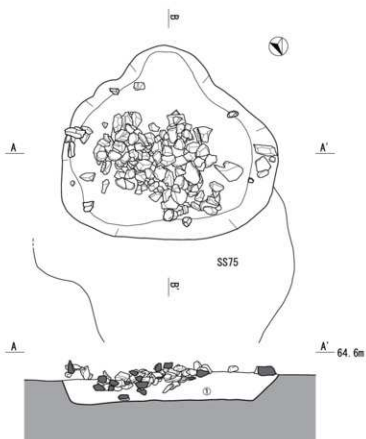
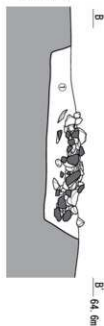
分類：タイプⅢ

検出状況：SS75はE-35区のⅣc層で検出された。集石74



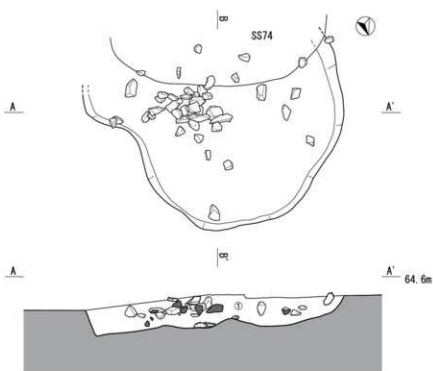
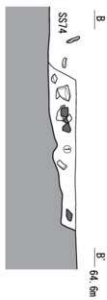
第2-102図 土坑62号と出土遺物

SS 7 4

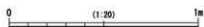


①灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土
高化物質少量含む

SS 7 5



①に多い黄褐色(10YR4/3) 砂質土
レキ片を所々に含む
高化物質を二くわすかに含む
1%層に1%層が混じる



第2-103図 集石74・75号

号に一部を切られている。掘り込みがあり、床直上出土もあるが、礫は底面より6cm浮いた位置で比較的正常にまつている。構成礫には砂岩32個、頁岩10個、凝灰岩4個、軽石1個があり、32個が被熱している。

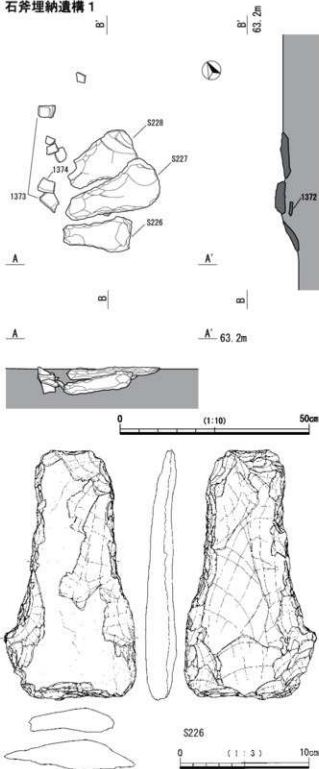
規模：構成礫数47個、総重量は5,484gで、1個平均

の重さが116gであった。礫は、長軸1.30m+α、短軸0.77m+αの範囲に広がる。掘り込みは少なくとも137cmの長さで、深さは14cmである。埋土にはぶい黄褐色の砂質土で、礫片を所々に含み、微粒炭化物をごくわずかに含む。

出土遺物：遺物はない。

集石74号よりも古く位置づけられるが、年代的にはそれほど差のない刻目突帯土器期の可能性がある。

石斧埋納遺構 1



第2-104図 石斧埋納遺構 1号と出土遺物(1)

石斧埋納遺構 1号 (第2-104~106図)

検出状況：石斧埋納遺構はD-16区のIVa層で検出されたが、D-16区の一部はII層およびIII層が削平された区域である。重機で表土を掘削する際、S228が出土したので丁寧に掘り下げたが、掘り込みは確認できなかった。扁平打製石斧が3点出土した。扁平打製石斧は刃部をいずれも東側に向け2点はほぼ水平に、S226はやや傾いて置かれていた。周囲から数点の土器片が確認された。縄文時代後期前半の松山式土器に比定できる土器であるが、扁平打製石斧は縄文時代後期末から弥生時代中期前半に出土例が多いことから、この時期で扱うこととした。

出土遺物：S226~S228の3点の扁平打製石斧が埋納されていた。いずれも刃部と基部がはっきりしているものの、その境が不明瞭な楕円形である。石材も同じであり、風化すると白黄色となるが、新鮮な面は青灰色の頁岩である。S226の背面は自然面をよく残し、腹面は大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに周りから丁寧な剥離が加えられる。刃部下縁は使用によるものが剥離が詰まり、平坦な形である。刃部の左側縁は使用による磨滅がみられる。基部の両側縁は両極打法による可能性もある。基部の幅は約6cmで、刃部の幅は約10cmである。長さは19.4cm、厚さ2.4cmである。

S227の背面は自然面をよく残し、腹面は斜位方向からの大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに周りから丁寧な剥離が加えられる。刃部は全体的に薄く仕上げられ、下縁は湾曲しており、刃先は鋭い。刃部の右側縁にわずかな磨滅がみられるが、未だ使用の頻度は少なかったと考えられる。基部の両側縁は両極打法による可能性もあり、細かな階段状剥離が多くみられる。さらに、刃直し状の敲打を加えており、柄に固定するための緊縛の紐が切れにくくする様な工夫がみられる。刃部の薄さに対して、基部は厚く仕上げる。基部の幅は約7cmで、刃部の幅は約13.4cmである。長さは26.9cm、厚さは基部で2.7cm、刃部で1.2cmである。本資料は、これまで県内で出土した扁平打製石斧の中でも大型のものである。使用痕もわずかで、製作された時の状態を良好に示している可能性が高い。刃部は使用や刃部再生によって形が変わるが、基部の幅・厚さ・長さ・形状は製作時のままであり、扁平打製石斧の時期を位置づけるのには有効な手掛かりに

なると考えられる。

S228の背面の自然面は刃部付近のみで、基部には剥離面がある。腹面は縦方向からの大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに大ぶりの剥離を入れた後、周りから剥離が加えられる。刃部下縁はほぼ平坦で、刃先は鋭い。基

部の両側縁は両極打法による可能性もある。基部の幅は約7.5cmで、刃部の幅は約12.6cmである。長さは20.6cm、厚さ2.6cmである。

注目される点は、土器数点が水平的にも垂直的にも3点の扁平打製石斧に近接して出土したことである。

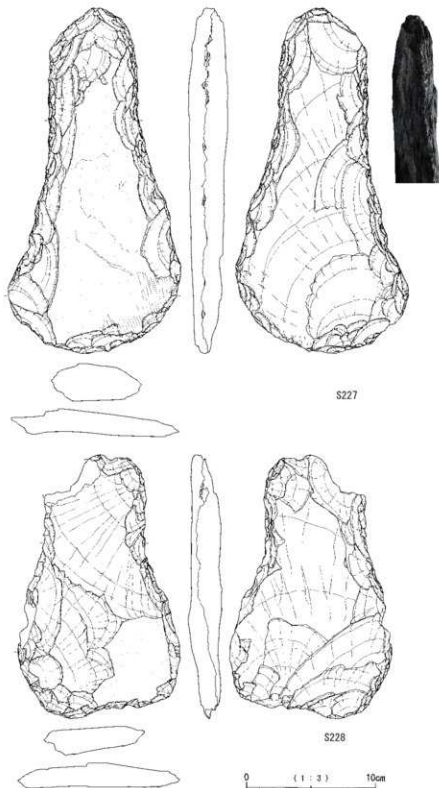
1372は残存部の状態から、波状口縁の深鉢と推測される。口縁部直下を無文とし、胴部上位を横位の沈線により区画する。文様を描く線の始点と終点を刺突する。波頂部の上部内面に棒状工具による凹形刺突を連続させる。Ⅶb類の範疇と考えられる。S227の下1cmで出土しているが、元々包含層に埋もれていたのか、扁平打製石斧と同時に埋まったのか判断できない。

1373は口縁部外面を三角形状に肥厚させ貝殻腹縁刺突文、横位の沈線文、巻貝頂部によると考えられる連続刺突文の組み合わせによる文様帯を有する。口縁端部の後には丸く、文様帯の貝殻腹縁刺突がおよぶ。Ⅹb類と考えられる。胎土には金色の雲母を多く含む。

1374は口縁部片で、口縁端部を「コ」の字状に明瞭に角付け、口唇部に平坦面を形成する。内外面の調整はやや粗く、外面には全面に煤が付着する。胎土には金色の雲母が多く含まれ、白色粒子や透明感のある赤色粒子を含む特徴から縄文時代後期前半の遺物と判断した。

南九州において扁平打製石斧がいつからいつまで使用されたか明らかにすることが課題となっているので、ここで確認しておきたい。今回の出土例は堅穴建物跡内や土坑内などのように埋土から供伴して出土したものではなく、扁平打製石斧が縄文時代後期前半に位置づけられる松山式土器と供出したものである。扁平打製石斧の下から出土した1372はⅦb類の指宿式土器であり、松山式土器より古く位置づけられているので、ここで検討から省く。

前述したように、鹿児島県内における扁平打製石斧の出土は、町田堀遺跡(鹿屋市)で中岳Ⅱ式土器に伴った縄文時代後期末から善木ヶ追遺跡(錦江町)で人來Ⅱ式土器に伴った弥生時代



第2-105図 石斧埋納遺構1号出土遺物(2)

中期前半までが確実な例である。この前後の時期からも扁平打製石斧が散見されるが、確定できるような例は現在のところないようである。後期中半にさかのぼる可能性のある例としては、干迫遺跡(始良市)で市来式土器に伴って出土した例はあるが、他の市来式土器を主体とする遺跡での追加事例が少ない。仮に干迫遺跡例が市来式土器に伴うとしても、本遺跡の事例は一段階古く位置づけられる。石斧埋納遺構1号周辺では縄文時代後期前半の他に後期末の土器から刻目突帯文土器も出土している。IV層の上部まで削平された表土層直下での出土であり、垂直分布で前後関係を確認することはできない。

次に形状から時期を推測すると、町田堀遺跡出土例は13点が埋納されており、短冊形5点、撥形4点、抉りの浅い有肩形2点、不明2点があり、少なくとも撥形は縄文時代後期末までは遡る。刻目突帯文期の扁平打製石斧

は刃部と基部の明確な有肩形が一般的であるので、この時期まで降りることはないと考えられる。製作技術から推測すると、S227の基部にみられる両極打法での両面剥離の後、刃潰し状の敲打を加える点は、本遺跡でも出土している石鐘の製作方法と共通する。本遺跡出土の石鐘は19区より西側に限られ、後期前半の土器に伴う可能性が高い。しかし、県内での石鐘の出土例では、大坪遺跡(出水市)例のように縄文時代後期末の上加世田式土器以降に伴う例もあり、必ずしも石鐘が後期前半に限られるとは言えない。以上のように、扁平打製石斧と松山式土器が接して出土したが、供伴とは言いがたい。いずれにしても、本遺跡で検出された扁平打製石斧埋納遺構については、本県の上で、検討されるべき一例となったのかを議論する上で、検討されるべき一例となった。今後、事例が増えていくことを期待したい。



第2-106図 石斧埋納遺構1号出土遺物(3)

第2-13表 晩期遺構内出土土器観察表

探検番号	観測番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	器面調整等				色 調				土				取土番号	備考	写真図版		
							外面	内面	外面	内面	石表	内面	全面	土	石	土	土	土				土	
99	1366	深鉢	X形	D-12	V	土坑39	ナデ	自然剥離	ナデ	自然剥離	にぶい・黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	20964	-	91
	1367	深鉢	X形	E-36	埋土	土坑61	にぶい・黒	ナデ	自然剥離	にぶい・黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20968	-	91
	1368	深鉢	X形	E-36	埋土	土坑61	にぶい・黒	ナデ	自然剥離	にぶい・黒	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20964	-	91
	1369	深鉢	X形	E-36	埋土	土坑61	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい・黒	にぶい・黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	104322	-	91
	1370	深鉢	X形	E-36	埋土	土坑61	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい・黒	にぶい・黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	103135	-	91
101	1371	円錐状土製加工品	X形	E-36	埋土	土坑61	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい・黒	にぶい・黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	104590	-	91
	1372	深鉢	楕円	D-16	Ba	石斧埋納遺構1	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい・黒	にぶい・黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	784	-	91
	1373	深鉢	楕円	D-16	Ba	石斧埋納遺構1	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい・黒	にぶい・黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	779	-	91
106	1374	深鉢	楕円	D-16	Ba	石斧埋納遺構1	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい・黒	にぶい・黒	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7	埋付	91

第2-14表 晩期遺構内出土石器観察表

探検番号	観測番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	器面調整等			石材	石材分類	取土番号	備考	写真図版	
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)						重量(g)
101	S23	土坑61	E-36	埋土	骨・石器	-	13.67	9.59	6.28	1235.00	宝山岩	-	894323	-	89-91
	S24	土坑61	E-36	埋土	石器	-	115.70	231.40	112.10	7790.00	花崗岩	-	104320	-	89-91
102	S25	土坑61	F-38	埋土	石器	-	2.50	1.80	0.40	2.98	チャート	-	101048	-	91
104	S27	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	面研	19.40	10.30	2.40	452.40	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-1	-	90-91
	S27	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	面研	26.90	13.40	3.00	1055.00	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-2	-	90-91
105	S28	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	面研	30.60	12.40	2.40	650.00	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-3	一部欠	90-91

第2-15表 晩期遺構観察表

探検番号	遺構番号	区	横断面	埋土基本層	大きさ(cm)		面積(㎡)	旧遺構番号	備考	写真図版	
					長さ	幅					
2-99	土坑39	D-12	草層	33	25	13	0.96	遺構土坑No.39	田代式土器	89-91	
	土坑61	D-36	草層	81	84	14	0.56	土坑23	土坑26	90	
2-100	土坑61	E-36	B/C層	B層土	182	100	18.2	土坑26	大塚式土器 石器 年代測定	89-91	
2-102	土坑61	F-38	B/C層	B層土	105	100	66	0.21	土坑184	割川突帯文土器 右鏡 年代測定	90
	集674号	E-35	B/C層	B層土	114	103	14	-	集683	年代測定	80
2-103	集675号	E-35	B/C層	B層土	130+α	77+α	14	-	集6126	年代測定	90
	石斧埋納遺構1	D-16	B/A層	-	-	-	-	石斧埋納遺構1	扁平打製石斧3点 土器3点	90-91	

第2節 遺物(土器)

小牧遺跡で出土した縄文時代後期末から弥生時代初期にかけての土器は、大きく5つに分類できる。第1分冊の第4章に概略は紹介したが、Ⅺ類が中岳Ⅱ式土器、Ⅻ類が上加世田式土器→入佐式土器、Ⅼ類が黒川式土器、Ⅽ類が千河原段階、Ⅾ類が刻目突帯文期の土器である。この時期になると、深鉢や浅鉢など器種の分化が著しくなり、器種ごとの同時性を明確にはできないが、これまでの研究や調査事例等を参考に近いと考えられる時期に寄せてある。また、器種名については未だ一般化されていないものもあるが、単語で器形を思い浮かべることが容易になることを期待して、現代の生活用具の名称を使用することとする。的確な名称があれば、変更していきたい。浅鉢については宮地聰一郎氏の呼称を参考にした。

各類ごとに紹介する前に、この時期の土器分布状況を第2・97・98図に示す。全体的には発掘調査範囲である1～43区に渡って出土している。特に、8～12区に集中しており、Ⅺ類からⅮ類まで混在して出土している。33～38区にも出土量は少ないものの、Ⅺ類の上加世田式土器・入佐式土器とⅮ類の刻目突帯文土器の集中した地点がみられる。なお、Ⅺ類の中岳Ⅱ式土器とⅮ類の黒川式土器は15区より西側にしかみられず、Ⅾ類の刻目突帯文土器期には16～26区にも分布域がみられる。弥生時代に入ったⅮ類の刻目突帯文土器期には、居住空間の他に作物を育てる生産空間も近くにあったと考えられる。

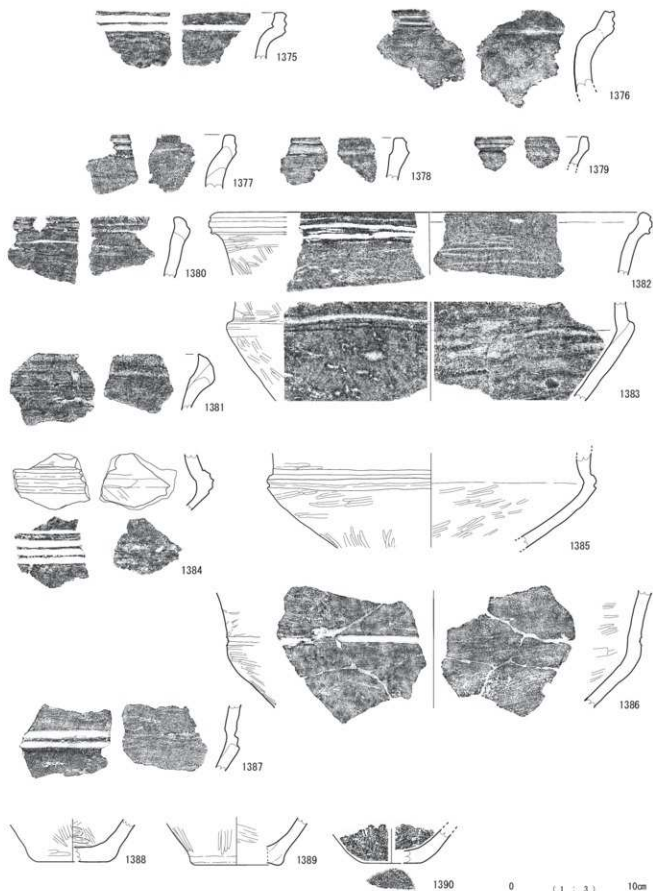
Ⅺ類土器 口縁部文様帯および胴上部屈曲部に凹線を巡らすものや、それに近いと考えられるものである。

1375～1382は深鉢形土器の口縁部である。1375は大きく外反する頸部から内側に強く屈曲した口縁部に至り、口唇部は平らに面取りする。口縁部外面は17mm幅の文様帯があり2条の凹線が巡る。口縁部内面の下には沈線状の切れ込みが入る。内外面ともヘラミガキによる。1376は外湾する頸部から屈曲して立ち上がる口縁部をもつ。口縁部は3mm幅の文様帯に2条の凹線を巡らす。口唇部はくぼみ、両端はシャープである。内面の頸部と口縁部境は沈線等はみられないが明瞭である。器厚は11mmと厚い。胎土は花崗岩質で、色調は極暗赤褐色である。器厚や色調等は中岳Ⅱ式土器に近く、器形や施文方法は上加世田式土器古段階に類似し、両者の特徴をもつ土器である。1377は外反する頸部から屈曲して15mmほど立ち上がる口縁部である。口縁内面の緩い屈曲部から口縁端部までは10mmであり、口唇部は9mm幅で面取りする。口縁部外面には2条の凹線が巡る。1378は10mm厚の頸部から器厚13mmのやや低い口縁部肥厚帯をもつ。肥厚帯下位は外傾し、上位に8mm幅の凹線が1条巡る。口縁部内面には段がみられ、口唇部は面取りしている。1379は外反する頸部から内側に屈曲した口縁部に至り口唇部を面取りす

る。口縁部外面は11mm幅の文様帯があり2条の浅い凹線が巡る。口縁部内面に沈線等はみられない。内外面とも丁寧なナデである。1380は外見上1381と同様であるが、外面肥厚部に6mm幅の浅い凹線が巡ること、内面の凹みが形散化し口唇端部が鋭くない点が異なる。1381は7mmほどの器厚の頸部から外反して14mmほどの器厚の口縁部をもつ。口縁部外面の肥厚下部は親指でナデた様に外反し、肥厚部上部は3条の面をもつようにわずかな稜をもちながら丸く収めてある。肥厚部に凹線等はみられない。口縁内面は親指を押し当ててナデたように20mm幅の凹線状となり、口唇部は親指と人差し指で挟むことによって鋭く尖ったのではないかと想定される。口縁部の作りは、外反した器形の内側に粘土を重ねて成形した状況が断面にみられる。1382は復元口径35cmの口縁部である。頸部上位で大きく外反し、内湾気味に立ち上がる口縁部に至る。口縁部内側は指で押さえながら成形したと考えられ、太い凹線状に見える。外面は2cm幅の口縁部肥厚帯があり、2条の凹線を巡らす。口唇部から口縁部肥厚帯は一体化している。復元径や胎土、器面調整ともに1383と違和感はなく、同一個体の可能性がある。

1383～1387は深鉢形土器の胴上部の屈曲部である。1383は復元径32.4cmの胴部最大径部分である。内湾気味に開く胴部の端部を疑似口縁部に粘土を重ね、内面上部から粘土紐を重ねることによって内傾する頸部に至る。断面に接合痕が明瞭に残ることから、製作過程が復元できる。肩部境は丸みを帯び明瞭な段となる。口縁部から屈曲部は約10cmであると想定される。前述した様に1382と同一個体の可能性がある。1384は丸く内側に曲がる胴部から外反気味に内傾する頸部に至る。胴部最大径は13mmの厚さがあり、3条の凹線が巡る。頸部境に沈線状の調整が入り、胴部と頸部の境が明瞭である。外面はミガキ様のナデで、内面は丁寧なナデである。1385は復元径26.2cmの胴部である。直線上に開く体部上部で内側に湾曲して丸みのある胴部をもち、内側に粘土を重ねることによって屈曲部としている。胴部と頸部境の屈曲部には2条の凹線が巡り、外反気味の頸部に至る。内外面ともヘラミガキによる。1386は復元径33cmの胴部屈曲部である。直線上に開く体部上部で内側に湾曲して丸みのある胴部をもち、外反気味の頸部に至る。胴部と頸部の境には凹線を巡らす。外面はミガキ様のナデで、内面はナデである。胴部外面に煤が厚く付着する。1387は体部上位で内側に屈曲し、肩部となる部位に2条の凹線を巡らす。内面は屈曲部より上位に稜がみられる。

1388～1390は深鉢形土器の底部である。1388は復元径6cmの小さな平底である。縁辺は横方向のヘラミガキによって丸く仕上げ、胴下部への縦方向の丁寧なナデとの境にわずかな段がみられる。約50度の角度で開く胴部に至る。内面はケズリ様のナデである。軽石粒を多く含み、

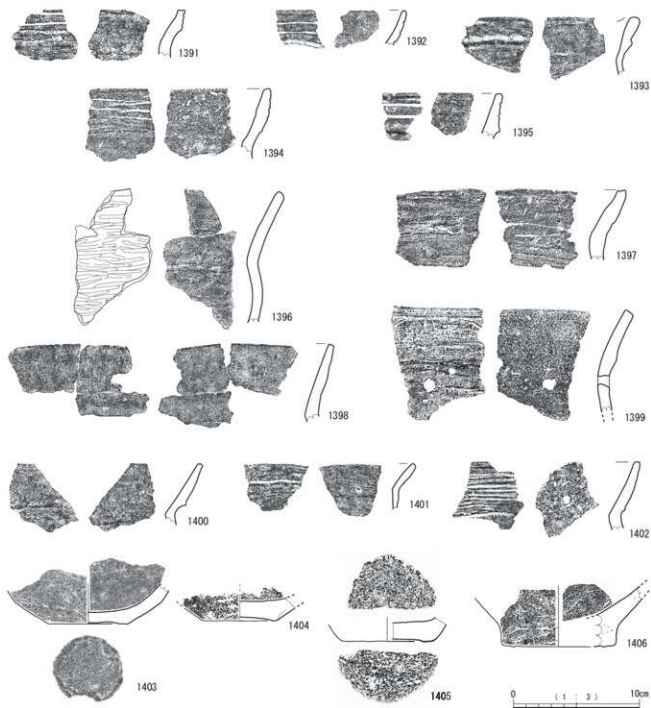


第2-107图 X II類土器

外面の色調が中岳Ⅱ式に近い栗色（極暗赤褐色）を呈する。1389は復元径7.5cmで周縁に粘土を重ねて形成した上げ底である。接地面はごくわずかである。外面はミガキ様のナデである。わずかな立ち上がりがあり、内湾気味に開く。色調が中岳Ⅱ式に近い。1390は復元径4.6cmの小さな平底である。接地面からそのままや内湾しながら開く。中岳Ⅱ式土器に該当する。

Ⅹ類土器 口縁部文様帯に沈線を巡らすものや無文のもの、あるいはそれに近い土器である。

1391～1395は口縁帯をもち、沈線を巡らす口縁部である。1391は外反する頸部から肥厚して立ち上がる15mm幅の口縁部に至る。口縁部内面はわずかに凹み状となり、口唇部は5mm幅で平らに面取りする。口縁肥厚帯下部は10mmの厚さであり、2mm幅の凹線様の沈線が2条巡る。胎土に金色雲母を多く含む。1392は肥厚した口縁部であ



第2-108図 XⅢ類土器

る。24mm幅の口縁部文様帯に2本の沈線を巡らす。肥厚部下面に相当する内面には屈曲や沈線等は見られない。内外面ともミガキによる調整で、黒色処理している。入佐式土器の古段階に該当する。1393は外反する頸部から肥厚して外開きする口縁部に至る。肥厚帯の下位の接合部分は凹線が巡ったようにみえる。口唇部は丸く取め、一部に外側から左手親指を押し当てたような凹点が施され、内面も膨らむ。内面は緩い稜をもって屈曲している。1394は外反する頸部から内湾気味に外傾する33mm幅の口縁部に至る。口唇部は丸く取め、口縁部外面にはつなぎ目がずれている3条の沈線が巡る。器面調整は丁寧なナデであり、入佐式土器に該当する。1395は肥厚した口縁部である。30mm幅の口縁部文様帯に2条の太めの沈線ははっきり巡るが、4条巡る可能性もある。肥厚部下端は指で摘み出すように強調している。内外面ともミガキによる調整である。入佐式土器の古段階に該当する。

1396~1402は口縁部に幅広の肥厚帯をもつもの、文様のない口縁部である。1396は胴上部で内湾させ短めの肩部をもち、外傾する口縁部に至る。内面の口縁部境には稜がみられるが、外面は頸部と口縁部の境はみられない。胎土に金色雲母を含む。入佐式土器に該当する。1397は頸部で屈曲し、外傾する口縁部である。作りは粗いが、口縁部の肥厚は意識しているようである。器面調整は内外面とも粗いナデであり、胎土に金色雲母を多く含む。1398は内面に稜をもって外傾する口縁部である。外面は肩部と頸部境で外反し、わずかに肥厚する口縁部をもつ。口唇部は平らに面取りする。内外面とも丁寧なナデであり、口縁部に文様はみられない。胎土に金色雲母を多く含む。入佐式土器である。1399は内傾する頸部から外反する口縁部に至る。口縁部境に断面が低い二等辺三角形の盛り上がりがあり、口縁部肥厚帯を形成する。口唇部は平らに面取りする。頸部外面は粗いナデで、口縁部外面から内面はヨコナデであり、口縁部肥厚帯は無文である。胎土に金色雲母を含む。外面から穿孔した補修孔がみられる。大型の深鉢と考えられ、ミガキはみられず、口縁部肥厚帯は40mmと幅広く文様もみられないことから、入佐式土器古段階より新しい時期に位置づけられると考える。1400は頸部で強く外反し、内面に稜がみられる。口縁部は2mm増して肥厚し、口唇部は面取りする。内外面ともミガキが施されるが、口縁部外面に沈線等は見られない。1401は内傾する肩部から屈曲して外傾する口縁部に至る。内面には緩い稜がみられる。口縁部はわずかに肥厚するが、沈線等の文様はみられない。基本的な形状は入佐式土器に該当するもの、古墳時代前半の土器の可能性も否めない。1402は内傾気味の頸部から外側に屈曲し、内湾気味に開く口縁部であり、口唇部は平らに面取りする。頸部と口縁部の境は低い段があり40mm幅の文様帯をもち、横方向の明瞭な条痕がみ

れる。外面頸部および内面は丁寧なナデである。口縁部文様帯はほとんど肥厚せず沈線等もないことから、入佐式土器の新段階に該当する。

1403~1406はⅡ類土器の底部と考えられる。1403は底径5.5cmの上げ底である。接地面からそのまま内湾して開く。外面は摩耗しているが、ミガキ面がみられる。内面は丁寧なミガキにより平滑である。1404は復元径6cmの上げ底である。外反するように成形した上から粘土を貼り付けて、接地面からそのまま開く。中岳Ⅱ式土器とするには底径が大きいと考えられる。1405は直径7.4cmの浅い上げ底である。接地面から周縁にかけては丸みを帯びる。調整は内外面とも粗い。色調は赤褐色で、花崗岩質の胎土である。縄文時代後期末に位置づけられる。1406は復元径9.2cmの平底である。底面の器厚は25mmと厚く、大きく外湾して約40度の角度で開く。内外面ともミガキ様のナデである。金色雲母が目立ち、入佐式土器の可能性はある。

1407~1415はⅢ類もしくはⅣ類に伴う浅鉢形土器と考えられる。1407はわずかに内湾気味に外開きする体部から、屈曲して13mmほど立ち上がる口縁部に至る。口唇部は丸みを帯びながら面取りする。口縁部内面には上位に、外面には中位に幅2mmの沈線を1条巡らす。内外面ともミガキによる。このような器形や施文方法は、牧B遺跡(曾於市)でみられるような中岳Ⅱ式の新しい段階と共通するものであり、この時期に位置づけられると考えられる。

1408~1411は長めの頸部のある口縁部である。1408は頸部下位で大きく外反し、屈曲して立ち上がる口縁部をもつ。口唇部は凹みをもつように面取りする。口縁部外面は9mm幅の肥厚帯をもち、1条の凹線様の沈線を巡らす。肥厚帯下位は接合痕がみられる。深鉢口縁部の類似性から、上代土器の時期が考えられる。1409は復元口径23cmである。内湾気味に開く体部上部で内側に強く屈曲し、10mm幅の明瞭な肩部をもつ。肩部上端で内面に稜が残るほど屈曲させ、外反する50mmを超す長い頸部をもつ。頸部端部の内側に粘土紐を重ね、断面楕円形の口縁部を形成する。接合部の外面は沈線状となり、内面は緩やかな段状となる。内外面ともミガキによる。1410は1409と同一個体の可能性もあるが、体部と肩部境の稜のシャープさや、内面の肩部に相当する部分の長さが少し異なることから掲載した。1411は体部上部で内側に強く屈曲し、6~7mm幅の明瞭な肩部をもつ。わずかに外反気味に外開きする35mmの頸部をもち、端部内側に粘土紐を重ね、断面楕円状の口縁部をつくる。口縁外面の接合面は明瞭な細い沈線となる。内面肩部は稜をもつ3mm幅の段となり、内面の口縁部は凹線風の段となる。内外面ともヘラミガキによる。1412は緩く外反する頸部から内側に粘土を重ねた口縁部に至る。口唇部は尖り気味に

丸め、内面に10mm幅の肥厚帯をもつ。口縁部外面には接合痕部分にわずかな細い沈線がみられる。

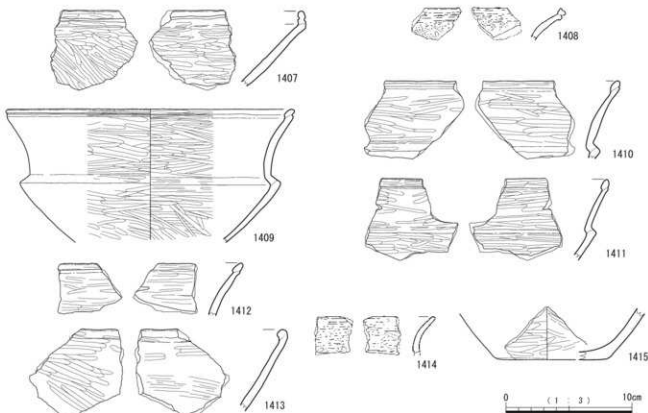
1413はわずかに内湾気味に外開きする。口縁端部の内側に粘土を貼り付け、口唇部も一体化して玉縁状となる。口縁部内外面とも沈線などはみられない。外面はミガキで、内面はナデの痕跡がみられる。胎土に小礫を多く含む。1414は胴上部で内側に屈曲し、大きく外反する口縁部をもつ。口唇部は丸く収め、口縁端部に加飾等がみられない。確実な根拠はないが、上加世田式土器期に近いと思われる。1415は復元径9cmの平底である。約50°の角度で内湾気味に立ち上がる。色調が極暗赤褐色で中岳Ⅱ式に近いが、検討を要する。

Ⅳ類土器 深鉢形土器は、口縁部と頸部の境が不明瞭となり、肩部も痕跡程度のもので、器面調整にミガキがみられない土器である。

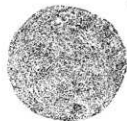
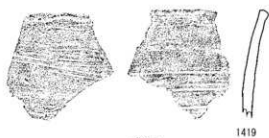
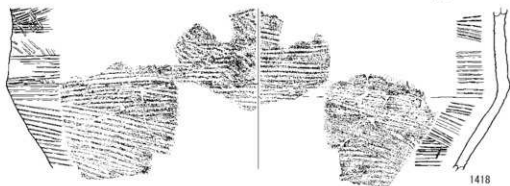
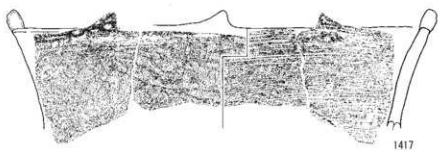
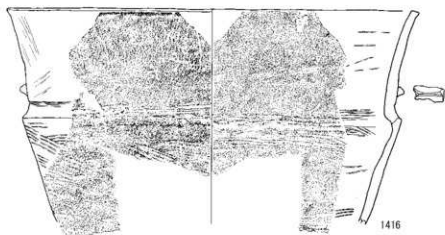
1416は胴部中位から口縁部にかけての破片である。復元口径は32.8cmで、胴部最大径は上位にあり復元径30cmを測る。わずかな凹凸はあるが、直線的に外開きする胴部をもち、上位で内側に屈曲し1cmほどの短い肩部をもつ。口縁部は外反気味に開き、口唇部は外端を強調する様に面とりしている。口縁部は75mmと長めであり、肥厚せず文様等もみられない。口縁部と肩部境を筋のある工具でナデることによって低い段をもち、横長の突起を貼

り付ける。外面は丁寧なナデであり、沈線文などはみられない。胴部内面は横方向の貝殻条痕による。1417は復元口径33cmを測る。胴部近くは外反し、そこから上は直行する口縁部である。口唇部は面取りし、肥厚はしない。鱗状の突起をもち、この部分のみわずかに肥厚する。外面は丁寧なナデであり、内面は横方向の粗いナデである。1418は外傾する胴上部で内側に屈曲し、緩く外反気味に内傾する頸部である。胴部の復元径は40cmである。内外面とも貝殻条痕による器面調整であり、胎土は花崗岩質である。1419はわずかに外反しながら開く口縁部である。口唇部は丸みをもつ部分と平坦面をもつ部分があり、外端部がわずかに影らむ。意識して肥厚させたのではなく、口唇部を仕上げる際、余分な粘土がはみ出したと思われる。内外面とも条痕による器面調整である。

1420～1422は深鉢形土器の底部である。1420は直径11cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。約40度の角度で開く。外面は粗いナデで、内面は丁寧なナデである。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。1421は直径9.6cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。約50度の角度で開く。外面は粗いナデ、内面は貝殻条痕を丁寧にナデ消している。小礫を多く含む。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。1422は直径9.8cmの安定した平底である。台形状の円盤形で、約50



第2-109図 XⅡ・XⅢ類土器(浅鉢形土器)



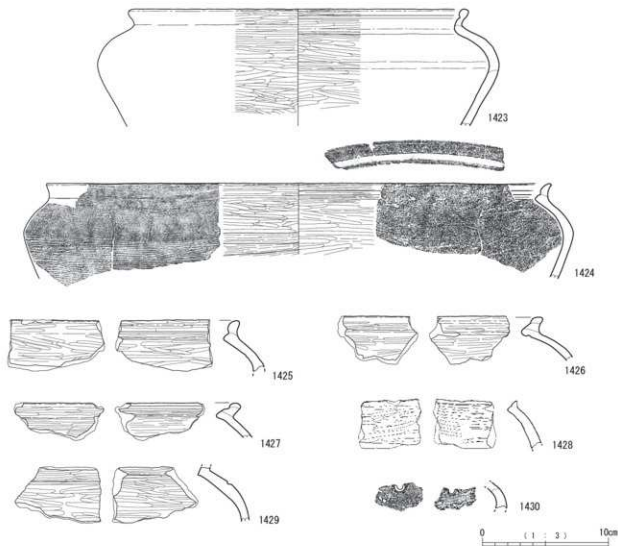
0 (1:3) 10cm

第2-110図 XIV類土器

度の角度で胴部へ開く。外面は貝殻条痕で、内面は丁寧なナデである。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。

1423～1430はⅤⅥ類土器に伴うと考えられる浅鉢形土器である。1423は復元口径27cm、復元胴部最大径32cmを測る。直行気味に外開きする体部から半球形状に内湾する胴部と肩部に至る、いわゆる胴張りのタイプである。肩部端に粘土紐を重ね、15mmほどの頸部から口縁部を形成する。外面は肩部境から口縁部まで一体化している。内面の肩部と頸部境は稜はなく丸みを帯びており、口縁部境は凹線風の緩い段状となる。内外面ともミガキである。1424は胴張りのタイプであり、復元口径40.2cm、復元胴部最大径43.6cmを測る。内湾する肩部端に粘土紐を縦長に1段重ねることによって口縁部を形成する。口唇部は尖り気味に取める。外面は親指の側面が当てはまるほどに頸部と口縁部が一体化している。内面の接合部は太い凹線状となる。体部外面は横方向の条痕状であり、肩部から上は内外面とも丁寧なミガキである。1425は1424と

同一個体と考えられるが、口唇端部や内面屈曲部のシャープさが異なることから掲載した。1426は胴張りの肩部端部に粘土紐を2段重ねることで短く外開きする口縁部に至る。口縁部外面は一体化した10mm幅の口縁部となるが、内面は1条の凹線風に見える。内外面とも横方向のミガキによる。1427は胴張りの肩部端部に粘土紐を2段重ねることで短く外開きする口縁部に至る。口縁部外面は一体化した11mm幅の口縁部となるが、内面は頸部と口縁部を合わせた長さが22mmとなる。内面の頸部と口縁部境は1条の凹線風に見える。内外面とも横方向のミガキによる。1428は内湾する肩部から口縁部のみを上方外側に短く成形するものである。親指と人差し指で軽くつまみながらナデで成形していることが想定される。口縁部内面は10mm幅であり、1条の沈線を巡らす。1429は内湾する肩部であり、胴張りのタイプであると考えられる。肩部の途中に1条の沈線が巡る。沈線の上の方は鋭く、下の方は緩くくぼむ。口縁部は欠けているが、肩部端部に粘土紐を重ねて形成する。内面の口縁部境は



第2-111図 XIV類土器（浅鉢形土器）

下方に張り出す。内外面とも横方向のヘラミガキによる。内面は黒色、外面は明赤褐色である。一般的に黒川式土器の黒張り浅鉢には沈線がみられないが、この類に含めた。干河原段階の浅鉢には下の方をケズリ出して段をつくるが、本資料は沈線の上下が同じ厚さの器面であり、干河原段階の初期段階を示すと考えられる。1430は黒張りの肩部で外面から穿孔した補修孔がみられる。

XV類土器 第2-112~114図は口縁端部が粘土を重ねて肥厚するもの、あるいは口縁端部のみ外反させて肥厚したようにみえるもの、また、それらに伴うと考えられる深鉢形土器や浅鉢形土器である。なお、一部の破片だけでは深鉢形土器であるのか組織痕土器を含む中華銅形の土器であるのか判別できないため、これらの土器についてもここで紹介する。

1431~1434は器形的に口径より器高の方が大きい点や、内面がミガキではなく平滑でないことから、深鉢形土器であると考えられる。1431は復元口径43cmの口縁部から胴上部にかけての破片である。胴上部で逆「く」字状に屈曲し、外面に稜が入る。頸部から口縁部は外反しながら立ち上がる。口縁部外面に幅16~22mmの肥厚帯が巡る。外面は粗いナデであり、内面は横方向の丁寧なナデによる。1432は復元口径41.4cmでわずかに内湾しながら立ち上がる。口縁部から85mmほど下にわずかに粘土を重ねて膨らんだ部分がみられ、胴部と肩部の境となる。口縁部をわずかに外反させ、見かけ上肥厚しているようにみえる。口唇部は丸く収める。内面は丁寧なナデにより、外面は粗いナデによる器面調整である。1433は直径11.5cmの安定した張り出しのある円盤状底部である。底部の厚さ11mmよりも薄い高さ8mmで台形の円盤状となる。約45度の角度で内湾気味に聞き体部に至る。外面は粗いナデで、内面はミガキ様のナデで滑らかである。1434は復元口径34cmの口縁部から胴上部にかけての破片である。外傾する胴部から約15度内側に屈曲し、直行する口縁部をもつ。内面の屈曲部は丸く内湾し、外面の屈曲部に緩い稜が入る。口唇部は少し面取りし、口縁外端部は玉縁状に肥厚する。外面は条痕をナデ消し、内面はナデによる器面調整である。胎土に金色の雲母を含む。

1435~1442、1446~1449は深鉢形土器なか中華銅形土器なかのはっきりしないものや、寸胴銅形の土器である。1435は復元口径34.6cmである。内湾気味に外傾する体部から約20度で内側に屈曲し、内湾気味に直行する口縁部に至る。口唇部は丸く収め、肥厚しない。体部と口縁部境は器壁が厚い。口縁部外面には細めの条痕が明瞭に残る。内面がミガキ様で滑らかであることと体部の器厚に厚薄がみられることから、中華銅形土器の可能性もある。1436は復元口径46.6cmを測る。外開きする胴上部で、外側のみ内側に屈曲し、直行する口縁部に至る。

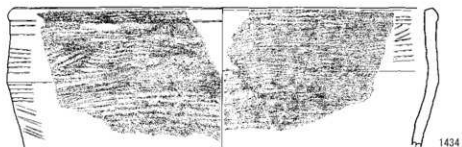
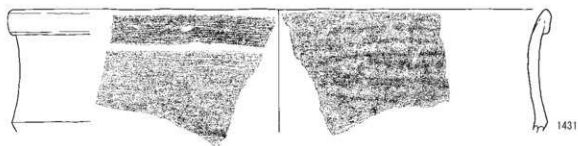
屈曲部のみわずかに肥厚する。口唇部は丸く収め、肥厚しない。中央に山形の突起、両側に片鱗状の突起をもつ。突起部分の口唇部は平らに面取りし、山形の頂部のみ凹点状にとぼめる。突起部分は面取りするため、鱗状部分は両側に、他は外面のみ肥厚する。外面胴部は粗いナデであり、口縁部外面は横方向の条痕である。内面は条痕の後ミガキ様のナデであり、口唇部には条痕がみられる。外面口縁部付近に煤が多く、内面には焦げがみられる。

1437は復元口径34.8cmを測る。丸みをもちながら胴上部から口縁部に至り、口縁部端部のみわずかに直口する。鱗状突起の部分は肥厚するが、一般の部分は肥厚しない。内外面ともケズリ様のナデである。器形と内面の調整から深鉢の可能性もあるが、1490の様に組織痕を施す例もあり、機能的な面を含めて検討を要する。

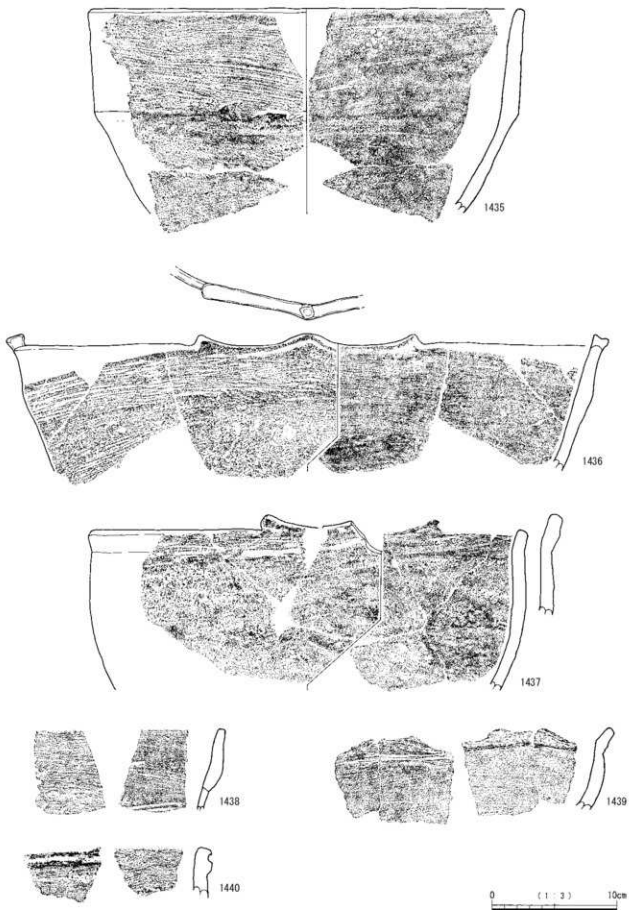
1438は50mm幅の肥厚帯をもつ口縁部である。肥厚帯の下部がより厚くなり、最も膨らむ部分の内面は緩く凹んでいる。内外面とも器面調整は粗いナデである。1439は内湾する胴上部から外側に屈曲して短めの口縁部に至る。胴部最大径部分で直径38cm前後と思われる。口縁部は欠けているが、山形の突起をもつと想定される。頸部境の口縁部外面は段状となり、山形突起部分は肥厚している。内面の屈曲部分は浅い凹み状となっている。外面は横方向のミガキであり、古柄の観がある。類例に乏しいが、干河原段階に位置づけておきたい。1440は直行する口縁で、外面が20mm幅で肥厚し、1条の凹線が巡る。口唇部を丸く収める際、外端の粘土が凹線までのみみ出している。器面調整は内外面とも粗いナデである。中岳Ⅱ式にみられる口縁肥厚帯に凹線を巡らすものとは異なり、干河原段階のものと考えられる。

1441は口径22cmである。内湾気味に開く胴上部から内側に丸く湾曲させ、内湾気味に内傾する口縁部に至る。最大径は胴上部にあり22.8cmを測る。湾曲部の一部は外側に粘土を重ねて口縁部を形成するため段がみられる箇所もある。口縁部端部の成形は丁寧ではなく、凹凸がみられる。内面は粗い条痕で、外面は細めの条痕による。口縁部外面に煤が多く付着し、外面に付着した煤を年代測定した結果、¹⁴C年代が2700±20yrBP±1σ、2σ暦年代範囲が899~808calBC(95.45%)である。1442はほぼ直行する口縁部である。口縁部から6cm下に無刻目の突帯をもつので、口縁部にも12~18mm幅の肥厚帯を巡らす。口縁部内面は口唇部とともに面取りする。干河原段階から刻目突帯文期に移行する頃のものと考えられる。

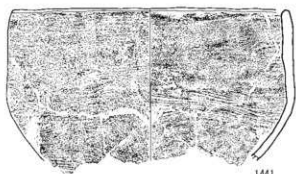
1443~1445はXV類土器の深鉢形土器の底部であると考えられる。1443は復元径11.4cmの平底で、厚さ15mmで円盤状である。外面はナデにより、内面はミガキで平滑である。底部器形と内面の器面調整との類例が少なく、浅鉢の可能性もある。黒川式~干河原段階と考えられる。



第2-112図 XV類土器(1)



第2-113図 XV類土器(2)



1441



1442



1443



1444



1445



1446



1447



1448



1449



第2-114図 XV類土器(3)

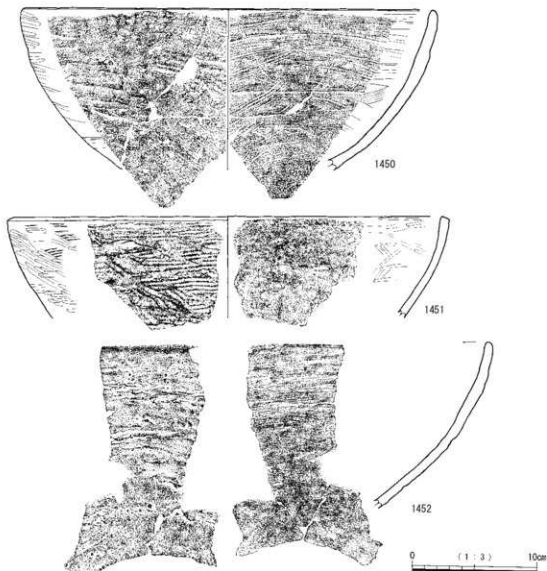
1444は復元径10.2cmの平底である。台形状の張り出しをもつ。深鉢なのか浅鉢なのか不明である。1445は直径11cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。内面は貝殻条痕を丁寧にナデ消している。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。

1446は復元口径34.5cmで、深鉢か中華鍋形か迷うものである。体上部でわずかに内側に屈曲し、外傾して口縁部に至る。口唇部は面取りし、外面に20mm幅の肥厚帯をもつ。肥厚帯に沈線状の部分がみられるが、器面調整の際偶然付いた可能性もある。外面は条痕で、内面はナデによる器面調整である。煤の付着はみられない。1447は12mm幅の肥厚帯をもつ口縁部である。内面は平滑である。

1448は復元口径20.6cmである。3mmの器厚で外開きする体部から、内側に屈曲して35mm幅で外傾する口縁部に至る。口縁部の器厚は8mmであり、口唇部は丸く収める。内面は粗いナデ調整の後、ミガいている。

1449は復元径22.4cmを測る底部付近から胴部下位である。緩い丸底から屈曲して内湾気味に立ち上がる胴部に至る。外面はナデで、内面は条痕の後ナデしている。寸胴鍋形の鉢と考えられるが、類例が少なく検討を要する。

1450～1456は中華鍋形の形状で、内面がミガキ状で平滑であり、組織痕がみられないものの、機能的には組織痕土器と同様であると考えられるものである。1450はおおよその口径は33cm前後である。半球形で組織痕はみられない。口唇部を細くし、肥厚はみられない。外面はヘラナデするが、下地の粗いナデが目立つ。内面は粗いナデであるが、底に近いほど滑らかである。1451は内湾しながら立ち上がる復元口径35cm前後の口縁部で、口唇部は平らに面取りする。器壁は5mmと薄く、内面は平滑で外面に貝殻条痕が明瞭にみられる。中華鍋形土器の類に入れたが、器壁が薄い点は検討を要する。1452は内湾気味に開く。口唇部を丸く収め肥厚しない。外面はナデで、



第2-115図 中華鍋形土器(1)

内面はミガキにより平滑である。組織痕はみられない。

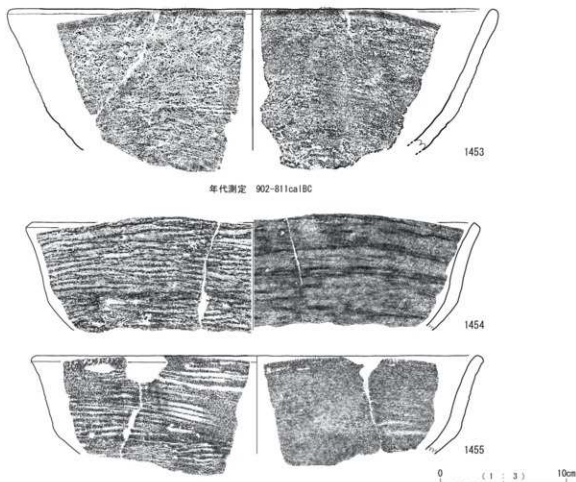
1453は復元口径39cmを測る。内湾気味に開く体上部で約18度と緩く屈曲し、外傾する口縁部に至る。口縁部端近くのみわずかに外反し、口唇部は丸く取め肥厚部はみられない。外面は粗いナデであり組織痕もみられない。内面はナデで平滑である。口縁部に多く付着した煤を年代測定した結果、 ^{14}C 年代が $2710 \pm 20\text{yrBP} \pm 1\sigma$ 、 2σ 暦年代範囲が $902-811\text{calBC}$ (95.45%)である。

1454と1455は同一個体の可能性もあるが、出土地点が異なることから2点とも掲載した。復元口径36cmで、体部上位で速「く」字状に内側に屈曲し、外反気味に開く口縁部に至る。口縁端部に肥厚はみられない。内面下位は平滑で焦げが著しい。器形と内面の特徴から中華鍋形と考えられる。

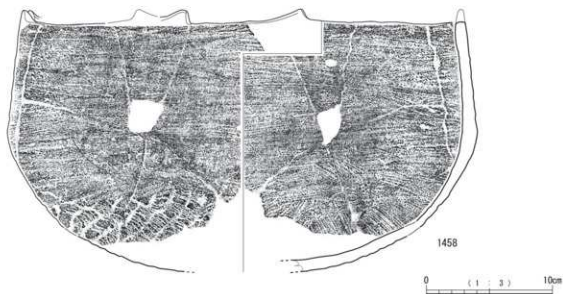
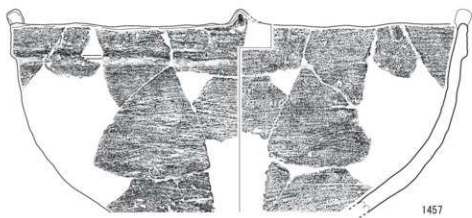
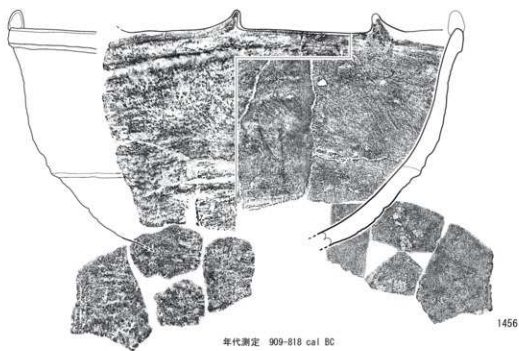
1456は復元口径36cmでやや深めの土器である。半球形に近い底部と体部の境に段があり、影らみのある体部から少しくびれてわずかに外反する口縁部に至る。口縁部外面には15mm幅の肥厚部があり、口唇部を丸く取める。鰭状の突起部分は内面も肥厚する。体部から口縁部の外面は横方向の粗いナデで、内面は丁寧なナデで平滑であ

る。外面底部に明瞭な組織痕を観察することはできないが、部分的に横糸がみられる。胎土に軽石を多く含む。付着した煤を年代測定した結果(試料1)、 ^{14}C 年代が $2725 \pm 20\text{yrBP} \pm 1\sigma$ 、 2σ 暦年代範囲が $909-818\text{calBC}$ (95.45%)である。肥厚口縁帯をもつことから干河原段階の中華鍋形土器であり、実年代の一事例となった。

1457~1494は編布あるいは網目の圧痕をもつものであり、組織痕土器あるいは中華鍋形の土器としてまとめられるものである。中には、時期的に前後するものもあると考えられるが、文中で紹介したい。組織痕をもつ土器片は、掲載資料以外に54点出土しており全て編布によるものである。1457は復元口径36cmで底部付近から半球形状に立ち上がり、口縁部は直行する。口唇部は丸く取め、口縁部外面に28mm幅の肥厚部があり、鰭状もしくはリボン状の突起を施す。内外面とも粗いナデである。12mm幅の縦糸と1cmあたり6~7本の横糸の編布である。胎土に軽石を多く含む。器形や胎土は1456と類似しており、1456にも編布圧痕があったことが類推できる。これまで組織痕土器については完形品に復元できるものが少なく、全体の形状を知ることができなかった。その中で、本資



第2-116図 中華鍋形土器(2)



第2-117圖 中華銅形土器（組織痕土器）（1）

料では組織織土器にリボン状あるいは鱗状の突起が付くことがわかり、新たな資料が得られた。1458は復元口径35.2cmである。半球形と想定される底部から大きく内湾し、内傾する口縁部に至る。体部の最大径は37.2cmである。口唇部は丸く収め、突起部分とともに肥厚しない。向かい合った片鱗状の突起の間にリボン状の突起が施されると想定される。口縁部の残りの状態から1か所だけに装飾されたと考えられる。底上部から最大径にかけては組織織を消すような左から右へのケズリ状のナデであり、外面の口縁部にかけては右から左への横方向の粗いナデである。内面は粗い条痕であり滑らかさはないが、底面は条痕をナデ消している。編布はZ撚りの縦糸間12~13mm幅で1cmあたり8本の横糸がみられる。胎土に軽石を多く含む。口縁部の突起に着目すると、リボン状突起を挟んだ一対の片鱗状突起が付くと想定される。1456や1459と比較すると、1457の突起部分は肥厚せず立体感にも乏しい。口縁部に肥厚帯がなく、口縁部が内傾する点や内面底部付近が条痕のままの器面調整であることなどから、若干の時期差が考えられる。退化したのか、これから進化するのか、今後の検討を要する。

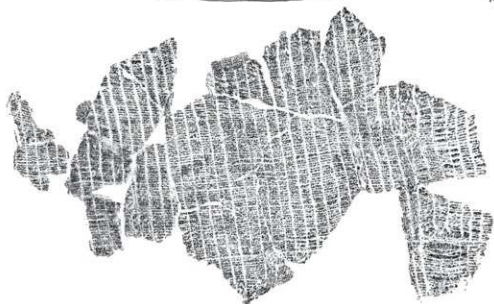
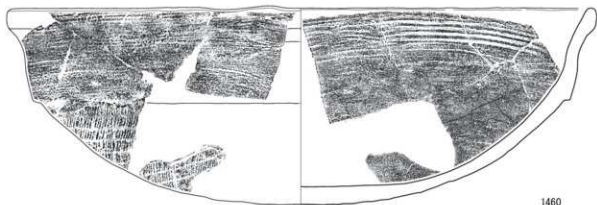
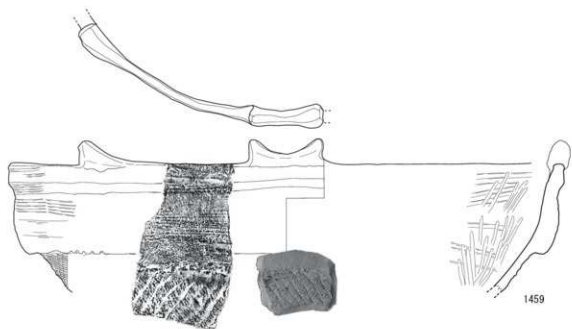
1459は復元口径44.2cmで、外傾気味に開く底部上位から内側に緩く屈曲して口縁部に至る。ほぼ直した口縁部であるが、屈曲部と口縁部外面を厚くし、横方向の粗い条痕で一体化しており、見た目では外反しているようにみえる。口唇部は丸く収め、口縁部外面に17~20mm幅の肥厚帯をもつ。口唇部の突起はリボン状突起を中心に両側に片鱗状の突起が線対称的に付くと想定される。突起部分は内外面とも肥厚する。リボン状突起中央から片鱗状突起までは18.5cmあり、全体を想定すると1個体の中で1か所のみを加飾と考えられる。同じような例は同時期の底部に沈線が巡る浅鉢にもみられ、共通した思いが込められていると考えられる。編布は縦糸間8~9mm幅で、1cmあたりの横糸は6本である。内面はミガキで平滑であるが、口縁部には条痕がみられる。完形品として復元されている1460と特徴が一致し、同一個体の可能性があるが、両者とも全周の6分の1ほどの破片であり、ゆがみも多いため復元した口径には若干の差がみられる。1460は口径47cm、器高15.6cmに復元されている。底部の接地面が狭い丸底であり、底部上位からの特徴は1459と同じである。編布の特徴も同じであり、少なくとも41.5cmの幅に47本の縦糸がみられ、縦方向へも18cmは残っている。この中に縫い合わせはみられず、これまで見つかった内編布圧痕では最も広い幅である可能性があり、当時の衣類の様相を復元するのに有効な資料である。

1461は接合点はなかったものの両者に編布圧痕があり、特徴が一致したことから図上復元したものである。復元口径45cm、復元器高20.4cmで半球形に立ち上がる器形である。口唇部は丸く収め、口縁端部に肥厚はみられず、

外面の口縁端部下を指でひとナデする程度に浅く凹む。外面は粗いナデで、内面はナデにより底部付近は平滑である。縦糸間53mm幅の編布であり、1cmあたり6本の横糸である。周辺の編布はナデ消されている。内面は平滑である。胎土に軽石を多く含む。縦糸は幅が広い点を補うように2条1組で編まれたようにも見え、他に事例があるのか検討を要する。1462は復元口径38.4cm、復元器高約11.8cmで、わずかに内湾しながら開く浅い底部から胴部境で強く内湾し、わずかに外反気味に立ち上がる口縁部をもつ。口唇部は軽く面取りし、肥厚部はみられない。底部と胴部の境にわずかな段があり、底面には編布の圧痕がみられる。編布は1cmあたり7~8本の横糸で縦糸は13~15mm幅と3条を単位とする7mm幅の部分のみられる。幅状の3条単位が入るのは、少なくとも幅広10条の間隔を開けている。外面は粗いナデであり、内面は底に近いほど平滑になる。外面上部に煤がみられ、内面底部近くは黒く焦げている。

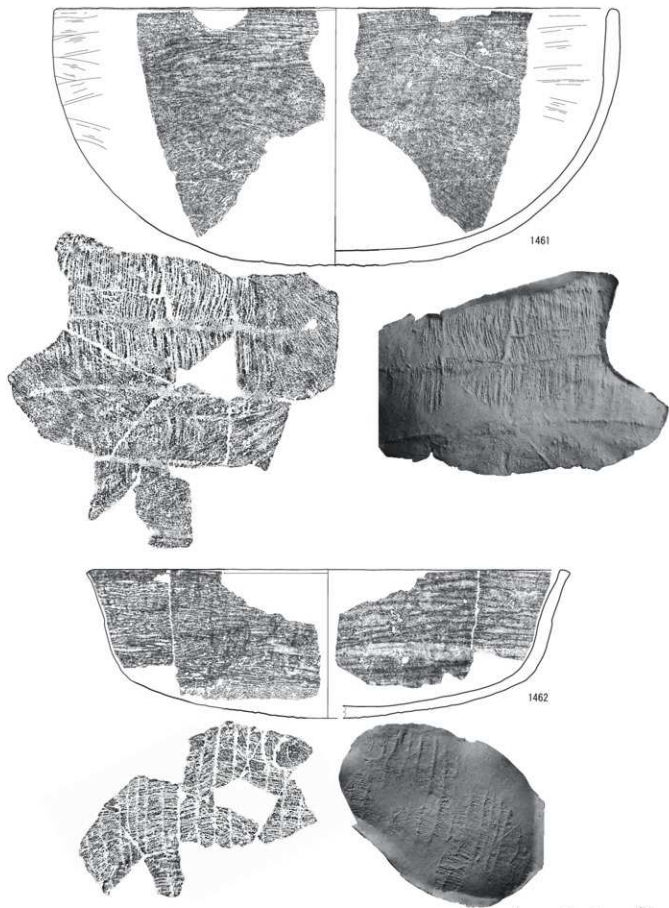
1463は復元口径41.4cmを測る。外傾する底部から粘土を重ねて屈曲部をつくる。内湾気味に立ち上がる口縁部から口唇部は丸く収める。口唇部下に刻目のない1条の三角突帯を巡らす。組織織は5mm幅の縦糸に7~8本の横糸がみられる編布である。外反する型の縁と直交する様に編布を敷いている。無刻目突帯の時期に該当すると考えられる。1464は復元口径28.2cmであり、底部との境で内側に屈曲し、内傾して立ち上がる口縁部である。口縁端部を外側に短く折り曲げ、口唇部は丸く収める。鱗状もしくはリボン状の突起を施す部分は内外面とも肥厚する。底部の器厚は3~5mmと同一でない。底部境は粘土を重ね8mmと厚くなる。内外面とも粗いナデである。編布は1cmあたり3~4本の縦糸と7~8本の横糸である。1465は接合はしないが同一個体と考えられる。口縁端部の折り曲げは刻目突帯時期の浅鉢に類似するものであり、組織織土器でも新しい時期に位置づけられると考えられる。本遺跡の中では最も縦糸幅が狭い例である。

1466は丸く湾曲する底部から外面のみわずかに屈曲して口縁部に至る。屈曲部の復元径は39cmである。編布は斜位に敷かれ、5mm幅の縦糸と1cmあたり7~8本の横糸である。1467は1466と同一個体と考えられ、底部境の屈曲部に対してはほぼ直角に編布が敷かれており1cmあたり10本の横糸をもつ。1468は底部と体部境で内湾する様に屈曲する。屈曲部の復元径は36cmである。屈曲部は粗いナデで、口縁部近くは条痕をヨコナデしている。1cmあたり5本の横糸の編布である。1469は底部から体部へ緩く屈曲する部分である。底面の厚さは4~11mmと一定せず、屈曲部が最も厚く14mmを測る。編布は底部から体部まで連続して敷かれている。縦糸が18~20mm幅で、1cmあたり9本の横糸をもつ。屈曲部より上位に組織織がみられる例はほとんどなく興味深い。内面はミガキによ

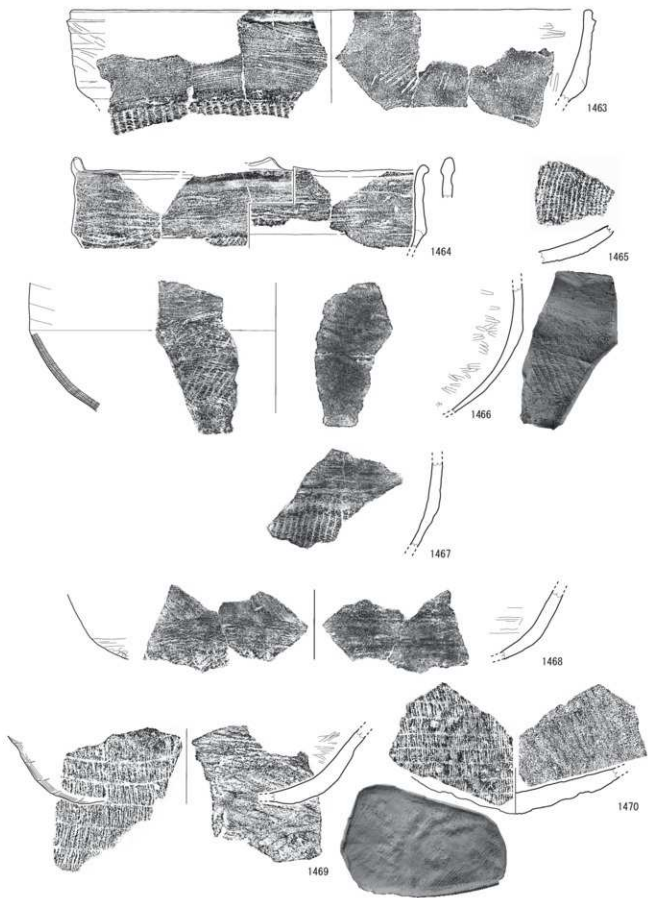


0 (1 : 3) 10cm

第2-118圖 中華銅形土器(組織痕土器)(2)



第2-119圖 中華銅形土器（組織痕土器）(3)



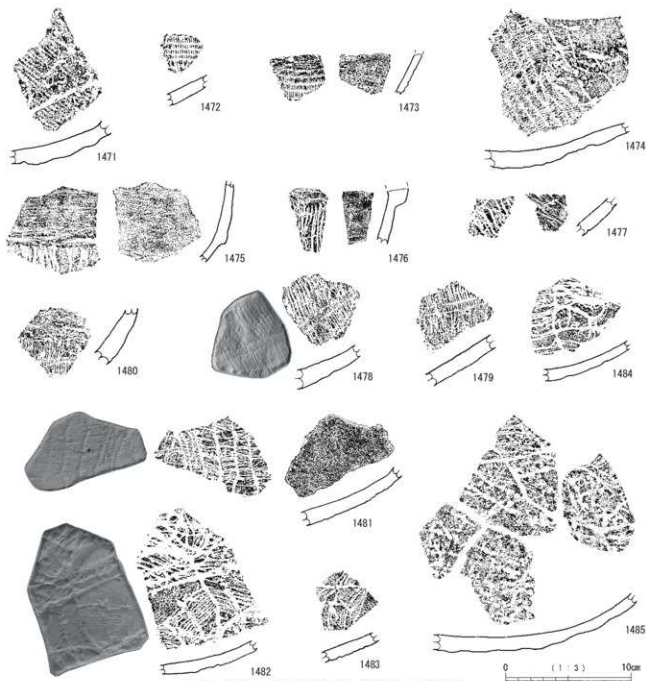
第2-120圖 中華銅形土器（組織痕土器）（4）

り平滑である。1470は10~12mm幅の縦糸に1cmあたり7本の横糸をもつ編布である。型には同心円状もしくは渦巻き状の凹凸が3条はみられる。このような手法で編まれた穴などを型として利用していたことが窺える。

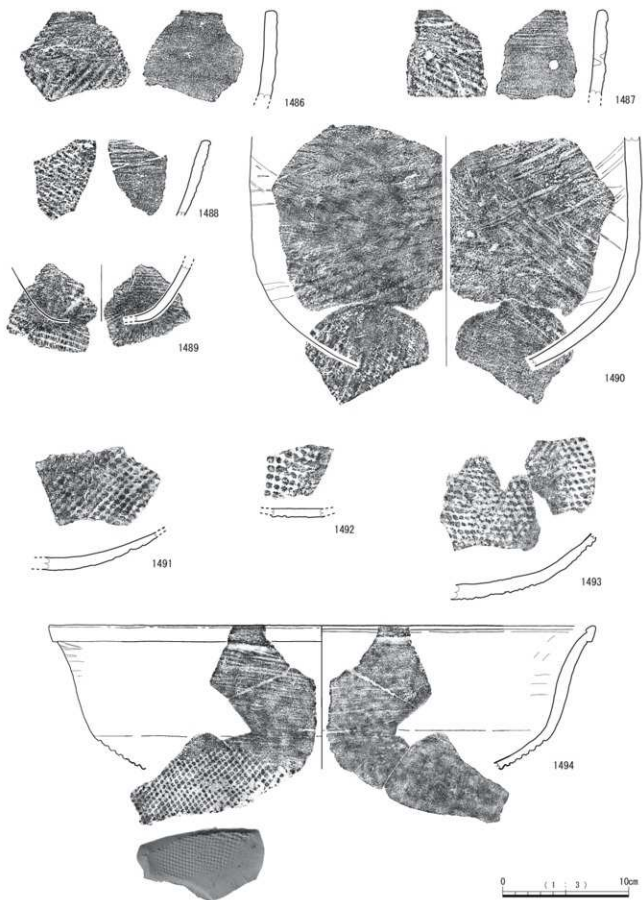
1471~1485は編布圧痕のある土器片であり、小破片のため縦糸間の幅が複数みられるかどうかは不明である。1471は凹凸が著しい。1cmあたり3本の縦糸と7~8本の横糸の編布である。1472は縦糸間3~4mm幅で1cmあたりの横糸は7本である。1473は5mm幅の縦糸に7本の横糸がみられる。無文部分との境に厚みの違いなどはみられない。内面は粗いナデの調整である。金色雲母を多

く含む。1474は7~8mm幅の縦糸に1cmあたり5本の横糸をもつ。また、編布が複雑に重なった部分もみられる。1475は底部と体部の境が段をもって明確である。縦糸間20mm以上ある編布はほつれている。1476は幅25mm以上はある縦糸と1cmあたり5~6本の横糸である。体部境は屈曲せず段をもつ。底部の器厚が8mmで、段の部分は16mmである。1477は24mm幅の縦糸に1cmあたり5本のほつれた横糸である。

1478~1481は幅の狭い縦糸間の両側に幅広の縦糸間がみられるものである。1478は縦6mm幅の編布を挟んで両側に少なくとも縦16mm幅と縦30mm幅を越す編布がみられ、



第2-121図 中華銅形土器(組織痕土器)(5)



第2-122圖 中華銅形土器（組織痕土器）(6)

横糸は1cmあたり6～7本である。縦糸はZ撚りで編まれており、土器表面に付いた糸くずもZ撚りである。1479は縦6mm幅の編布を挟んで両側に少なくとも縦糸幅16mmおよび25mmを越す編布がみられ、横糸は1cmあたり6～7本である。1480は縦糸が2～3mm幅とその両側に10mm以上の幅をもつ編布である。体部境でわずかに屈曲する。底部分が14mmと厚く、体部は8mmの器厚である。体部のナデ消した部分の下にも編布がみられる。これらは、デザイン性ととも縦糸の強度を高める1461と同じような縦糸の編み方が想定される。1481は14mm幅に4本の縦糸で3単位の編布と12～15mm幅および20mm以上の幅のある編布を合わせもつ。横糸は1cmあたり7本である。糸のつなぎ目もみられる。内面はミガキにより平滑である。

1482～1485は編布のほつれ具合や縦糸が太い点、内面がナデ調整で黒色化していない点など共通点が多い。1482は圧痕にいくつかの様相がみられる。20mm幅の縦糸に1cmあたり5～8本の横糸がみられ、編布がほつれた部分もみられる。点状に深くなった部分は結び目と考えられる。また、編布の縁もしくは縫い合わせたような部分、それに圧痕が空白の部分もみられる。1483と1484はほつれた編布であり、20mm幅の縦糸に1cmあたり4～7本の横糸がみられる。1485もほつれた編布で、10mm幅と20mm以上の幅の縦糸があり、横糸は1cm当たり8本である。

1486～1490は口縁部まで編布圧痕が付着するものや、組織痕土器としては中革錐形ではなく類例の少ない器形のものである。1487はわずかに内湾気味に直行するものである。口縁部近くまで組織痕がみられ、口縁端部までの10mmほどの幅はヘラ状の工具でナデている。口縁端部外面から内面にかけては丁寧なナデであり口縁端部外面は肥厚しているようにみえる。内外面からの穿孔がみられるが貫通していない。組織痕は縦糸6mm幅の編布であり、横糸は1cmあたり8本みられる。1486も同一個体と思われる。1487が右下がりの編布であるのに対し、1486は左下がりの編布である。1486の編布圧痕は口縁部から40mmほどの間隔をおいている。口縁部端部近くまで組織痕がみられる例はこれまでもなく、器形や製作方法の検討が必要となる。1488も口縁部付近まで編布圧痕がみられる。組織痕は縦糸5mm幅の編布であり、横糸は1cmあたり8本みられる。内面は条痕の後、丁寧にミガかれている。どのような器形になるかは不明である。1489は復元径8cmの浅い丸底から緩く屈曲して開く体部に至る。体部はナデ調整であるが、一部の深い部分に編布が残る。内面は条痕調整のままで平滑ではないが、焦げは残る。5mm幅の縦糸に1cmあたり10本の横糸の編布がみられる。器形や内面調整、体部にも編布圧痕がみられることなど一般的な組織痕土器と異なる。1490は胴部の破片と接合し、胴部以下の形が明らかになった。丸底から直立する

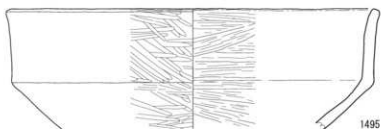
胴部に至る。復元胴部径は31cmである。外面はケズリ様のナデの後、ミガキ様のナデを施す。内面はケズリ様のナデで、組織痕土器に一般的なミガキはみられない。底面は編布圧痕をヘラナデして消す様相がみられる。この部分は径約10cmの円形に割れており、型作りの際、1個の粘土の塊を想像できる。厚さは9mmであり、約70.65cmの粘土を用いたと考えられる。口径に対し深くなる器形に編布圧痕がみられる例はほとんどなく、内面も平滑とはいえないことから、機能的な面も検討しなければならない資料である。

1491～1493は同一個体と考えられ、同じ6～7mm幅の網目をもつ。1493はわずかに屈曲し、この部分の組織痕はナデ消されている。底面から体部にかけて連続して網目が敷かれていたと考えられる。組織痕は6～7mm幅の網目である。1494は復元口径41cm前後であり、ゆるやかな丸底に近い底部から胴下部で内側にわずかに屈曲し、緩く外反する口縁部に至る。口縁部外面に14mm幅の口縁部肥厚帯をもつ。口縁部は丸く収め、口縁部内面も段をもつて肥厚させ、精製浅鉢にみられるような玉縁状に仕上げる。外面は横方向の粗いナデである。底部には網目の組織痕がみられる。網目の幅は3～4mmと細かい。これまで県内で出土した網目でもっと細かいのが西原段I遺跡(大隅町)の3mmであり、最も大きな網目は計志加里遺跡(薩摩川内市)の37mmである。串良川で小鱼や水性昆虫などを獲っていた状況が想定される。内面は平滑であり、底部から胴下部まで焦げている。

第2-123～125図はⅡ類土器に含まれると考えられる浅鉢類である。

1495は復元口径29.7cmを測り、屈曲部とはほぼ同じである。外開きする胴上部から、内側に屈曲して外反気味に直行する口縁部に至る。口縁部は丸く収め、肥厚しない。外面はミガキ様のナデであり、内面は横方向のナデによる。外面は被然により赤化している。石鉢谷B遺跡(鹿屋市)の例では浅い丸底となっており、本資料も同様な器形が考えられる(外反口縁屈曲浅鉢)。石鉢谷B遺跡では干河原段階の中でも屈曲せずに2条の無刻目突帯をもつ時期で、刻目突帯文土器を全く含まない希少な例である。1496は口縁部復元径30.7cmを測る。直線的に開く体部から胴張りの肩部に至り、屈曲して短く外傾する口縁部をもつ。口縁端部に肥厚はなく、内外面に凹線等はいられない。内外面とも摩耗しており器面調整は明確でない。外面に煤が付着しており年代測定した結果、¹⁴C年代が2755±20yrBP±1σ、2σ暦年代範囲が932～830calBC(92.60%)、970～956calBC(2.85%)である。

1497～1506は丸みを帯びた平底の接地面近くに沈線を巡らし、外反して開く体部を変換点として内湾しながら立ち上る口縁部をもつ器形の浅鉢(波状口縁湾浅鉢)である。1497は復元口径26.2cmを測る。4か所の波

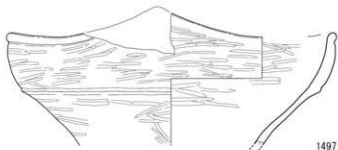


1495



年代測定 932-830 cal BC

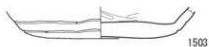
1496



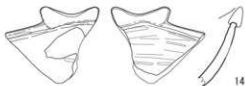
1497



1498



1503



1499



1504



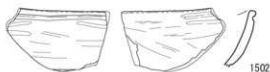
1500



1501



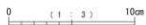
1505



1502



1506



第2-123図 XV類土器（浅鉢形土器）(1)

頂部をもつと想定される。外反気味に開く体部上端の内側に粘土を重ね、内湾する口縁部に至る。体部と口縁部の境は断面半円状に肥厚する。口縁端部は外面のみ玉緑状に肥厚する。内外面ともヘラミガキし、黒色処理している。1498は波状口縁の土器である。わずかに外反する体上部から沈線を境に内湾しながら開く頸部に至る。口縁部の内外面に沈線を巡らし、影らみのある端部をつくる。波頂部にリボン状の突起をもつ。突起の下位には内外面とも沈線がみられる。突起の沈線内にベンガラによる赤色顔料が施された痕跡がある。1499は内湾気味に開く波状の口縁部である。口縁端部の内外面を削り出し状にし、玉緑状となる。波頂部にリボン状の突起が付き、内外面とも粘土を重ねて肥厚する。1500は玉緑状の口唇部にリボン状の突起をもつものである。口唇部との接合面には内外面とも沈線を弧状に施す。1501は口縁端部をヘラミガキにより削り出したものである。内面にベンガラによる赤色顔料がみられる。補修孔が2つ並んでみられ、左側は両面から、右側は外面からの穿孔である。孔の直径は3mmと同じであるが、片面穿孔の右側が大きくみえる。1502は内湾して開く口縁部である。体部境に沈線がみられ、口縁端部外面を削り出し気味に肥厚させる。口唇部は面取りする。

1503~1506は沈線を巡らす底部である。1503は復元径12cmで周縁が丸みを帯びる大型の平底である。約45度の角度で外反気味に開く。底面に接して2条の沈線を巡らす。沈線は丁寧な描き方ではなく乱れている。1504は復元径13cmで周縁が丸みを帯びる平底である。約45度の角度で外反気味に開く。底面に接して2条の沈線を巡らす。1505は復元径9.4cmの底部である。やや丸みを帯びた底面から約55度の角度で外反気味に開く。底面に接して1条の沈線が巡り、一部に三又文を施す。内外面とも丁寧なミガキである。1506は復元径10cmで底面が丸みを帯びる平底である。底面に接して少なくとも2条の太い沈線を巡らす。

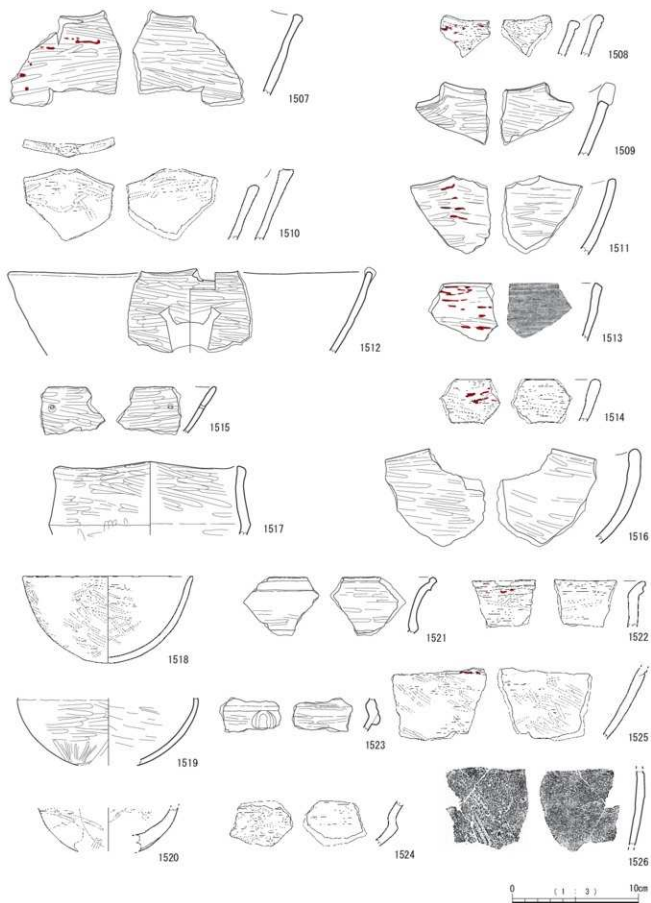
1507~1516は外傾あるいは内湾しながら開く口縁部をもつ浅鉢であり、全体の器形は不明である。1507は内湾気味に開く波状の口縁部である。口唇部を平らに面取りし、外側を玉緑状に肥厚させる。内外面ともヘラミガキであり、外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が残る。1508は山形の波頂部である。口唇部は面取りし、外面を肥厚させる。外面はヘラミガキで、内面はナデである。外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。1509は内湾気味に開く波状の口縁部である。波頂部に鰭状の突起が付き、この部分のみ外面は粘土紐を重ねて肥厚する。1510は直行気味に開く波状の口縁部である。口唇部は面取りし、外端をわずかに丸く肥厚する。波頂部に楕円形の凹点を施す。1511は内湾気味に立ち上がる波状の口縁部である。口唇部を丸く取

め肥厚はしない。内外面もヘラミガキであり、外面にベンガラによる赤色顔料を施す。1512は復元口径29cmで内湾気味に体部から口縁部へ外開きする。口縁端部に変化はなく、そのまま口唇部を丸く収める。両端は欠けてはいるが影らみのある鰭状の突起をもつ。内外面ともミガキによる。内外面とも黒色処理している。全体の器形はそのま丸底となるのではないかと考えられる。1513は1514に近いもので、わずかに内湾する。口唇部は同じ器厚で緩く面取りする。器面調整は内外面ともミガキ様のナデである。外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が残っている。1514は特徴的な部分がなく器形は不明である。器面調整はミガキによるもので、外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。1515はほぼ直線的に開く口縁部であり、口唇部は尖り気味に丸く収める。内外面ともミガキによる。外面は明赤褐色で、内面は黒色処理している。内面から穿孔した補修孔がみられる。1516は大きく内湾して直行気味に立ち上がる口縁部である。口唇部は丸く収め、波状口縁になると考えられる。口縁部下は2本の指で挟むように成形しており、内外面ともわずかに凹むが、肥厚しない。器壁は10mmと厚い。内外面ともヘラミガキである。外面に煤が付着する。

1517は体部上部から口縁部にかけての破片であり、復元口径15.2cmである。体上部屈曲部も口縁部と同じように波状になると考えられる。波頂部は直行し、波底部は口縁部を外反させ底部をわずかに肥厚させる。内外面ともヘラミガキによるが、器形は粗い。

1518~1520は半球形状の器形のものである。1518は口唇部の残りは5mmほどであるが、完形に復元できた。復元口径13.6cm、器高6.9cmを測る丸輪形の鉢である。ほぼ半球形で口縁部は外傾する。器壁は4~5mmと薄く、口唇部は軽く面取りする。内外面ともミガキによる器面調整である。1519は底部付近から胴上位半球形状に開く破片である。胴上部ではより強く内湾する。復元径14.4cmで器厚も4mm弱と薄く、小型の茶家形(内湾口縁胴張浅鉢)の浅鉢と想定される。1520は丸底の底部で、一旦成形した表面に1mmに満たない厚さの粘土を重ねて仕上げたものである。

1521と1522は口縁部に文様帯のある浅鉢である。1521は内側に強く屈曲する体部境から大きく外反する頸部をもつ。口縁部の外面下位と内面端部に粘土を重ね肥厚する。内面は段をもって玉緑状にし、外面は浅く凹む10mm幅の口縁部肥厚帯となる。内外面ともヘラミガキである。1522は内湾気味に立ち上がる肩部から短く屈曲して外開きする口縁部に至る。口縁部下に粘土紐を重ね口縁部と一体化させ、間を凹線風に仕上げている。口縁肥厚部にベンガラによる赤色顔料がわずかに残る。器種については検討を要する。

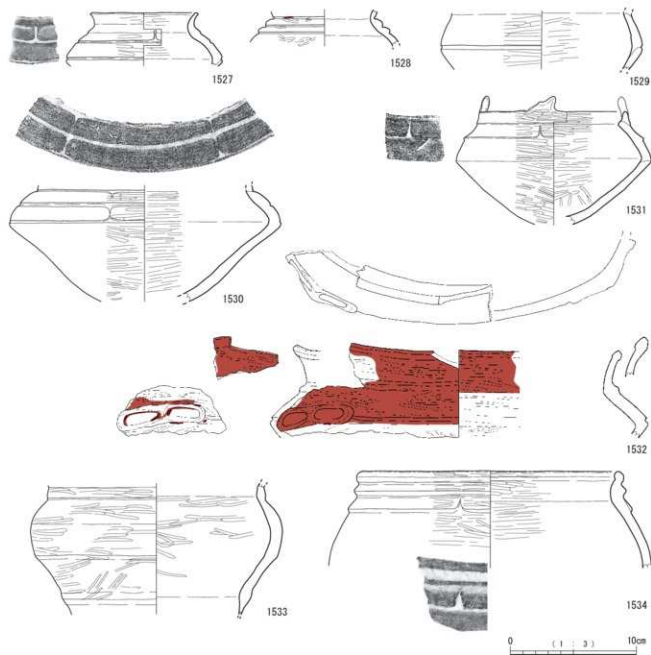


第2-124図 XV類土器(浅鉢形土器)(2)

1523～1526は体部の一部であり、全形は不明である。1523は肩部から口縁部付近の破片である。胴上部で内側に屈曲し10mm弱の肩部をもち、さらに屈曲して口縁部に至ると考えられる。肩部の器厚は8mmであるが、口縁部境は4mmである。肩部に接した胴上部にリボン状の小突起をもつ。内外面ともミガキによる。1524は胴上部で内側に強く屈曲し、外反する頸部をもつ。口縁部が欠けており時期判定は難しい。厚さが7mmと浅鉢の中では厚めであることは古相の観があり、出土区からは刻目突帯文土器が多く出土している。1525は内湾気味に開きながら立ち上がり、体上部で疑似口縁となる。この部分の外面に沈線がみられ、沈線内に赤色顔料が残るが、ベンガラ

と判断できるような分析結果は得られなかった。内外面ともミガキ様のナデである。全体の器形は不明であるが、深めの浅鉢が想定される。1526は1525に近い器形と考えられるが、体部は開かず内湾気味に立ち上がる。径は1525よりも小さく、外面に沈線がみられる。外面はナデにより、内面は平滑なミガキによる器面調整である。縄文時代後期前半の可能性もある。

1527～1534は茶家（ちやか）形あるいは算盤玉形の器形の浅鉢（内湾口縁胴張浅鉢）である。1527は復元口径8.5cmの小型のものである。体部と肩部の境で内側に強く湾曲し、内湾気味の肩部をもつ。口縁部は短く外反させ、口唇部は丸く収める。口縁端部内面にわずかなくぼ



第2-125図 XV類土器（浅鉢形土器）(3)

みが巡る。体部と肩部境および肩部中央には沈線を巡らす。三叉文部分を除いて肩部上位に削り出し様の低く緩い段をもち、頸部には調整時のわずかな段がみられる。肩部中央の沈線から上方を削り出して三叉文を施す。1528は頸部での復元径8cmを測る。肩部に2本の沈線を巡らせ、下面を削り出すように磨くことによって突帯状に見える。屈曲して立ち上がる口縁部境にも沈線を施し、沈線内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。内外面ともミガキによるもので、黒色処理している。1529は胴部最大径16cmを測る。直行気味に開く体部から、丸く内湾する肩部に至る。さらに外反しながら開く口縁部に至ると考えられる。体部上端の内面に粘土を重ねて肩部をつくり、接合部分の胴部最大径には3mm幅の沈線を巡らす。

1530は胴部最大径21.6cmを測る。九底と想定される底部から外反気味に開く体上部で内側に強く屈曲する。肩部は内湾し、直立もしくは外傾する口縁部に至ると思われる。肩部中央と口縁部境に沈線を巡らす。沈線の下端は角を落とすようにミガキしている。両沈線から下に向けて削り出し、三叉文を描く。また、同じ位置の体部屈曲部から上に向けて三叉文を施す。胴屈曲部の三叉文付近にも沈線が巡るが、一周はしない。三叉文は4か所に施されていたと想定される。沈線の下端の角を滑らかにすることによって、三叉文に囲まれた区画が浮き出したように見える。1531は九底と想定される底部から内湾気味に開く体上部で内側に強く屈曲する。肩部は内湾気味に内傾し、段をもって立ち上がる短い口縁部に至る。体屈曲部の復元径は15.4cmで、復元口径は11.8cmである。推定される器高は19.2cm前後である。口縁部外面は内傾するが、内面は外側に屈曲し明瞭な稜をもち、口縁内面は浅い凹線状となる。口唇部は丸く収め、一部にリボン状の突起が付く。肩部中央は下位が強調された段状の盛り上がりが見られ、リボン状突起の位置で上方に削り出して三叉文を施している。内外面ともミガキによるもので、内外面とも黒色処理している。口縁部下と肩部中央の段状となる部分は削り出すようにミガキで浮かせたものであり、1530にみられる様な沈線下端の角を落とす手法と共通する。両者の手法が進化したもしくは退化の前後関係を示すのか不明であるが、これらの肩部から口縁部にかけて装飾をもつこの種類の器形が、茶家形(内湾口縁胴張浅鉢)の祖型となる可能性がある。

1532は体上部で内側へほぼ直角に強く屈曲し、内傾する40mm幅の肩部をもつ。さらに外側に約60度の角度で折り曲げ、外反気味に開く波状の口縁部に至る。体部と肩部の境には1条の凹線を施し、肩部と頸部の境には5mm幅の低い突帯を巡らす。口縁部境は肥厚し、内外面が緩い段状となる。口唇部は丸みを帯びた面取りを行う。口縁部の一部に片鱗状の突起をもつと考えられる。波頂部

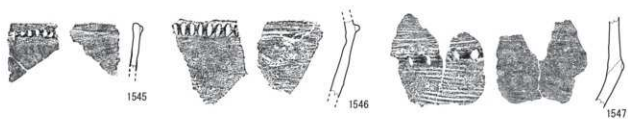
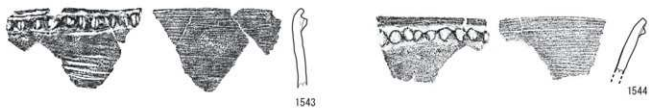
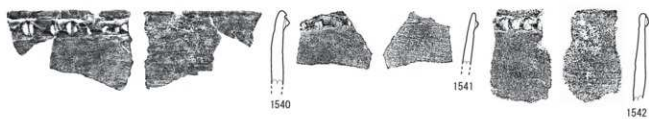
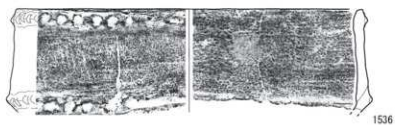
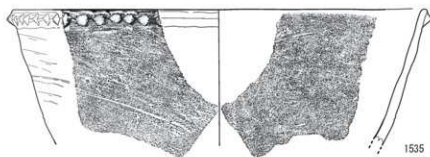
と想定される部分の体部と肩部の境には、眼鏡形の浮文を施す。浮文の中央下部は外側に張り出す。上面からみると浮文部分のカーブはきつく、一般的部分より急である。このことから各辺は丸みを帯び、浮文部分すなわち波頂部分に角をもつ隅丸方形をした器形が復元できる。残った破片から想定復元すると、浮文の頂部間が約24cm、屈曲部での横幅が約30cmと想定される。復元口径は26cmである。内外面とも丁寧にミガキであり、外面は煤を吸着させ黒色化し、ベンガラによる赤色顔料は外面肩部から頸部内面まで施している。口縁部境にみられる内外面の緩い段状の肥厚部は突起部分にはみられなくなり、突起自体が内面に段をもって肥厚する。突起の端に近い部分で欠けていると考えられる。レイアウト後、全ての破片が接合でき実測図と若干の差が生じた。

1533と1534はこれまで類例のない器形のものである。1533は接合しないものの、3点の破片を図上復元したもので、胴部最大径は19.8cmに復元される。外反して開く体部の一部が膨らみ、体上部の稜を境に胴張りの丸い肩部から屈曲して立ち上がる口縁部が付くと想定される。頸部には膨らみがあり、各部位の境は明瞭である。体上部と体下部の器厚が7mmと3mmで、底部に近い方が極端に薄い。内外面とも丁寧にミガキによる器面調整で、外面に煤が付着しているが、製作時の炭化処理なのか使用時のものか不明である。今後類例が出てくれば、器形の変更が求められる。1534は復元口径21.2cm、胴部最大径25.7cm前後を測る。基本的には内湾する肩部から外反気味に26mmほど立ち上がる口縁部をもつもので、口縁部境が内外面とも玉縁状に膨らむものである。口縁部境の内面は凹線状の段をもつ。外面の頸部には口縁部と同一高さの突帯を巡らし、突帯の上下を丁寧にナデることによって2条の太い凹線を巡らしているようにも見える。肩部上位は段をもって盛り上がり、一部を削り出して三叉文を施している。器形・施文方法とも県内では類例がなく、呼び方や機能、出自など検討を要する。

Ⅷ類土器

第2-126~129図は別類としたもので、刻目突帯文土器とそれに伴う鉢類や壺類などを含む。本来は既に弥生時代に入っていると考えられ、弥生時代前期を扱った『小牧遺跡3』の掲載遺物と併せて閲覧していただきたい。本県における刻目突帯文期の土器を扱う場合、刻目突帯文土器を縄文時代晩期とし、壺形土器を弥生時代として紹介している報告書もあるため注意を要する。

1535~1548は刻目突帯文を巡らす壺形土器であり、1535が一条巻、1536~1539が二条巻に該当するものである。1535は復元口径32.8cmである。内湾気味の胴部からほぼ直行して外傾する口縁部に至る。口唇部は丸く収め、口唇下3mmに刻目突帯文が巡る。刻目は爪痕のある指頭



第2-126图 XVI类土器(1)



である。器面調整は外面が斜位の粗いナデで、内面は丁寧なナデである。口唇部下4cmの外面には爪痕がみられる。1536は復元口径27.4cmを測る。体上部で逆「く」字に屈曲し、内傾して口縁部に至る。口唇部は丸く収める。口唇部から3mmほど下がった位置と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。刻目を入れた後、突帯をヨコナデした箇所もある。器面調整は外面がナデで内面は横方向の条痕である。

1537は口縁部と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。やや外傾する口縁部で端部近くのみわずかに外反する。口唇部は面取りする部分と丸く収める部分があり、口唇部下5mmに刻目突帯文を巡らす。屈曲部の突帯は上下の接合痕がはっきりしている。刻目は両方とも爪痕のある指頭で、口縁部は密に施す。1538は2条の刻目突帯文をもつ甕である。体上部で屈曲し内傾する口縁部である。口唇部は尖り気味に収める。屈曲部と口唇部下5mmに刻目のある突帯を巡らす。刻目の施文具は不明である。口縁部は突帯に刻目を入れた後、上下をナデている。1539は2条の刻目突帯文をもつ甕である。体上部で屈曲し内傾して口縁部のみわずかに外反する。屈曲部と口唇部に接した刻目のある突帯を巡らす。刻目は指頭と考えられる。ミガキ様のナデで、突帯のみヨコナデによる。調整や色調が高橋貝塚（南さつま市）出土品に類似する。

1540-1547は一条帯か二条帯になるか判断がつかないものである。1540はわずかに外反する口縁部で、口唇部下5mmに刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭である。口唇部は丸く収めるが、余分な粘土が外端部にはみ出す。1541はほぼ外傾する口縁部で、口唇部は丸く収める。口唇部下5mmに貼付突帯が巡り、爪痕のある指頭で刻目を施す。内外面とも丁寧なナデである。1542はほぼ直行して開く口縁部で、口唇部は丸く収める。口唇下2mmに刻目突帯文が巡り、タテ筋のある施文具で刻目を施す。1543は内湾気味に内傾し口縁端部を外反させ、口唇部下5mmの凹んだ部分に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。内外面とも粗い条痕である。1544は外傾する口縁で端部をわずかに外反させ、口唇部下5mmの凹んだ部分に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。外面はナデで、内面は粗い条痕である。1545は外傾する口縁部で端部の内湾気味となる。口唇部にほぼ接して巡る細めの刻目突帯文である。刻目は棒状工具による。金色雲母を多く含む。1546は屈曲部に刻目突帯を巡らす。刻目は棒状工具による。1547は緩く屈曲する部分にための刻目のある突帯を巡らす。外面は横方向の条痕で、内面はミガキ様のナデである。

1548-1550は焼成前に穿孔するもので、孔列文士器である。1548は復元口径38.6cmである。体上部で約17度の角度で内側に屈曲し、直行して口縁部に至る。口唇部は

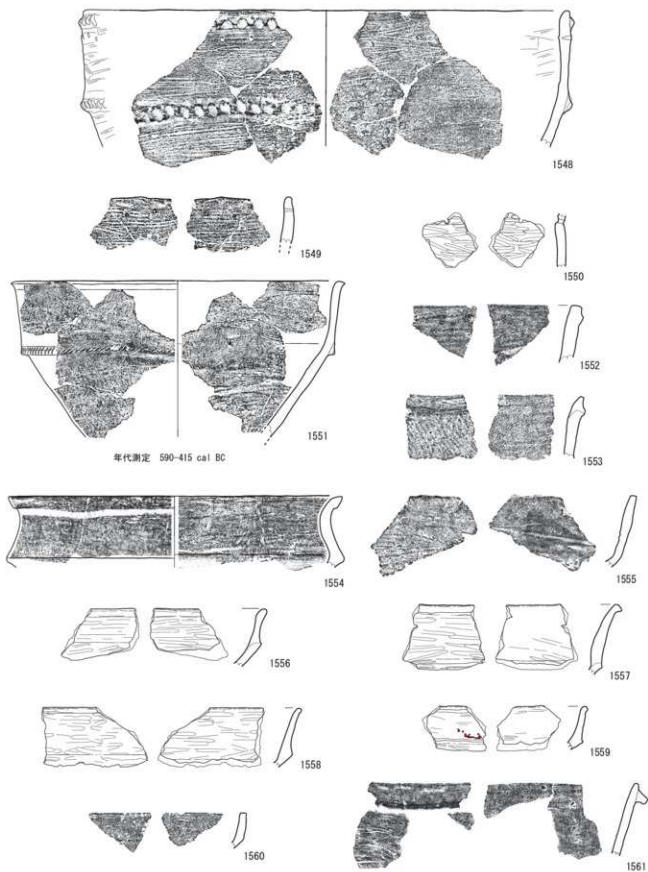
内面を丸く外端部を尖り気味に仕上げる。口唇部から5mmほど下がった位置と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。器面調整は内外面とも横方向の条痕である。口唇部下21-23mmに外面から串状工具で18-25mmの間隔をおいて刺突するが、貫通していない。1548と同一個体と考えられる破片では、貫通した穿孔が3か所に観察できる。1549は内湾気味に直行する。内外面とも横方向の貝殻条痕である。焼成前の穿孔が3か所で確認できる。口唇部下10-15mmに外面から穿孔し、直径は2mmである。1550は内湾気味の胴上部から外傾する口縁部に至ると想定される。口縁部境の内面に凹線を施し、焼成前の穿孔がみられる。内外面ともヘラミガキによる。全形は不明であるが、鉢形土器の可能性もある。

1551は復元口径26.5cmを測る。ほぼ直行して開く体部から逆「く」字状に屈曲し、ほぼ直立し口縁端部のみわずかに外反させる。口唇部は平らに面取りするが、外端を強調し無刻目の突帯状となる。屈曲部外面には粘土を重ね断面三角形の突帯を巡らす。口唇外端および口縁下位の突帯は、親指と人差し指の先で挟み込んだ状態に近い。口縁下位の突帯にはヘラ状工具で鋭利な刻目を密に施す。内外面ともミガキによる器面調整で、外面に煤が付着する。付着した煤を年代測定した結果、¹⁴C年代が2450±20yrBP±1σ、2σ暦年代範囲が590-415calBC (52.38%)、750-684calBC (29.90%)、667-635calBC (12.17%)、620-613calBC (0.99%)である。この年代は、刻目突帯文土器を主体とする弥生時代前期に該当する。

1552は傾き不明のほぼ直行する口縁部である。口唇部は平らに面取りし、口縁端部下に上下裾部が不明瞭な低い突帯を巡らす。外面は条痕状の調整をナデしており、内面は横方向のナデである。1553は傾きや波状口縁かどうか把握できない資料である。直行する頸部から口縁部のみ緩く外反させる。口唇部はわずかに面取りし、刻目を施す。口縁端部下に上下裾部が不明瞭な突帯を巡らす。外面は貝殻条痕状の調整で、内面は丁寧なナデによる。胎土は金色雲母を多く含む花崗岩質である。

1554は復元口径26.4cmで、屈曲部の方が復元径26.8cmと大きい。体部上部で内側に強く屈曲し、内傾する肩部から大きく外反する口縁部に至る。口縁部は9mm幅で肥厚し、口唇部は尖り気味に収める。外面はミガキによるものである。全体の器形は不明であるが、浅い丸底となる可能性もある。

1555は傾きも器形も不明である。55mm幅でわずかに内湾気味の口縁部をもち、内側へ屈曲気味に曲がる体部に至る。口唇部は一部面取りしてある。内外面とも条痕調整をナデ消している。1556はやや外湾気味に開く体部から外面のみ内側に屈曲させ、外反する口縁部に至る。復元した口径は32cm前後とやや大きくなる。内面は内湾し

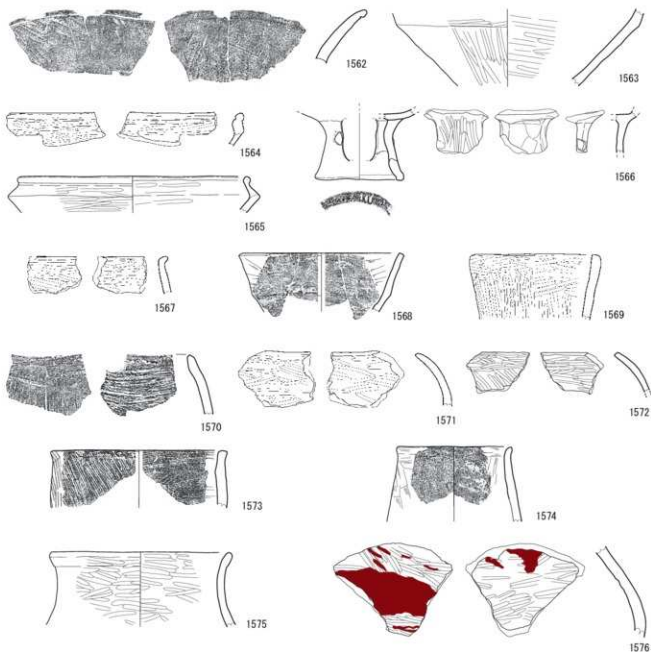


第2-127図 XVI類土器(2)

口縁部のみ残をもって短く外傾させる。体部上端の内面に粘土を重ねて口縁部を形成することから、屈曲部のみ器壁が厚くなる。内外面ともミガキによる。刻目突帯文土器に伴う円盤状の底部をもつ浅鉢と考えられる。1557は体上部で内側に屈曲し、外反気味に開く50mm幅の口縁部に至る。屈曲部分および口縁外端部は指で摘みみだすようにナデることによって明瞭な残がみられる。外面は横方向のミガキによる。1558は体部上位外面で内側に強く屈曲し、外反気味に立ち上がる口縁部に至る。口唇部はやや平らに面取りする。内面の屈曲部は外面屈曲部より下位にあり緩く屈曲する。1559は大きく外開きす

る体上部で内側に屈曲し外傾する口縁部である。屈曲部と口縁部を肥厚させる。口唇部から口縁部は玉縁状となり、屈曲部はシャープな突帯状となる。内外面とも丁寧なナデである。体部との境付近の外面にはベンガラによる赤色顔料の痕跡が確認できる。

1560は体部上位で内側に屈曲し、内湾気味に立ち上がる22mm幅の口縁部である。口唇部は平らに面取りする。器面調整は内外面ともミガキ様のナデである。1561は38cm前後の口径が想定される。内湾気味に外傾する口縁部で、口縁部下に下がり気味の突帯を巡らす。突帯下部は接合痕がみられるが、突帯上部は指頭が当てはまるほ



第2-128図 XVI類土器(3)

ど口縁端部と一体化している。口唇部および突帯端は少し面取りしている。外面は条痕による器面調整で、内面は丁寧なナデによる。

1562～1573は類例が乏しく位置づけに苦慮する資料であるが、まとめて紹介する。1562は25cm前後の口径が想定され、外反気味に大きく開く口縁部である。口縁端部近くの外面に1条の沈線を巡らし、口唇部は丸く収める。器面調整は内外面とも丁寧なナデである。1563はほぼ直行し開く体部から外面のみやや緩く屈曲する。復元径は19.4cmであり、屈曲部には肥厚も沈線もみられない。内外面とも丁寧なミガキによる。どのような形の口縁部や底部が付くか不明である。1564は体部上位の内側への強い屈曲部から口縁端部まで16mmしかない浅鉢である。口縁端部外側上部に粘土紐を重ね、内面は凹線状に、外面は段状に成形し、外見上は1565のような折り返し口縁の浅鉢に見える。口縁端部の作り方は入佐式土器にみられる手法と同じであり、新しい器形に古い手法を用いていると想定される。1565は復元口径18.6cmである。内湾気味に開く体上部で速く「く」字状に屈曲し、12mmほどの肩部をもつ。口縁部は短く玉縁状となる。内外面ともミガキによる。胎土に黒色鉱物が目立つ。

1566は高坏の脚部と考えられる。高さ5cm、復元径7cmの底部で器厚7mmの中空となる。坏部から弧状に広がる脚部であり、透かしをもつ。透かしは坏部との接点部分から空けてあり、縦に32mmを測る。それぞれの透かし両端の中心には11mm幅の粘土紐が橋状につながれていることが想定される。接合しなかったが2点の破片があり、坏部との接点部分での透かし間の幅が48mmと43mmである。透かしが3か所とすれば透かしの幅は18mm前後となる可能性がある。坏部の器厚は4mmであり、内面は丁寧なミガキによる。脚部外面の器面調整はミガキであり、接地部分の一部には何らかの瓦痕がみられる。

1567は内湾気味に内傾する頸部から、短く外反する口縁部をもつ。口唇部は丸く収める。1568は復元口径13.2cmであり、小型の粗製浅鉢になるのではないかと考えられる。体部は内湾気味であり、肥厚部分を境にした口縁部は外傾して開く。口唇部は平らに面取りする。内面はミガキ様のナデであり、外面はナデによる器面調整である。1569は復元口径10.4cmであり、外傾気味に立ち上がり、口縁部付近をわずかに内湾させる。口唇部は同じ器厚で面取りするが、外端は丸く、内端は稜をもつように成形する。内外面とも下位は縦方向に、口縁部付近は口唇部を含めて横方向のミガキがみられる。全体の器形は不明である。1570は12cm前後の口径が想定され、内湾気味の肩部から口縁端部のみ角度を変えて成形する。口縁端部の内外面は肥厚したようにみえるが、器厚は変わらない。口唇部は同じ器厚で丸く収める。内面の頸部は横方向の条痕であり、頸部外面はタテ方向のハケメ状の調

整にミガキ様のナデを加えている。口縁部内外面はナデによる器面調整である。無頸の壺状になるのかどうかも含めて、全体の器形は不明である。

1571と1572は同一個体ではないが、ほぼ同じような形状をもつ。球形状に内湾したまま口縁部に至るものである。1571が胎土に金色雲母を含み、6mmで若干肉厚であるのに対し、1572は器厚が4mmで内外面とも丁寧なミガキである。器形の類例は少なく文様もみられないが、高橋貝塚（南さつ市）で出土している小型の鉢形土器に近いと考えられ、刻目突帯文土器期に該当すると考えられる。

1573は復元口径14cmで、内傾気味に立ち上がり、口縁部をわずかに外反させる。口唇部は器厚を変えずに平らに面取りする。外面はハケメ状の粗いナデであり、内面はハケメ状をナデ消す。全体の器形は不明である。

1574～1576は変形土器である。1574は復元口径9.2cmの口縁部で、直行気味に内傾する頸部から口縁端部付近のみを外反させる。口唇部は尖り気味に取まっている。外面は縦方向のミガキ様のナデであり、口縁部のみを横方向にナデする。胎土に4mm大の小礫を含むが、表面の粒子は細かい。1575は外反しながら内傾する頸部に、外開きする膨らみのある口縁部をもつ。復元口径は14.4cmを測る。器面調整は横方向のミガキ様のヘラナデである。1576は張りのある胴部からわずかに内湾する肩部をもち、外側に反る頸部へ至ると想定される。頸部境には段や沈線はみられない。外面は丁寧なミガキ、内面はナデである。外面にベンガラによる赤色顔料が施され、内面上部にも赤色顔料の痕跡がある。刻目突帯文土器に伴うと考えられる。

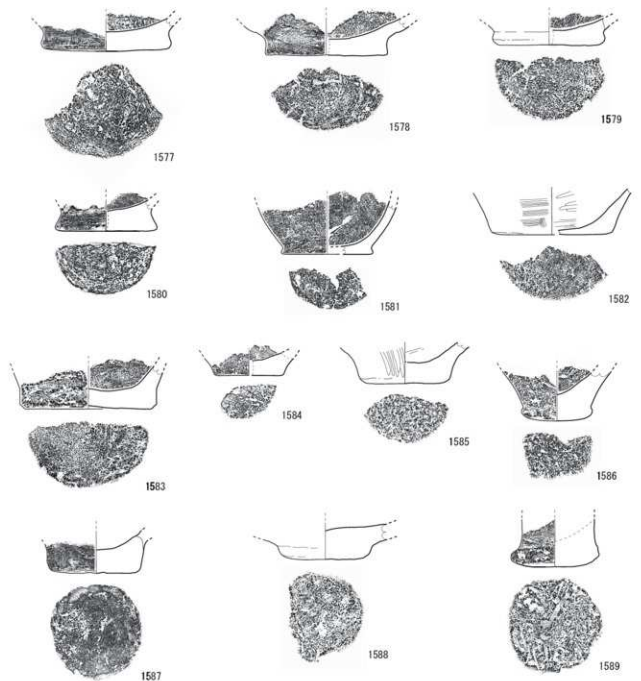
1577～1589は刻目突帯文土器期および弥生時代前期に該当すると考えられる底部である。1577は直径10.2cmの安定した平底の底部である。16mmの厚さで台形状の張り出しをもつ。内面は丁寧なミガキによる。花崗岩質の胎土で、浅鉢の可能性もある。1578は直径9.6cmの安定した平底の底部で、台形状の張り出しをもち、約30度の角度で開く。外面はナデで、内面は丁寧なナデによる。干河原段階もしくは刻目突帯文土器期の浅鉢の可能性もある。1579は復元径9cmの平底で、台形状の張り出しをもつ。内面は丁寧なナデで、浅鉢の可能性もある。1580は直径8cmの平底で、台形状の張り出しをもつ円盤状である。内外面ともミガキ様の調整である。胎土に金色雲母を含む。外面は摩耗している。刻目突帯文土器期の浅鉢の可能性もある。

1581は復元径7.2cmの平底である。厚さ4mmほどの張り出す立ち上がりから内湾気味の体部に至る。内外面ともミガキ様のナデによる。干河原段階もしくは刻目突帯文土器期に位置づけられると思うが全体の器形は不明である。1582は復元径9.5cmの平底である。約50度の角度

をもって外反気味に開く。外面はナデで、内面はミガキ様のナデであり平滑である。器厚は3～4mmと薄く、浅鉢の可能性もある。

1583は中心部がわずかに浮く直径10.8cmの平底である。10mm幅の立ち上がりをもって胴部下半へ開く。1584は復元径6.1cmの平底である。外反しながら体部へ開く。金色雲母を含み、弥生時代前期の壺形土器の可能性もある。1585は復元径8cmを測る底部である。底面が摩耗しているため正確な形状は不明であるが、現状は平底である。厚い底面から外反して体部に至る。外面はタテ方向の細

かなミガキによる。花崗岩質の胎土で、弥生時代前期の壺形土器と考えられる。1586は直径6cmの丸みを帯びた平底である。接地面周縁がわずかに張り出す。弥生時代前期の壺形土器と考えられる。1587は直径7cmの平底である。厚さ20mm前後で立ち上がり、開く体部に至ると想定される。弥生時代前期の壺形土器と考えられる。1588は直径7cmの平底で、5mmほどの立ち上がりがあり大きく開く。弥生時代の壺形土器の可能性もある。1589は直径7cmの脚台状の底部で、弥生時代中期前半の壺形土器の可能性もある。



第2-129図 X VI類土器(4)

第2-16表 晩期包舍層出土土器観察表1

調査 番号	器物 番号	器種	分類	出土区	層	文様・彫刻・装飾等		色		土		その他	測定 番号	備考	写真 掲載	
						外周	内周	外周	内周	白灰 反応	内周 反応					全土 反応
2-107	1375	深鉢	X II	-	B3	ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい赤褐色	黒	○	○	○	カタラン	92		
	1376	深鉢	X II	C-33	B3	丁家ナナダ	丁家ナナダ	縹紺赤褐色	縹紺赤褐色	○	○	○	104552	92		
	1377	深鉢	X II	C-30	B3	1号焼酎ナダ	1号焼酎ナダ	にぶい縹	灰青褐色	○	○	○	4884	92		
	1378	深鉢	X II	E-30	B3	1号焼酎ナダ	1号焼酎ナダ	縹灰	縹灰	○	○	○	29282	92		
	1379	深鉢	X II	-	-	丁家ナナダ	丁家ナナダ	縹	にぶい縹	○	○	○	カタラン	-		
	1380	深鉢	X II	E-30	B3	ナダ	ナダ	縹	にぶい縹	○	○	○	28272	92		
	1381	深鉢	X II	D-34	B3	丁家ナナダ	丁家ナナダ	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	104639	92		
	1382	深鉢	X II	D-6	B3	ミガキ	ミガキ	黒	黒	○	○	○	赤色粒	31533	92	
	1383	深鉢	X II	D-6	B3	ミガキ	ミガキ	縹	黒褐色	○	○	○	赤色粒	36649	92	
	1384	深鉢	X II	-	-	1号焼酎ナダ	丁家ナナダ	明赤褐色	縹	○	○	○	カタラン	-		
	1385	深鉢	X II	C-30	B3	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐色	縹	○	○	○	16792	92		
	1386	深鉢	X II	E-34	B3	1号焼酎ナダ	ナダ	黒褐色	灰青褐色	○	○	○	14619	保存箱	-	
	1387	深鉢	X II	D-5	B3	丁家ナナダ	丁家ナナダ	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	32408	-		
	1388	深鉢	X II	D-10	Ba	ヘラミガキ	ケズリ種の 丁家ナナダ	縹紺赤褐色	赤褐色	○	○	○	22647	-		
	1389	深鉢	X II	C-7	B3	1号焼酎ナダ	ナダ	縹紺赤褐色	赤褐色	○	○	○	28648	-		
1390	深鉢	X II	E-9	Ba	ナダ焼酎ナダ	丁家ナナダ	縹紺赤褐色	灰青褐色	○	○	○	24266	92			
1391	深鉢	X IIa	D-10	B3	1号焼酎ナダ	1号焼酎ナダ	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	赤色粒	47804	92		
1392	深鉢	X IIa	D-36	Ba	ミガキ	ミガキ	縹灰	縹灰	○	○	○	102894	92			
1393	深鉢	X IIa	D-10	Ba	丁家ナナダ	1号焼酎ナダ	縹紺	縹灰	○	○	○	23065	92			
1394	深鉢	X IIa	D-35	Ba	丁家ナナダ	丁家ナナダ	縹	縹	○	○	○	101352	92			
1395	深鉢	X IIa	C-15	B3	ミガキ	ミガキ	縹	縹	○	○	○	赤色粒	1581	92		
1396	深鉢	X IIa	B-11	Ba	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐色	灰青褐色	○	○	○	赤色粒	25178	92		
1397	深鉢	X IIb	C-36	B3	縹いナダ	縹いナダ	黒	赤褐色	○	○	○	13172	92			
1398	深鉢	X IIb	D-36-37	Ba/B3	丁家ナナダ	丁家ナナダ	赤褐色	赤褐色	○	○	○	103263	縹	-		
1399	深鉢	X IIb	D-35	Ba	縹いナダ	縹いナダ	縹	にぶい赤褐色	○	○	○	101115	縹赤粒	92		
1400	深鉢	X IIb	D-36	Ba	ミガキ	ミガキ	縹	縹	○	○	○	赤色粒	101301	92		
1401	深鉢	X IIb	D-36	Ba	丁家ナナダ	1号焼酎ナダ	明赤褐色	にぶい縹	○	○	○	101299	92			
1402	深鉢	X IIb	D-10	B3	丁家ナナダ	丁家ナナダ	縹	縹	○	○	○	カタラン	92			
1403	深鉢	X IIa	D-10	Ba	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐色	縹	○	○	○	赤色粒	22658	92		
1404	深鉢	X IIa	B-35	B3	1号焼酎ナダ	ナダ	にぶい赤褐色	灰青褐色	○	○	○	104643	-			
1405	深鉢	X IIa	D-34	B3	縹いナダ	縹いナダ	縹紺赤褐色	灰青褐色	○	○	○	100623	-			
1406	深鉢	X IIb	D-36	Ba	1号焼酎ナダ	1号焼酎ナダ	にぶい縹	灰青褐色	○	○	○	102795	縹	-		
1407	浅鉢	X IIa	D-5	B3	ミガキ	ミガキ	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	25734	-			
1409	浅鉢	X IIa	E-12	Ba	ミガキ	ミガキ	縹灰	灰青褐色	○	○	○	5387	92			
1408	浅鉢	X IIb	D-7	B3	ミガキ	ミガキ	縹	縹	○	○	○	47725	92			
1410	浅鉢	X IIb	D-7	B3	ミガキ	ミガキ	縹	縹	○	○	○	47725	92			
1411	浅鉢	X IIb	D-9	Ba/B3	ヘラミガキ	ヘラミガキ	縹	縹	○	○	○	22753	92			
1412	浅鉢	X IIb	-	-	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐色	縹	○	○	○	SH30	-			
1413	浅鉢	X II	D-12	Ba	ミガキ	ナダ	縹	縹	○	○	○	縹、赤色粒	36	92		
1414	浅鉢	X II	C-8	B3	ミガキ	ナダ	縹	明赤褐色	○	○	○	35366	92			
1415	浅鉢	X IIa	C-11	B3	ミガキ	ナダ	縹紺赤褐色	縹	○	○	○	縹上	92			
1416	深鉢	X IV	C-D-11	Ba/B3	丁家ナナダ	担取赤褐色	黒	にぶい縹	○	○	○	5183	縹	92		
1417	深鉢	X IV	E-30	Ba	丁家ナナダ	縹いナダ	縹	縹	○	○	○	2788	縹	92		
1418	深鉢	X IV	C-11	B3	担取赤褐色	担取赤褐色	縹	縹	○	○	○	1125107	92			
1419	深鉢	X IV	C-12	-	赤褐色	赤褐色	明赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	縹	37-040	92		
1420	深鉢	X IV	B-24	B3	縹いナダ	丁家ナナダ	にぶい縹	縹灰	○	○	○	縹	36885	92		
1421	深鉢	X IV	B-9	B3	縹いナダ	担取赤褐色	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	赤色粒	22178	92		
1422	深鉢	X IV	E-3	B3	担取赤褐色	丁家ナナダ	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	縹、赤色粒	31485	92		
1423	浅鉢	X IV	D-11	B3/B	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	縹、赤色粒	28965	92		
1424	浅鉢	X IV	C-10-11	Ba/B3	丁家ミガキ	丁家ミガキ	黒	縹	○	○	○	5152	縹	92		
1425	浅鉢	X IV	D-12	Ba	丁家ミガキ	丁家ミガキ	縹	にぶい縹	○	○	○	赤色粒	528	92		
1426	浅鉢	X IV	C-10	B3	ミガキ	ミガキ	縹灰	縹灰	○	○	○	27496	92			
1427	浅鉢	X IV	C-11	B3	ミガキ	ミガキ	縹灰	縹灰	○	○	○	15600	92			
1428	浅鉢	X IV	E-31	B3	ナダ	ナダ	縹灰	灰青褐色	○	○	○	縹	104371	92		
1429	浅鉢	X IV	C-12	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐色	黒	○	○	○	37-157	野原に注瀬	92		
1430	浅鉢	X IV	D-11	B3	1号焼酎ナダ	1号焼酎ナダ	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	21098	縹赤粒	92		
1431	深鉢	X V	E-30	Ba	縹いナダ	丁家ナナダ	縹	にぶい縹	○	○	○	赤色粒	27625	92		
1432	深鉢	X V	D-10	B3	縹いナダ	丁家ナナダ	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	赤色粒	21227	92		
1433	深鉢	X V	D-11	B3	縹いナダ	縹いナダ	縹	縹	○	○	○	赤色粒	35213	92		
1434	深鉢	X V	D-11-12	Ba/B3	赤褐色+ナダ	ナダ	縹	縹	○	○	○	縹	1832	縹	92	
1435	深鉢	X V	D-12	Ba	赤褐色、ナダ	ミガキ縹	にぶい縹	縹	○	○	○	528	92			
1436	深鉢	X V	D-15-9	Ba/B3	縹いナダ	赤褐色→ミガキ縹ナダ	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	縹	26259	保存箱	92	
1437	深鉢	X V	E-7	B3	ケズリナダ	ケズリナダ	縹	にぶい縹	○	○	○	縹、赤色粒	28661	92		
1438	深鉢	X V	D-6	B3	縹いナダ	縹いナダ	にぶい縹	縹	○	○	○	縹	12081	縹	92	
1439	深鉢	X V	D-11	Ba	ミガキ	丁家ナナダ	縹	にぶい縹	○	○	○	46972	92			
1440	深鉢	X V	C-31	B3	縹いナダ	縹いナダ	灰青	灰青	○	○	○	24968	92			
1441	深鉢	X V	D-10	Ba/B3	縹の赤褐色	縹の赤褐色	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	29125	収差年代測定	92		
1442	深鉢	X V	E-11	B3	ナダ	ナダ	にぶい縹	にぶい縹	○	○	○	22276	-	92		
1443	深鉢	X V	B-11	B3	ミガキ	ミガキ	にぶい縹	黒	○	○	○	赤色粒	3060	-	92	
1444	深鉢	X V	E-7	Ba	ナダ	ナダ	にぶい縹	縹	○	○	○	赤色粒	22023	-	92	
1445	深鉢	X V	D-6	Ba	赤褐色	担取赤褐色	にぶい縹	縹	○	○	○	赤色粒	22023	-	92	
1446	担取赤褐色	X V	D-12	Ba	赤褐色	ナダ	縹	にぶい赤褐色	○	○	○	2799	縹	92		
1447	担取赤褐色	X V	D-11	B3	ナダ焼酎ナダ	ナダ	縹灰	にぶい赤褐色	○	○	○	赤色粒	18361	92		

第2-17表 晩期包舍層出土土器観察表2

調査号	発掘号	器種	分類	出土区	層	文様・取組調整等		色 澤		土		磨石	その他	図上 番号	備考	対照品	
						外面	内面	外面	内面	白灰 灰石	赤灰 礫石						赤土 赤砂
2-114	1448	蓋の付鉢	XV	B-11	B/a	ナデ	黒いナデ	浅黄緑	にぶい黄緑	○	○	○		3068枚		95	
	1449	平胴壺型?	XV	D-2, 10	B/a	ナデ	赤いナデ	にぶい黄	にぶい黄緑	○	○	○	赤色粒	2749枚		95	
2-115	1450	中平鉢形	XV or XV	E-16	B/b	横いナデ	横いナデ	明赤	にぶい黄	○	○	○	磨	3676		95	
	1451	中平鉢形	XV or XV	B-5	B/a	貝殻赤	ミダキ	黒	灰	○	○	○		3015枚		95	
	1452	中平鉢形	XV or XV	B-C-10	B/a	B/b	ナデ	ナデ	ミダキ	にぶい黄緑	○	○	○	21518枚		95	
2-116	1453	中平鉢形	XV or XV	C-10	B/a	横いナデ	ナデ	浅黄緑	にぶい黄緑	○	○	○		2829	晩期年代測定	95	
	1454	中平鉢形	XV or XV	C-11	B/a	赤	ミダキ	明赤	にぶい黄緑	○	○	○	磨	16232枚		95	
	1455	中平鉢形	XV or XV	E-9	B/a	B/b	赤	ミダキ	にぶい黄	○	○	○		22255枚		95	
	1456	中平鉢形	XV	B-C-10, 10	B/a	B/b	横いナデ	丁家ナデ	にぶい黄	灰黄	○	○	○	28283枚	晩期年代測定	96	
	1457	中平鉢形	XV	D-E-10-12	B/a	横いナデ	横いナデ	灰黄	にぶい黄	○	○	○		2425枚		96	
2-117	1458	中平鉢形	XV	D-E-10-12	B/a	横いナデ	横いナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		5214枚	編年位置	96	
	1459	中平鉢形	XV	E-12	-	横いナデ	ミダキ	灰黄	灰黄	○	○	○		-	リボシ遺跡 編年位置 モロシ	96	
2-118	1460	中平鉢形	XV	B-A-20	B/a	横いナデ	ミダキ	にぶい黄	黒	○	○	○		5222枚	編年位置	96	
	1461	中平鉢形	XV or XV	D-8	B/a	横いナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	磨	25962	出土区により、黒 土質、モロシ	96	
2-119	1462	中平鉢形	XV or XV	C-D-9-11	B/a	横いナデ	ミダキ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		5572枚	編年位置 保	96	
	1463	中平鉢形	XV or XV	D-E-10-11	B/a	横いナデ	黒いナデ	黒	黒	○	○	○		23118枚	編年位置	97	
2-120	1464	中平鉢形	XV or XV	F-10	B/a	横いナデ	横いナデ	にぶい黄	灰黄	○	○	○		22779枚	編年位置	97	
	1465	中平鉢形	XV or XV	B-10	B/a	-	丁家ナデ	にぶい黄	黒	○	○	○		21466	編年位置	97	
	1466	中平鉢形	XV or XV	B-16-21 C-19-20	B/a	横いナデ	ミダキ	灰黄	黒	○	○	○		3205枚	編年位置 モロシ	97	
	1467	中平鉢形	III or IV	B-20	B/b	横いナデ	ミダキ	灰黄	にぶい黄	○	○	○		8636枚	編年位置	97	
	1468	中平鉢形	III or IV	F-9	B/b	横いナデ	丁家ナデ	灰黄	にぶい黄	○	○	○		27884	編年位置	97	
	1469	中平鉢形	III or IV	D-9	B/a	-	ミダキ	にぶい黄	黒	○	○	○		23728	編年位置	97	
	1470	中平鉢形	III or IV	D-16	B/b	-	丁家ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	磨	7468	編年位置 モロシ	97	
	1471	中平鉢形	III or IV	-	B/a	ナデ	-	にぶい黄	灰白	黒	○	○	○		黒土	編年位置	97
	1472	中平鉢形	III or IV	B-11	-	-	ミダキ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		495828	編年位置	97	
	1473	中平鉢形	III or IV	-	-	ナデ	横いナデ	にぶい黄	灰黄	○	○	○		22779枚	編年位置	97	
2-121	1474	中平鉢形	III or IV	E-11	B/b	-	丁家ナデ	にぶい黄	灰黄	○	○	○		38722枚	編年位置	97	
	1475	中平鉢形	III or IV	D-16	B/a	横いナデ	ナデ	灰白	浅黄	○	○	○	赤色粒	3161	編年位置	97	
	1476	中平鉢形	III or IV	B-10	B/a	ナデ	ミダキ	灰黄	黒	○	○	○		2832	編年位置	97	
	1477	中平鉢形	III or IV	E-31	B/b	-	ミダキ	黒	黒	○	○	○		104353	編年位置	97	
	1478	中平鉢形	III or IV	D-24	B/b	-	ナデ	灰黄	黒	灰黄	○	○	○	磨	36910	編年位置 モロシ	97
	1479	中平鉢形	III or IV	C-16	B/b	-	丁家ナデ	にぶい黄	灰黄	○	○	○		9271	編年位置	97	
	1480	中平鉢形	III or IV	C-9	B/b	横いナデ	ミダキ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	赤色粒	25262	編年位置	97	
	1481	中平鉢形	III or IV	F-9	B/b	-	ミダキ	にぶい黄	黒	○	○	○		54953	編年位置 モロシ	97	
	1482	中平鉢形	III or IV	F-10	B/a	-	ナデ	にぶい黄	灰黄	○	○	○		21244	編年位置 モロシ	97	
	1483	中平鉢形	III or IV	E-11	-	-	丁家ナデ	黄	灰	○	○	○		6798210	編年位置	97	
2-122	1484	中平鉢形	III or IV	D-10	B/a	-	ナデ	にぶい黄	灰白	○	○	○		22267	編年位置	97	
	1485	中平鉢形	III or IV	C-B-D-11	B/a	B/b	-	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○		12286枚	編年位置	97	
	1486	中平鉢形	III or IV	C-9	B/a	ナデ	ナデ	黒	にぶい黄	○	○	○	赤色粒	29606	編年位置	97	
	1487	中平鉢形	III or IV	D-10	B/b	ヘラナデ	丁家ナデ	黒	にぶい黄	○	○	○	赤色粒	27466	編年位置	97	
	1488	中平鉢形	III or IV	F-9	B/b	横いナデ	横いナデ	にぶい黄	明赤	○	○	○	赤色粒	47300	編年位置	97	
	1489	中平鉢形	III or IV	B-20	B/b	ナデ	ナデ	黒	にぶい黄	○	○	○		4943	編年位置	97	
	1490	中平鉢形?	III or IV	D-10	B/a	ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	赤色粒	22730	編年位置	97	
	1491	中平鉢形	XV or XV	D-7	V/a	ナデ	丁家ナデ	にぶい黄	灰黄	○	○	○	赤色粒	48491枚	編年位置	97	
	1492	中平鉢形	XV or XV	B-6	B/b	ナデ	丁家ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	赤色粒	29443	編年位置	97	
	1493	中平鉢形	XV or XV	C-6	B/a	B/b	ナデ	ナデ	にぶい黄	灰黄	○	○	○	赤色粒	23641枚	編年位置	97
2-123	1494	中平鉢形	XV or XV	C-18	B/a	横いナデ	ナデ	横赤	にぶい黄	○	○	○	磨	38118	編年位置 モロシ	98	
	1495	浅鉢	XV	E-10	B/a	横いナデ	横いナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		26196	編年位置	98	
	1496	浅鉢	XV	D-12	B/a	ナデ	ナデ	灰	黒	○	○	○		5242枚	晩期年代測定	98	
	1497	浅鉢	XV	D-11	B/a	ヘラミダキ	ヘラミダキ	黒	灰	○	○	○		1720枚	編年位置	98	
	1498	浅鉢	XV	E-11	B/b	横いナデ	横いナデ	浅黄	浅黄	○	○	○		14826	土師リボシ遺跡	98	
	1499	浅鉢	XV	C-8	-	横いナデ	横いナデ	浅黄	浅黄	○	○	○		147106枚	リボシ遺跡	98	
	1500	浅鉢	XV	C-8	B/b	ミダキ	ミダキ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		103379	リボシ遺跡	98	
	1501	浅鉢	XV	F-16	B/a	ヘラミダキ	ヘラミダキ	黒	黒	○	○	○		3700	赤色土質 編年位置	98	
	1502	浅鉢	XV	D-11	B/b	横いナデ	横いナデ	灰黄	灰黄	○	○	○		14538	編年位置	98	
	1503	浅鉢	XV	C-10	B/a	横いナデ	横いナデ	浅黄	浅黄	○	○	○		22964	三叉文 沈文	98	
1504	浅鉢	XV	D-12	B/b	ミダキ	ミダキ	にぶい黄	灰黄	○	○	○		15563	沈文	98		
2-124	1505	浅鉢	XV	D-10	B/a	丁家ミダキ	丁家ミダキ	灰黄	灰黄	○	○	○		21228	三叉文 沈文	98	
	1506	浅鉢	XV	D-9	B/b	ナデ	ナデ	明赤	黒	○	○	○		29384	沈文	98	
	1507	浅鉢	XV	E-10-11	B/a	B/b	ヘラミダキ	ヘラミダキ	黒	黒	○	○		38350枚	赤色土質	98	
	1508	浅鉢	XV	E-10	B/a	ヘラミダキ	ヘラミダキ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		11	赤色土質	98	
	1509	浅鉢	XV	E-11	B/b	横いナデ	横いナデ	灰黄	灰黄	○	○	○		14538	編年位置	98	
	1510	浅鉢	XV	D-12	B/b	横いナデ	横いナデ	明赤	にぶい黄	○	○	○		12421		98	
	1511	浅鉢	XV	D-12	B/a	ヘラミダキ	ヘラミダキ	灰黄	黒	○	○	○		5226	赤色土質	98	
	1512	浅鉢	XV	D-11, E-10	B/b	ミダキ	ミダキ	黒	にぶい黄	○	○	○		38333枚		98	
	1513	浅鉢	XV	D-10	B/a	横いナデ	横いナデ	灰黄	黒	○	○	○		-	赤色土質	98	
	1514	浅鉢	XV	D-10	B/a	ミダキ	横いナデ	にぶい黄	浅黄	○	○	○		22623	赤色土質	98	
2-125	1515	浅鉢	XV	C-10	B/b	ミダキ	ミダキ	明赤	黒	○	○	○		27504	編年位置	98	
	1516	浅鉢	XV	F-15	B/a	ヘラミダキ	ヘラミダキ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○		17428	外面磨付	98	
	1517	浅鉢	XV	E-11	B/b	横いナデ	横いナデ	灰黄	灰黄	○	○	○		22973	編年位置	98	
	1518	マウリ型	XV	C-7	B/b	ミダキ	ミダキ	明赤	明赤	○	○	○		29944	編年位置	98	
	1519	マウリ型?	XV	E-31	B/a	ミダキ	丁家ナデ	黒	黒	○	○	○		5478		98	
	1520	マウリ型?	XV	D-6	B/a	ミダキ	ナデ	浅黄	黒	○	○	○		22035		98	

第2-18表 晩期包舍層出土土器観察表3

図号 番号	器種	分類	出土区	層	文様・取組面等		色		土		その他	図上 番号	備考	写真 掲載	
					文様	取組面	外面	内面	白灰 表土	赤灰 表土					赤土 表土
1521	浅鉢	XV	B-11	Bb	ハウミナギ	ハウミナギ	黒	黒	○	○		5092		98	
1522	浅鉢	XV	C-15	Bb	ミナギ	ナデ	黒	黒	○	○		1829	赤土原料	98	
1523	浅鉢	XV	E-11	Bb	ミナギ	ミナギ	にぶい・黒	黒	○	○		11796	赤土	98	
1524	浅鉢	XV	D-37	Ba	ミナギ	ミナギ	黒	黒	○	○		103262		98	
1525	浅鉢	XV	E-36	Ba	ミナギ	ミナギ	にぶい・赤	黒	○	○		5904	赤土原料	98	
1526	浅鉢?	XV?	E-F-4	V	ナデ	ミナギ	にぶい・黒	黒	○	○		-	縄文時代後期前 半の可塑性あり	-	
1527	茶室形浅鉢	XV	D-12	Ba	ミナギ	ミナギ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		5266	三文字	98	
1528	茶室形浅鉢	XV	C-11	Ba	ミナギ	ミナギ	黒	黒	○	○		5281	赤土原料	98	
1529	茶室形浅鉢	XV	C-D-10-11	Ba/Bb	ミナギ	ミナギ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		29666	赤土	98	
1530	茶室形浅鉢	XV	E-30	Bb	ミナギ	ナデ	明灰	黒	○	○		29017	三文字	98	
1531	茶室形浅鉢	XV	E-11	Bb/V	ミナギ	ミナギ	黒	黒	○	○		25448	赤土	98	
1532	茶室形浅鉢	XV	C-D-8-11	Bb	丁家ミナギ	丁家ミナギ	にぶい・黒	黒	○	○		18373	平直方形 注玉 平直方形 直方	98	
1533	茶室形浅鉢	XV	E-9	Bb	横いナデ	横いナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		29030	同上覆土に	98	
1534	茶室形浅鉢	XV	E-30	Ba/Bb	丁家ミナギ	横いナデ	にぶい・赤	成灰	○	○		27838	三文字 横付	98	
1535	壺	XV	B-21	Ba	横いナデ	丁家ミナギ	黒	黒	○	○		赤土	7347	壺	99
1536	壺	XV	F-22-24	Ba	ナデ	横いナデ	横いナデ	横いナデ	○	○		29414	壺	99	
1537	壺	XV	D-21	Bb	横いナデ	横いナデ	黒	黒	○	○		55466		99	
1538	壺	XV	B-20	Bb	ナデ	ナデ	黒	黒	○	○		4946		99	
1539	壺	XV	E-23	Bb	ミナギ	ミナギ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		57191		99	
1540	壺	XV	-	-	丁家ミナギ	ナデ	にぶい・黒	にぶい・黒	○	○		壺上		99	
1541	壺	XV	F-23	Bb	丁家ミナギ	丁家ミナギ	成灰	横いナデ	○	○		29422		99	
1542	壺	XV	D-38	Bb	ナデ	ナデ	にぶい・黒	黒	○	○		赤土	10324	壺	99
1543	壺	XV	G-23	Ba	横い赤	横い赤	横い赤	横い赤	○	○		4885		99	
1544	壺	XV	G-24	-	ナデ	横い赤	黒	黒	○	○		赤土	5214	壺	99
1545	壺	XV	-	-	ナデ	横いナデ	黒	黒	○	○		不明		99	
1546	壺	XV	C-28	Bb	ナデ	ナデ	成灰	にぶい・赤	○	○		8581		99	
1547	壺	XV	-	-	横いナデ	横いナデ	黒	黒	○	○		不明		99	
1548	壺	XV	C-36	Ba	横いナデ	横いナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		10329	孔列文	99	
1549	壺	XV	C-7	Ba	横いナデ	横いナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		21869	孔列文	99	
1550	壺	XV	E-15	Ba	ハウミナギ	ハウミナギ	黒	黒	○	○		261	孔列文?	99	
1551	壺	XV	B-28	Ba	ミナギ	ミナギ	黒	黒	○	○		44324	高差年代測定	99	
1552	壺	XV	D-10	Bb	横いナデ	横いナデ	黒	黒	○	○		4970		99	
1553	壺	XV	C-30	Bb	横いナデ	横いナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		10330		99	
1554	壺	XV	C-D-11	Bb	横いナデ	横いナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		10331		99	
1555	不明	XV	D-7	Ba	横いナデ	横いナデ	黒	黒	○	○		21300		99	
1556	浅鉢	XV	D-9	Ba	ミナギ	ミナギ	成灰	成灰	○	○		21170		99	
1557	浅鉢	XV	B-20	Bb	横いナデ	ナデ	明灰	赤	○	○		8899		99	
1558	浅鉢	XV	B-21	Ba	ミナギ	ミナギ	黒	黒	○	○		9250		99	
1559	浅鉢	XV	C-37	Ba	丁家ミナギ	丁家ミナギ	黒	黒	○	○		10266		99	
1560	浅鉢	XV	D-25	Ba	横いナデ	横いナデ	黒	黒	○	○		101332		99	
1561	浅鉢	XV	B-3	Bb	横いナデ	横いナデ	黒	黒	○	○		赤土	11	99	
1562	浅鉢	XV	C-11	-	丁家ミナギ	丁家ミナギ	赤	黒	○	○		古8519		99	
1563	浅鉢	XV	E-30	Ba	丁家ミナギ	丁家ミナギ	にぶい・赤	黒	○	○		27283		99	
1564	浅鉢	XV	E-11-12	Ba/Bb	ミナギ	ミナギ	黒	黒	○	○		5479		99	
1565	浅鉢	XV	E-36	Ba	ミナギ	ミナギ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		黒土	5000	99	
1566	高杯	XV	C-25	Ba	ミナギ	丁家ミナギ	黒	黒	○	○		102667	透かし入り	99	
1567	浅鉢	XV	E-37	Ba	ミナギ	ミナギ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		101457		99	
1568	浅鉢	XV	C-11E-10	Ba	ナデ	ミナギ	成灰	成灰	○	○		44129		99	
1569	不明	XV	E-12	V	ミナギ	ミナギ	にぶい・赤	黒	○	○		25150		99	
1570	不明	XV	C-30	Ba	横いナデ	横いナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		28567		99	
1571	短冊丸鉢?	XV	B-11	Ba	ミナギ	丁家ミナギ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		999		99	
1572	短冊丸鉢?	XV	F-9	Bb	丁家ミナギ	丁家ミナギ	にぶい・赤	黒	○	○		34901		99	
1573	不明	XV	B-4	Bb	ハケミ状の 横いナデ	ハケミ状の 横いナデ	黒	黒	○	○		48512		99	
1574	壺	XV	D-8	Bb	横いナデ	丁家ミナギ	にぶい・赤	黒	○	○		45261		99	
1575	壺	XV	D-16	Bb	ミナギ	横いナデ	黒	黒	○	○		5600		99	
1576	壺	XV	D-12	Ba	丁家ミナギ	ナデ	にぶい・赤	成灰	○	○		5269	赤土原料	99	
1577	浅鉢	XV	D-12	Ba	丁家ミナギ	ナデ	にぶい・赤	成灰	○	○		5224		99	
1578	浅鉢	XV	C-12	Bb	ナデ	丁家ミナギ	にぶい・赤	黒	○	○		11699		99	
1579	浅鉢	XV	F-28	Bb	ナデ	横いナデ	成灰	成灰	○	○		100054		99	
1580	浅鉢	XV	E-9	Bb	ミナギ	ミナギ	にぶい・赤	黒	○	○		2700		99	
1581	鉢	XV	B-24	Bb	横いナデ	横いナデ	にぶい・赤	成灰	○	○		36881		99	
1582	浅鉢	XV	D-10	Ba	ナデ	横いナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		22664		99	
1583	壺	XV	D-11	Ba	ナデ	ナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		5344		99	
1584	壺	XV	C-35	Ba	丁家ミナギ	ナデ	にぶい・赤	にぶい・赤	○	○		104064		99	
1585	壺	XV	C-37	Ba	横いナデ	横いナデ	赤	黒	○	○		102657		99	
1586	壺	XV	C-30	Ba	ナデ	ナデ	にぶい・赤	黒	○	○		100314		99	
1587	壺	XV	E-9	Bb	横いナデ	丁家ミナギ	成灰	成灰	○	○		48288		99	
1588	壺	XV	E-23	Bb	ナデ	丁家ミナギ	黒	にぶい・赤	○	○		56101		99	
1589	壺	XV	E-8	Ba	ナデ	-	にぶい・赤	横いナデ	○	○		22007		99	

第四章 縄文時代前期から弥生時代初頭の石器

概要

Ⅲ層～Ⅴ層の包含層から出土した石器・石製品等については、帰属時期が縄文時代前期末から弥生時代初頭に該当する。石器組成から土器との共存関係を明確に示すことが難しい点もあるため、ここではこれらの資料を一括して報告する。出土層が明確でない石器類についても、残存状況が良いものについては一部掲載している。遺跡全体の出土土器の総量に占める割合が最も高く、出土区(1～20区)が重なる縄文時代後期前半の石器・石製品が主体をなす可能性も考えられる。

包含層や石器の帰属時期が縄文時代前期末から弥生時代初頭に該当する包含層以外の出土の石器・石製品等の総数は3,609点であり、622点を図化し掲載した。

器種別の内訳は、石鏃100点、石錐9点、石匙23点、スクレイパー25点、二次加工剥片11点、使用痕剥片17点、石核・原石11点、磨製石斧125点、打製石斧(扁平打製石斧)48点、礮器13点、磨石・敲石類118点、石皿34点、砥石17点、擦切石器8点、石鏃45点、石製品6点、軽石加工品12点である。

なお、石器の出土状況(分布)については第2-130図～第2-133図、石材及び石器分類については凡例、石材や出土層、計測値等の詳細については、石器観察表(第2-19表～第2-28表)を参照いただきたい。

包含層出土石器の状況

石鏃(第2-134図～第2-138図 S229～S328)

S229～S328は、石鏃及び石鏃未製品の可能性があるものである。すべて凹基無茎鏃または平基無茎鏃に該当する。形状や部位の特徴、残存状況によってⅠ～Ⅴ類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅳa層33点、Ⅳb層54点、Ⅴ・Ⅴa層4点、Ⅴ層1点である。

I類 S229～S249は、形状が三角形で基部と側縁の長さの比が1.2倍以内に収まる。基部は平基または浅い挟りがある。身部の側縁が直線的なものと外湾するものがある。S229は、やや横長で基部に浅い挟りをもつ。S230は、正面左側縁から右側縁に長い剥離面が延びる。S231は、大きな剥離で成形後、正面の左側縁を微細な剥離で整形する。S232は、両面を大きな剥離で成形後、正面の両側縁を微細な剥離で調整する。S233は、先端を欠損する。正面の欠損部に剥離がみられ再加工されている。S234は両面を丁寧な剥離で成形後、微細な剥離で整形する。S235は、大きな剥離で整形され、先端を欠損する。S236は、両面を丁寧な剥離で整形する。S237は、裏面左側縁の剥離が疎であり、基部に半円形の浅い挟りを整形

する。S239は、正面の周縁、裏面は全体を丁寧に剥離整形する。基部には緩やかな弧状の挟りを整形し、先端は欠損する。S240～S242・S244は、素材剥片の形状を残す。両面の側縁や基部を剥離によって整形し、主要剥離面が残存する。S240・S241は基部に弧状の浅い挟りを整形し両脚の先端が尖る。S242は半円形の浅い挟りをもつ。裏面左側縁に剥離がみられないため未製品の可能性が残る。S243は、裏面の右側縁から中心に剥離が延びる。基部に浅い半円形の挟りをもち、両脚は「U」字状となる。S244は、両面とも素材剥片の周縁を剥離整形し、主要剥離面が残存する。S245は、素材剥片を多方向から整形し、基部にごく浅い挟りがある。S246は、正面が丁寧な剥離、裏面は周縁のみ整形を施し、主要剥離面が残存する。基部にごく浅い挟りをもつ。S247は、両面の周縁を剥離成形し、主要剥離面が残存する。基部は平基で先端を欠損する。S248は、厚みのある剥片の両面を大きな剥離で整形する。基部にごく浅い挟りが入る。S249は、両面が大きな剥離で整形され先端部を欠損する。基部にごく浅い挟りをもつ。

S229・S249は黒曜石C類製、S230・S231・S235は黒曜石A類製、S234は黒曜石B類製、S233・S238は頁岩A類製、S240は頁岩B類製、S232・S236・S237・S239・S241・S245～S247の8点は安山岩A類製、S244・S248の2点がチャート製、S242・S243の2点は、玉髄製である。

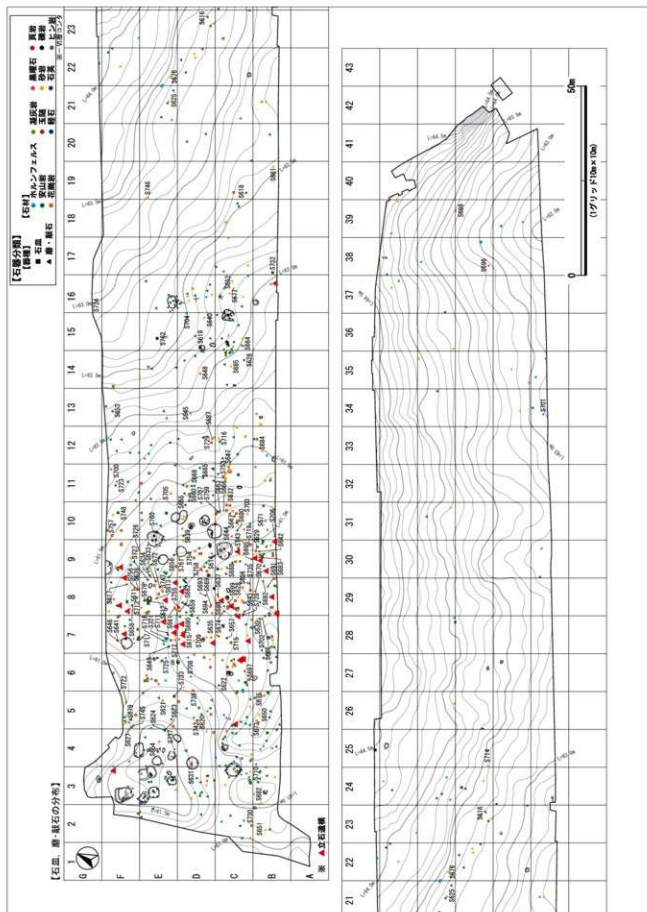
II類 S250～S266は、形状が二等辺三角形でやや身部長く、基部辺と側縁の辺の長さの比が1.2倍以上になる。基部は平基もしくは浅い半円形の挟りを整形する。部分磨製石鏃や磨製石鏃を含む。

S250・S251は、側縁の押圧剥離が細かく、S252～S256は大きい。S255・S256は、残存長が4cmを越える大型の石鏃である。一端の脚部を欠損するが、逆「U」字状の深い挟りをもつ。S257～S260は、両面とも両側縁のみ整形する。素材剥片の特徴を残し、主要剥離面が残存する。S258は、側縁が鋸歯状となる。

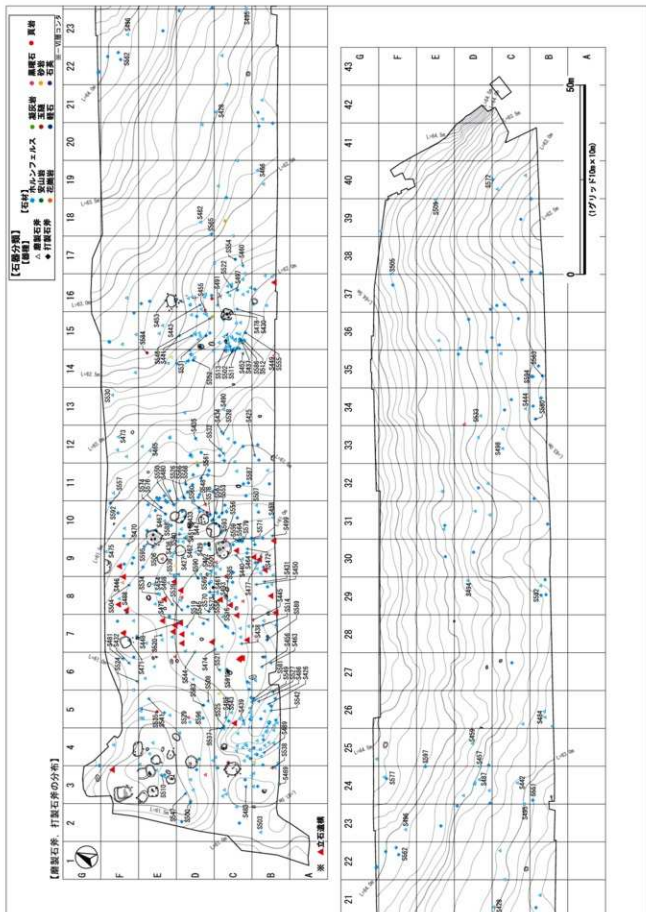
S261とS265は、基部に対して側縁の長さの比が約2倍近くある。

S262～S265は、部分的に研磨を施した部分磨製石鏃である。S262、S263は両面、S264は正面のみ研磨され、裏面は主要剥離面が残る。研磨後に剥離調整が行われる。S262～S265はいずれも最大厚の付近が研磨される。後期前半の可能性が高い。

S266は、磨製石鏃である。全面に研磨痕が残る。S257・S258は平基、他は基部に浅い挟りをもつ。S255・S260は平基で先端を欠損する。S252・S254～S256・S259・S261・S266は基部を欠損する。



第2-130図 縄文時代前期～弥生時代初期の石器分布図 (1)



第2-131図 縄文時代前期～弥生時代初期の石器分布図(2)

S250・S255の2点は黒曜石C類製、S252は黒曜石B類製、S257～S259・S265の4点は頁岩B類製、S253・S254・S256・S261～S264の7点が安山岩A類製、S260はホルンフェルス製、S266はチャート製である。

Ⅲ類 S267～S289は、基部に深い挟りを整形する凹基錐である。形状は、側縁が外湾し紡錘形となるもの、二等辺三角形となるものがある。基部の両脚が尖るもの、丸みのあるものがある。側縁が鋸歯状となるものも含む。S267～S272は、側縁が外湾し、挟りが半円形または山形となる。S273～S278は、側縁がほぼ直線状またはわずかに外湾し、基部の挟りは半円状もしくは山形となる。

S285～S289は、剥離調整によって側縁が鋸歯状となる。S270・S274・S276・S279・S281・S286・S287・S288・S289は先端を欠損する。S275は、先端を欠損後、再加工した剥離痕がみられる。S267・S274・S276・S278・S280・S281・S283・S284・S285・S287・S288・S289は、基部を欠損する。

S267・S269・S287・S289の4点は黒曜石C類製、S275・S286の2点は黒曜石D類製、S288は黒曜石E類製、S281は黒曜石A類製である。S268・S272・S274・S284・S285の5点が安山岩A類製である。

Ⅳ類 S290～S307は、側縁が外湾する紡錘形のもの、側縁の途中に角(頂点)をもつ五角形錐、側縁下部から基部が張り出すいわゆる「ロケット」状のもの、側縁がわずかに内湾するものを含む。

S290は、両側縁が外湾し基部付近が最大幅となる。S291～S299は、側縁に角をもつ五角形錐である。S290～S294・S296～S298は、平基である。S295は、基部にごく浅い挟りをもつ。S299は、基部に山形の深い挟りをもつ凹基錐である。S300～S305は、側縁下部が内湾し、基部の両脚が張り出す「ロケット」状のものである。S300・S302・S303・S305は、基部に半円形状の挟りがある。S306・S307は、側縁の中央がわずかに内湾し、基部に浅い挟りをもつ。

S291・S300・S304の3点は黒曜石C類製、S294・S302・S303の3点はチャート製、S290・S292・S293・S295～S297・S299・S301・S305～S307の11点が安山岩A類製、S298は頁岩A類製である。

V類 S308～S328は、欠損のため分類することが難しいものや未製品の可能性があるものをまとめた。S308～S311は、基部を欠損する。S312は、基部の一端、S313～S320は、先端と基部を欠損する。S321～S328は、製作途中で欠損した未製品の可能性がある。S322は、下端をつまみとする石匙か、錐部とする石錐の未製品の可能性がある。S321は、正面右側縁を刃部とする掻器の未製品の可能性もある。S327は基部の整形、S328は両面とも剥離整形が進んでいない。

S308～S310・S312・S314・S318～S320・S322・S325の

10点は黒曜石C類製、S313・S326の2点は黒曜石D類製、S316・S317・S321の3点が黒曜石A類製である。

石錐(第2-139図 S329～S337)

S329～S337は、石錐である。素材剥片の一端に両面左右から丁寧な剥離を加え、小さく突起する錐部を作っている。錐部の断面形状は、菱形や三角形に近い。

掲載した遺物のうち包含層のものはすべてIVa・IVb層から出土している。

S329・S330は、逆三角形に成形される。S329は、微細な剥離によって整形され、正面の一部に自然面が残存する。S330は、両面の下端に微細剥離を施し、錐部を作り出す。S331～S333は、剥片の先端につまみ様の成形がなされる。S332・S333は、横長剥片を利用し、両面側縁に剥離を行い、刃部を整形する。菱形で主要剥離面が残存する。S334は、錐部が長く、素材剥片の両側縁から横方向の剥離によって整形される。つまみ部と先端部を欠損する。S335は、素材剥片の形状をよく残し、上面は整形剥離によって平坦に仕上げられる。錐部は微細な剥離によって整形される。S336は、縦長剥片を利用し、正面は右側縁、裏面は両側縁からの剥離によって整形される。錐部には回転痕が顕著である。S337は、器面全体が大きな剥離によって成形された後、つまみ様で丸みを帯びる上端と錐部が微細な剥離によって整形される。錐部に回転痕はみられないが形状から石錐と判断した。

S329は黒曜石A類製、S330・S332・S334の3点は安山岩A類製、S331・S336・S337の3点が玉髄製である。

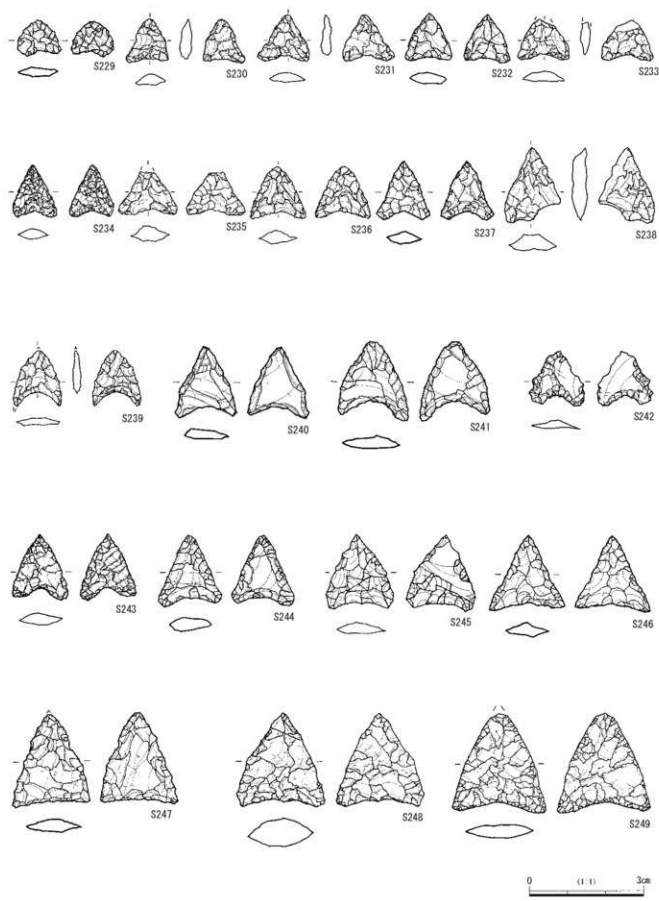
石匙(第2-140図～第2-143図 S338～S360)

S338～S360は、石匙である。素材剥片の上端につまみ部を整形し、剥片の下縁や側縁の両面に剥離調整を加え、刃部を作り出す。形状によって2類に分類した。

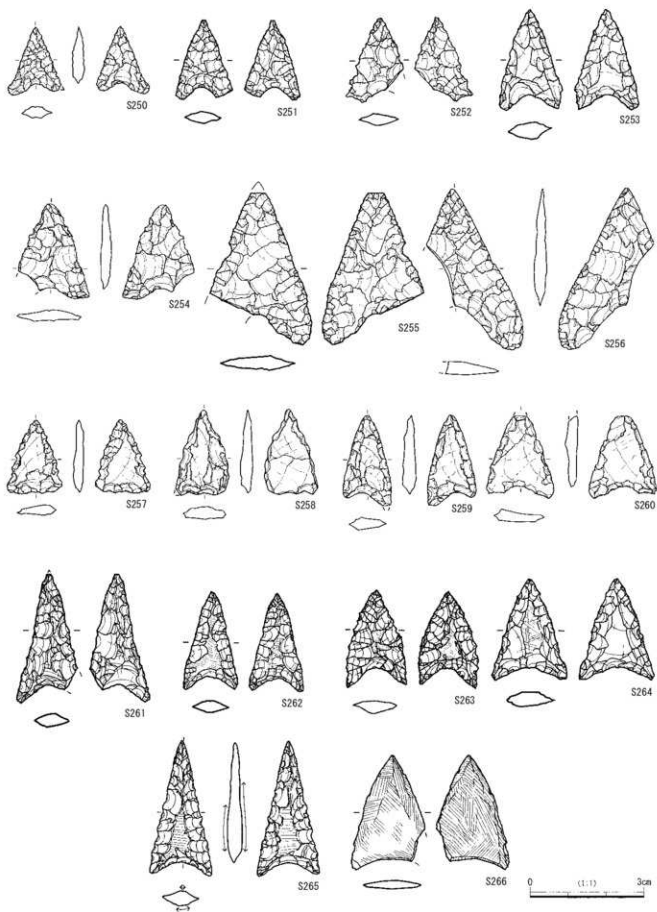
掲載遺物における出土層の内訳は、IVa層3点、IVb層16点である。

I類 S338～S343は、縦型で、刃部が側縁に整形されるものである。S338は、素材剥片の厚みがある部分につまみ部を成形し、刃部は両面から丁寧な剥離によって仕上げられる。S339・S340は、両面ともつまみ部と刃部の整形剥離が顕著で主要剥離面が残存する。

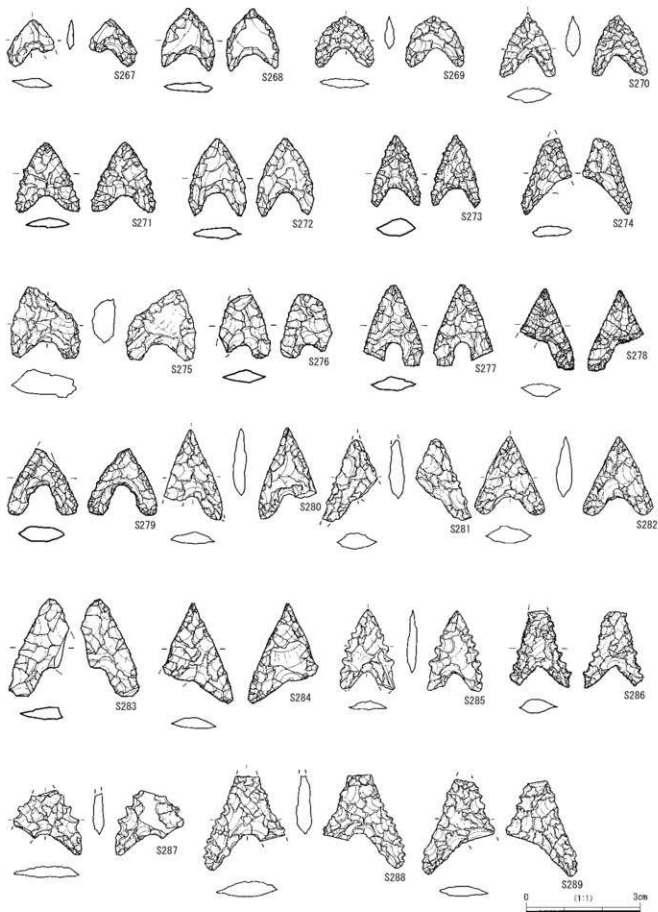
S341は、縦長剥片を利用し、剥片先端に両面からの剥離によって幅広いつまみ部が整形される。刃部は剥片の打点側、正面の右側縁にのみ整形される。S342は、縦長剥片の先端に両側縁からの剥離によってつまみ部を作り出し、刃部先端を欠損する。下縁に向かうにつれ中央部の刃部角は浅く鋭利となる。主要剥離面が残存する。つまみ部の幅は、S338・S339はやや小さく、S340～S342は幅広い大きく作られる。S343は、明瞭なつまみ部がみられない。石匙として分類したが、スクレイパーの可能性



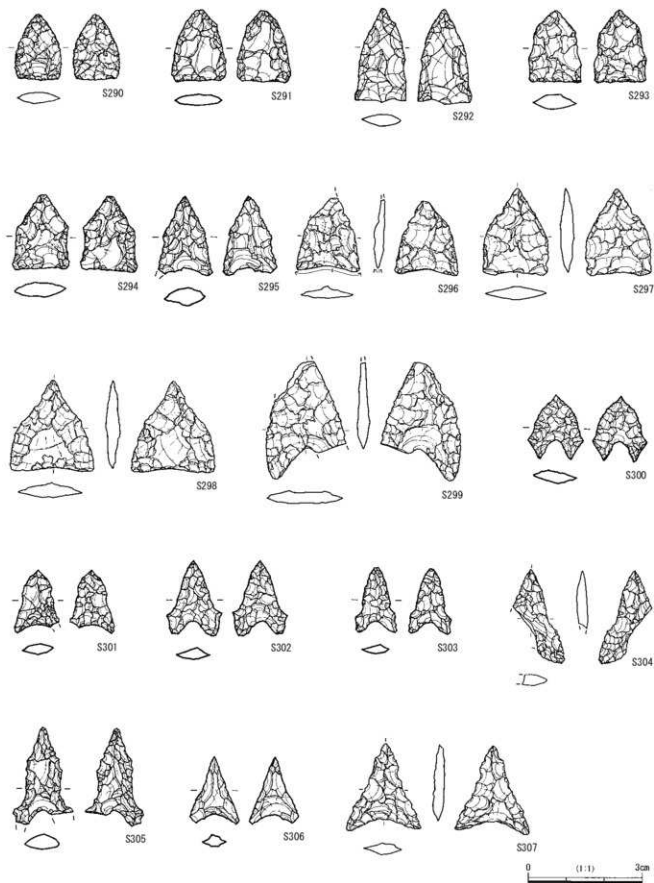
第2-134図 石鏃(1)



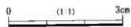
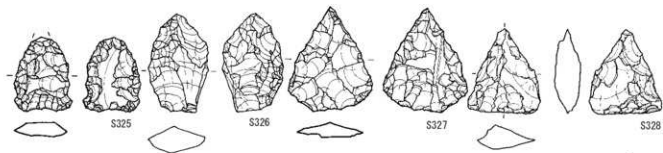
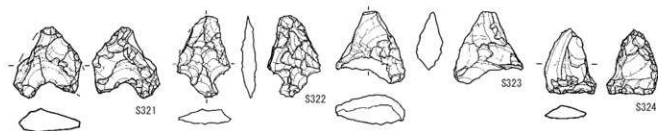
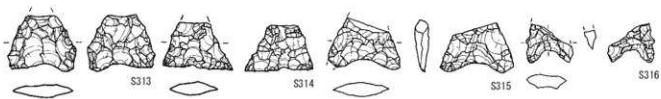
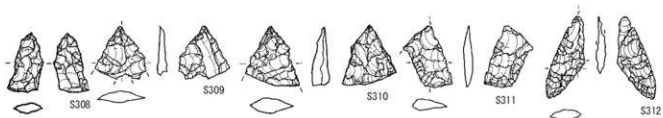
第2-135图 石鏃(2)



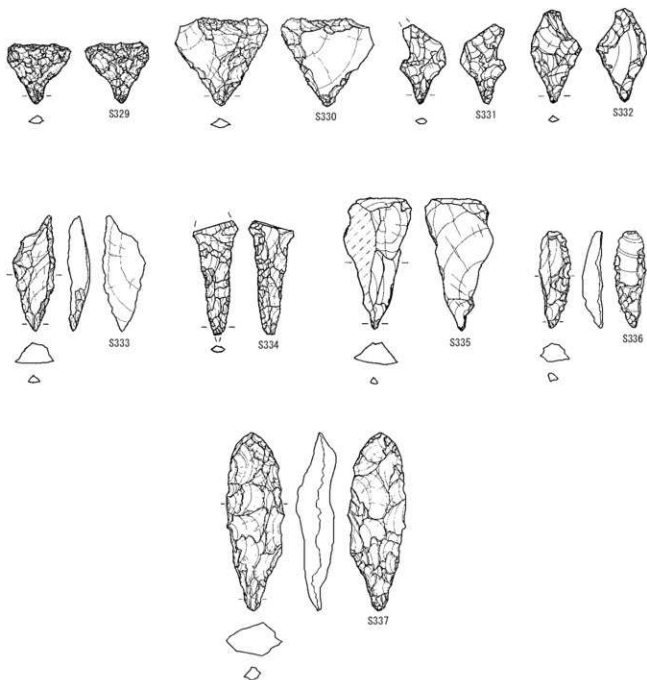
第2-136图 石簇 (3)



第2-137图 石簇(4)



第2-138图 石簇(5)



第2-139図 石錐

が残る。

S338・S340・S343は玉髓製、S339・S341・S342はチャート製である。

Ⅱ類 S344～S360は、基本的に横型で刃部が下縁に整形されるものである。S344～S349は、刃部が直刃状となる。S344・S345は小型の石匙である。S344は、正面のつまみ部や刃部の整形剥離は密に施されるが、裏面は両側縁の一部にとどまり、主要剥離面が残存する。S345は、

両面とも丁寧な剥離によって整形され、刃部が作り出される。刃部に対してつまみ部が大きく刃部には厚みがある。S346は、体部の平面形が三角形となる。S347は、厚みのある剥片を素材とし、刃部はやや幅広の剥離によって整形される。刃部に対してつまみ部が大きく、刃部角は鈍い。S348は、剥片の形状をよく残し、つまみ部と刃部の整形に伴う剥離が顕著である。正面のつまみ部上端には微細な剥離が集中し、主要剥離面が残存する。

S349は、剥片を幅広の剥離によって成形後、微細な剥離で仕上げている。素材の形状をよく残し、主要剥離面や自然面が一部残存する。S350～S356は、刃部が丸みを帯び弧状となる。S350は、つまみ部を欠損する。両面とも整形剥離が長く延び、厚みを減じつつ刃部を作出する。S351は、素材剥片の打点側につまみ部を作出したと考えられ、両面とも成形剥離が密である。刃部の剥離は疎であることから未製品の可能性も残る。S352は、つまみ部と正対して刃部は斜状となる。I類とII類の中間的な形状であるがII類に含めた。剥片の両側縁から幅広の剥離によって整形後、つまみ部と刃部は微細剥離によって仕上げられる。S353は、小型の石匙である。大きさに対し厚みのある剥片が用いられ、刃部は両面からの丁寧な剥離によって整形される。S354～S356は、横長剥片を利用したと考えられ、素材剥片の打点側につまみ部を作り出す。刃部は両面からの剥離によって整形され、主要剥離面が残存する。S357～S359は、体部の平面形が角張り、四角形に近い形状のものである。いずれも主要剥離面を残し、刃部を微細剥離によって整形する未製品の可能性がある。S360は、刃部整形の剥離が両面から密に施される。つまみ部を欠損している可能性があることから石匙として分類した。S353は黒曜石B類製、S354は黒曜石A類製、S344は石英製、S345・S347・S350・S351・S356・S359・S360の7点は玉髓製、S346・S349の2点は安山岩C類製、S352・S355・S357・S358の4点がチャート製である。

スクレイパー (第2-144図～第2-146図 S361～S385)

S361～S385は、スクレイパーである。原石や石核等から剥出した剥片の縁辺に両面または片面から微細な剥離による調整を加え、刃部を作り出している。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層2点、Ⅳa層4点、Ⅳb層18点、Ⅴa層1点である。

S361～S375は、縦長で刃部が側縁から下縁に整形される。S361は、やや厚みのある小型の縦長剥片を用い、正面側の左側縁、右側縁下半、上端に微細剥離による調整が行われる。S362は、正面の左側縁の片面のみ微細剥離がある。S363は、正面の右側縁、裏面は左側縁にほぼ同じ幅の剥離がみられる。裏面の右側縁は微細剥離が連続する。S364は、上端につまみがあつた可能性がある。S365は、縦長剥片を利用し、正面の右側縁、裏面の左側縁に剥離がみられる。正面には自然面が残る、正面左側縁に微細剥離がある。使用に伴う擦痕が顕著である。

S366は、両面とも側縁から剥離調整が行われ、上部は両面から微細剥離によってつまみ部にみえる整形がなされる。S367は、縦長剥片を利用し、両面ともに側縁から微細剥離によって調整される。周縁に使用による擦痕がみられる。形状から縄文時代早期の可能性もある。S368

は、厚みのある縦長剥片を利用し、正面は左側縁と下縁の一部、裏面は左側縁下部と右側縁上部に微細な剥離を施し、刃部を整形する。敲打痕がみられることから剥離後に刃潰しが行われた可能性がある。S369は、正面に風化面が残存し、裏面は左側縁を剥離によって成形する。厚みを減じためと考えられる。刃部は成形部分に微細剥離によって仕上げられる。S370は、正面の右側縁、裏面の左側縁に剥離を施し、刃部を整形しており、使用痕もみられる。裏面の右縁に微細な剥離が連続する。S371は、正面の右側縁、裏面の左側縁を剥離整形によって刃部を作り出す。S372は、正面の右側縁に両側から交互に整形剥離を施し刃部とする。

S373は、両面ともに側縁部に微細な剥離がみられる。S374は、正面の両側縁、裏面の左側縁に微細剥離があり、正面には自然面が残存する。S375は、正面左側縁と裏面の右縁に剥離がみられる。S369～S375は、打製石斧などの破片を再加工し、スクレイパーとして利用した可能性がある。

S376～S385は、基本的に横長で下縁に刃部が整形されるものである。S376・S377は、横長の剥片を利用し、下縁部の両面に剥離を行い、刃部を整形する。S376は、上面に自然面が残存し、S377は、上面に微細な剥離を施し厚みを減じている。S378は、両面とも球心状の剥離がみられる。周縁に微細な剥離がみられることから楔形石器の可能性も残る。S379・S381は、自然面が残る横長の剥片を利用し、正面の剥片末端に連続する微細な剥離がみられるのに対し、裏面側の微細剥離は疎である。

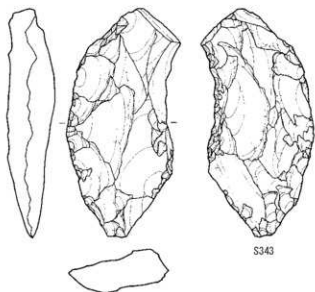
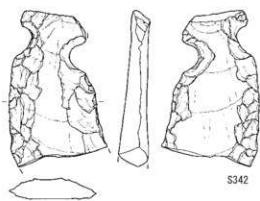
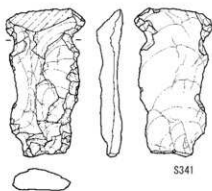
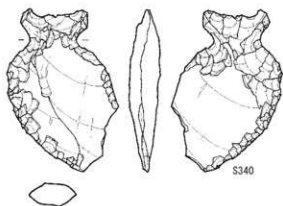
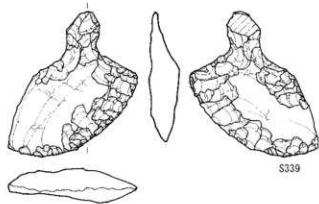
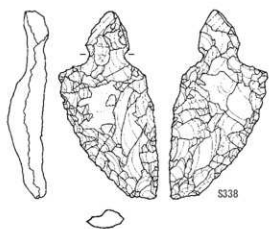
S380は、両側縁と下縁に微細な剥離によって刃部を作り出している。S382は、裏面の右縁が幅の広い剥離によって成形された後、微細な剥離が行われている。S384は、横長の剥片を利用し、下縁の両面に微細な剥離を行い刃部としている。S385は、横長の剥片下縁に片面に裏側から微細な剥離を施し、正面の一部に自然面が残る。

S361は、黒曜石D類製である。S362は、黒曜石E類製である。S363は頁岩A類製、S364・S365・S370・S374の4点は頁岩B類製、S367は頁岩C類製、S366・S369・S371～S373・S379～S382・S384の10点はホルンフェルス製、S375・S376の2点は安山岩C類製、S377は玉髓製、S378はチャート製、S368・S383・S385の3点は砂岩製である。

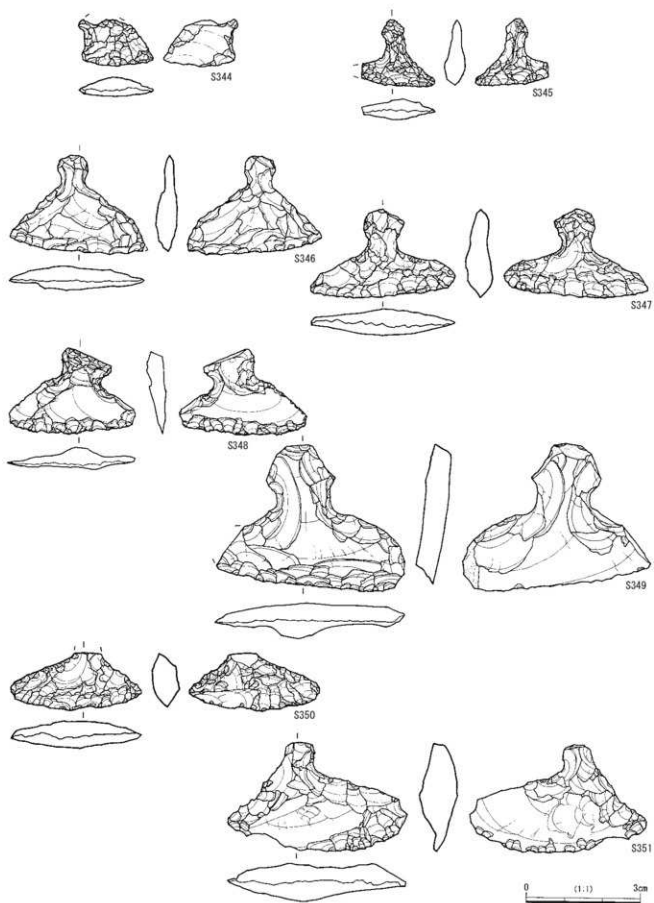
二次加工剥片 (第2-147図 S386～S396)

S386～S392は、二次加工剥片である。素材剥片に対し、二次加工とみられる剥離痕のあるものである。

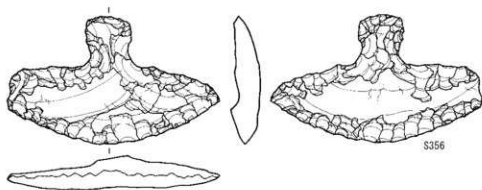
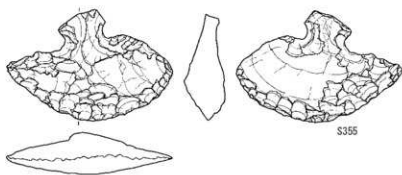
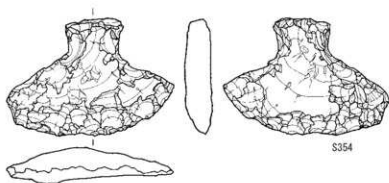
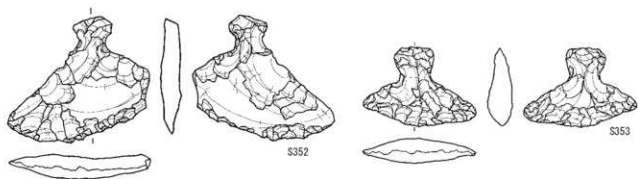
石器製作時に生じた副産物の可能性があるものを含んでいる。明瞭な微細剥離などの調整や使用痕はみられないが、包含層から安山岩や頁岩等の剥片が多く出土したことから掲載した。



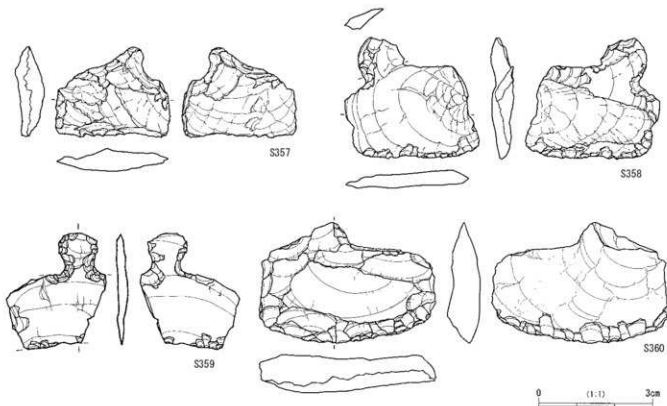
第2-140图 石匙(1)



第2-141图 石匙 (2)



第2-142图 石匙 (3)



第2-143図 石匙 (4)

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層 4点、Ⅳa層 1点、Ⅳb層 3点、Ⅴa層 2点である。

S386は、両面から微細な剥離による調整を行っており、石錐の欠損品の可能性もある。S387は、正面の側縁の剥離はよく延びており中央に稜を形成する。裏面も同様の剥離調整が行われ、主要剥離面が残存する。石匙の欠損品の可能性もある。S388は、上端に二次加工がみられ、S389は、左上端と右側縁に二次加工がある。左上端に潰れがみられることから楔形石器の可能性もある。S390は、正面の左側縁と上端、裏面の下端に微細な剥離が集中する。S391は、両面の周縁から中心に向かって剥離が行われ、側縁の一部には敲打痕もみられる。正面には自然面が残る。石槍の未製品の可能性もある。S392は、正面の右側縁と裏面の左側縁に微細剥離が集中する。打製石斧の欠損品を転用した可能性がある。

S393・S394・S395は剥片である。S396は、剥片末端の両縁に微細な剥離がみられる。

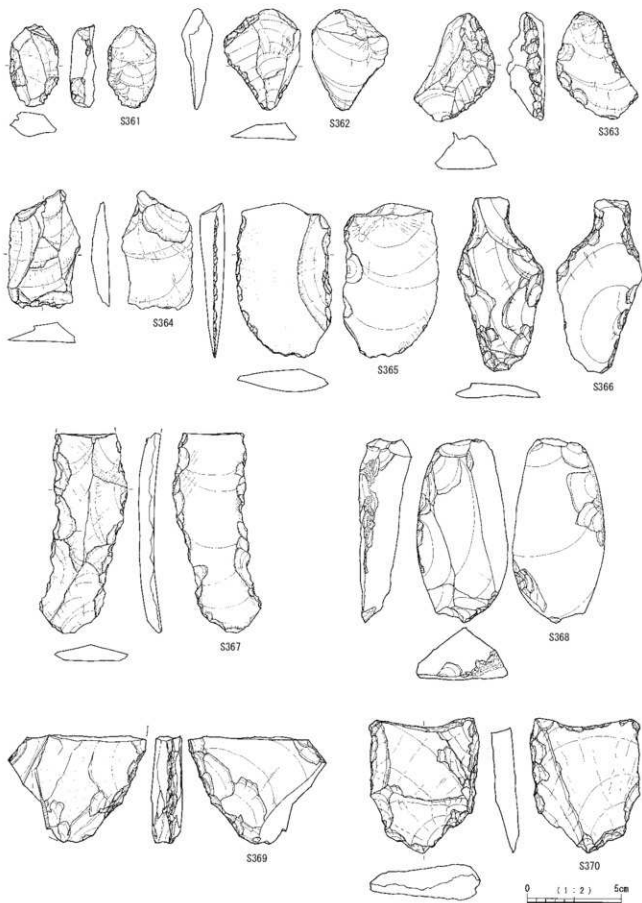
S387は、黒曜石D類製である。S388は、黒曜石B類製である。S389は、黒曜石A類製である。S390は鉄石英製である。S391・S392は、ホルンフェルス製である。S386・S393・S396は、安山岩C類製である。S394・S395は、頁岩B類製である。

使用痕剥片 (第2-148図・第2-149図 S397~S413)

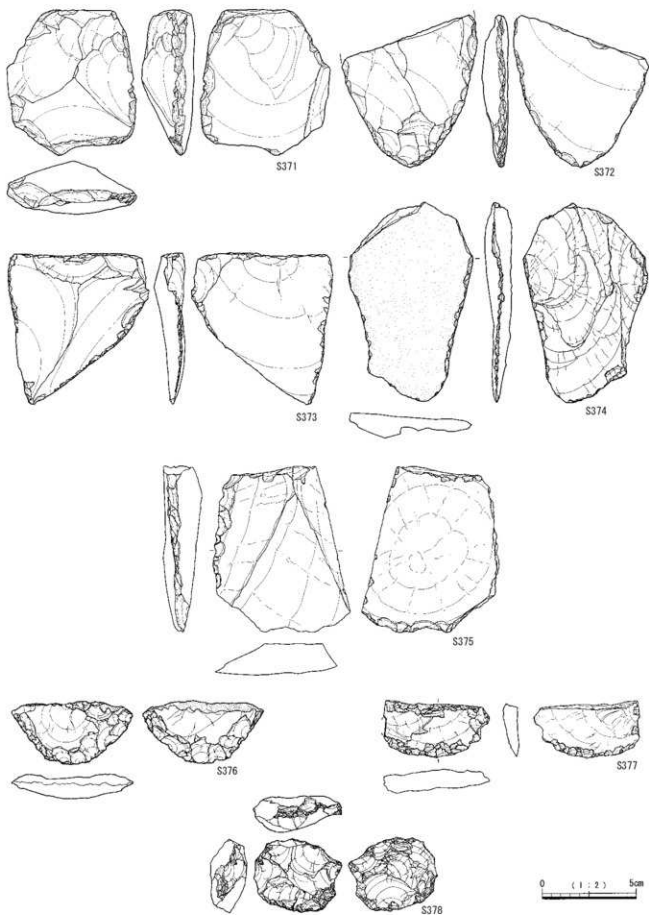
S397~S413は、素材剥片に微細な剥離など、刃こぼれ状の使用痕がみられるものである。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層 6点、Ⅳa層 1点、Ⅴ層 2点、Ⅴa層 7点である。

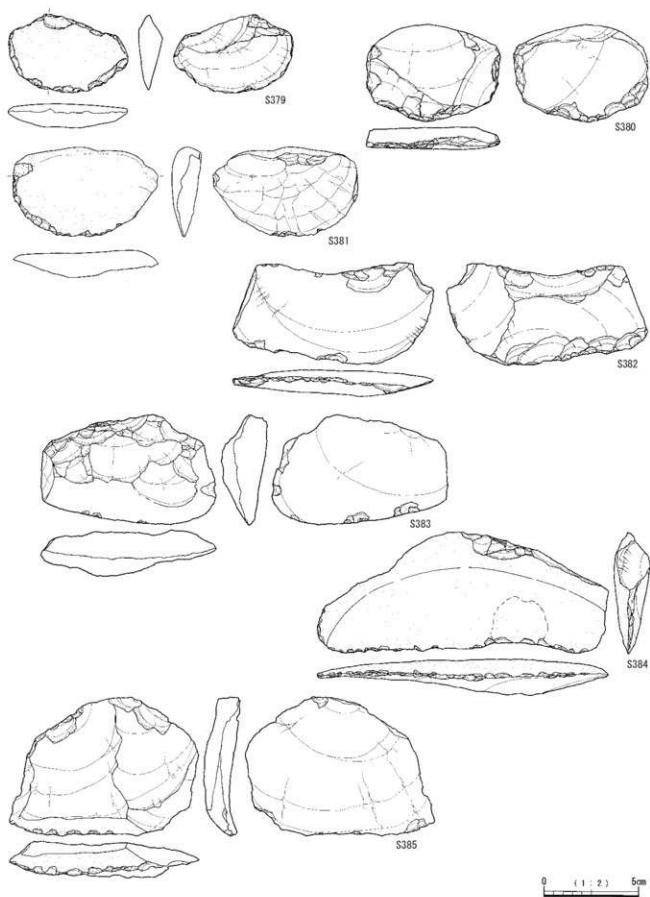
S397~S401は、側縁や下縁の一辺に使用痕がみられるものである。S397は、正面の右側縁に使用痕がみられる。正面に節理面と古い剥離面がある。S398は、やや縦長の剥片を用い、下縁に微細剥離がみられる。上縁と左側縁上部にも加工痕がある。S399は、台形状の剥片末端の最も薄い部分に使用痕がある。S400は、正面の側縁に使用痕があり、表面には節理面がある。S401は、やや厚みのある剥片の左側縁に微細剥離がみられ、正面には自然面が残る。正面の稜線に摩擦痕、裏面の先端・稜線に線状痕と摩擦痕がみられる。S402は、厚みのある剥片の下端に使用痕がみられ、表面の下縁には微細剥離がある。右側面は折断されたと考えられる。S403は、正面には複数の剥離があり、上面と正面の一部に自然面が残る。剥片の下縁に使用痕があり、両面とも微細剥離がみられる。S404は、両面の両側縁に微細な剥離がある。S405~S413は側縁と下縁、上縁と下縁、両側縁など、二辺または三辺に使用痕がみられる。S405は、剥片の打面側、厚みのある部分に使用痕がみられる。



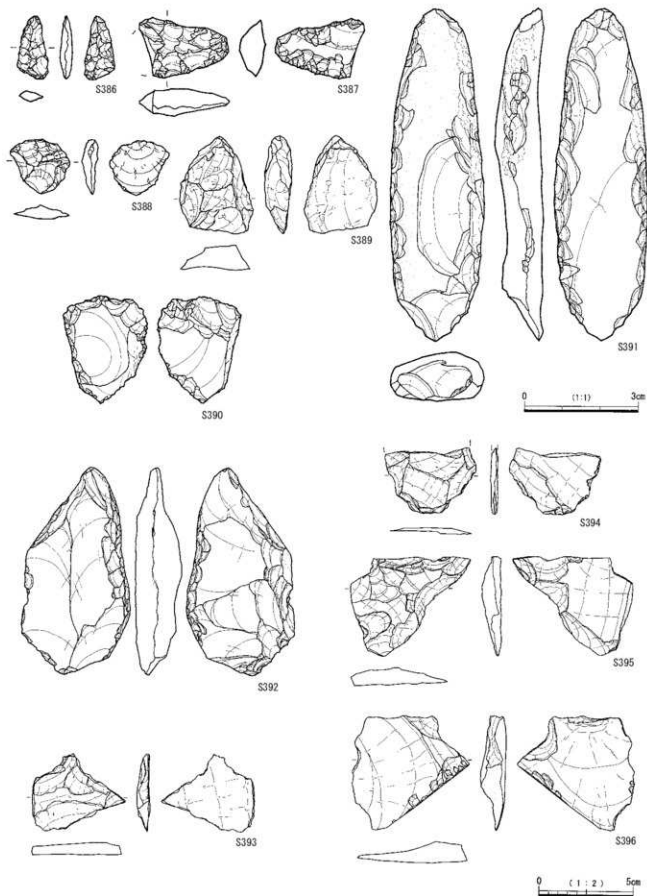
第2-144図 スクレイバー (1)



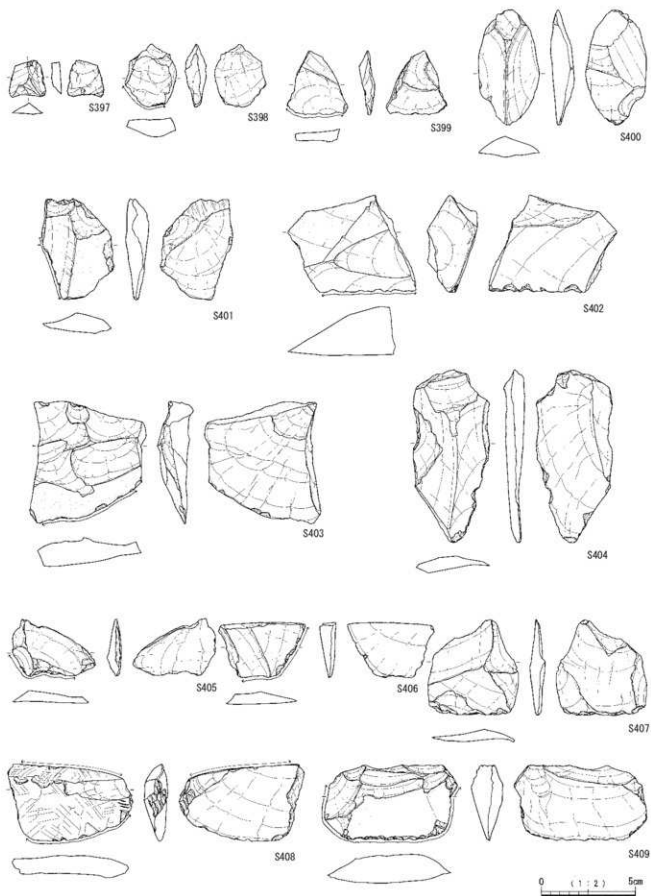
第2-145図 スクレイパー (2)



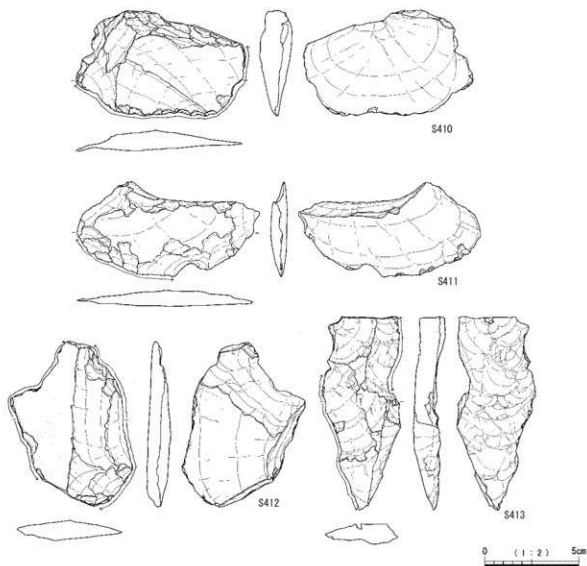
第2-146図 スクレイバー (3)



第2-147图 二次加工刮片



第2-148回 使用痕剥片(1)



第2-149図 使用痕剥片(2)

S406は、剥片末端の最も鋭利な部分に使用痕があり、正面の右側縁には微細な剥離がみられる。煤が付着している。S407は、剥片の下縁と側縁に使用痕、下端の両面に微細な剥離がある。S408は、剥片の厚みがある上面端と最も厚みの薄い末端に使用痕がみられる。裏面の左側縁には微細な剥離が集中する。形状から磨製石斧の破片が再利用されたと考えられる。S409は、正面の下縁に微細な剥離があり、左右側縁と下縁の稜線に摩耗痕がみられる。

S410・S411は、横長剥片の下端、最も厚みの薄い部分に使用痕がある。S410は両面、S411は裏面の下縁に微細な剥離がある。S412・S413は両側縁に使用痕がみられるものである。S412は、使用痕がみられる両側縁の断面が鋭角となる。S413は、縦長剥片を利用しており、正面の

右側上部は階段状に大きく剥離しており、使用痕は剥離後の側縁にみられる。

S397はチャート製、S398・S413の2点は玉髄製、S399・S402・S406の3点は安山岩C類製、S400・S401・S404・S405・S407・S409・S412の7点は頁岩B類製、S403・S410・S411の3点はホルンフェルス製である。S408は、砂岩製である。

石核・原石（第2-150図、第2-151図 S414～S424）

S414～S424は、石核・原石である。礫及び分割礫を素材とし、小型の剥片が剥出されたものを石核、剥出されていない自然礫のものを原石とした。原石については、石器製作の原料として遺跡に持ち込まれた時点の大きさがわかるものを2点図化した。

掲載遺物における出土層の内訳は、IVa層1点、IVb層5点、Va層3点である。原石はV・Va層2点である。

S414・S416～S418は、残核と考えられる。S414は、打面転移を繰り返し、上面は左右、正面は上下、裏面は上・右方向など多方向から剥離を行っている。S415は、不純物を多く含み、剥片剥離が平滑に進まなかった可能性がある。重円礫を素材とし、打面・作業面以外に自然面が残存する。S416は、正面は上方向、裏面は上下左右に打面転移を繰り返し、多方向から剥離が行われたことが窺える。S417は、上面・正面・裏面ともに少なくとも2方向からの剥離痕がみられ、一部に自然面が残存する。S418は、正面には上方向から剥離痕があり、上端に微細な剥離が集中する。裏面は上下2方向からの剥離がみられる。上面の一部に自然面が残る。S419は、重円礫を素材としており、礫の長軸端部に連続する剥離がみられるが、剥片剥離は進んでいない。

S420～S422は、礫面を打面として剥片の剥離が繰り返されている。S420は、正面に上下方向、裏面に下方向からの剥離がある。正面の剥離が行われた後、上面左側と下端部に微細な剥離が行われている。打面や作業面を調整した可能性があるが、礫の可能性が残る。S422は、上面は左右2方向、正面から右側面にかけては上方向、右側面が上・左方向、裏面は下・右方向からの剥離がみられる。

S423・S424は、原石である。

S414は黒曜石C類製、S415～S417の3点は黒曜石A類製、S418はチャート製、S419・S423・S424の3点は石英製、S420～S422の3点はホルンフェルス製である。

磨製石斧（第2-152図～第2-173図 S425～S549）

S425～S549は、磨製石斧である。形状や大きさ、残存状態によってI～VI類に分類した。なお、本遺跡出土の磨製石斧は、伐採具や加工具として使用された後、敲打具（敲石）や両極石器（楔形石器）として転用されたものが多い。欠損後に再加工し転用されたもの、欠損前に意図的に再加工し転用されたことが想定される。

本節では、本来の磨製石斧として使用された形態を基本として分類を行い、各類ごとに磨製石斧から敲打具や両極石器として転用された経過をたどれるように掲載している。掲載遺物における出土層の内訳は、III層2点、IV層3点、IVa層16点、IVb層95点、IVc層1点、V・Va層5点である。

I類 形状が撥形をなし、刃部の幅に対して基部の幅が細くなるものである。体部の断面は楕円形で厚みがあり、刃部付近が最大幅となる。いわゆる乳棒状石斧を含む。I類には、完形となるものがない。

S425～S427は、基部から体部を残し体部途中から刃部を欠損する。S425は、研磨で整形され両面と側面の境は弱い稜をなす。下端の両面に刃部破断時の剥離面を残す。S426は、敲打整形後、研磨によって仕上げられ、刃部を欠損する。S427は、基部先端がやや幅広である。器面の一部に剥離整形痕が残る、全体に敲打整形痕がみられる。下面に敲打による潰れ、下端には剥離が残ることから、刃部を破断後、敲打具として転用されたと考えられる。

S428～S433は、刃部を欠損し、基部の先端に剥離がみられる。S428は、剥離整形後、敲打によって仕上げられる。基部の両面には小さな剥離が集中し、端部は敲打による潰れが確認できる。敲打具として転用されている。S429は、剥離成形後、敲打整形を行い研磨によって仕上げられ、表面と側面の境は弱い稜をなす。基部の両面に剥離が集中し、上端は潰れているため敲打具として転用されている。S430は、器面の一部に敲打整形痕が残る、研磨によって仕上げられる。基部上端に剥離と敲打による潰れがみられ、敲打具に転用されたと考えられる。

S431は、器面の一部に剥離成形と敲打整形痕が残る。基部上端に剥離が集中する。S432は、一部に整形剥離痕を残す。研磨によって整形される。基部上端に剥離痕と敲打による潰れ、刃部側の下面には敲打による潰れがみられる。敲打具として転用されたと考えられる。S433は、剥離・敲打による整形痕をわずかに残し、研磨によって仕上げられる。刃部破断後の下端には剥離と敲打による潰れがみられる。敲石として転用された可能性がある。基部先端に赤色顔料が付着する。

S434は、敲打と研磨によって整形され、敲打痕が顕著である。基部及び刃部を破断し、刃部側の破断面に敲打痕と潰れがみられることから敲石として転用されている。

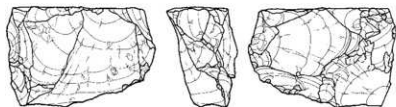
S435～S439は、基部及び刃部の破断面に敲打痕や潰れがみられるため、楔形石器などの両極石器または敲石に転用されたと考えられる。S435は、敲打による整形後、研磨によって仕上げられ、基部・刃部の両端に複数の剥離面がみられる。

S436は、敲打整形と研磨によって仕上げられ、正面と側面の境が弱い稜をなす。基部・刃部の両端に複数の剥離面があり、下面には微細剥離と潰れがみられる。S437は、敲打整形と研磨によって整形され、基部と刃部の両端に複数の剥離面がある。剥離面には敲打痕がわずかに残る。基部の上端に潰れがみられることから敲打具として転用された可能性がある。S438は、両側面からの剥離成形痕をよけ、敲打によって整形される。基部・刃部の両端に微細剥離がみられ、刃部側には潰れがみら

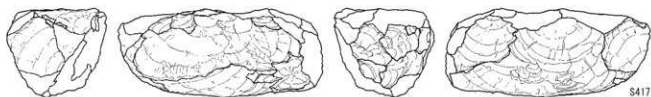


S414

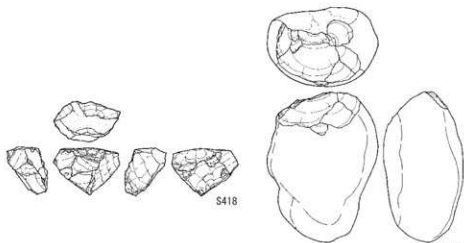
S415



S416



S417

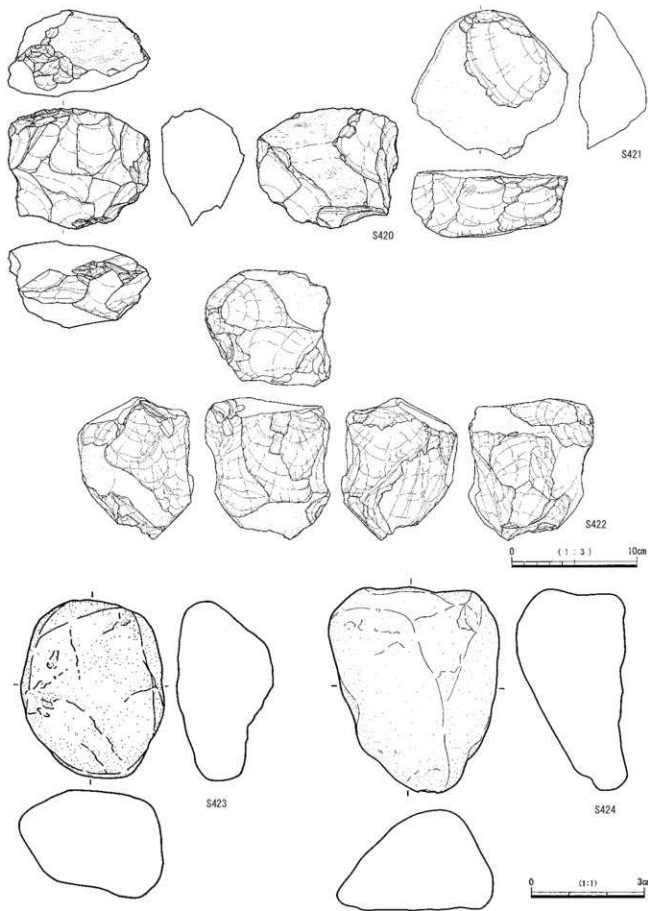


S418

S419



第2-150図 石核・原石(1)



第2-151図 石核・原石(2)

れる。S439は、基部・刃部の両端に明瞭な敲打痕がみられ、敲石として利用された可能性がある。

S440は、敲打と研磨によって整形されている。基部の裏面と刃部の正面に剥離が集中する。刃部は敲打によって丸みを帯びるほど潰れており、敲石として転用されたと考えられる。

S441は、基部及び刃部を欠損する。基部は横方向、刃部は下方向からの加撃によって破断されており、刃部側には微細剥離もみられる。I類の欠損品である。

I類は、すべてホルンフェルス製である。

II類 形状が楕円形または台形をなし、刃部の幅に対し、基部の幅が細くなる。体部の断面は両面にやや丸みがあるが、両側面が研磨によって平滑に仕上げられるため、扁平な楕円形や方形状となる。刃部は両刃（給刃）である。いわゆる定角式磨製石斧を含む。

S442～S446は、完形である。S442は、正面の上部右側と裏面上部中央に成形剥離が残る。側面部を中心に敲打痕があり、全体を研磨によって整形する。両面と側面の境が後をなし、刃部に刃こぼれがみられる。S443は、正面の両側と裏面の左側面に成形剥離が残る。敲打整形痕がわずかに残り、全体が研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は弱い後をなし、基部に複数の剥離がみられる。S444は、正面の両側、裏面の左側面に成形剥離を残す。正面の中央、裏面の下部に敲打による整形痕がみられる。両面と側面の境は明瞭な後をなす。

S442～S444はいわゆる定角式石斧である。

S445は、石材の性質上、両側面からの成形剥離痕をよく残す。敲打整形痕が両面・側面全体にみられ、研磨によって仕上げられる。刃部には使用痕がある。S446は、光沢をもつほど丁寧に磨きあげている。両面・側面の一部は敲打によって凹み、基部端にも敲打痕が集中する。敲打具として転用されたと考えられる。短身であり、刃部が作り直された可能性もある。S447は、基部もしくは基部に近い部分の破片の可能性もある。

S448～S452・S454は、刃部を欠損する。S448は、敲打整形後、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境に明瞭な後をなし、厚みがある。両面の下端に複数の剥離、敲打痕が集中しているため、敲打具として転用されたと考えられる。S449は、敲打整形後、研磨によって仕上げられ、両面から側面の下端にかけて下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面に敲打痕がみられ、敲打具として転用されたと考えられる。

S450は、敲打整形後、研磨によって仕上げられ、裏正面と側面の境が後をなす。基部の両面に複数の剥離があり端部は潰れている。両面から側面の下端に下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられ、敲打具として転用されている。S451は、剥離成形後、敲打整形と研磨によって仕上げられ、基部の両

面には複数の剥離がみられる。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられるため敲打具として利用されたと考えられる。S452は、右側面に剥離成形後、器面全体に敲打整形痕を残す。基部の両面に複数の剥離がみられ、端部は摩滅する。両面から側面の下端には下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられ、敲打具として転用されたことが窺える。S453は、敲打整形と研磨によって仕上げられている。基部の両面に複数の剥離と敲打痕がみられる。刃部破断後の剥離面には敲打が集中することから敲石として転用されたと考えられる。S454は、剥離成形後、敲打整形、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は後をなす。基部・刃部ともに両面にわたって複数の剥離がある。剥離面に敲打痕がみられるため敲打具や両極石器として転用されたと考えられる。S455は、刃部片である。敲打成形後、研磨整形される。両面と側面の境は明瞭な後をなし、基部側の正面は剥離が延び、剥離面に敲打痕がみられる。刃部の裏面にも複数の剥離があり、端部は潰れている。敲打具として利用されたことが窺える。

S456は、両面と側面の境が明瞭な後をなす。基部端と刃部が両面剥離によって再加工され、剥離面には敲打痕が残存する。敲打具として再利用されたと考えられる。

S457～S477は体部～刃部片または刃部片である。

S457は、研磨整形され、両面と側面の境が明瞭な後をなす。刃部端に微細な刃こぼれがみられる。S459は、側面に敲打整形痕が残る。S460は、基部を欠損する。正面や側面の一部に敲打整形痕が残り、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が後をなす。

S461は、正面が敲打整形と研磨によって仕上げられ、裏面は剥離面と敲打痕がみられ、刃部の研磨は剥離面に及ぶ。基部は両面から細かい剥離があり、刃部端には使用による刃こぼれがみられる。S462は、敲打整形痕がわずかに残り、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が後をなし、刃部端には両面とも刃こぼれ状の剥離がみられる。S463は、研磨によって整形される。両面と側面の境が後をなす。基部の正面左側と裏面右側に複数の剥離があり端部は刃潰れしている。刃部は両面にわたる剥離があり、敲打による潰れが認められる。敲打具として利用されたと考えられる。

S464は、敲打整形後、研磨によって仕上げられる。正面と側面の境が後をなす。基部側の両面に細かい剥離があり、基部の上面に敲打痕が密に残る。刃部端にも刃こぼれ状の剥離、敲打による潰れがみられる。敲打具として転用されたことが窺える。

S465～467は、両面に敲打整形後、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は後をなす。基部の上面には複数の剥離と敲打痕、刃部の両面には細かい剥離が連続し、端部に敲打による潰れがみられる。

S468・S470～S473は、敲打整形痕が残し、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなし、基部の両面に複数の剥離と敲打による潰れがある。刃部は両面に剥離があり端部は敲打によって潰れている。敲打具として利用された可能性がある。

S469は、正面に剥離成形痕を残し、研磨によって仕上げられる。側面に敲打痕がのこり、両面との境に稜をなす。刃部は両面に複数の剥離と敲打による潰れがみられる。

S474は、わずかに敲打整形痕を残し、研磨によって仕上げられる。上面・下面の剥離面に敲打による潰れがみられる。側面は全周にわたって敲打痕がみられることから敲石として転用されたと考えられる。S475は、両面とも刃部から体部に向かって大きな剥離が延びる。

S476は上端から体部に向かって大きな剥離が延びる。使用時の加撃あるいは再加工によって生じたと考えられる。敲石に転用されたことが窺え、刃部端は密な敲打によって丸みを帯びる。S477は、敲打整形後、研磨によって仕上げられる。両面に剥離がみられるため敲石に転用されたと考えられる。側面・裏面に敲打痕が残し、正面中央は凹石のように浅くくぼむ。

Ⅱ類は、S445・S449・S455が珉岩B類製、S446は花崗岩製、その他はすべてホルンフェルス製である。

Ⅲ類 形状が楕形や台形をなし、体部の断面は楕円形や方形となる。全長が15cm以下の中型のものでⅡ類よりも小さい。

S478～S483は、ほぼ完形である。S478は、正面に敲打整形痕、裏面の側面に剥離成形・敲打整形痕を残す。研磨によって仕上げられ、両面と側面の境が弱い稜をなす。刃部端に刃こぼれがみられる。S479は、両面に剥離成形痕が明瞭に残り、敲打痕がわずかにみられる。研磨整形によって両面と側面の境が明瞭な稜をなす。刃部端が刃こぼれしている。S480は、正面の刃部側に剥離成形痕が残し、敲打と研磨によって整形され、基部及び刃部の両面と側面の境が稜をなす。

S481は、正面が敲打・研磨によって整形され、刃部に研磨痕が顕著である。正面の左側縁に微細な剥離がみられる。裏面は右側縁端の上部に敲打痕、下部に微細な剥離、刃部端に刃こぼれ状の剥離が集中する。右側縁と刃部は二次加工された可能性がある。S482は、縦長の剥片を利用し、正面は剥離成形後、敲打整形と研磨に拠って仕上げられる。裏面は両側縁からの剥離で整形される。刃部は両面とも研磨される。S483は、横長剥片を利用し、正面が敲打整形と研磨によって仕上げられる。裏面は敲打痕がみられず研磨されている。両側縁から剥離が施される。側縁には敲打痕がみられる。

S484は、正面・側面が敲打整形と研磨によって仕上げられ、裏面は剥離面のみで敲打・研磨痕はみられないが、

両側縁に剥離がみられる。使用によって欠損した後、再加工された可能性がある。S485は、正面が研磨され敲打痕はみられない。裏面は剥離面のみに残存することから、使用によって破断したと考えられる。側面には敲打による整形痕が残る。基部両面に大きな剥離と微細剥離がみられる。

S486～S491は、刃部片である。S486は、研磨によって仕上げられ、表面の左側縁に微細な剥離がみられる。両面と側面の境が稜をなす。S487は、敲打痕はわずかで研磨によって仕上げられている。側面に剥離痕がある。両面と側面の境が稜をなす。S488は、敲打整形痕はわずかで研磨されている。やや肉厚で、両面と側面の境が稜をなす。S489は、両面とも研磨痕のみ確認できる。基部上端には微細な剥離、刃部端に刃こぼれ状の剥離がみられる。S490は、研磨によって仕上げられ、両面と側面の境が明瞭な稜をなす。両面に刃面を2面もつ。S491は、正面が研磨され、裏面は剥離面を残す。刃部側の剥離は研磨によって摩滅していることから研ぎ直されたと考えられる。刃部端に刃こぼれがみられる。

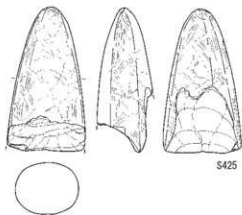
S492は、研磨によって整形される。両面と側面の境が稜をなす。両面に剥離痕がみられる。剥離痕を潰す敲打痕がみられることから、基部及び刃部を破断後、敲石として転用されたと考えられる。S493は、敲打と研磨によって整形される。基部端と刃部端に微細な剥離と敲打痕がみられることから、敲打具に転用されたと考えられる。

Ⅲ類は、すべてホルンフェルス製である。

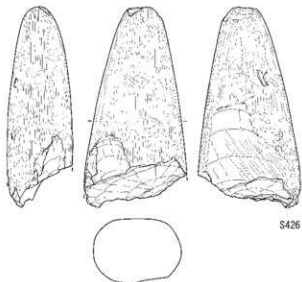
Ⅳ類 形状が楕形や台形、短冊形をなし、体部の断面は楕円形や方形となる。厚さが3cm以下で、Ⅲ類よりも薄いものである。

S494～S496は、完形もしくは完形に近いものである。S494は、基部と両側縁に剥離成形痕があり、研磨によって仕上げられる。S495は、両面の一部に剥離成形痕、敲打整形痕がみられ、研磨によって仕上げられる。刃部は直刃状で一部を欠損し、刃こぼれがみられる。S496は、剥離成形後、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなす。刃部に刃こぼれがみられる。磨製石斧V類-S508に類似している。

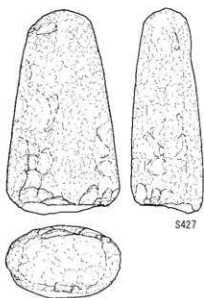
S497～501は刃部を欠損する。S497は、両面に剥離痕と敲打痕がわずかにあり、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなし、基部端には剥離がみられる。S498は、両面に敲打痕がみられ、研磨によって仕上げられる。やや短身である。正面の刃部剥離面が研磨されており、欠損後に研ぎ直されている。基部の側面と裏面の刃部に敲打痕がみられるため敲打具として転用された可能性がある。S499は、剥離成形後、敲打と研磨で整形される。両面に剥離と潰れがみられるため敲打具として転用されたと考えられる。



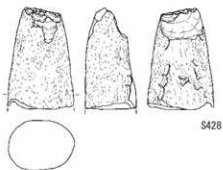
S425



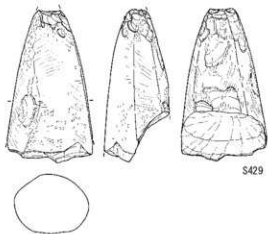
S426



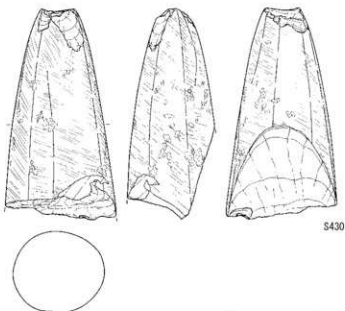
S427



S428



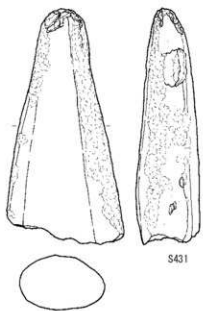
S429



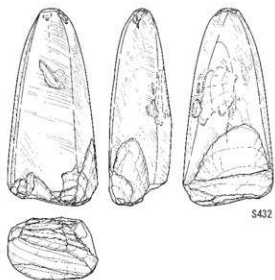
S430

0 (1:2) 5cm

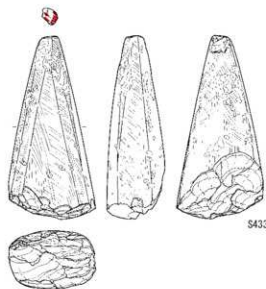
第2-152图 唐製石斧(1)



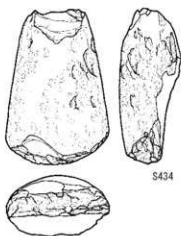
S431



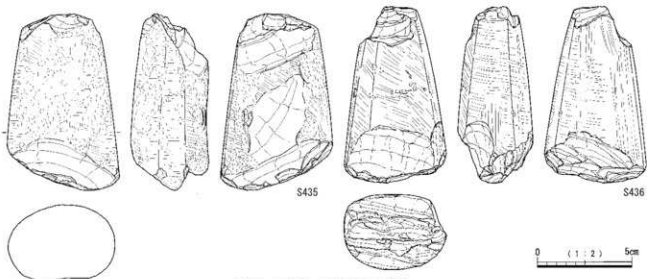
S432



S433



S434

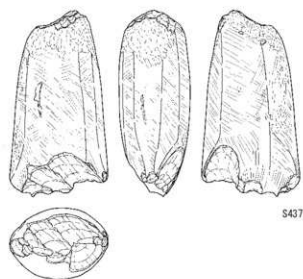


S435

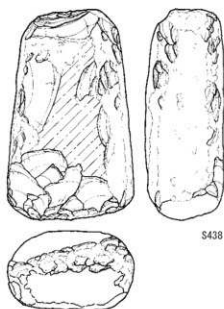
S436



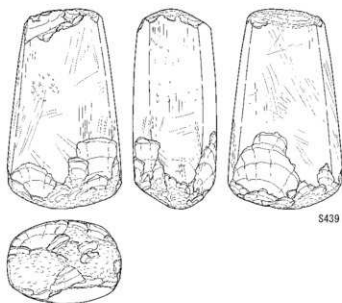
第2-153图 唐製石斧(2)



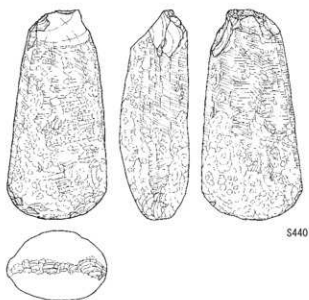
S437



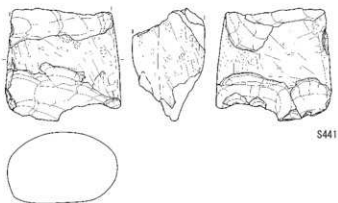
S438



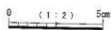
S439



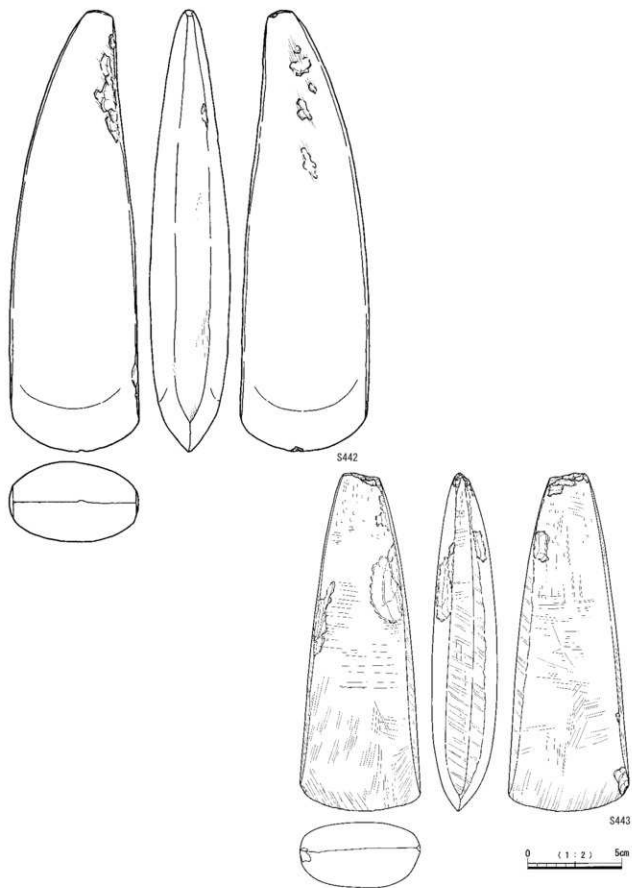
S440



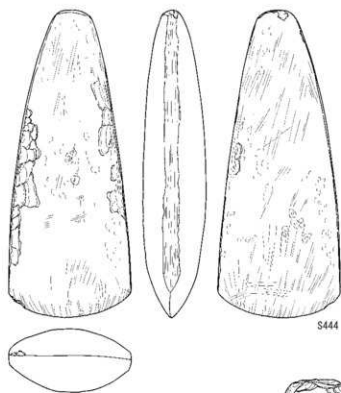
S441



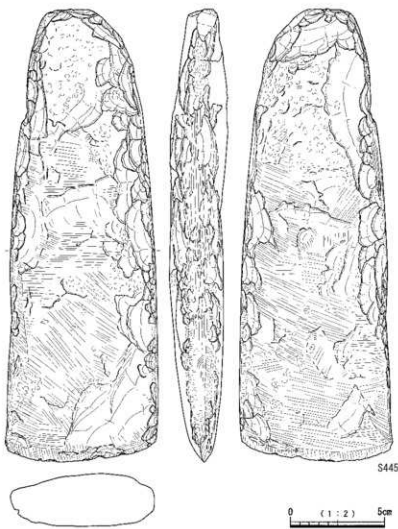
第2-154图 唐製石斧(3)



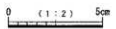
第2-155图 唐製石斧(4)



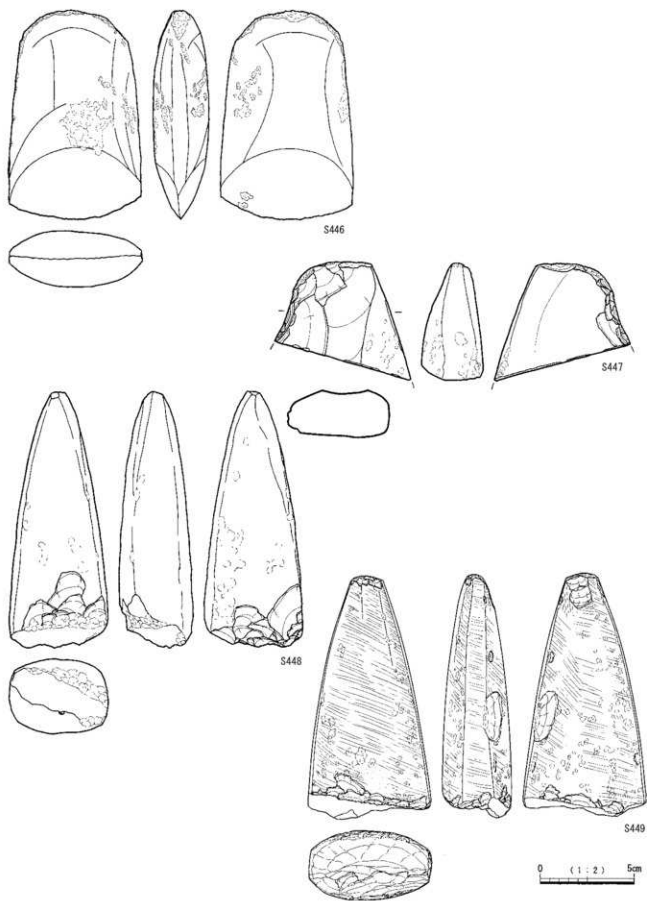
S444



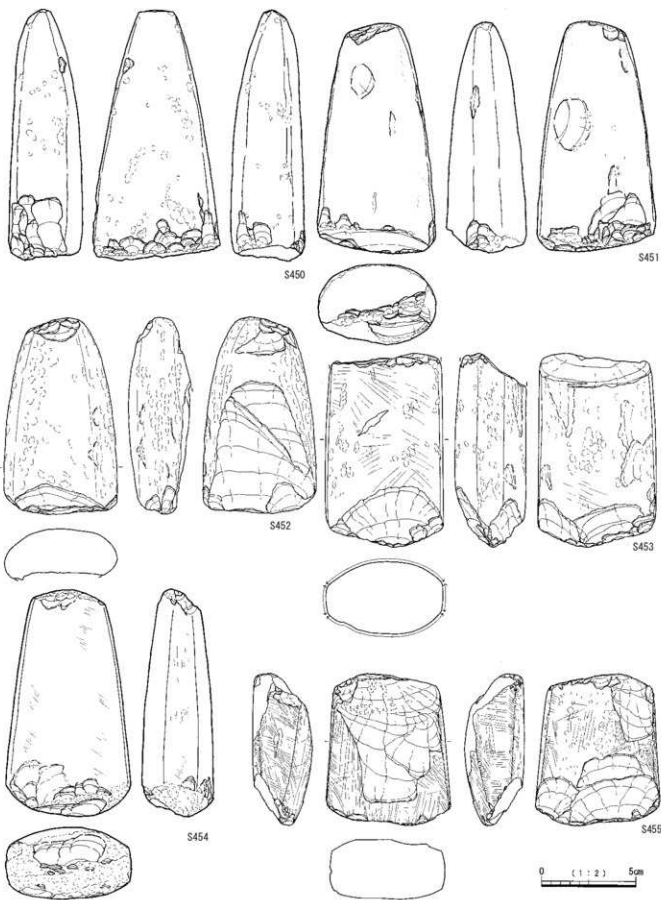
S445



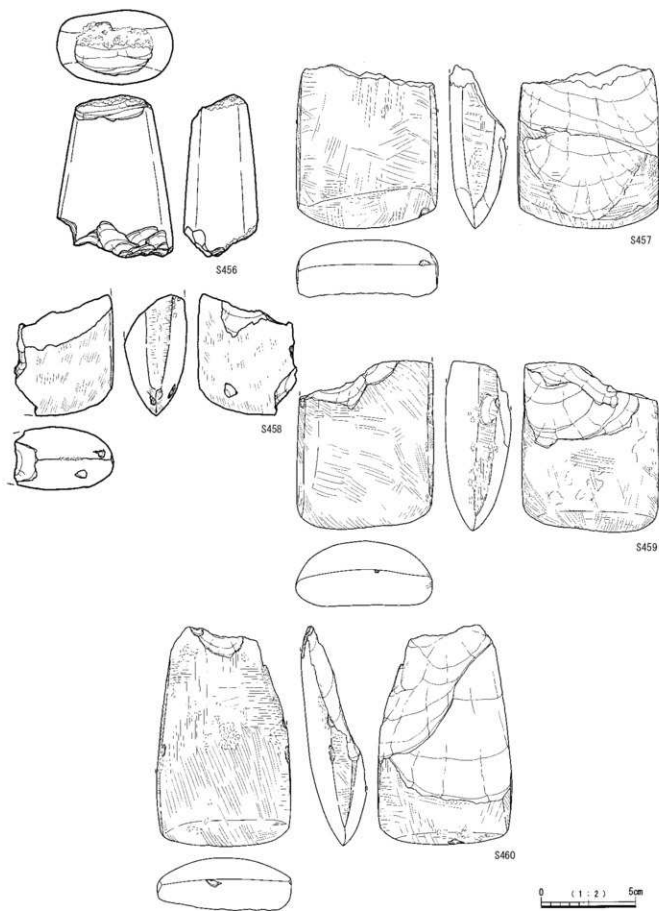
第2-156图 唐製石斧(5)



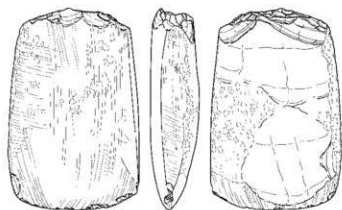
第2-157图 唐製石斧(6)



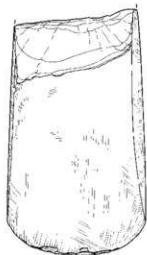
第2-158图 唐製石斧(7)



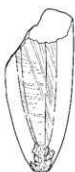
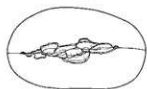
第2-159图 唐製石斧(8)



S461



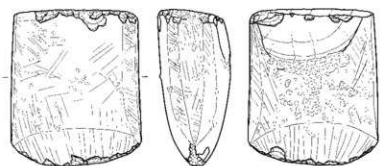
S462



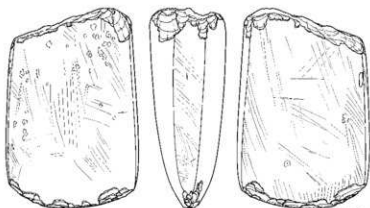
S463



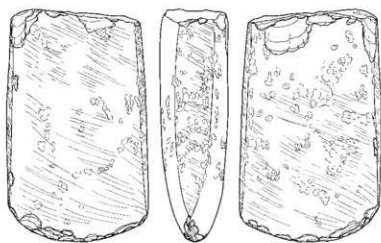
第2-160图 唐製石斧(9)



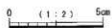
S464



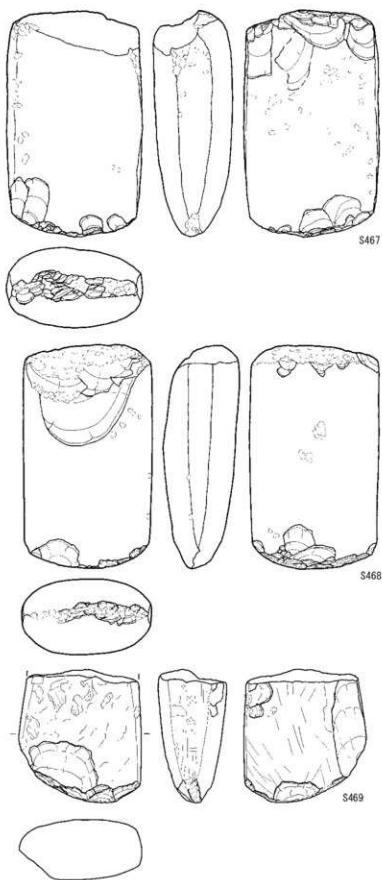
S465



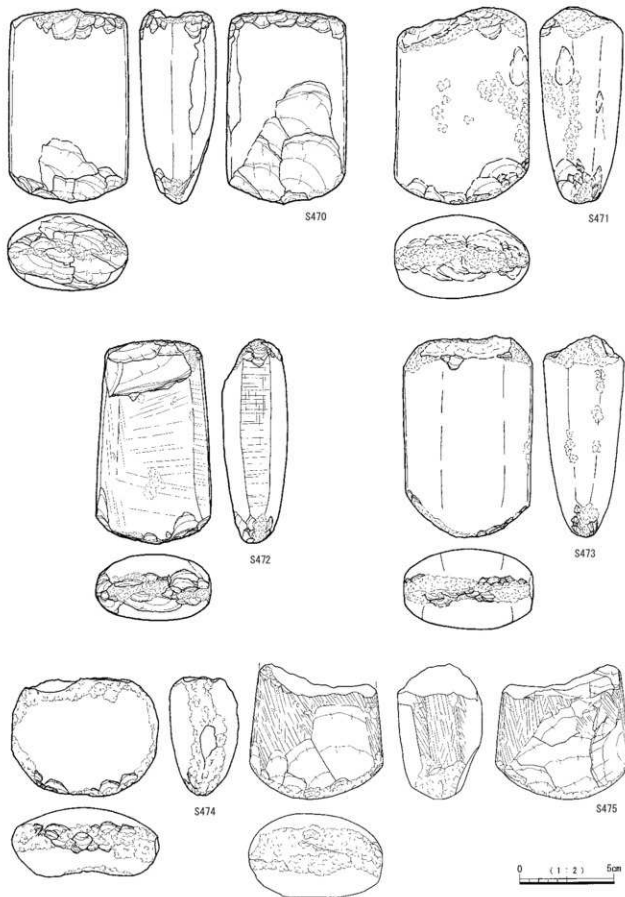
S466



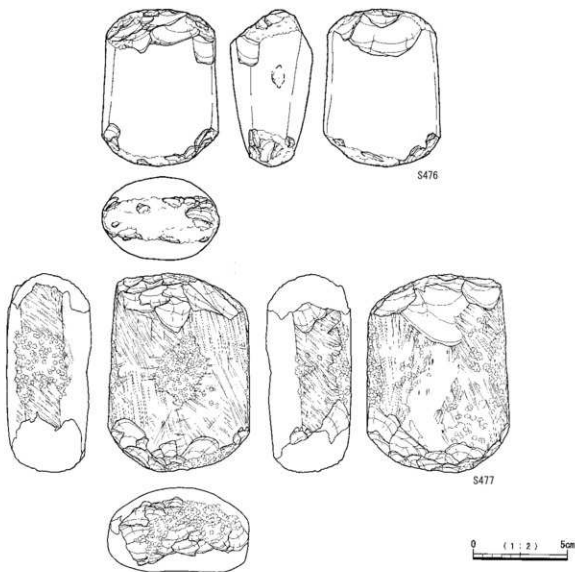
第2-161图 唐製石斧 (10)



第2-162图 唐製石斧 (11)



第2-163图 磨製石斧 (12)



第2-164図 磨製石斧 (13)

S500は、下半を欠損するが素材礫の形状をよく残す。正面下端に微細剥離と刃潰れがみられ、敲打具として転用されている。S501は、剥離成形されており研磨整形は目立たない。正面の右側面は研磨され両面の境が後をなす。S502は、基部を欠損する。剥離成形後、研磨整形される。両面と側面の境が明瞭な後をなす。刃部は直刃状で、正面は体部に向けて刃こぼれ状の剥離が延びる。S503は、基部と刃部を欠損しており、研磨で整形される。

S504～S507は、刃部片である。S504～S506は、研磨整形され、S504・S506は刃部端に使用による刃こぼれがみられる。

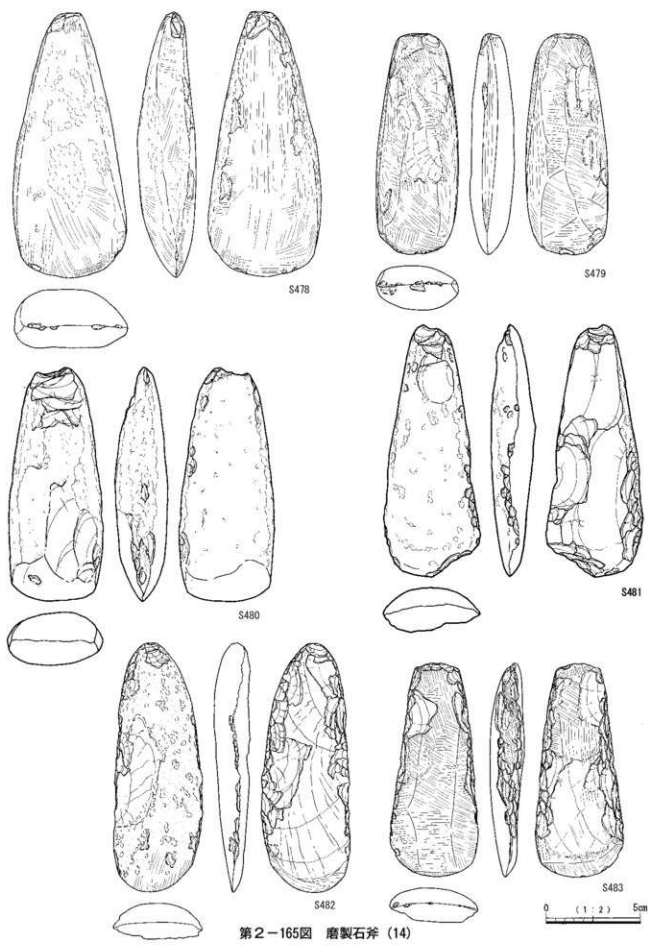
IV類は、S501・S506が頁岩B類製で、その他はすべてホルンフェルス製である。

V類 形状が楕円形や撥形、短冊形となり、断面は扁

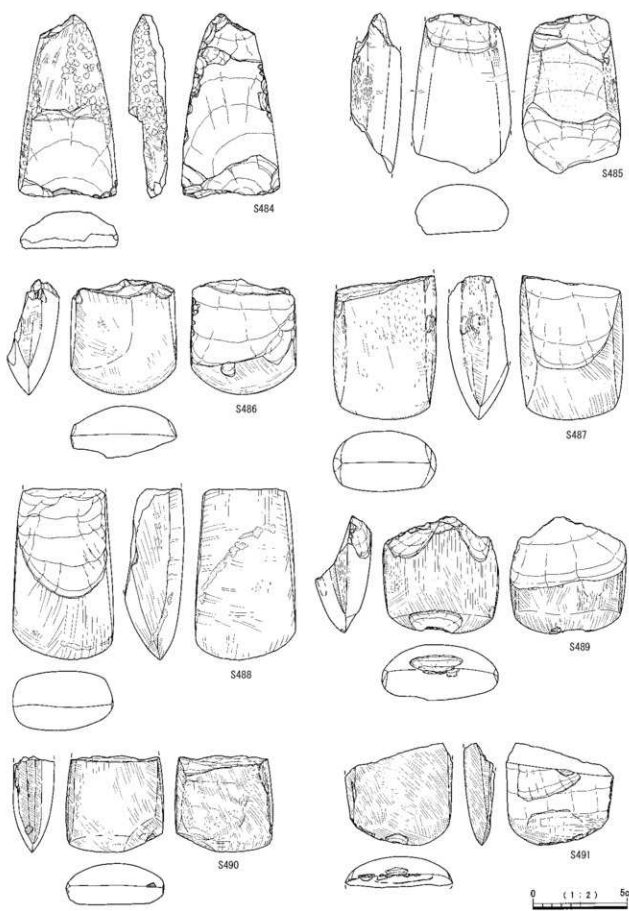
平な楕円形あるいは方形、円形となる。IV類より小型で加工具として使用された可能性のあるものである。いわゆる扁平片刃石斧や石鑿状のものを含む。

S508・S509は完形である。S508は、研磨整形され、刃部に微細な刃こぼれがある。磨製石斧IV類-S496に類似する。S509は、剥離成形後、敲打と研磨で整形される。

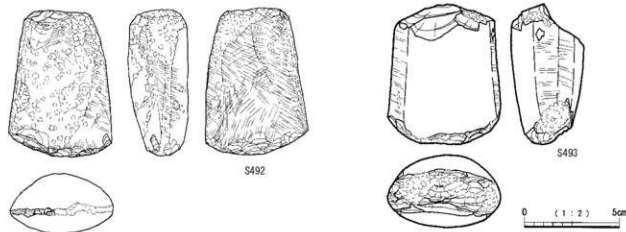
S510～S515は、基部を欠損する。S510は、剥離成形後、研磨整形され、両面と両側面の境が後をなす。S511は、全面を研磨によって整形し、両面と両側面の境が明瞭な後をなす。刃部は直刃状となる。S512は、剥離成形痕をよく残し、研磨整形される。正面と両側面の境が後をなし、刃部には微細な刃こぼれがみられる。S513は、敲打整形痕がわずかにあり、刃部は直刃状で研磨整形が顕著である。



第2-165图 磨製石斧 (14)



第2-166图 唐製石斧 (15)



第2-167図 磨製石斧 (16)

S514は、剥離成形後、研磨で仕上げられる。基部端と正面側の左側面に剥離がみられる。刃部の表面を欠損し、刃部端に微細な刃こぼれがある。

S515は、敲打整形痕がわずかに残り研磨整形される。両面と両側面の境は明瞭な稜をなし、基部を欠損する。S516は、刃部片である。両面に側縁からの剥離があり、刃部は直刃に研磨され微細な刃こぼれがみられる。

S517～S527は、柱状のものである。S517～S520は、ほぼ完形である。S517は、敲打整形後、研磨で整形される。刃部は片刃である。S518は、剥離成形痕と敲打整形痕がわずかにあり、研磨で仕上げられる。両端に片刃の刃部が研ぎ出され、両端とも刃こぼれしている。S519は、剥離成形・敲打整形痕がわずかにあり研磨整形される。基部を欠損し、刃部は片刃である。S520は、剥離成形痕がわずかにあり、研磨整形される。両端に円刃で両刃となる刃部が研ぎ出され、両端とも刃こぼれしている。

S521は、刃部を欠損する。研磨整形され、基部端に微細剥離がみられる。S522は、基部から刃部に向けて幅が広がる。研磨整形され、基部先端と刃部を欠損する。S523は、敲打整形痕がわずかにあり、研磨によって仕上げられる。刃部は両刃の円刃となる。基部を欠損する。S524は、研磨整形され、刃部は両刃の円刃に研ぎ出されている。S525は、剥離成形後、研磨整形される。基部を欠損するが、上部に微細剥離がみられる。刃部は両刃で円刃状となる。S526は、体部～刃部片である。剥離成形痕がわずかにあり、研磨整形される。刃部は両刃で円刃状に研ぎ出される。S527は、研磨整形される。基部から体部を欠損する。刃部は片刃で直刃となる。

S528は、刃部を欠損する。研磨整形され器厚がとても薄い。

S529は、横長剥片を利用し、剥離成形後、研磨整形さ

れる。刃部を欠損後、二次加工が施される。S530は、剥離成形後、周縁からの剥離と研磨で整形する。両側縁と刃部に敲打痕がある。S531は、剥離整形され、正面と両側縁の中央に敲打痕がみられる。S532は、剥離成形痕をわずかに残り、全面が研磨整形される。基部及び刃部両端に剥離痕と剥離面を遺す敲打痕がみられる。敲打具に転用された可能性がある。

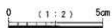
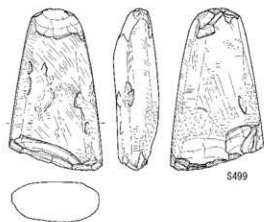
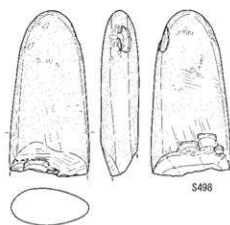
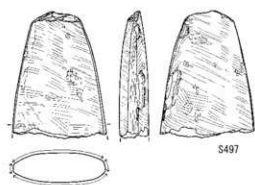
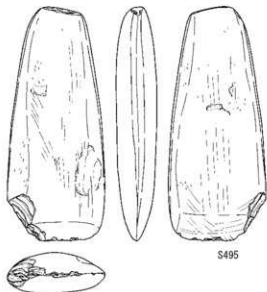
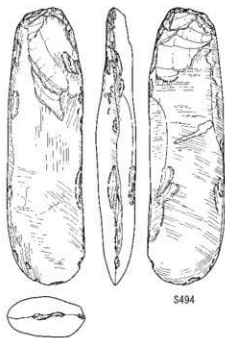
V類は、S529が頁岩B類製で、その他はすべてホルンフェルス製である。

VI類 S533～S549は、磨製石斧の欠損品である。破損の際に生じた破片と、破片に剥離や敲打、研磨によって調整されたものがある。楔形石器や敲打石へ転用された可能性があるが欠損品としてまとめた。

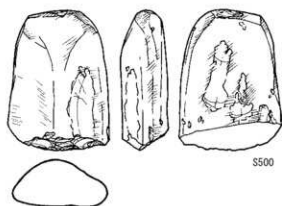
S533は、正面と側面に研磨整形痕があり、上端に剥離がみられる。S534・S535は、両端の両極に剥離がみられる。S536は、両面の左側縁と下端に剥離痕がある。S537・S538は、両面の周縁に剥離があり下端に敲打痕がみられる。S540は、表面の上端に研磨によって刃部を整形する。下端に敲打痕がある。

S541～S545は、磨製石斧から剥離した破片に微細な剥離がみられるものである。S548・S549は、磨製石斧の破片である。

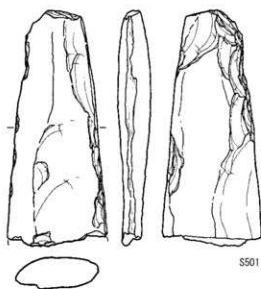
S538・S548は頁岩B類製、その他はすべてホルンフェルス製である。



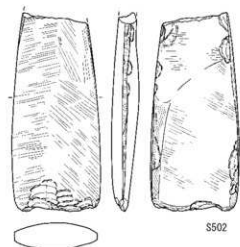
第2-168图 唐製石斧 (17)



S500



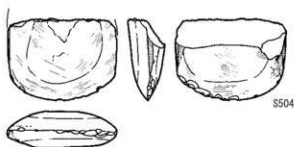
S501



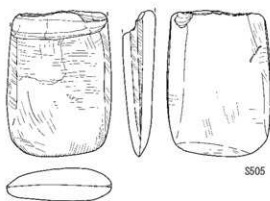
S502



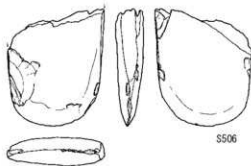
S503



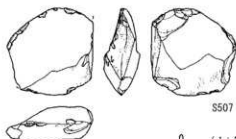
S504



S505



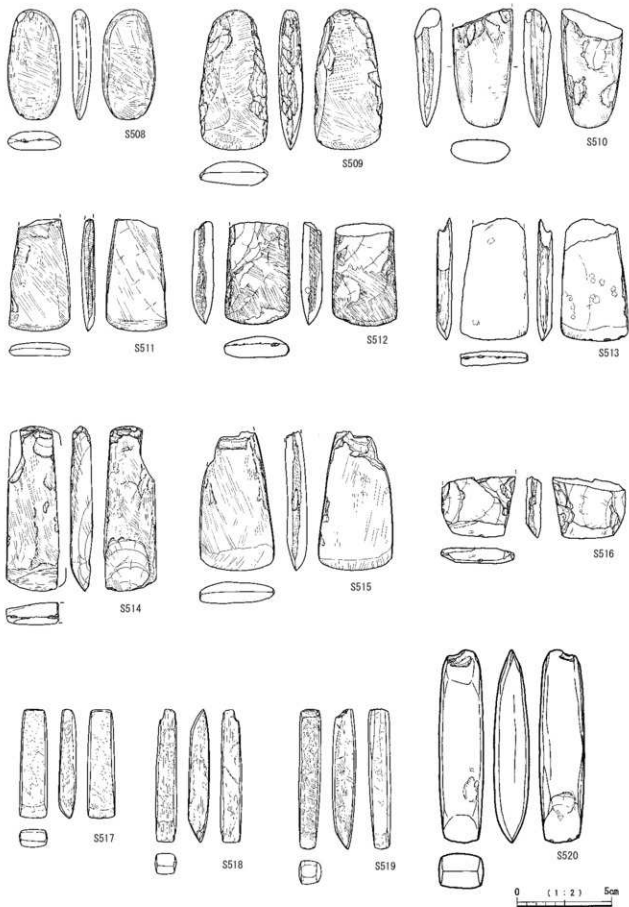
S506



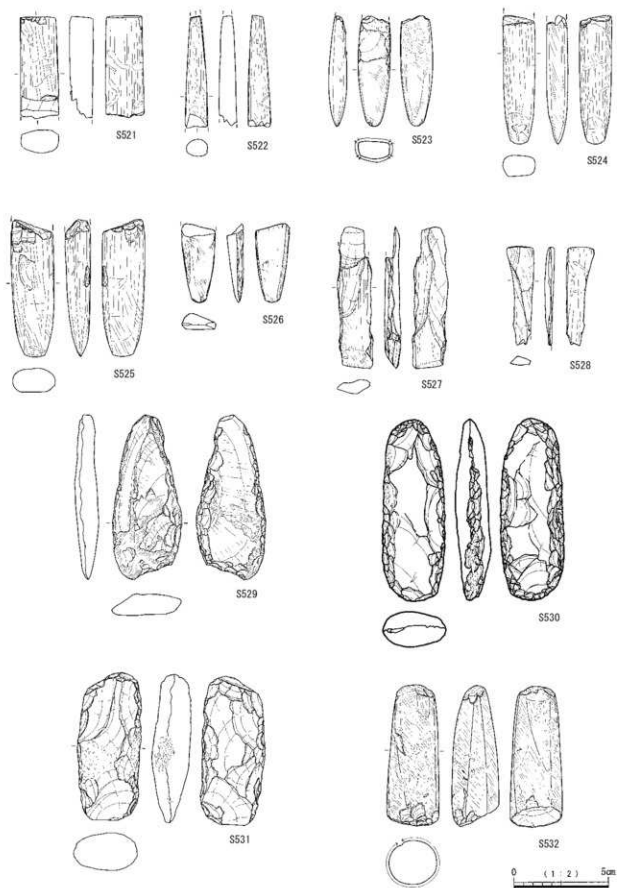
S507

0 (1:2) 5cm

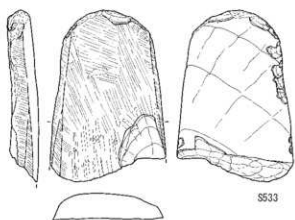
第2-169图 唐製石斧(18)



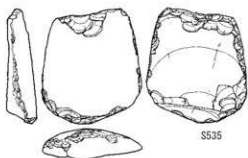
第2-170图 唐製石斧 (19)



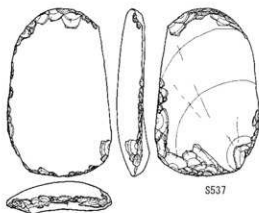
第2-171图 唐製石斧 (20)



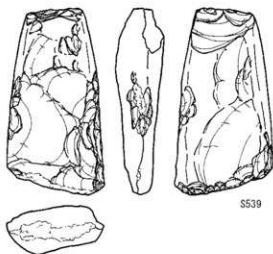
S533



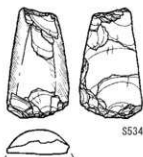
S535



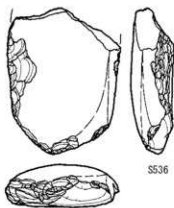
S537



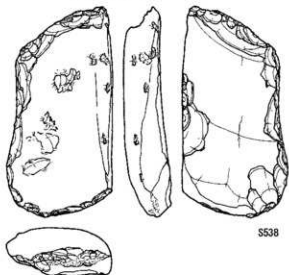
S539



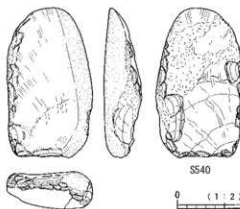
S534



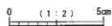
S536



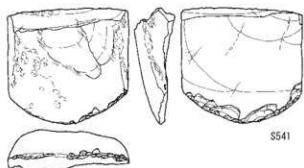
S538



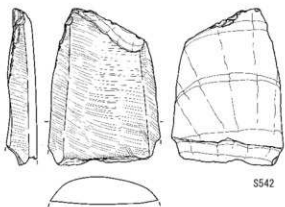
S540



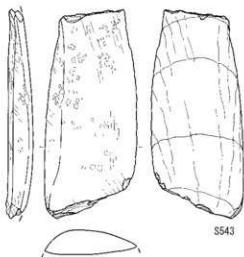
第2-172图 唐製石斧 (21)



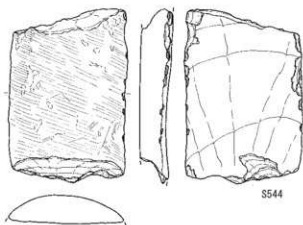
S541



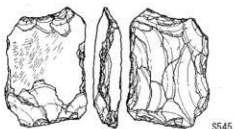
S542



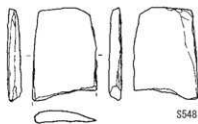
S543



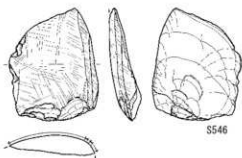
S544



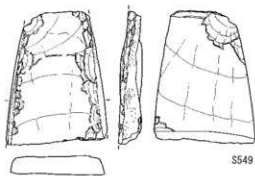
S545



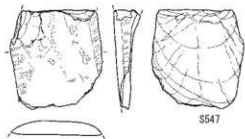
S548



S546



S549



S547

0 (1:2) 5cm

第2-173图 唐製石斧 (22)

打製石斧（扁平打製石斧）

（第2-174図～第2-184図 S550～S597）

S550～S597は、打製石斧である。扁平な礫素材や剥片を利用し、周縁を剥離によって整形する。形状は、短冊形や撥形、いわゆる有肩石斧、ラケット形、杓文字状など多様である。形状によってⅠ類～Ⅳ類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層2点、Ⅳa層15点、Ⅳb層30点である。

Ⅰ類 S550～S562は、基部の幅と刃部の幅に大きな差がなく、長方形に近い形状でいわゆる撥形や短冊形を呈する。刃部が研磨によって整形された局部磨製石斧の可能性もあるものも含む。

S550～S554は、完形である。S550は、周縁からの剥離整形後、体部下半から刃部、側面が研磨によって整形される。側面の一部に磨面がみられる。S551は、周縁からの剥離整形後、体部から刃部が研磨によって整形される。側面にわずかに研磨痕が残る。敲打整形痕はみられない。S550・S551は、局部磨製石斧の可能性もある。

S552・S553は、横長剥片を素材とし、周縁から剥離整形される。S552は、正面に自然面、裏面に主要剥離面を残す。刃部には使用による擦痕がみられる。

S554は、横長剥片を素材とし、周縁から剥離整形される。刃部には使用による潰れがみられる。S555は、縦長剥片を素材とし、周縁から剥離整形される。刃部を欠損する。

S556～S558は、刃部を欠損する。S556は、周縁から丁寧に剥離整形される。S557は、横長の素材に対し周縁から剥離整形が行われ、正面の右側縁には刃潰しがみられる。S558は、やや厚みのある素材を剥離整形し、正面の左側縁と裏面の右側縁に丁寧な剥離が集中する。製作途中で欠損した可能性がある。

S559は、横長剥片を素材とし、側縁から剥離整形される。左側縁の2か所、右側縁の1か所に刃潰し状の敲打痕がみられ、基部を欠損する。S560は、横長剥片を素材とし、側縁から剥離整形後、両側縁のやや括れた部分に刃潰しが施される。基部及び刃部を欠損する。

S561は、縦長剥片を素材とし、側縁から剥離整形後、両側縁のほぼ中央に刃潰し状の加工が施される。

S562は、横長の素材を利用し、側縁から剥離整形される。正面の左側縁には刃潰し状の加工がみられ、基部を欠損する。

Ⅰ類は、S560が頁岩B類製で、その他はすべてホルンフェルス製である。

Ⅱa類 S563～S570は、基部の幅と刃部の幅がほぼ同じか刃部がやや広く、基部から体部にかけて両側縁がわずかに括れるものである。先端の刃部から括れ部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S563～S569は完形である。S563は、両側縁から丁寧に

剥離整形される。刃部は剥離調整が疎かであるが研磨によって仕上げられ、刃こぼれ状の剥離がみられる。両側縁の浅い括れ部には敲打加工がみられ、基部を欠損する。S564は、横長剥片を利用し、周縁から剥離整形される。両側縁に浅い括れ部があり、敲打による刃潰しが施される。S565は、扁平な素材を利用したと考えられ、両面の一部に自然面が残存する。正面は両側縁のみ剥離整形され、表面は大きな剥離によって自然面を除去した後、剥離整形が行われる。両側縁の浅い括れ部には敲打による刃潰しがみられる。S566は、周縁から全体を剥離によって整形後、両側縁に浅い括れ部がある。括れ部は敲打による刃潰し状の加工が顕著である。S563～S566は基部の左右両端が丸をもつように整形される。

S567は、素材の厚みを減じため大きな剥離によって成形後、周縁から丁寧に剥離整形される。両側縁の形状は対称ではないが、刃部先端に擦痕がみられることから使用されている。側縁の浅い括れ部には刃潰し状の加工が施される。S568は、横長剥片を利用し、周縁から全体が剥離整形される。両側縁の浅い括れ部にはわずかに刃潰し状の加工が行われる。

S569は、大きな剥離によって成形後、周縁から丁寧に剥離整形される。両側縁の浅い括れ部には刃部付近まで刃潰し状の加工が施される。刃部は研磨で整形された直刃状となる。S567～S569は、基部の左右両端が角をもつように整形される。S570は、刃部が欠損したと考えられるものである。

Ⅱa類は、すべてホルンフェルス製である。

Ⅱb類 S571～S577は、基部の幅と刃部の幅がほぼ同じか刃部がやや広く、基部から体部にかけての両側縁が深く括れるものである。いわゆる有肩石斧である。先端の刃部から括れ部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S573～S576は、刃部に刃こぼれや欠損による剥離がみられるがほぼ完形である。S571・S572は、横長剥片を利用し、周縁を剥離整形する。両側縁の深い括れ部には、敲打によって刃潰し状の加工が施される。基部の左右両端が丸をもつように整形される。S573は、周縁全体を丁寧に剥離整形し、両側縁にやや深い括れ部をもつ。括れ部には敲打による刃潰し状の加工がみられる。S574は、両面とも成形剥離がよく延び、周縁から剥離整形する。両側縁のやや深い括れ部には敲打による刃潰し状の加工が施される。刃部には刃こぼれ状の剥離がみられる。S575は、両面とも成形剥離がみられ、周縁から剥離整形する。正面の一部に自然面が残存する。両側縁の括れ部には敲打による刃潰しが施され、刃部を欠損する。側縁下部に使用に伴う擦痕がみられる。S576は、横長剥片を利用し、周縁を剥離によって整形する。基部端と両側縁の括れ部に敲打による刃潰し状の加工が行われる。S577は、両面

に成形剥離痕がみられ、正面に自然面が残存する。成形後、周縁を剥離によって整形する。両側縁の括れ部から刃部にかけて敲打による刃潰し状の加工がみられる。

Ⅱb類は、すべてホルンフェルス製である。

Ⅲ類 S578～S584は、幅の狭い基部に対し刃部の幅が広く、形状がいわゆるラケット形や杓文字状となるものである。先端の刃部から基部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S578～S580は、ラケット状のものである。S578は、横長剥片を利用し、基部は大きな剥離で成形される。基部の両側縁に敲打による刃潰しが施される。刃部を欠損するが、両面とも刃こぼれの剥離がみられる。S579は、横長の素材を利用し、両面の周縁を剥離整形する。基部の両側縁には敲打による刃潰しが施される。刃部を欠損後、剥離調整を行い刃部を再加工する。靴形にみえるが、本来はラケット形であったと考えられる。刃部の両面に使用による擦痕がみられる。S580は、横長剥片を利用し、基部は大きな剥離で成形される。基部の両側縁には敲打による刃潰しがみられる。刃部を大きく欠損する。

S581～S584は、杓文字状のものである。S581は、完形である。横長剥片を利用し、正面の左側縁と裏面の両縁から大きな剥離によって成形後、周縁を丁寧に剥離整形する。S582は、基部を正裏両側縁から剥離整形し、側縁部には刃潰しがみられる。基部の裏面にやや光沢があり装着痕の可能性がみられる。刃部には使用による擦痕がみられる。S583は、横長剥片を利用し、周縁から大きな剥離で成形後、丁寧に剥離整形される。基部の両側縁には敲打による刃潰しが行われる。S584の刃部は使用によって短くなったと考えられ直刃状で両面全体に擦れがみられる。基部を欠損する。

Ⅲ類は、584が頁岩B類製で、そのほかはすべてホルンフェルス製である。

Ⅳ類 S585～S597は、Ⅰ～Ⅲ類の基部や刃部片、不明な欠損品、他器種に転用されたと考えられるものや打製石斧の未製品である。

S585～S588は、基部片である。S585・S587はⅢ類、S586はⅡb類、S588はⅡa類に該当する。S589・S590は刃部片でⅡb類またはⅢ類に該当する。S591は、正面に自然面、裏面に主要剥離面が残存する。未製品の可能性がある。

S592～S594は、他の石器に転用された可能性のあるものである。S592は、基部を欠損し、全長が短い刃部を丁寧に研磨によって整形しており、中央部に挟りがあることから局部磨製石斧の可能性がみられる。挟り部を利用して石錘に転用された可能性も残る。S594は、刃部を欠損後、剥離調整を行い刃部を再形成している。S596は、剥離成形後、両側縁を剥離によって整形し刃部としている。側縁端には敲打による刃潰しがみられる。横刃型石器へ

転用された可能性もある。S595・S597は、打製石斧の未製品である。Ⅳ類は、S585は頁岩B類製で、その他はすべてホルンフェルス製である。

礫器 (第2-185図・第2-186図 S598～S610)

S598～S610は礫器である。基本的に扁平で角の取れた礫の一端に剥離調整を行い、両刃もしくは片刃の刃部を成形するものである。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層2点、Ⅳ層1点、Ⅴ層7点、Ⅵ層2点である。

S598は、磨製石斧の刃部片を利用したと考えられる。剥離調整を行い、両刃の刃部を再加工している。使用痕がみられる。S599は、両面と上面に研磨痕がみられる。断面形は逆三角形を呈し、刃部側を上へ天地逆で据えた場合、石冠のような形状となるが、砥石から転用したものと考えられる。刃部に敲打痕がみられる。

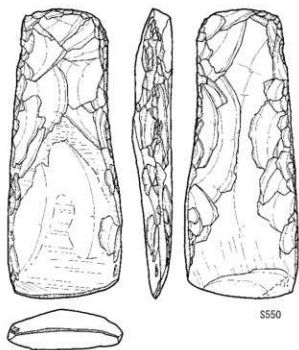
S600～S604は、片面にのみ剥離調整を行い、刃部を成形する片刃のものである。

S600は、刃部が小さい剥離によって整形され、側面は両面とも横方向からの剥離で成形される。

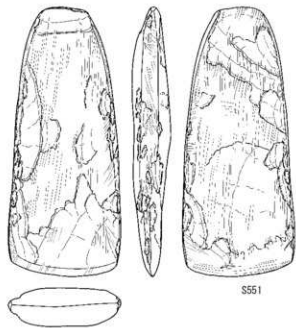
S601は、正面上端から右側面が刃部となる。正面上端は大きな剥離による成形後、細かい剥離が施される。正面の右側面から裏面の左側面にかけて敲打痕がみられ、両面には擦痕がある。S602は、裏面上端を大きな剥離で成形後、幅が狭く連続する細かい剥離によって整形される。S603は、裏面上端を幅の広い剥離によって刃部を整形する。S604は、素材となる礫の長軸の一端に剥離加工を施し、片刃の刃部としており、刃部端に微細な剥離がみられる。

S605～S610は、両面に剥離調整を行い、両刃となる。S605は、分割礫を素材とし、両面の下端に剥離調整によって刃部を整形する。刃部には敲打痕がある。S606は、礫から剥出した剥片を素材とする。正面は右側縁と下縁に大きな剥離、下縁に微細な剥離がみられる。裏面は右側縁から下縁にかけて微細剥離がみられる。S607は、正面と裏面の一部を大きな剥離で成形後、微細な剥離で刃部を整形する。S608は、刃部整形の剥離調整が正面上端は幅広の剥離で連続するのに対し裏面は部分的である。S609は、両面の下端に剥離調整によって刃部が整形され、刃部には敲打痕がみられる。S610は、正面の刃部が幅広の剥離と微細な剥離で整形される。裏面は下縁と左側縁が剥離調整によって整形される。左側縁の上半は大きな剥離によって厚みを減じている。

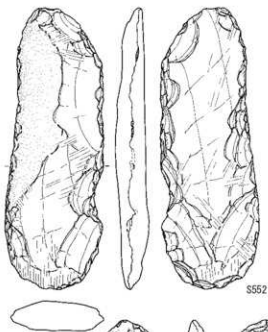
S598・S601～S604、S607～S610の9点はホルンフェルス製、S599・S600・S605・S606の4点は砂岩製である。



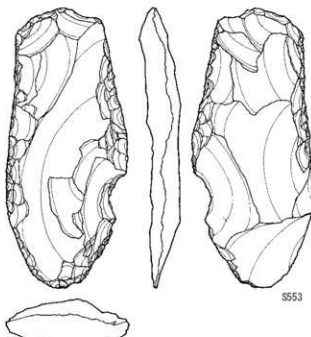
S550



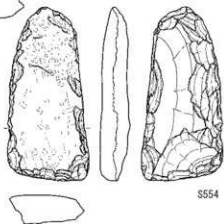
S551



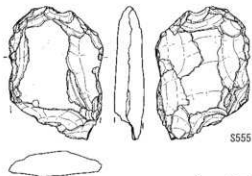
S552



S553



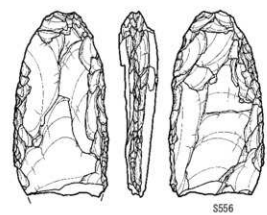
S554



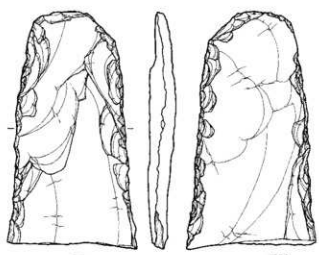
S555

0 (1:2) 5cm

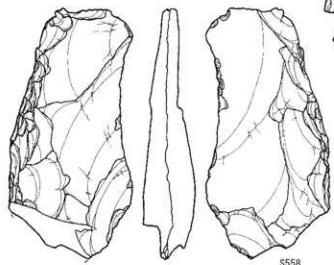
第2-174图 打製石斧(1)



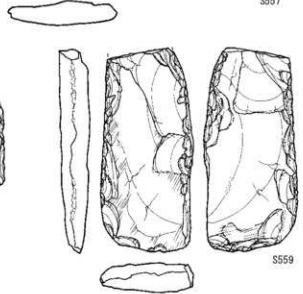
S556



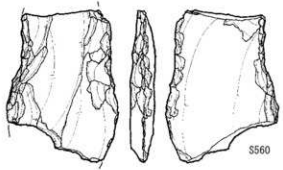
S557



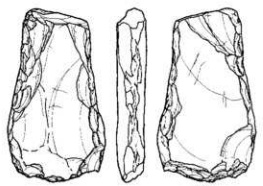
S558



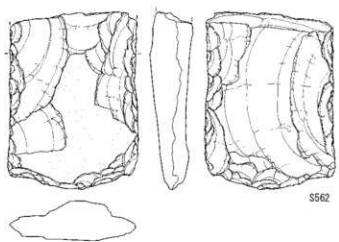
S559



S560



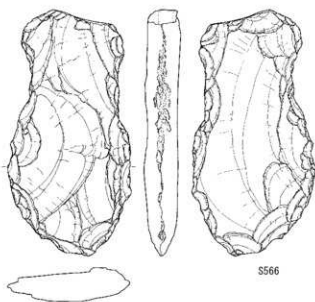
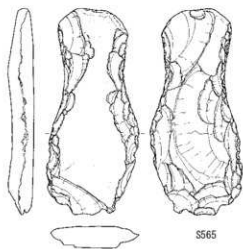
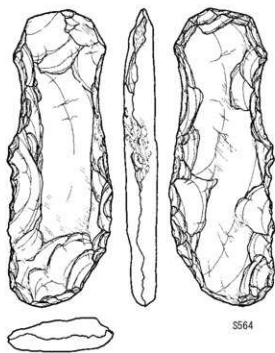
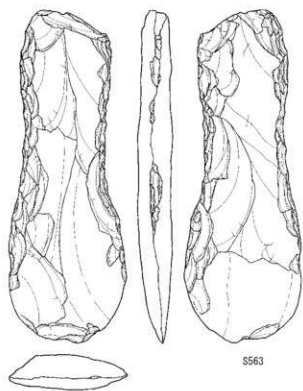
S561



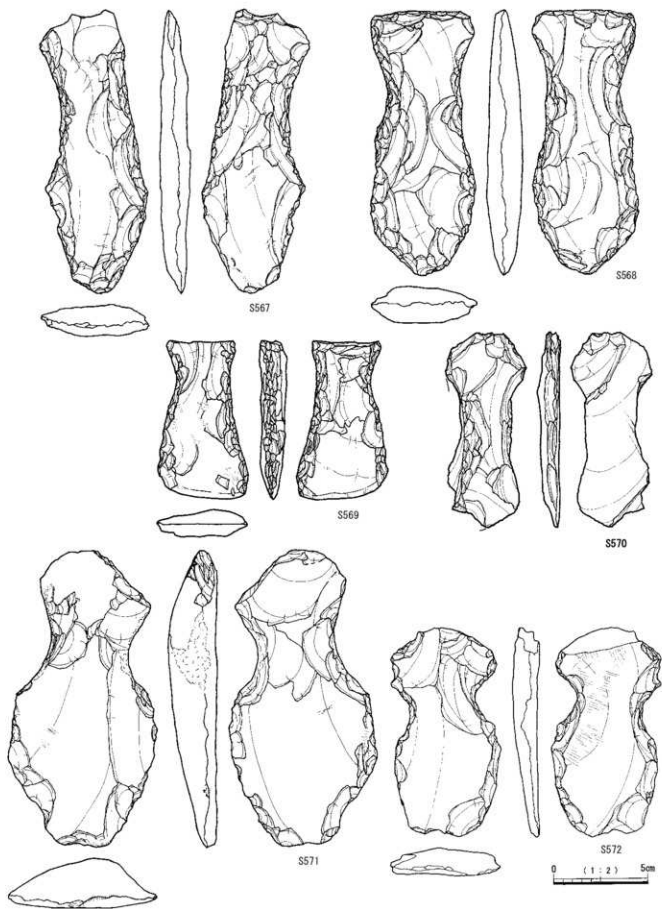
S562



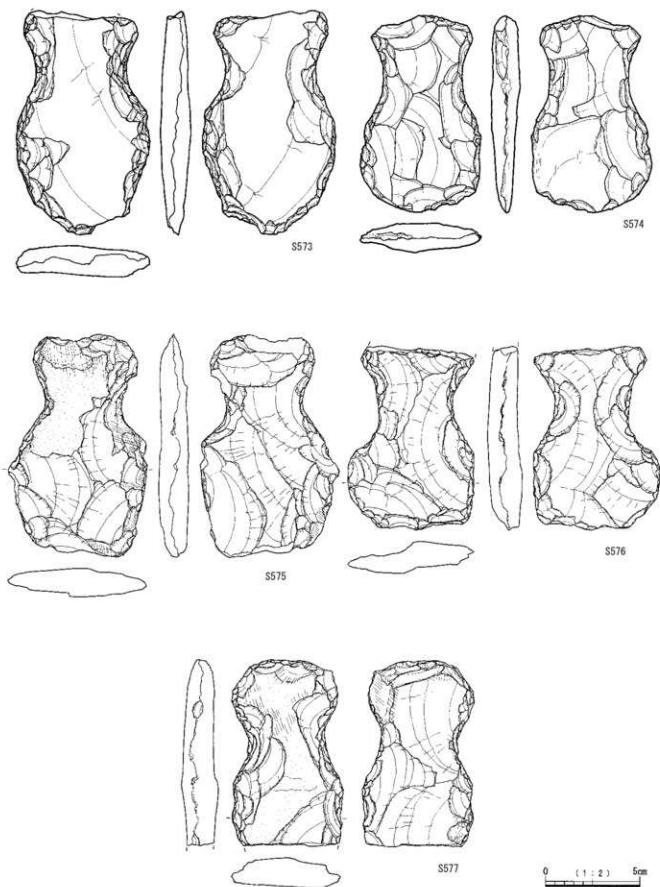
第2-175图 打製石斧(2)



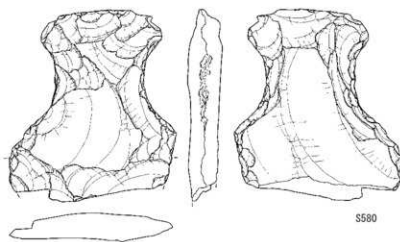
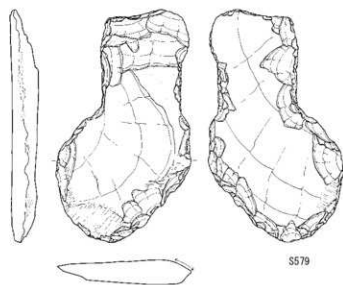
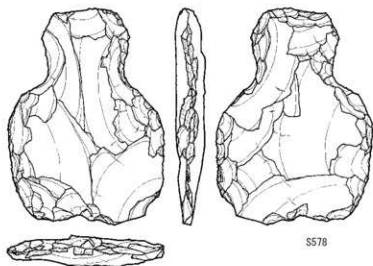
第2-176图 打製石斧(3)



第2-177图 打製石斧(4)

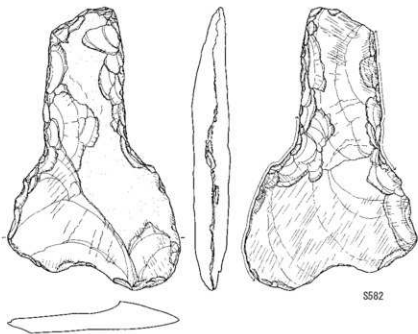
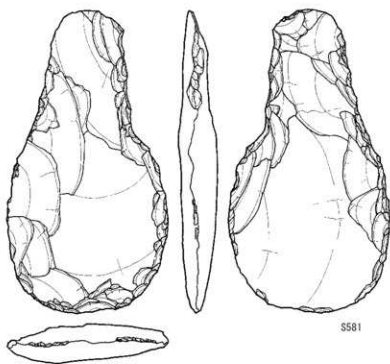


第2-178图 打製石斧(5)



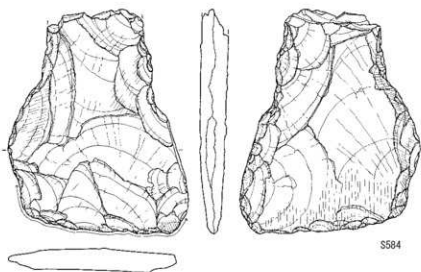
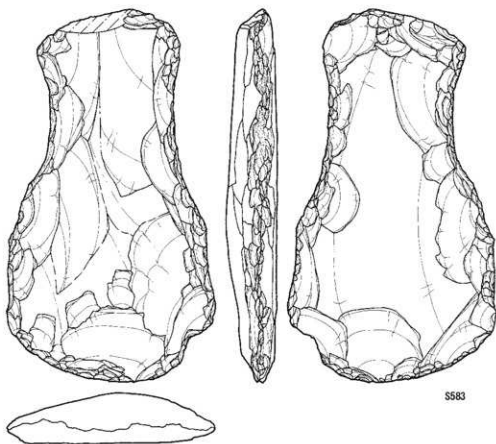
0 (1:2) 5cm

第2-179图 打製石斧(6)

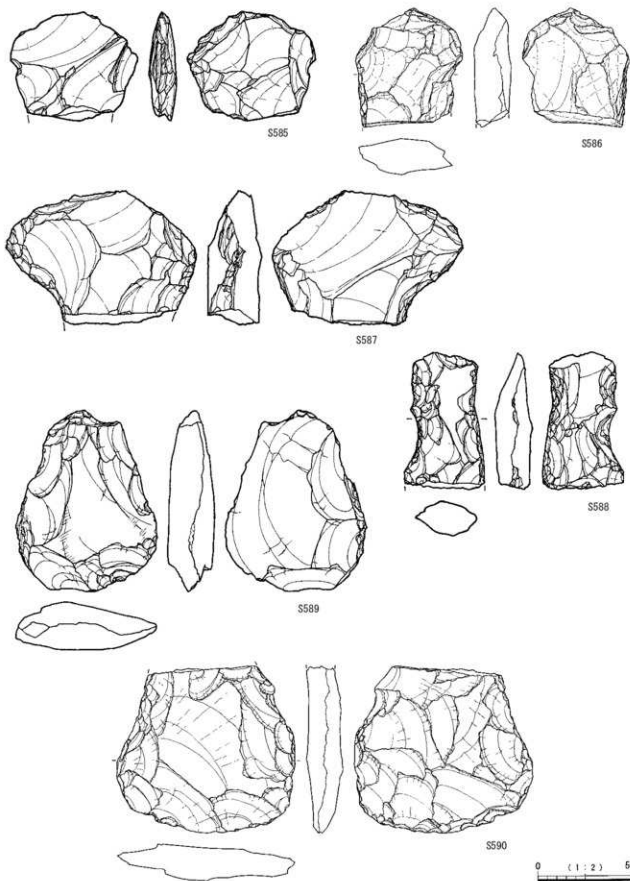


0 (1:2) 5cm

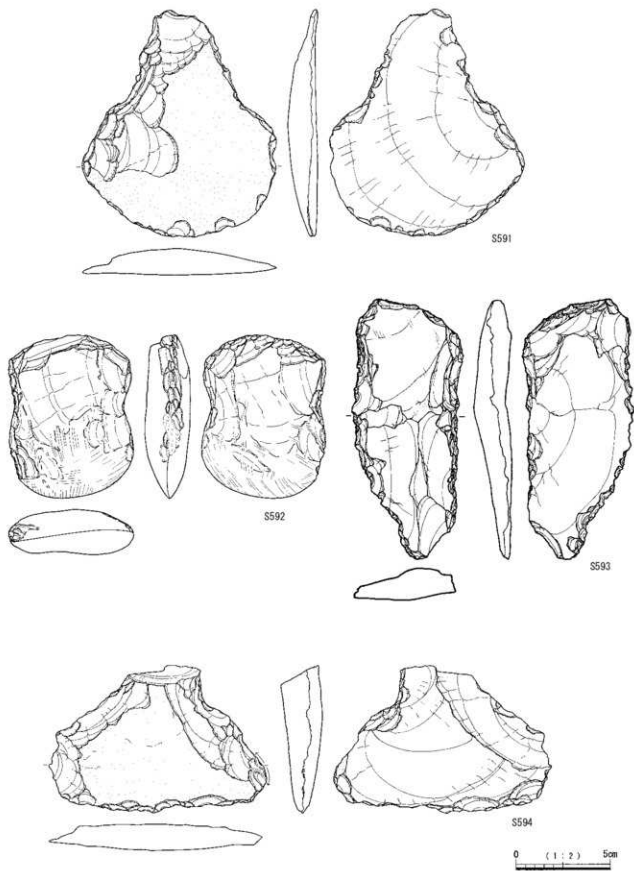
第2-180图 打製石斧(7)



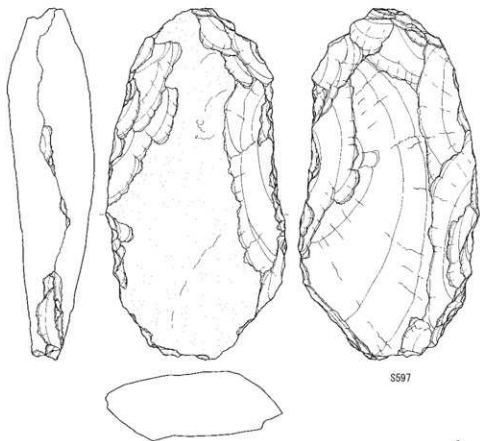
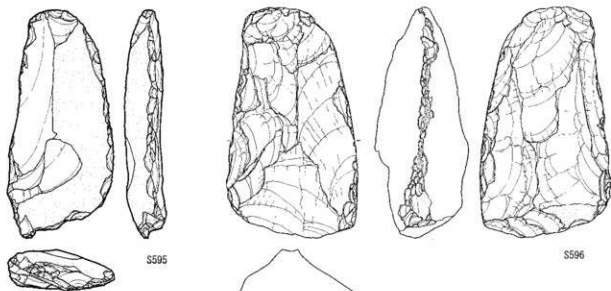
第2-181図 打製石斧(8)



第2-182图 打製石斧(9)

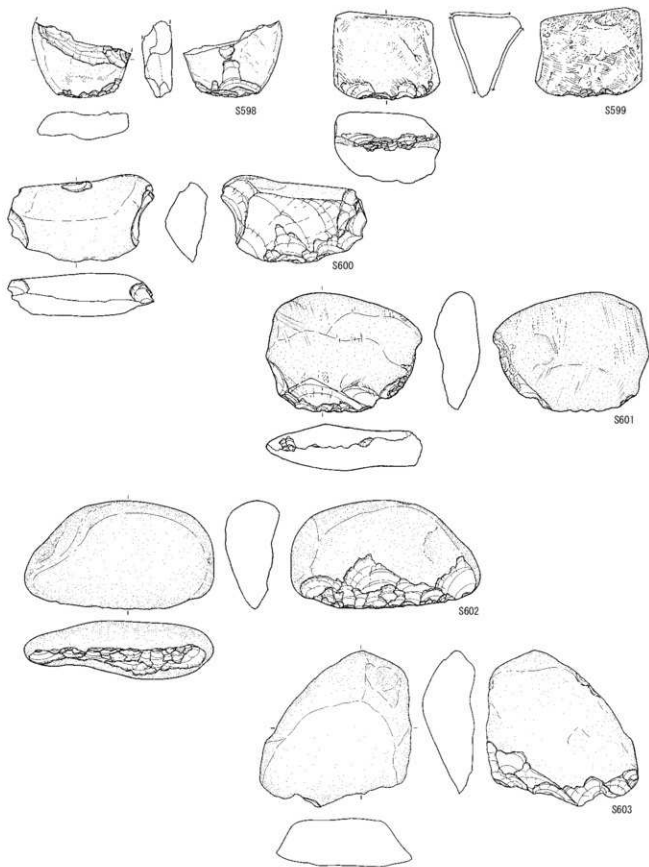


第2-183图 打製石斧 (10)

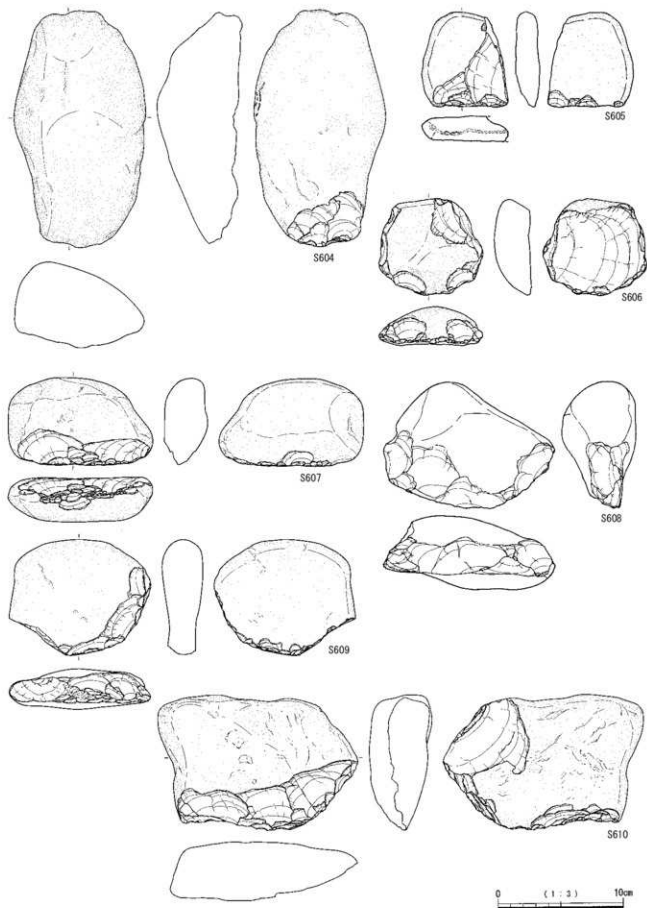


0 (1:2) 5cm

第2-184図 打製石斧 (11)



第2-185图 石器(1)



第2-186图 石器(2)

磨・敲石類 (第2-187図～第2-200図 S611～S728)

S611～S728は、磨・敲石類である。使用面数、使用部位によってI類～VI類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層2点、Ⅳ層25点、Ⅳb層80点、Ⅴ・Ⅴa層9点、Ⅴ層1点である。

I類 S611～S628は、形状や断面形が不定形で素材礫の形状を残すものである。ほぼすべてに敲打痕や磨面を確認できる。

S612は、両面の一部に敲打痕、側面に敲打痕が巡る。S613は、正面の上半に磨面、下端に敲打痕がみられる。S614は、長軸方向の両端に敲打痕が集中する。S615は、正面に磨面と敲打痕、裏面下端に敲打痕がみられる。正面に光沢があり煤が付着する。S616は、両面に磨面、下端に敲打痕があり、被熱している。S617は、正面に磨面、下部に敲打痕が集中する。S618は、全面に敲打痕があるが摩滅している。赤色顔料が付着する。S619は、長軸方向下部端に敲打による剥離が生じている。剥離後も使用され微細な潰れがみられる。S620は、両面の磨面形成が弱く、下端から側縁にかけて敲打痕が顕著である。赤色顔料が付着する。S618・S620の付着物を蛍光X線で分析した結果、鉄分が多く検出されたことからベンガラの可能性がある(第IX章 科学分析を参照)。S622・S628はの下端は敲打による剥離が生じた後もよく使用されており敲打痕が集中する。

S612・S614～S616・S618～S620・S623・S624・S626・S627の11点は、安山岩B類製、S611・S617・S621の3点は花崗岩製、S613・S625・S628の3点は砂岩製、S622は石英製である。

IIa類 S629～S656は、形状が円形・楕円形で基本的に両面の2面に磨面、側面に敲打痕がみられるものである。敲打痕のあり方に差異があり、側面の敲打痕が全周を巡るものが多いが、S629・S631・S653～S656は部分的に留まる。S653～S656は、形状が歪円形で他と比べ少し薄手である。S654・S656は煤が付着する。S637は下端を欠損するが、欠損部で敲打を行っている。S633・S634・S641・S642は、風化が著しい。

S629・S633～S636・S641～S648の13点は花崗岩製、S632・S637～S640、S650～S652の8点は砂岩製、S630・S631・S649・S653・S654・S656の6点は安山岩B類製、S655は凝灰岩製である。

IIb類 S657～S668は、形状が楕円形で、基本的に両面の2面に磨面、側面に敲打痕がみられるものである。側面の敲打痕が全周を巡るものが多いが、S657・S658・S664は部分的な敲打痕に留まる。S658は、上・下端を断面が突るほどよく敲打に使用している。磨・敲石類Ⅲ類のように多面的に磨面をもつものに近づきつつある。S665・S666は、裏面は磨りにより平坦であるが、正面の磨りはみられるもの素材礫の形状を残している。

S667・S668は、他と比べて少し薄手である。

S657～S660・S665・S667・S668の7点は安山岩B類製、S661・S666の2点は砂岩製、S663・S664の2点はホルンフェルス製、S662は花崗岩製である。

IIc類 S669～S674は、形状が方形や長方形に近く、基本的に両面の2面に磨面があり、敲打痕は明瞭ではなく、風化による形状の変形や石製品の可能性が残るものを含む。

S669～S674はすべて花崗岩製である。

IId類 S675～S681は、形状が円形や楕円形で、正面や裏面または両面に凹みが確認できるものである。石錘や打製石斧などの石器を製作する際の敲打具や小さな台石として使われた可能性がある。凹みの深さの程度によってレイアウトしている。S676・S677は、溝状の敲打痕がみられ楔状の工具等による可能性がある。S676は、被熱しており、裏面には欠損があり、火はね(ポット・リッド)の可能性が高い。

S676～S678・S681の4点は砂岩製、S675・S679・S680の3点は安山岩B類製である。

III類 S682～S688は、形状が円形や楕円形で多面的に磨面のあるものである。小型の磨製石斧などを敲打成形する際に使用され多面となった可能性が考えられる。S683・S686は、被熱している。7点すべて砂岩製である。

IV類 S689～S700は、磨・敲石が分割されたもので形状がほぼ半円形(カマボコ状)となる。分割面の稜を敲打によって潰し、断面面を下面としスタンプ状の敲打面として使用したものである。

S689～S700の12点はすべて花崗岩製である。

Va類 S701～S708は、いわゆるハンマータイプで敲打痕が長軸方向の上・下端もしくは両端にあり、上・下面の太さが異なるものである。基本的にはハンマーとして使用しやすい棒状礫の形状を利用して使用したと考えられる。

S701～S705は、側面にも敲打痕がみられる。S706は、礫器の転用品の可能性もあるが敲打痕を優先した。S701は、煤が付着する。

S701・S702・S704・S706～S708の6点はホルンフェルス製、703は砂岩製、S705は花崗岩製である。

Vb類 S709～S717は、形状が楕円形、長方形、不定形ものがある。いわゆるハンマータイプで、敲打痕がほぼ長軸の両端にあり、上・下面の太さがほぼ同じとなるものである。S712・S714・S715は、側面にも敲打痕がある。S711・S712・S714は、磨面が多面的になりつつあるため、磨製石斧の外形を敲打によって成形するために使われた可能性が高い。S714・S715は、磨製石斧から転用した可能性がある。被熱しており、S714には煤も付着する。S717は、左側面が黒色化しており被熱の可能性が高い。

S709・S710・S712～S716の7点は砂岩製、S711はホルンフェルス製、S717は安山岩B類製である。

Vc類 S718は、ハンマータイプで敲打痕が側面にあるものである。打製石斧や石錘など、両極打法で成形する際に棍棒のように使用された可能性がある。S718は、ホルンフェルス製である。Va類・Vb類で側面に敲打痕があるものも、使用法はVc類と同様の可能性がある。

VI類 S719～S728は、欠損品である。S720は、敲打面に赤色顔料が付着している。蛍光X線分析の結果、鉄分が多く検出されたことからベンガラの可能性（第IX章 科学分析を参照）。

S721は、被熱が確認される。S724は断面は研磨はされていないが、真つと表現できるほど綺麗な破断面で左側を欠損する。両面に鏡面状の光沢がみられるくらい使用されている。敲打面が上・下端にあり、磨・敲石として使用されていた使用痕である。煤が付着する。

S719は、I類の欠損品の可能性がある。S720～S724は、II類の欠損品の可能性がある。S725～S728は、V類の欠損品の可能性がある。S725は、磨製石斧のV類(鑿状)の欠損品の可能性もある。

S719・S722・S724・S726の4点は砂岩製、S725・S727・S728の3点はホルンフェルス製、S720・S721・S723の3点は安山岩B類製である。

石皿 (第2-201図～第2-207図 S729～S762)

S729～S762は、石皿である。形状や使用痕、石皿で粉砕された対象物を取り出したと考えられる掻き出し口の有無等によってI～VI類に分類した。凹みの深さについては、観察表の備考欄に記載した。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層1点、Ⅳ・Ⅳa層4点、Ⅳb層20点、Ⅴ・Ⅴa層2点、Ⅵ層3点である。

Ia類 S729～S731は、平面形が楕円形で、図上の平面の上部から下部にかけて、摩耗面である凹みや平滑面があり、一方向に掻き出し口をもつものである。

S729は、摩耗面の横断面が浅い「U」字状に磨り窪みよく使用されている。摩耗面には使用による擦痕がみられ、下部中央の右寄りに掻き出し口がある。

S730は、摩耗面の縦・横断面ともに浅い「U」字状に磨り窪みよく使用されている。摩耗面の下部中央の右寄りに掻き出し口がある。摩耗面全体に擦痕、中央に敲打痕がみられる。摩耗面で磨りつぶされた対象(残留)物の把握を目的として、科学分析(デンプン粒分析)を実施した結果、作業面の凹みから残留デンプン粒の原形の識別が困難ではあったものの、デンプンの成分が検出されている(第IX章 科学分析を参照)。

S731は、図上の上部を欠損する。摩耗面の横断面はやや深い「U」字状となるほど磨り窪みよく使用されている。縦断面は摩耗面中央に向かって厚みが薄くなる。摩

耗面の下部中央に掻き出し口をもつ。

S729～S731は、3点とも花崗岩製である。

Ib類 S732～S736は、平面形が楕円形で、図上の平面の上部から下部にかけて摩耗面である凹みや平滑面があり、下部と左の2方向に掻き出し口をもつものである。

S732は、摩耗面の横断面が浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。摩耗面中央に小単位の敲打痕を内包する大きな敲打痕、中央右と上部に小さい敲打痕がある。摩耗面の下部中央と摩耗面中央から左斜め下方向に延びる掻き出し口をもつ。

S733は、平面形が楕円形で、やや厚手の礫を利用して磨り窪んでいる。摩耗面は横断面ともに使用による磨り窪みが浅い。摩耗面の下部中央と摩耗上部から左斜め下方向へ延びる掻き出し口をもつ。

S734は、図上の上部を欠損する。摩耗面の横断面が深い「U」字状となるほど磨り窪みよく使用されている。縦断面も中央部がやや磨り窪む。摩耗面下部中央と摩耗面中央から左斜め下方向へ延びる掻き出し口をもつ。摩耗面の上部に敲打痕、摩耗面と左の掻き出し口に擦痕がみられる。

S735は、図上の上部と右側の一部を欠損している。全体が被熱しており、被熱によって破砕した可能性がある。摩耗面の横断面は浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。摩耗面全体に敲打痕、摩耗面と摩耗面中央から左斜め下方向に延びる掻き出し口に擦痕がみられる。

S736は、右半分程度を欠損しており、原形は略方形に近いと考えられる。摩耗面の横断面は浅い「U」字状に磨り窪んでおりよく使用されている。縦断面は摩耗面中央より上部の窪みが深くなる。摩耗面下部と摩耗面下部から左斜め下方向に延びる掻き出し口をもつ。摩耗面の上部に敲打痕がみられる。

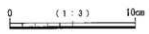
S734～S736の3点は花崗岩製、S732・S733は、安山岩B類製である。

II類 平面形は楕円形で、図上の中央上部から下部の全体にかけて摩耗面である凹みや平滑面があるが、掻き出し口が一定の幅をもって形成されず不明瞭なものである。

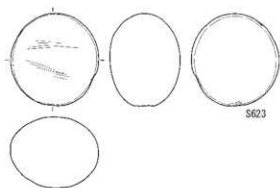
S737は、摩耗面の横断面が浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。横断面は摩耗面中央の上部が深く磨り窪んでおり、S730・S735に類似する。摩耗面の中央から下部にかけて平滑面と擦痕がみられる。花崗岩製である。

III類 平面形は方形で、図上の中央や上部から中央部にかけて摩耗面である凹みや平滑面があるものである。III類は、遺構内からのみ出土し、包含層からは出土していない。遺構出土資料は、集石56号のS168他である(第IV章 第3節を参照)。

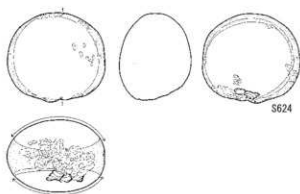
IV類 S738～S747は、平面形は様々な形状のものがある。板状のものも多く、厚さや表面の形状によらず摩



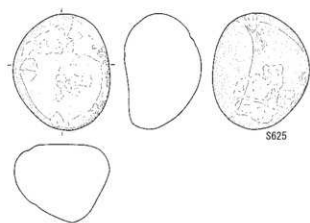
第2-187图 唐·敲石(1)



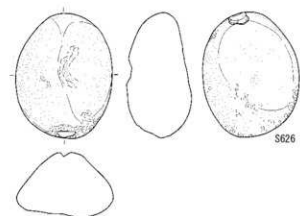
S623



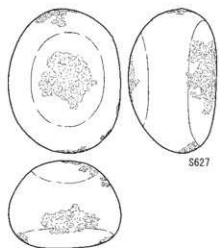
S624



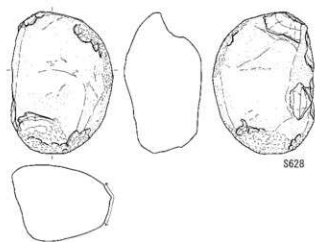
S625



S626



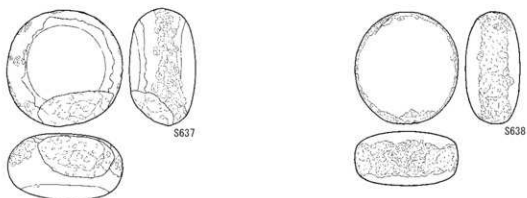
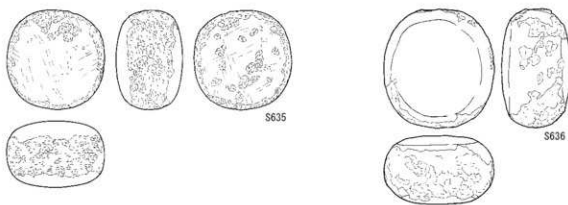
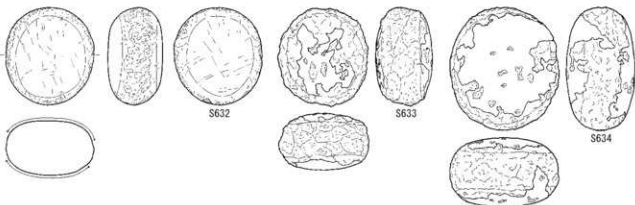
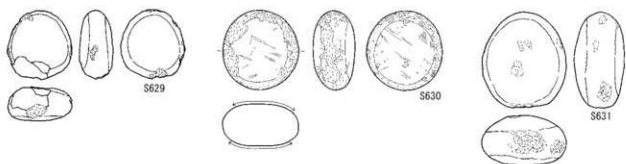
S627



S628

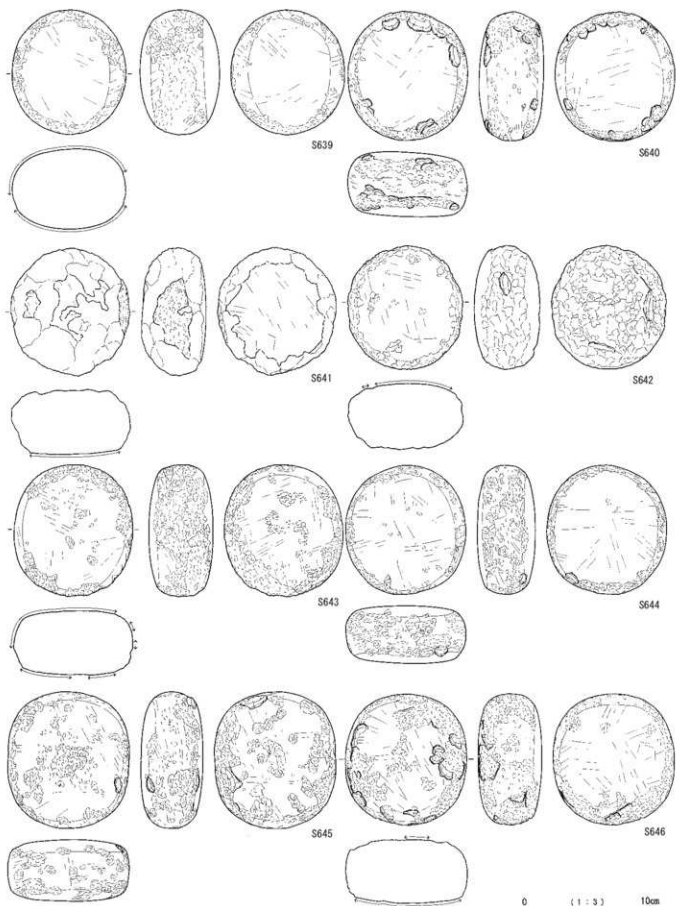
第2-188图 唐·敲石(2)

0 (1:2) 10cm

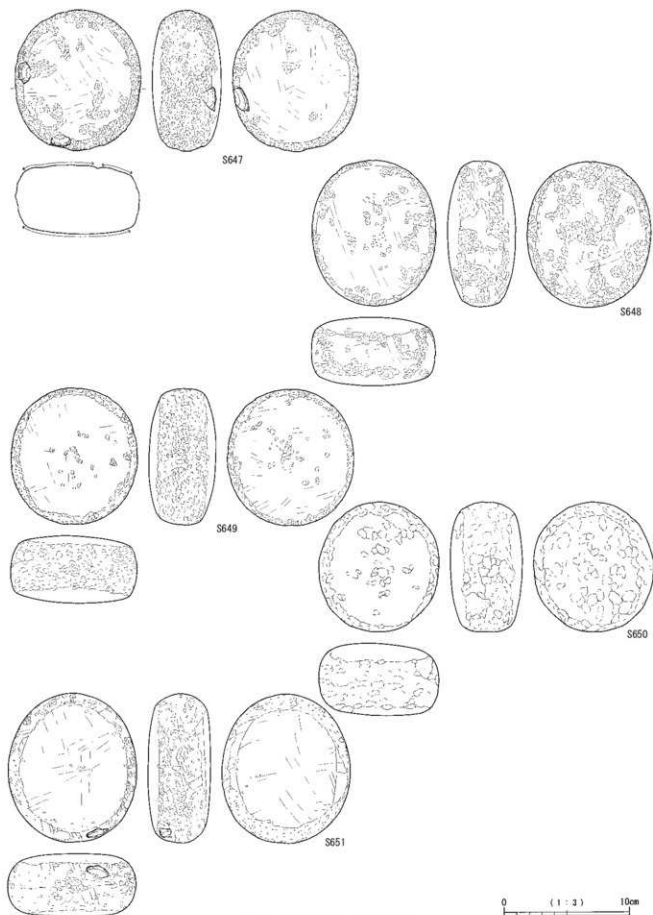


第2-189图 唐·敲石(3)

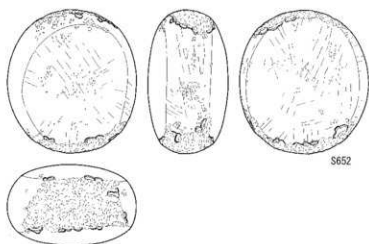
0 (1:3) 10cm



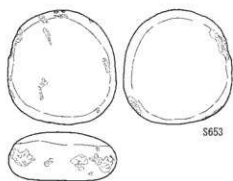
第2-190图 唐·敲石(4)



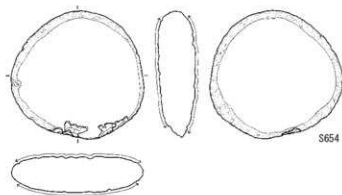
第2-191图 唐·鼓石(5)



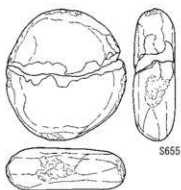
S652



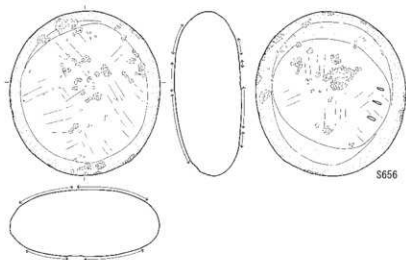
S653



S654



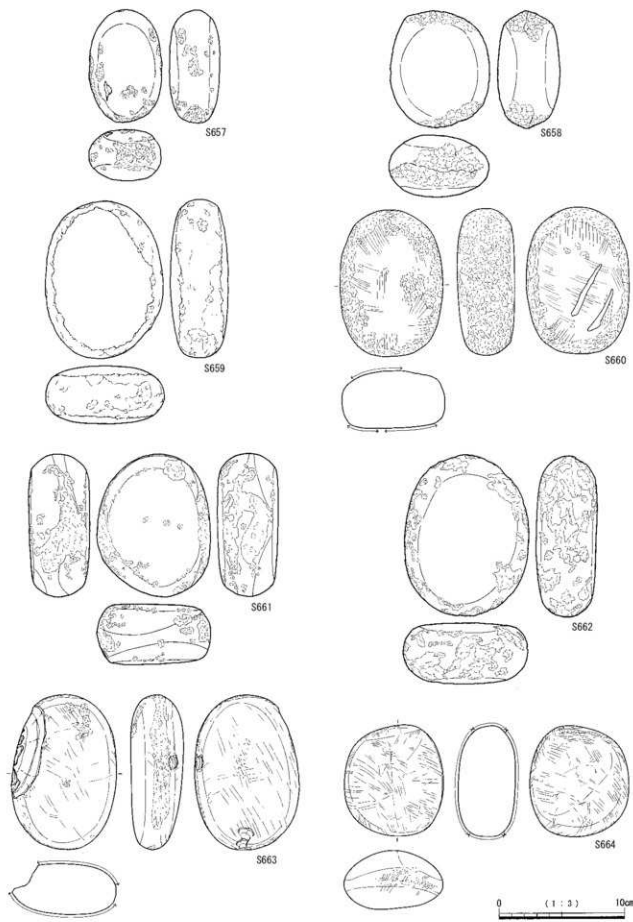
S655



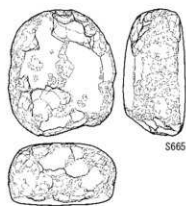
S656



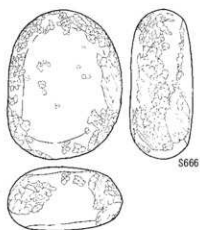
第2-192图 唐·敲石(6)



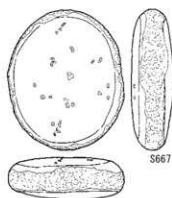
第2-193图 唐·敲石(7)



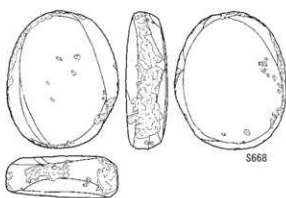
S665



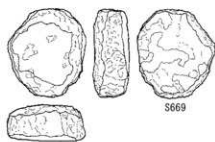
S666



S667



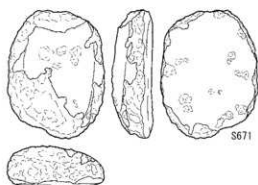
S668



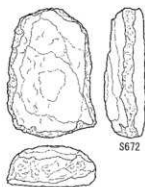
S669



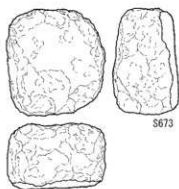
S670



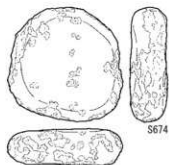
S671



S672



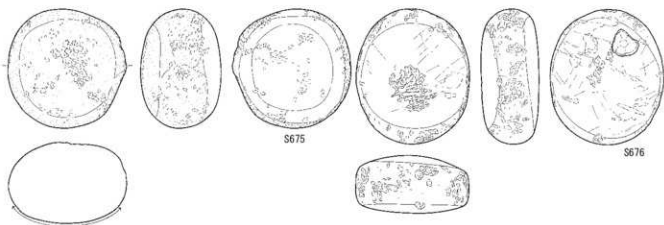
S673



S674

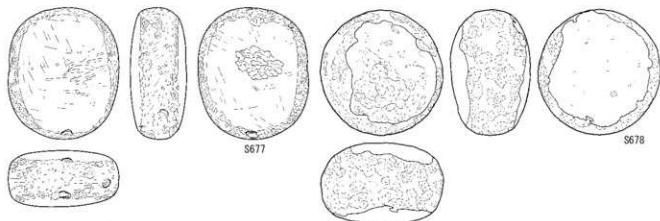
0 (1:3) 10mm

第2-194図 唐・敲石(8)



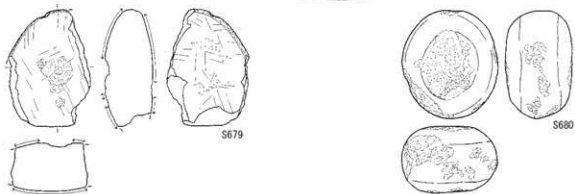
S675

S676



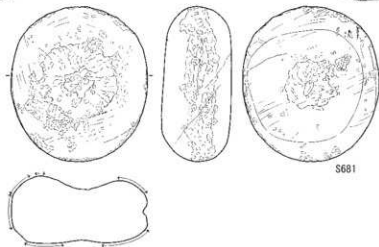
S677

S678



S679

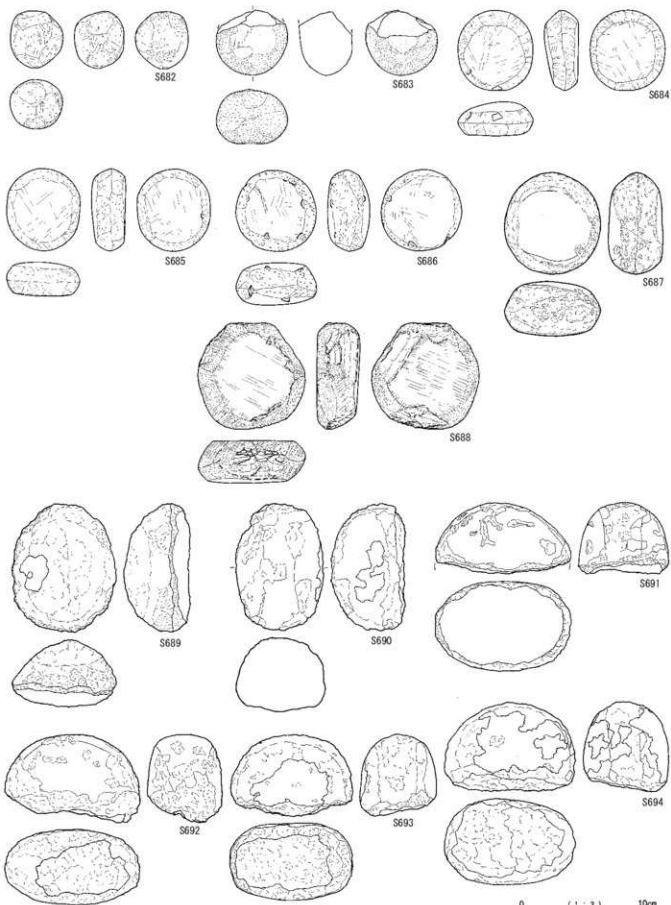
S680



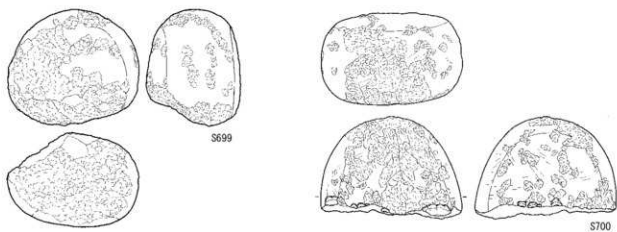
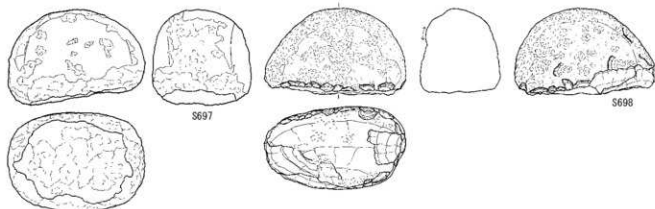
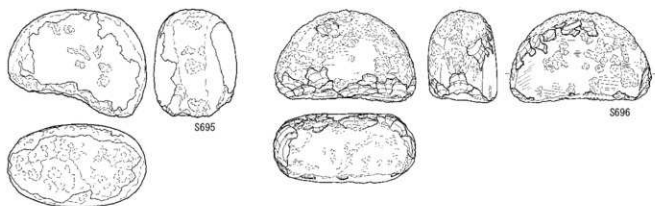
S681



第2-195図 唐・敲石(9)

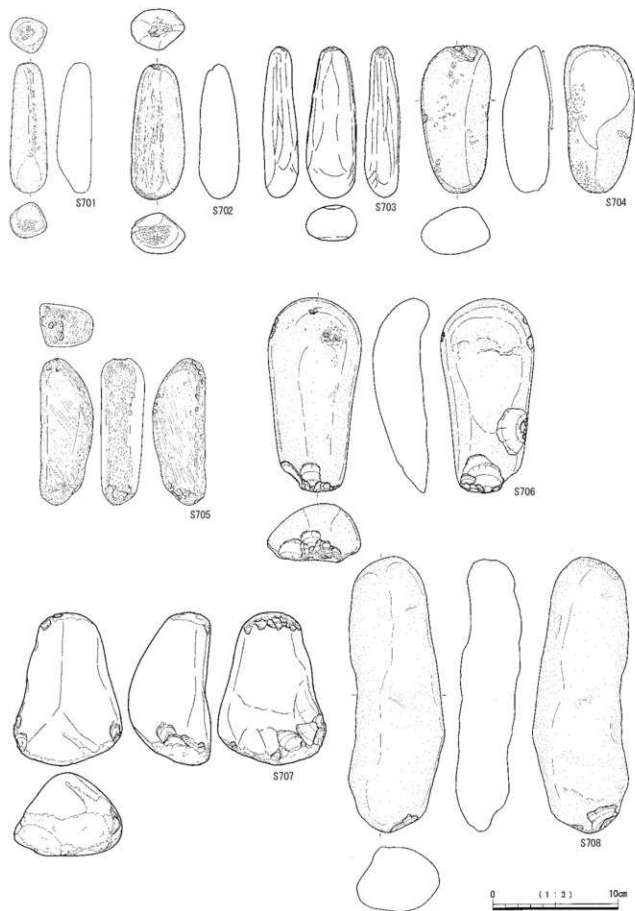


第2-196图 唐·敲石 (10)

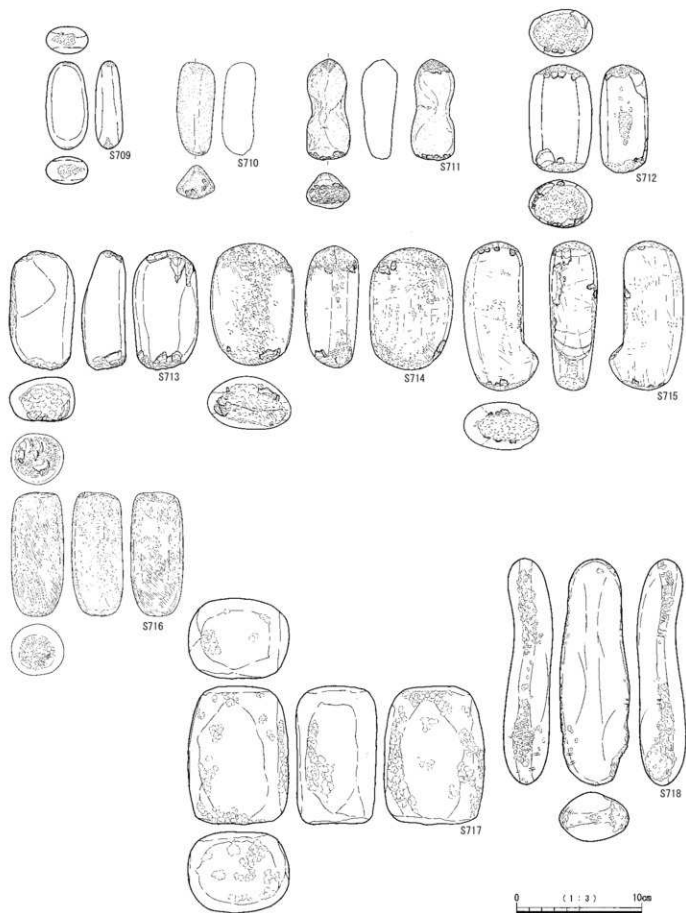


0 (1:3) 10cm

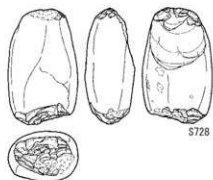
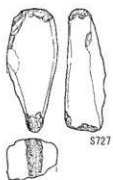
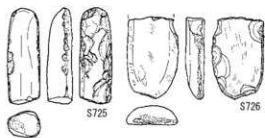
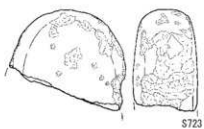
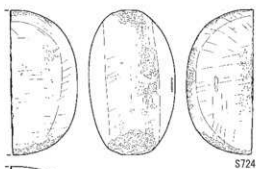
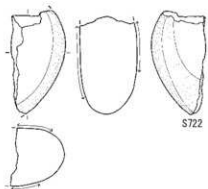
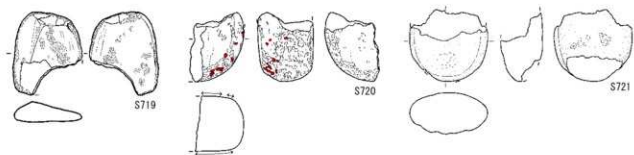
第2-197图 唐·敲石(11)



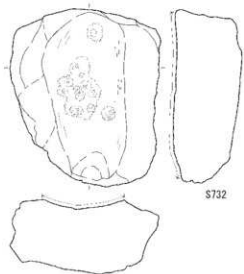
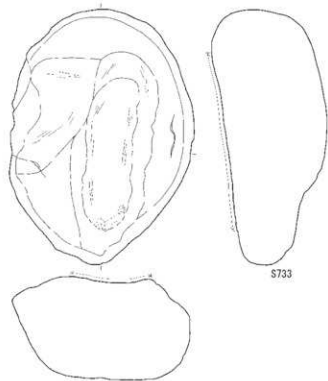
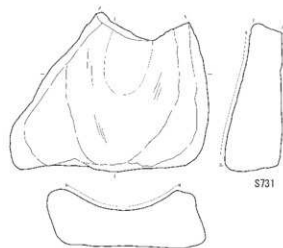
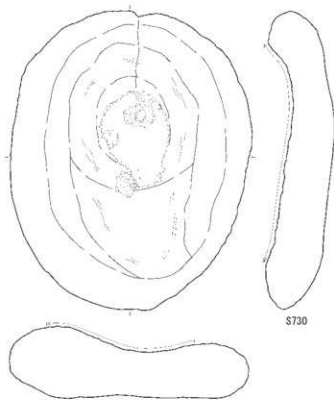
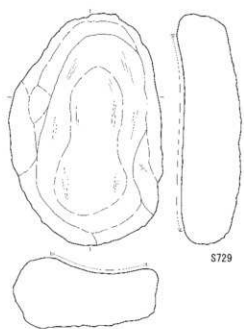
第2-198图 唐·敲石 (12)



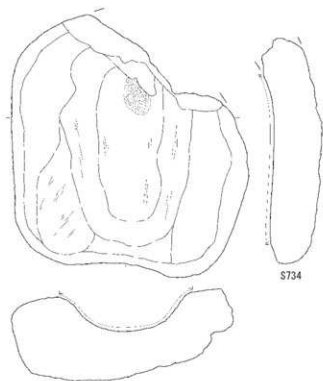
第2-199图 唐·敲石 (13)



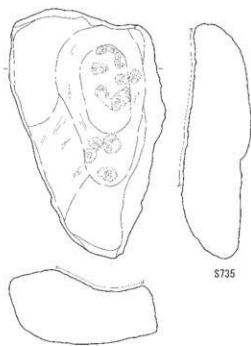
第2-200图 磨·敲石 (14)



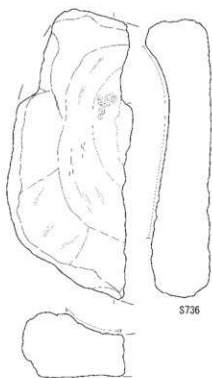
第2-201図 石皿(1)



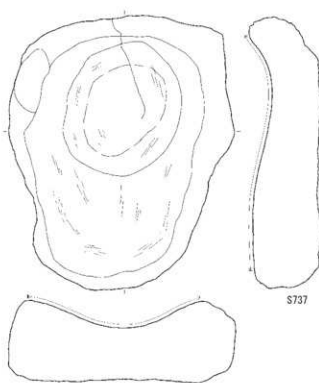
S734



S735



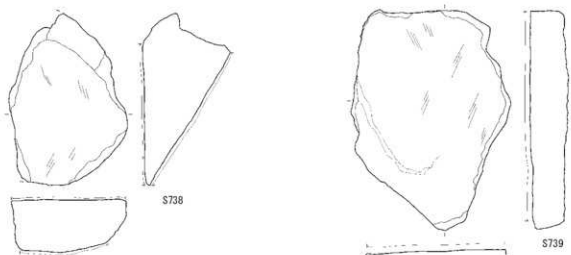
S736



S737

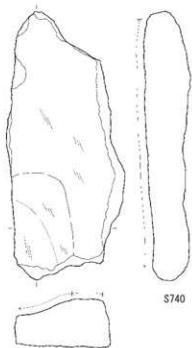


第2-202図 石皿(2)

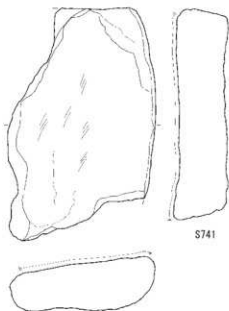


S738

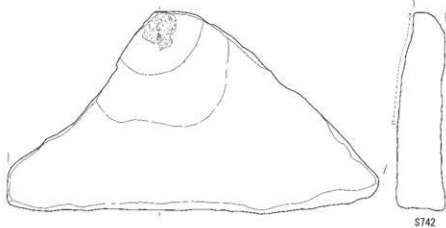
S739



S740



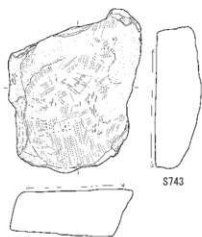
S741



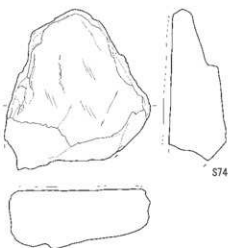
S742

0 1 6 20cm

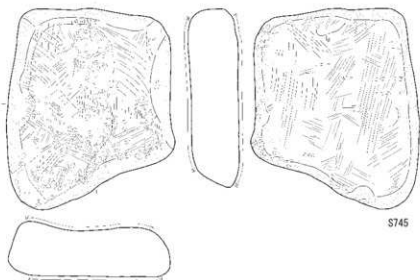
第2-203图 石皿(3)



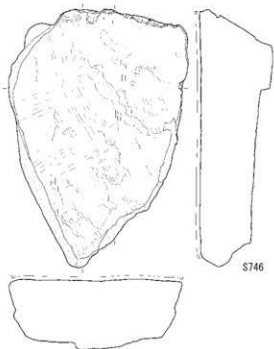
S743



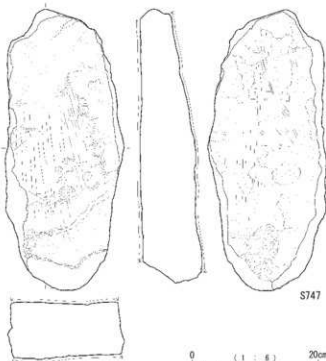
S744



S745



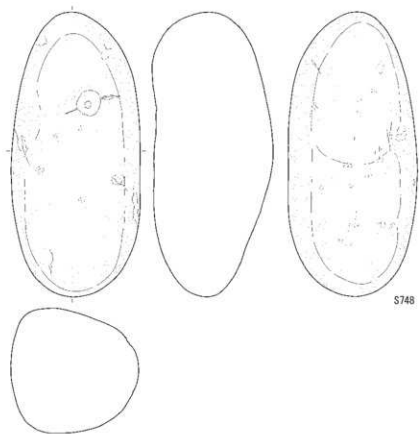
S746



S747



第2-204图 石皿(4)



S748

0 (1 : 6) 20cm

第2-205図 石皿 (5)

面がほぼ平坦な石皿(台石)である。

S738は、両面に摩耗面があり、縦断面は三角形状となる。

S739~743は、片面に摩耗面がある。S740は摩耗面の横断面が浅く磨り窪んでいる。S742は、平面形は三角形状であるが図上の上部を欠損している。摩耗面中央上部に浅い磨り窪みと敲打痕がみられる。S743は、側面にも複数の剥離痕がみられる。

S744は、図上の下部を欠損する。S745は、正面に浅い皿状、裏面には平坦な摩耗面をもつ。正面には磨面よりも古い多数の敲打痕が観察されることから、敲打整形された可能性もある。摩耗面で磨りつぶされた対象(残留)物の把握を目的として、科学分析(残存デンプン粒分析)を実施した結果、摩耗面と摩耗面ではない部分の2か所から、原形が円形や半楕円形の残存デンプン粒が検出され、コナラ属や堅果類のデンプンである可能性が指摘されている(第IV章 科学分析を参照)。

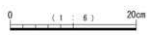
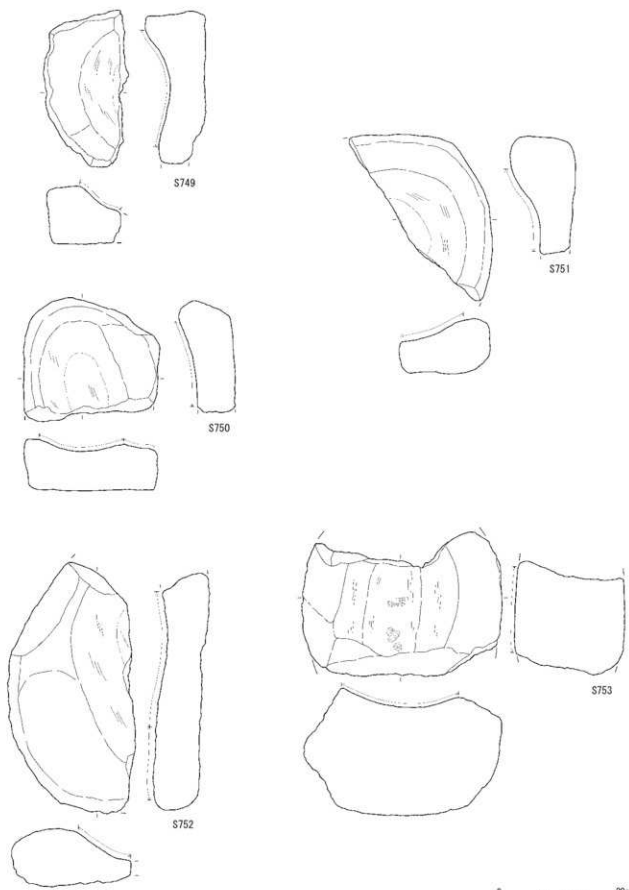
S746は、正面の平坦な摩耗面が鏡面のような光沢をもつ。S747は、両面に摩耗面があり、磨面や敲打痕がみられる。摩耗面で磨りつぶされた対象(残留)物の把握を

目的として、科学分析(残存デンプン粒分析)を実施した結果、摩耗面から原形が五角形の残存デンプン粒が検出され、クルミ属のものである可能性が指摘されている(第IV章 科学分析を参照)。

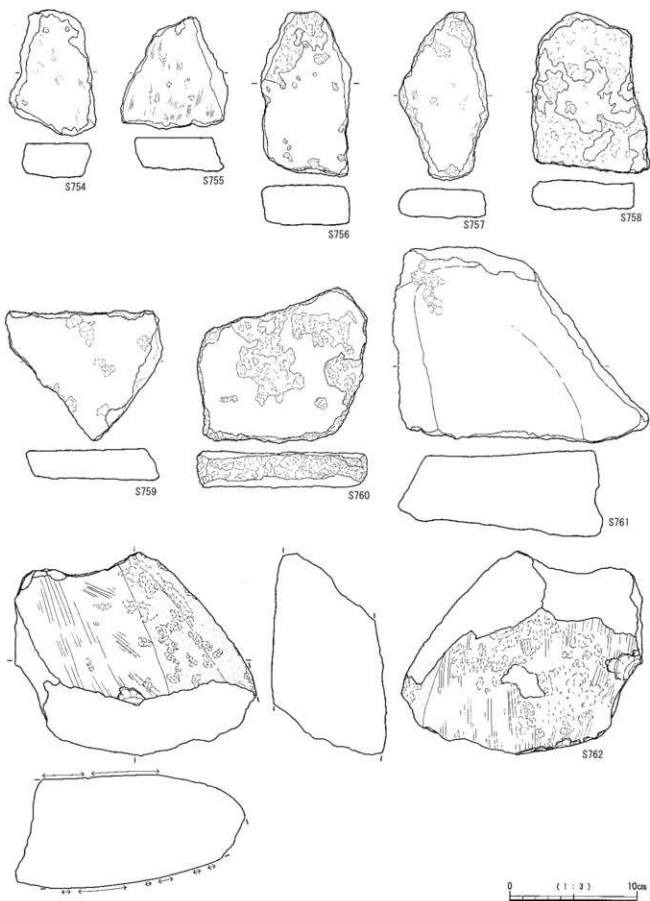
S738~S742の5点は花崗岩製、S743~S747の5点は砂岩製である。

V類 S748は、縦長の楕円礫で部分的に擦痕がみられる。台石の可能性があり掲載したが、摩耗面の使用痕は顕著ではない。安山岩B類製である。

VI類 S749~S762は、石皿の欠損品または小型の石皿である。S749~S753は、摩耗面の縦・横断面が深い「U」字となるほどよく磨り窪んでおり、I~III類の破片である可能性が高い。S753は、厚手で摩耗面中央に敲打痕がみられる。S754~S762は、IV類の欠損品または小型の石皿(台石)である。S754・S755は、片面のみが作業面で摩耗面がある。S756~S759は、摩耗面に敲打痕がある。S760は、摩耗面である正面と側面に敲打痕が巡る。S761は、正面に磨面と敲打痕、裏面に磨面がある。S762は、作業面に磨面と敲打痕があり被熱が認められる。



第2-206图 石皿(6)



第2-207图 石皿 (7)

砥石 (第2-208図～第2-209図 S763～S779)

S763～S779は、砥石である。素材礫の形状が磨・敲石と類似するものもあるが、厚みから砥石として分類した。S763・S765は扁平な剥片を利用し、両面ともに作業面(砥面)がある。S764は、一部を欠損する。正面から右側面にかけて擦痕がみられる。裏面にはわずかに敲打痕と剥離面が残存する。

S766～S770は、据え置き型の平砥石の可能性があるのである。S766は、右側面に敲打痕がみられる。S767は、残存部正面のほぼ全体に作業面(砥面)がある。S768は、正面から向かって右側の欠損部の断面の角を面取りするように研磨されている。S769は、右側面に敲打痕がある。S770は、正面に明瞭な作業面(砥面)があり、よく使用された結果、断面が凹んでいる。

S771～S775は、扁平な楕円礫などを利用した砥石である。いずれも小型で、携帯用砥石の可能性があるのである。

S771は、両面ともに作業面(砥面)がある。S772は、正面に擦面、側面の一部に敲打痕がみられる。S773は、両面に擦痕、右側面に敲打痕、剥離面が残存する。

S774は、両面とも使用される。S775は、正面のみが使用され、右側面には敲打痕がみられる。S766・S774は、欠損後に敲打を行った可能性がある。

S776・S777は、正面に「U」字状となる深い凹みがある有溝砥石である。S776は玉砥石、S777は磨製石斧のV類(盤型)用砥石の可能性があるのである。S778は、正面に5面の作業面があり、断面も作業面として利用している。作業面の形状から磨製石斧を研磨した可能性がある。

S779は、「U」字状の凹みが正面に13条、裏に12条ほど認められる。石器を研磨するには砥石の粒度が粗いことから、骨角器を製作するための砥石、あるいは筋砥石の可能性があるのである。S765・S769・S770は被熱の跡が確認でき、S769には煤が付着する。

S777・S779の2点のみ凝灰岩で、その他の15点は砂岩製である。

擦切石器 (第2-210図 S780～S787)

S780～S787は、擦切石器である。扁平な剥片の上面と左右両側面を剥離成形し、剥片の辺あるいは二辺を研磨によって刃部に仕上げたものである。

使用の度合いにより違いがあるものの、刃部の断面は基本的に三角形となる。盤状の磨製石斧(磨製石斧V類)などを製作する際、石英製の砂などを研磨剤として用い、研ぎ続けることによって原石から石斧の素材を分割するための石器である。

掲載遺物における出土層は、すべてIV層である。

S780～S783は、下辺に刃部があり、ほぼ全体に研磨痕がみられる。S784は、両面ともに研磨痕があり、刃部の断面は四角形に近く、使用による結果と考えられる。

S785は、下辺に刃部があり正面上部に剥離面が残存する。S786は、下辺に刃部があり、裏面に整形前の素材としての剥離面を残す。S787は、下辺及び左側面の二辺に刃部がある。裏面に剥離面が残存する。

S780～S787の8点はすべてキラキラした雲母質を含む砂岩製である。

石錘 (第2-211図～第2-213図 S788～S832)

S788～S832は、石錘である。扁平な円礫・楕円礫・方形礫の長軸の両端あるいは短軸の両端を打ち欠き製作された、いわゆる打ち欠き石錘である。

打ち欠き部の数によってI・II類に大別し、さらにI類については、形状や残存状況によって細分した。

打ち欠き部を成形する両極剥離を行った後、剥離面を潰すための敲打痕が確認されるもの、紐を掛け使用した紐ずれの痕が確認できるものがある。

掲載遺物における出土層の内訳は、III層1点、IV層1点、IVa層9点、IVb層32点、V層1点である。

Ia類 S788～S805は、扁平な円礫・楕円礫の長軸の両端を打ち欠いて整形される。S795・S797・S803・S804は、打ち欠き部に剥離面を潰すための敲打痕がみられる。打ち欠け部に掛けた紐が痛むことを防ぐためと考えられる。S791～S793・S796・S797・S805には、両面に紐ずれ痕と考えられる摩耗がみられる。S805は、被熱した礫を使用している。

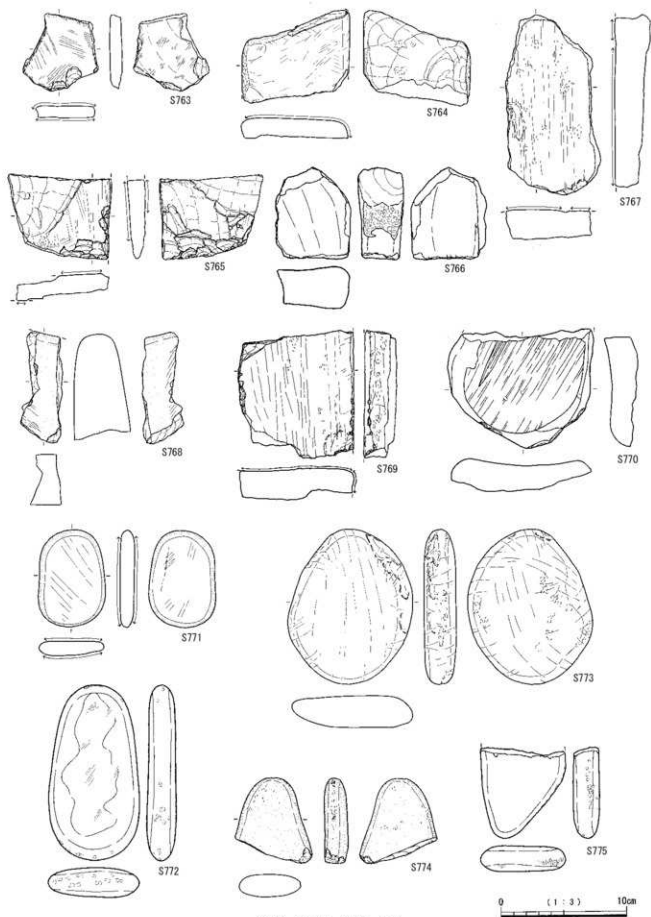
S793～S797・S803～S805の8点は、砂岩製である。S789・S790・S792・S799・S801・S802の6点は、ホルンフェルス製である。S788・S791・S798・S800の4点は、安山岩B類製である。

Ib類 S806～S817は、扁平な方形礫の長軸の両端を打ち欠いて製作されたものである。S806は、側面に敲打痕がみられる。S807・S808は、側面のほぼ全局にわたって敲打痕がある。S814は正面に敲打痕がある。S816は、両極の打ち欠き部に敲打痕が集中しており、剥離面を潰すために入念に加工している。S817は、打ち欠き部の剥離面を潰すための敲打を含め、側面のほぼ全局に敲打痕がみられる。

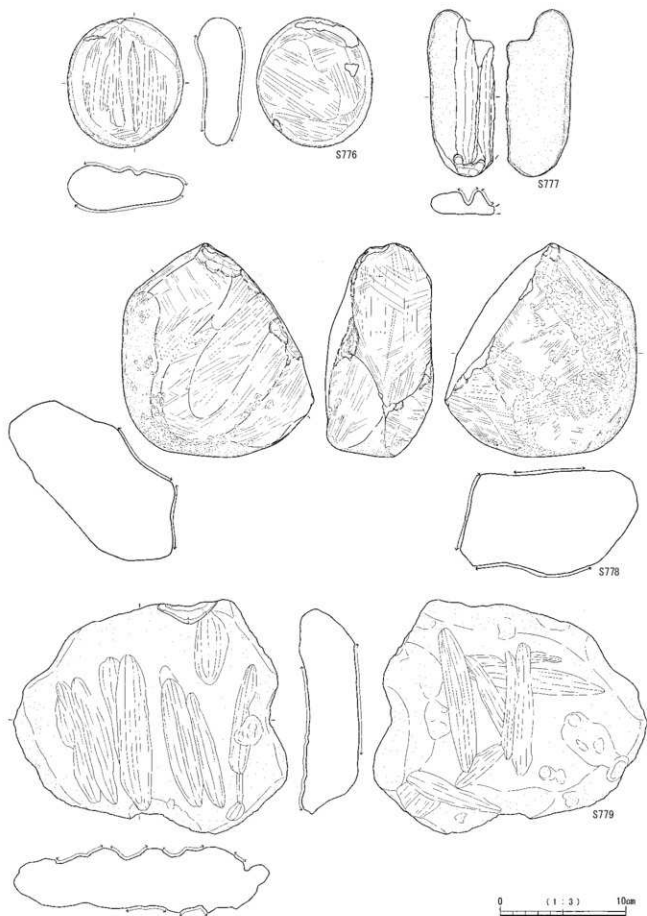
S808～S813の6点は、ホルンフェルス製である。S806・S814～S817の5点は、砂岩製である。S807は、花崗岩製である。

Ic類 S818～S821は、扁平で角のとれた三角形の礫の長軸両端を打ち欠いたものである。素材となる礫の尖った部分と対極する部分を打ち欠いている。

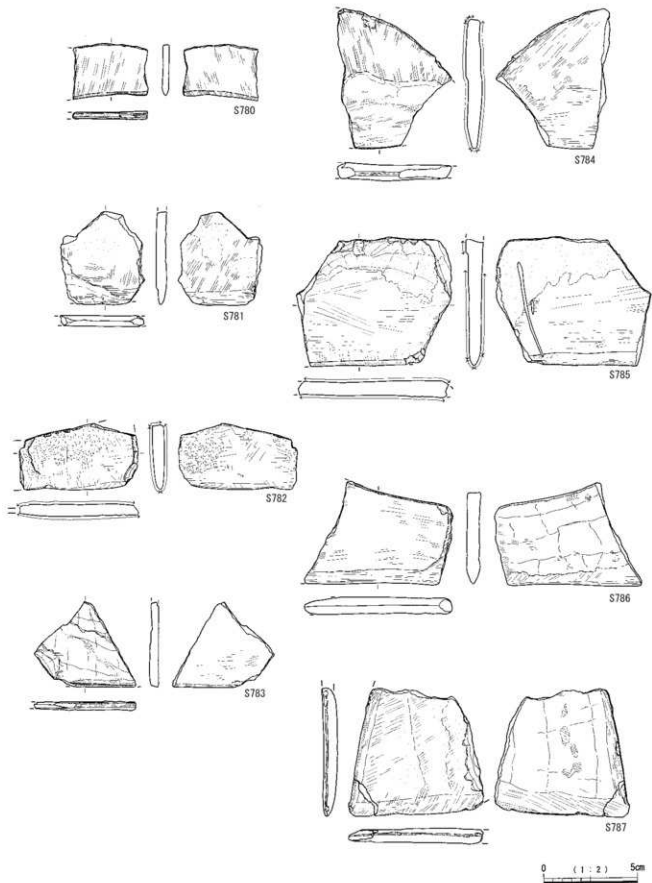
S818は、打ち欠き部に刃潰しのための敲打痕がみられる。S819は、正面の左側面に打ち欠きがないことから、素材礫の形状を利用したものと考えられる。S821は、正面の右側面に敲打痕が集中しており、石錘から敲石に転用、または敲石から石錘に転用された可能性がある。



第2-208图 砾石(1)



第2-209图 砾石(2)



第2—210图 擦切石器

4点ともすべて砂岩製である。

I 類 S822～S826は、扁平な楕円環・不定形な環の両極を打ち欠いたものである。打ち欠き部を中心に一部を欠損するもの、製作途上の可能性があるものである。

S822は、裏面の打ち欠き部から大きな剥離が延び、製作途中で破棄された可能性がある。S823・S824は、正面から正対し左側を欠損する。S825は、両極の打ち欠き部が明瞭に作出されていないため製作途上の可能性がある。S826は、正面の打ち欠き部から左側の一部を欠損する。打ち欠き部は凹状に整形されており特徴的である。打ち欠き部も含め、側面の全周に敲打痕がみられる。

S822・S823・S825の3点はホルンフェルス製である。S824は、花崗岩製である。S826は、砂岩製である。

II 類 S827～S832は、扁平ではほぼ方形の環を素材とする。紐を十字に掛けて結束したと考えられ、長軸、短軸の両端を合わせ、計3～4か所の打ち欠き部をもつ。打ち欠き部を整形せず素材環の形状を利用したと考えられるものを含む。

S827は、裏面の短軸下縁にのみ打ち欠き部の剥離がみられる。S828は、短軸方向下縁に打ち欠きがみられず、素材環の形状を利用して紐を掛けたと考えられる。S829は、短軸両極の剥離が延びていないため、素材環の形状を利用したものと考えられる。S830は、正面上端に複数の剥離面がみられる。両面とも短軸方向の下端には剥離がみられないことから、素材環の形状を利用したと考えられる。S831は、長軸、短軸双方の両端に打ち欠き部の剥離がみられる。S832は、両面とも長軸に打ち欠き部整形のための剥離がある。短軸は正面上端にのみ剥離がみられ、素材環の形状を利用して紐を掛けたと考えられる。

S828・S831・S832の3点は、ホルンフェルス製である。S829・S830は、砂岩製である。S827は、花崗岩製である。

石製品 (第2-214図・第2-215図 S833～S838)

S833～S838は、石製品である。装飾品や用途不明の石製品を含む。

掲載遺物における出土層の内訳は、IVa層1点、IVb層5点である。

S833は、砂岩製である。上部中央が穿孔されている。断面形状から両面穿孔と考えられる。完形で右側縁には2本を1単位とする刻みが4か所、計8本施される。垂飾品の可能性がある。S834は、蛇紋岩製の塊状耳飾りである。右半分と左側の下端部を欠損している。左半分は欠損後、破断面が研磨されている。缺部の上に両面穿孔を施し、垂飾品に転用されたと考えられる。S835は、長楕円形を呈する有孔石製品である。穿孔は、器面に残る剥離の前に行われている。正面の側縁両端と裏面右側縁の下端に大きな剥離面が残存するほか、両面ともに整

形時のものと考えられる敲打痕がある。いわゆる「磨削形大珠」の可能性がある。頁岩B製である。S836は、ホルンフェルス製の石製品である。半分程度を欠損する。両面とも剥離痕が残存する。中央部に孔があり、左側面の全体には刻み状の痕跡が連続してみられるが、いずれも自然面である可能性を残す。S837は、砂岩製の石製品である。下部を欠損しているが、残存部の形状は隅丸長方形状である。断面は長方形であったと考えられる。側面には研磨によって細い刻み状の加工が連続して施される。刻み状の加工は、右側面では裏面側に上部にのみ残り、下部は研磨が施されておらず対照的である。刻み状の加工は鋭利な工具で施されたと考えられるが、その後の敲打によって一部が消滅している。用途は不明である。

S838は、やや厚みのあるホルンフェルス製の楕円形環で、全面に光沢がみられるためバットストーンの可能性はある。S834が縄文時代前期末に、S835が縄文時代後期前半に該当すると思われる。

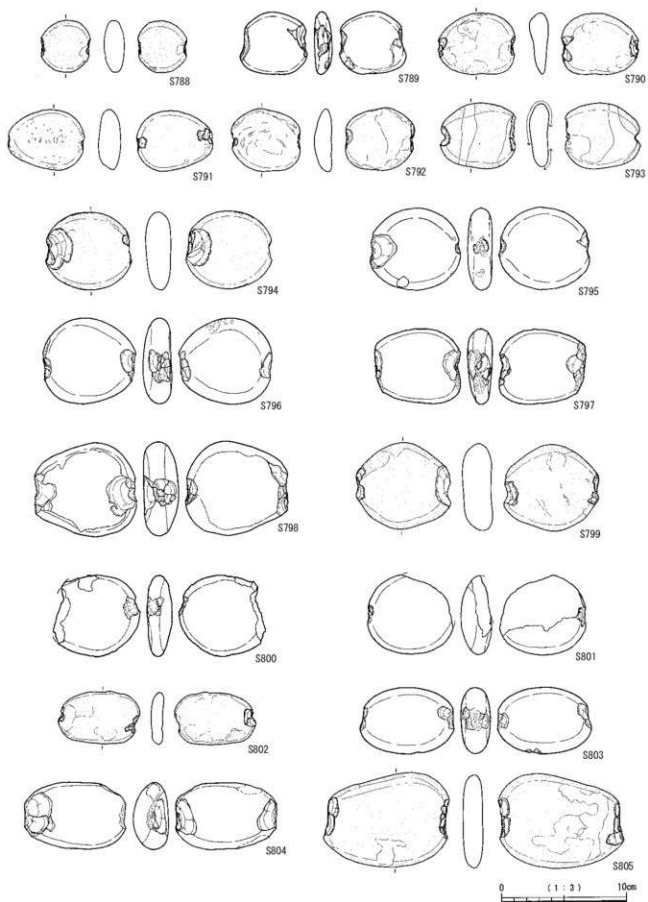
軽石加工品 (第2-216図・第2-217図 S839～S850)

S839～S850は、軽石加工品である。人為的な穿孔や溝状の凹み、磨面があるものなど、使用痕跡がみられるものを含めて軽石加工品とした。

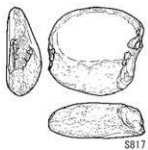
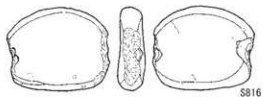
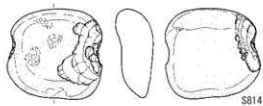
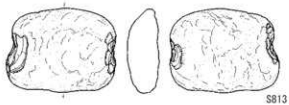
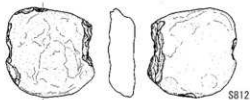
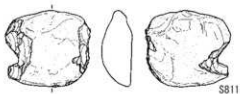
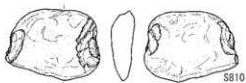
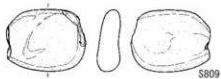
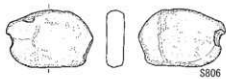
軽石加工品は、総点で124点出土している。判別が難しいものや原石は数量に含んでいない。

掲載遺物における出土層の内訳は、IVa層3点、IVb層8点、VI層1点である。

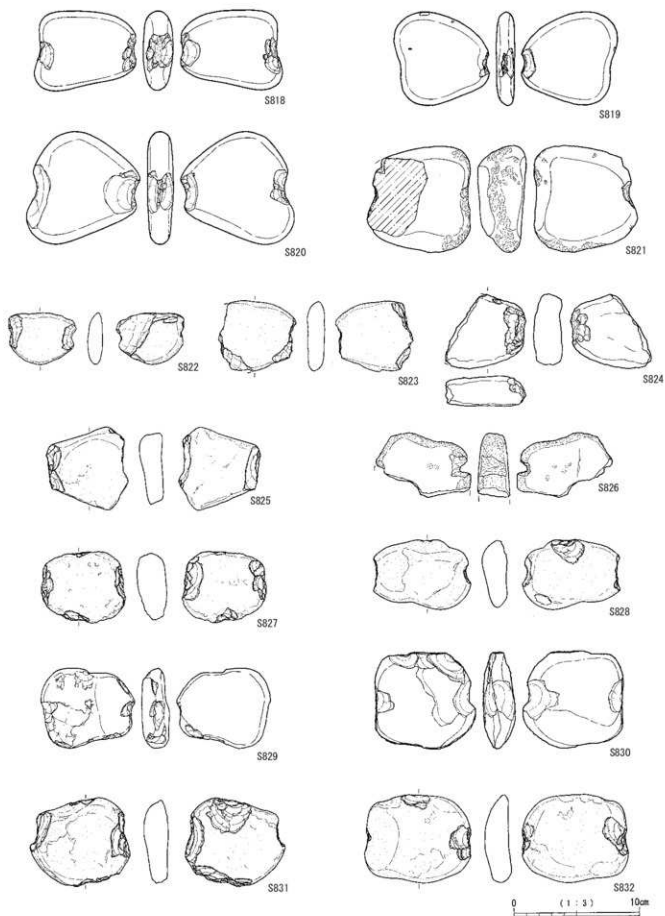
S839は、両面、側面ともに面取りされ、中央部やや上位に孔径6～9mmの貫通孔が2か所ある。下位の貫通孔の一部を欠損する。断面形状から両面穿孔と考えられる。垂飾品の可能性がある。S840は、ほぼ円形を呈し、厚みがあり断面形は楕円形となる。ほぼ中央部に両面穿孔による貫通孔がある。垂飾の可能性はある。S841は、上部端を巡るような凹みがみられることから浮子の可能性がある。S842は、正面上端の左側縁が逆「L」字状に抉る加工が施されており、貫通孔の一部が再加工された可能性がある。S843～S845は、正面に「U」字状となる溝状の凹みと平坦面がある。下面も面取りされており、沈線状の擦痕がみられる。S844は、正面に「U」字状の凹み、右側面に3か所、沈線状の凹み痕がある。左上の側面は明瞭に面取りされる。S845は裏面と右側面の2か所に磨面がみられる。S846は、両面が研磨によって面取りされ、「V」字状となる溝状の加工が施される。裏面の溝状の加工痕を挟み、中央部に赤色顔料の可能性がある付着物がみられる。S847は両面、S848は正面の2面、裏面が1面、面取りされる。S849は、裏面全体が研磨によって面取りされ、断面では凹状に窪んでいる。S850は、正面全体に擦痕が確認できることから石皿の可能性はある。



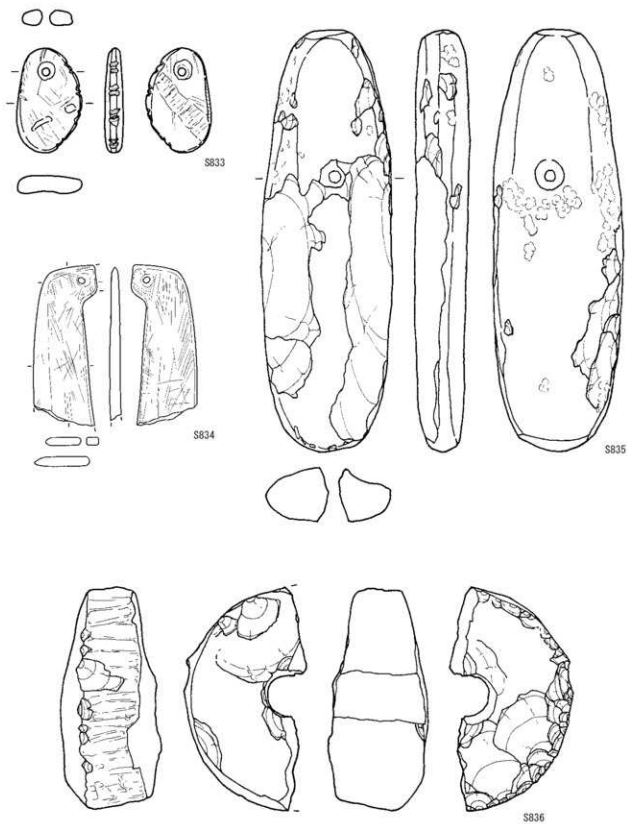
第2-211図 石錘(1)



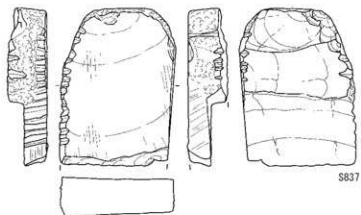
第2-212図 石錘(2)



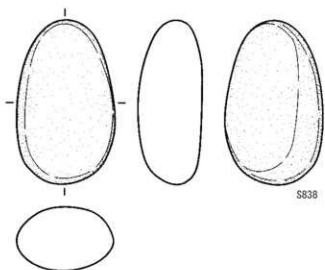
第2-213図 石錘 (3)



第2-214図 石製品(1)



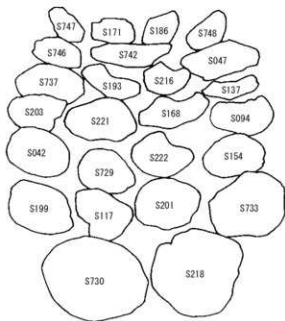
S837



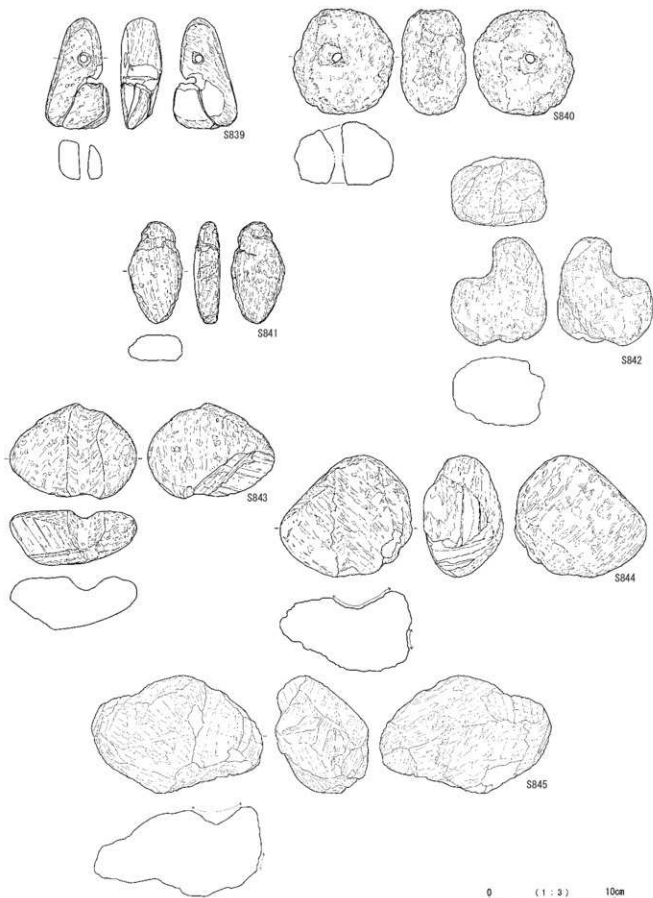
S838



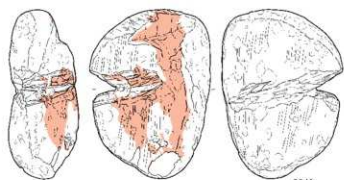
石製品 (2)



石皿集合写真 (巻頭4)



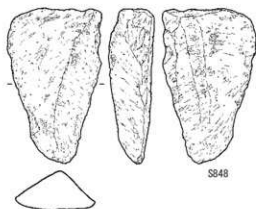
第2-216図 軽石加工品(1)



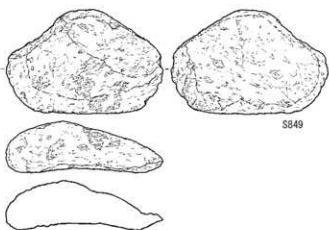
S846



S847

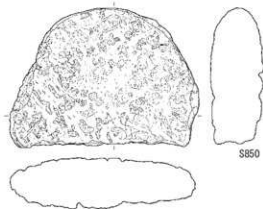


S848



S849

0 (1:3) 10cm



S850

0 (1:6) 20cm

第2-217図 軽石加工品(2)

第2-19表 包含層石器観察表1

押出 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真 掲載	
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)						重量 (g)
2-134	S229	E-10	IVa	石鏃	I	0.90	1.10	0.29	0.19	黒曜石	黒曜石C	27569	-	100
	S230	B-4	IVb	石鏃	I	1.15	1.11	0.30	0.29	黒曜石	黒曜石A	31290	-	100
	S231	D-15	-	石鏃	I	1.22	1.36	0.25	0.29	黒曜石	黒曜石A	カタラン	完形品	100
	S232	E-9	IVb	石鏃	I	1.25	1.24	0.30	0.36	安山岩	安山岩A	28352	-	100
	S233	D-10	IVa	石鏃	I	1.06	1.34	0.25	0.28	頁岩	頁岩A	21217	一部欠損	100
	S234	D-13	IVb	石鏃	I	1.40	1.20	0.30	0.28	黒曜石	黒曜石B	15442	-	100
	S235	B-4	IVb	石鏃	I	(1.13)	1.35	0.40	0.46	黒曜石	黒曜石A	31197	一部欠損	100
	S236	D-16	IVa	石鏃	I	1.37	1.46	0.30	0.48	安山岩	安山岩A	3372	-	100
	S237	F-39	IVb	石鏃	I	1.52	1.38	0.40	0.50	安山岩	安山岩A	100017	-	100
	S238	E-39	IVa	石鏃	I	1.98	1.46	0.40	0.90	頁岩	頁岩A	104855	一部欠損	100
	S239	D-16	IVa	石鏃	I	(1.47)	1.27	0.20	0.30	安山岩	安山岩A	2837	-	100
	S240	C-38	IVa	石鏃	I	1.83	1.59	0.27	0.64	頁岩	頁岩B	103140	-	100
	S241	C-6	IVa	石鏃	I	2.08	1.82	0.35	1.01	安山岩	安山岩A	21713	-	100
	S242	-	-	石鏃	I	1.42	1.48	0.25	0.32	玉髄	-	覆土	-	100
	S243	-	-	石鏃	I	1.75	1.50	0.30	0.57	玉髄	-	覆土	-	100
	S244	C-7	IVa	石鏃	I	1.84	1.63	0.40	0.89	チャート	-	23681	-	100
	S245	E-13	IVb	石鏃	I	1.95	1.82	0.25	0.67	安山岩	安山岩A	13518	-	100
	S246	B-34	IVa	石鏃	I	1.93	1.93	0.38	0.79	安山岩	安山岩A	104513	-	100
	S247	C-39	IVa	石鏃	I	2.40	1.99	0.36	1.18	安山岩	安山岩A	カタラン一紙	-	100
	S248	D-8	IVa	石鏃	I	2.45	2.31	0.74	2.90	チャート	-	21256	-	100
	S249	B-10	IVb	石鏃	I	2.61	2.47	0.36	1.88	黒曜石	黒曜石C	29575	-	100
	S250	D-16	IVb	石鏃	II	1.78	(1.40)	0.30	0.46	黒曜石	黒曜石C	7818	完形品	100
	S251	D-36	IVb	石鏃	II	2.06	1.47	0.35	0.63	玉髄	-	104700	-	100
	S252	D-23	IVa	石鏃	II	2.17	1.50	0.30	0.65	黒曜石	黒曜石B	55813	-	100
	S253	C-7	IVa	石鏃	II	2.60	1.65	0.46	1.55	安山岩	安山岩A	21733	-	100
	S254	D-11	IVa	石鏃	II	2.49	(1.87)	0.30	1.05	安山岩	安山岩A	972	-	100
	S255	D-23	IVb	石鏃	II	3.98	2.65	0.40	2.61	黒曜石	黒曜石C	55940	-	100
	S256	D-23	Va	石鏃	II	4.24	(2.51)	(0.40)	2.19	安山岩	安山岩A	56238	-	100
S257	D-3	IVb	石鏃	II	1.93	1.44	0.25	0.71	頁岩	頁岩B	44487	完形品	100	
S258	B-6	IVb	石鏃	II	2.24	1.41	0.25	1.01	頁岩	頁岩B	42792	完形品	100	
S259	C-5	IVb	石鏃	II	(2.38)	1.28	0.40	0.93	頁岩	頁岩B	34623	完形品	100	
S260	C-31	IVb	石鏃	II	(2.21)	1.81	0.35	1.21	3x3x7mmス	-	104610	完形品	100	
S261	B-6	IVa	石鏃	II	3.36	1.59	0.48	1.38	安山岩	安山岩A	23370	-	100	
S262	B-4	IVb	石鏃	II	2.53	1.40	0.35	0.83	安山岩	安山岩A	27279	-	100	
S263	D-15	IVb	石鏃	II	2.50	1.60	0.30	1.14	安山岩	安山岩A	12992	-	100	
S264	C-5	-	石鏃	II	2.63	1.98	0.40	1.57	安山岩	安山岩A	カタラン一紙	-	100	
S265	C-D-3	IVb	石鏃	II	3.55	1.63	0.40	1.46	頁岩	頁岩B	127-489	完形品	100	
S266	C-6	IVb	石鏃	II	2.99	1.93	0.23	1.40	チャート	-	26851	-	100	
S267	E-25	IVa	石鏃	II	1.25	1.25	0.30	0.26	黒曜石	黒曜石C	42181	一部欠損	101	
S268	B-6	IVa	石鏃	II	1.63	1.40	0.26	0.44	安山岩	安山岩A	28810	-	101	
S269	C-19	IVb	石鏃	II	1.54	1.34	0.25	0.38	黒曜石	黒曜石C	3324	完形品	101	
S270	B-16	IVb	石鏃	II	(1.58)	1.45	0.40	0.50	頁岩	頁岩B	4776	完形品	101	
S271	C-4	IVb	石鏃	II	1.80	1.65	0.22	0.49	頁岩	頁岩B	26357	-	101	
S272	D-38	IVa	石鏃	II	2.01	1.49	0.30	0.65	安山岩	安山岩A	103032	-	101	
S273	E-6	IVb	石鏃	II	1.87	1.29	0.46	0.60	チャート	-	25840	-	101	
S274	E-37	IVb	石鏃	II	2.00	1.30	0.28	0.50	安山岩	安山岩A	101456	-	101	
S275	C-3	IVb	石鏃	II	1.86	1.83	0.60	1.87	黒曜石	黒曜石D	42395	一部欠損	101	
S276	F-39	IVb	石鏃	II	1.62	1.31	0.40	0.64	チャート	-	100025	-	101	
S277	B-40	IVa	石鏃	II	2.10	1.52	0.36	0.88	チャート	-	101180	-	101	
S278	F-13	IVb	石鏃	II	2.15	1.00	0.30	0.61	チャート	-	14309	-	101	
S279	D-8	IVa	石鏃	II	1.74	1.81	0.42	0.74	チャート	-	21255	-	101	
S280	D-6	IVb	石鏃	II	2.38	(1.52)	0.30	0.79	チャート	-	30625	一部欠損	101	
S281	D-7	IVa	石鏃	II	2.15	1.45	0.40	0.68	黒曜石	黒曜石A	21973	一部欠損	101	
S282	F-7	III	石鏃	II	2.07	1.84	0.40	1.00	チャート	-	-	完形品	101	
S283	F-9	IVa	石鏃	II	2.51	1.54	0.32	0.90	チャート	-	26718	-	101	
S284	-	-	石鏃	II	2.60	1.85	0.30	0.93	安山岩	安山岩A	覆土	-	101	
S285	B-24	IVb	石鏃	II	(2.11)	1.44	0.25	0.57	安山岩	安山岩A	36878	完形品	101	
S286	D-17	-	石鏃	II	2.05	1.60	0.37	0.70	黒曜石	黒曜石D	19847	-	101	
S287	B-25	IVb	石鏃	II	1.70	1.79	0.30	0.68	黒曜石	黒曜石C	40403	一部欠損	101	
S288	E-21	IVb	石鏃	II	2.48	2.15	0.40	1.28	黒曜石	黒曜石E	7654	一部欠損	101	
S289	B-6	IVb	石鏃	II	(2.51)	(1.88)	0.35	0.90	黒曜石	黒曜石C	45604	一部欠損	101	
S290	E-12	IVb	石鏃	IV	1.75	1.20	0.30	0.62	安山岩	安山岩A	13504	-	101	
S291	B-11	IVb	石鏃	IV	1.90	1.40	0.36	0.91	黒曜石	黒曜石C	25899	-	101	
S292	C-12	IVb	石鏃	IV	2.40	1.40	0.30	1.39	安山岩	安山岩A	10828	-	101	
S293	C-10	IVa	石鏃	IV	1.89	1.40	0.45	0.98	安山岩	安山岩A	23124	-	101	

第2-20表 包含層石器観察表2

採回 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真 掲載	
						長さ (cm)	幅 (cm)							重量 (g)
							幅	厚さ						
2-137	S294	E-10	I/b	石鏃	Ⅱ	2.00	1.50	0.43	1.11	チャート	-	25902	-	101
	S295	C-40	I/a	石鏃	Ⅱ	2.02	1.40	0.45	0.97	安山岩	安山岩A	101660	-	101
	S296	C-10	I/b	石鏃	Ⅱ	1.93	1.67	0.35	0.84	安山岩	安山岩A	43069	完形品	101
	S297	D-3	I/b	石鏃	Ⅱ	2.28	1.72	0.35	1.24	安山岩	安山岩A	41904	完形品	101
	S298	D-5	I/b	石鏃	Ⅱ	2.40	2.21	0.40	1.69	頁岩	頁岩A	33129	完形品	101
	S299	C-24	I/b	石鏃	Ⅱ	3.10	2.09	0.30	1.63	安山岩	安山岩A	42124	一部欠損	101
	S300	D-35	I/a	石鏃	Ⅱ	1.67	1.39	0.32	0.46	黒曜石	黒曜石C	101353	-	101
	S301	F-6	I/a	石鏃	Ⅱ	1.66	1.17	0.36	0.41	安山岩	安山岩A	27286	-	101
	S302	F-35	I/b	石鏃	Ⅱ	1.95	1.40	0.33	0.55	チャート	-	101912	-	101
	S303	E-36	I/b	石鏃	Ⅱ	1.70	1.09	0.28	0.33	チャート	-	102903	-	101
	S304	D-7	V a	石鏃	Ⅱ	(2.47)	(1.38)	(0.40)	0.68	黒曜石	黒曜石C	48306	-	101
	S305	F-8	I/b	石鏃	Ⅱ	2.52	1.57	0.46	0.91	安山岩	安山岩A	25918	-	101
	S306	C-37	I/a	石鏃	Ⅱ	1.70	1.27	0.32	0.41	安山岩	安山岩A	100439	-	101
	S307	B-5	I/b	石鏃	Ⅱ	2.32	1.95	0.03	0.83	安山岩	安山岩A	31118	完形品	101
	S308	E-10	I/b	石鏃	V	1.52	0.90	0.27	0.30	黒曜石	黒曜石C	27293	-	102
S309	D-16	I/a	石鏃	V	1.39	1.34	0.30	0.40	黒曜石	黒曜石C	3438	-	102	
S310	B-5	I/b	石鏃	V	1.60	1.45	0.45	0.67	黒曜石	黒曜石C	33718	一部欠損	102	
S311	F-18	V	石鏃	V	(1.62)	(1.26)	(0.30)	0.53	チャート	-	16072	-	102	
S312	D-21	V	石鏃	V	(2.16)	(1.02)	(0.30)	0.42	黒曜石	黒曜石C	16162	-	102	
S313	E-10	I/a	石鏃	V	1.48	1.79	0.35	0.84	黒曜石	黒曜石D	27565	-	102	
S314	C-3	I/b	石鏃	V	1.20	1.80	0.35	0.61	安山岩	黒曜石C	27270	-	102	
S315	C-7	I/b	石鏃	V	1.22	1.95	0.40	0.68	頁岩	頁岩A	29777	一部欠損	102	
S316	D-23	V a	石鏃	V	(1.03)	1.24	0.40	0.32	黒曜石	黒曜石A	56302	-	102	
S317	C-38	I/a	石鏃	V	1.50	1.72	0.48	0.93	黒曜石	黒曜石A	100217	一部欠損	102	
2-138	S318	C-4	I/b	石鏃	V	1.65	1.25	0.40	0.55	黒曜石	黒曜石C	26333	-	102
	S319	E-37	I/b	石鏃	V	1.43	1.27	0.33	0.36	黒曜石	黒曜石C	103075	-	102
	S320	D-33	I/b	石鏃	V	1.50	1.48	0.38	0.65	黒曜石	黒曜石C	104639	一部欠損	102
	S321	B-5	I/b	石鏃	V	1.85	1.76	0.63	1.25	黒曜石	黒曜石A	30168	-	102
	S322	F-9	I/b	石鏃	V	2.15	1.39	0.40	0.97	黒曜石	黒曜石C	25906	-	102
	S323	D-32	I/b	石鏃	V	1.90	1.80	0.79	1.90	黒曜石	黒曜石B	104632	-	102
	S324	D-10	I/a	石鏃	V	1.71	1.35	0.46	0.81	安山岩	安山岩A	21212	-	102
	S325	B-8	I/a	石鏃	V	1.95	1.53	0.42	1.05	黒曜石	黒曜石C	22386	-	102
	S326	-	-	石鏃	V	2.60	1.60	0.70	2.74	黒曜石	黒曜石D	楓上	-	102
	S327	C-41	I/a	石鏃	V	2.70	2.18	0.47	2.10	チャート	-	101636	-	102
	S328	C-36	I/b	石鏃	V	2.24	1.91	0.65	2.33	頁岩	頁岩A	103450	-	102
	S329	C-15	I/b	石鏃	-	1.65	1.70	0.55	0.97	黒曜石	黒曜石A	12106	-	102
	S330	D-17	I/b	石鏃	-	2.35	2.40	0.40	1.84	安山岩	安山岩A	14288	-	102
	S331	-	-	石鏃	-	2.10	1.20	0.20	0.53	玉髄	-	楓上	-	102
	2-139	S332	D-16	I/b	石鏃	-	2.50	1.35	0.20	1.32	安山岩	安山岩A	7225	-
S333		C-8	I/b	石鏃	-	3.05	1.15	0.60	1.66	砂岩	-	48279	-	102
S334		E-10	I/b	石鏃	-	2.98	1.17	0.45	1.12	安山岩	安山岩A	29220	-	102
S335		D-10	I/b	石鏃	-	3.45	1.80	0.60	3.28	頁岩	頁岩B	48379	-	102
S336		E-24	I/b	石鏃	-	2.55	0.84	0.54	1.01	玉髄	-	39271	-	102
S337		C-11	I/a	石鏃	-	4.70	1.50	1.10	5.70	玉髄	-	67-198	-	102
S338		D-23	I/b	石鏃	I	4.93	2.60	0.97	8.38	玉髄	-	55873	-	103
2-140	S339	D-39	I/b	石鏃	I	3.80	3.37	0.90	7.78	チャート	-	101808	-	103
	S340	E-25	I/b	石鏃	I	4.25	2.90	0.80	7.23	玉髄	-	41000	-	103
	S341	E-31	I/b	石鏃	I	3.86	2.08	0.64	4.89	チャート	-	104634	-	103
	S342	B-C-10	I/b	石鏃	I	(4.11)	2.57	0.84	7.59	チャート	-	一括	-	103
	S343	C-35	I/b	石鏃	I	3.01	6.02	1.27	18.53	玉髄	-	103948	-	103
	S344	B-7	I/a	石鏃	Ⅱ	1.19	1.94	0.48	1.14	石英	-	25630	-	103
	S345	G-38	I/b	石鏃	Ⅱ	1.72	1.95	0.56	1.12	玉髄	-	101485	-	103
2-141	S346	F-39	I/b	石鏃	Ⅱ	2.59	3.51	0.62	3.51	安山岩	安山岩C	101050	-	103
	S347	C-39	I/a	石鏃	Ⅱ	2.31	3.79	0.70	3.56	玉髄	-	103146	-	103
	S348	F-24	-	石鏃	Ⅱ	2.30	3.35	0.00	2.27	頁岩	頁岩B	43399	-	103
	S349	F-39	I/b	石鏃	Ⅱ	3.87	4.95	0.55	9.85	安山岩	安山岩C	101033	-	103
	S350	D-35	-	石鏃	Ⅱ	1.50	3.40	0.72	3.13	玉髄	-	カクラン一紙	-	103
	S351	C-34	-	石鏃	Ⅱ	2.88	4.70	1.05	8.15	玉髄	-	カクラン一紙	-	103
	S352	E-35	I/a	石鏃	Ⅱ	2.59	3.71	0.67	5.54	チャート	-	101382	-	103
2-142	S353	E-29	I/b	石鏃	Ⅱ	2.10	2.96	0.66	2.42	黒曜石	黒曜石B	45721	-	103
	S354	F-39	I/b	石鏃	Ⅱ	3.08	4.40	0.90	9.11	黒曜石	黒曜石A	100019	-	103
	S355	E-21	I/b	石鏃	Ⅱ	2.95	4.36	1.10	8.12	チャート	-	7652	-	103
	S356	F-40	I/b	石鏃	Ⅱ	3.37	5.10	0.89	9.72	玉髄	-	100050	-	103
	S357	D-24	I/b	石鏃	Ⅱ	2.38	3.01	0.77	4.21	チャート	-	42141	-	103
2-143	S358	D-29	I/b	石鏃	Ⅱ	3.19	3.53	0.61	5.29	チャート	-	45415	-	103

第2-21表 包含層石器観察表3

持回 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真 掲載	
						長さ (cm)	幅 (cm)							重量 (g)
							幅 (cm)	厚さ (cm)						
2-143	S359	F-38	-	石匙	Ⅱ	3.02	2.60	0.32	1.95	玉髄	-	カタラン一紙	-	103
	S360	E-25	IvB	石匙	Ⅱ	3.18	4.65	1.01	14.70	玉髄	-	-	-	103
	S361	D-23	IvB	スクレイパー	-	4.35	2.59	1.36	14.50	黒曜石	黒曜石D	55862	-	104
	S362	D-3	IvB	スクレイパー	-	5.34	4.04	1.62	22.74	黒曜石	黒曜石E	40155	-	104
	S363	F-38	IvB	スクレイパー	-	5.72	4.31	2.02	24.50	頁岩	頁岩A	100078	-	104
	S364	C-7	IvB	スクレイパー	-	6.27	3.83	1.10	24.80	頁岩B	頁岩B	26320	-	104
	S365	E-30	IvB	スクレイパー	-	8.17	5.05	1.30	55.70	頁岩	頁岩B	101817	-	104
	S366	E-10	IvB	スクレイパー	-	9.13	4.49	0.92	30.68	ホルンフェルス	-	29274	-	104
	S367	D-6	IvB	スクレイパー	-	10.56	4.65	1.18	44.90	頁岩	頁岩C	31523	-	104
	S368	D-5	IvB	スクレイパー	-	9.67	4.80	2.70	109.90	砂岩	-	26496	-	104
2-144	S369	E-10	IvB	スクレイパー	-	5.65	7.25	1.68	70.98	ホルンフェルス	-	28073	-	104
	S370	E-15	Ⅲ	スクレイパー	-	5.84	7.16	1.88	80.80	頁岩	頁岩B	269	-	104
	S371	D-12	IvB	スクレイパー	-	7.65	6.82	2.80	156.64	ホルンフェルス	-	23267	-	104
	S372	D-9	IvA	スクレイパー	-	7.99	7.10	1.39	62.28	ホルンフェルス	-	28374	-	104
	S373	F-8	IvB	スクレイパー	-	7.96	7.45	1.63	75.95	ホルンフェルス	-	28410	-	104
	S374	D-16	IvA	スクレイパー	-	10.52	6.54	1.44	74.80	頁岩	頁岩B	一紙	-	104
	S375	C-8	Va	スクレイパー	-	8.76	7.29	2.05	119.80	安山岩	安山岩C	48658	-	104
	S376	D-12	IvB	スクレイパー	-	3.35	6.40	1.30	20.96	安山岩	安山岩C	15331	-	104
	S377	E-24	IvB	スクレイパー	-	5.62	3.05	1.26	16.80	玉髄	-	30942	-	104
	S378	D-12	IvB	スクレイパー	-	3.90	4.65	1.90	31.09	チャート	-	15558	-	104
2-145	S379	C-41	IvB	スクレイパー	-	6.30	4.10	1.25	34.00	ホルンフェルス	-	103199	-	104
	S380	C-10	IvB	スクレイパー	-	7.05	5.10	1.20	54.40	ホルンフェルス	-	27510	-	104
	S381	C-14	Ⅲ	スクレイパー	-	4.71	7.67	1.58	59.50	ホルンフェルス	-	258	-	104
	S382	E-10	IvB	スクレイパー	-	10.60	5.37	1.40	81.38	ホルンフェルス	-	28111	-	104
	S383	C-8	IvA	スクレイパー	-	5.75	9.25	2.30	114.30	砂岩	-	23654	-	104
	S384	B-7	IvA	スクレイパー	-	6.40	15.30	1.93	152.66	ホルンフェルス	-	25637	-	104
	S385	D-8	IvB	スクレイパー	-	7.29	9.98	1.91	108.20	砂岩	-	30448	-	104
	S386	D-10	IvA	二次加工断片	-	1.65	0.82	0.34	0.37	安山岩	安山岩C	23138	-	105
	S387	F-30	-	二次加工断片	-	1.57	2.33	0.70	2.11	黒曜石	黒曜石D	カタラン一紙	-	105
	S388	C-15	Ⅲ	二次加工断片	-	1.43	1.57	0.43	0.67	黒曜石	黒曜石B	404	-	105
2-146	S389	C-15	Ⅲ	二次加工断片	-	2.58	1.93	0.73	3.13	黒曜石	黒曜石A	169	-	105
	S390	C-35	IvB	二次加工断片	-	2.76	2.19	0.67	3.47	緑石英	-	103579	-	105
	S391	B-5	IvB	二次加工断片	-	8.72	2.42	1.30	33.41	ホルンフェルス	-	30096	-	105
	S392	B-5	IvB	二次加工断片	-	10.93	5.22	2.43	134.58	ホルンフェルス	-	30117	-	105
	S393	D-7	Va	二次加工断片	-	4.10	4.92	0.71	11.36	安山岩	安山岩C	48641	-	105
	S394	D-15	Ⅲ	二次加工断片	-	6.51	4.82	0.41	6.20	頁岩	頁岩B	192	-	105
	S395	D-8	Va	二次加工断片	-	5.26	6.35	1.03	25.50	頁岩	頁岩B	48688	-	105
	S396	C-16	Ⅲ	二次加工断片	-	6.07	6.20	1.35	32.40	安山岩	安山岩C	48	-	105
	S397	C-11	IvA	使用断片	-	1.90	1.90	0.60	1.90	チャート	-	-	-	105
	S398	B-10	Va	使用断片	-	3.34	2.72	1.12	8.50	玉髄	-	48718	-	105
2-147	S399	D-6	Va	使用断片	-	3.40	3.21	0.82	5.84	安山岩	安山岩C	48511	-	105
	S400	C-15	Ⅲ	使用断片	-	6.08	3.21	1.25	17.60	頁岩	頁岩B	122	-	105
	S401	D-15	Ⅲ	使用断片	-	5.34	3.83	1.23	20.50	頁岩	頁岩B	1066	-	105
	S402	C-15	Ⅲ	使用断片	-	5.14	6.79	2.66	75.40	安山岩	安山岩C	171	-	105
	S403	D-15	Ⅲ	使用断片	-	6.46	6.16	1.91	55.30	ホルンフェルス	-	185	-	105
	S404	C-15	Ⅲ	使用断片	-	9.16	4.03	1.13	29.20	頁岩	頁岩B	164	-	105
	S405	D-7	Va	使用断片	-	3.02	4.39	0.77	7.40	頁岩	頁岩B	48502	-	105
	S406	E-8	Va	使用断片	-	2.92	4.59	0.87	9.90	安山岩	安山岩C	48463	-	105
	S407	E-6	Va	使用断片	-	5.06	4.78	0.80	15.10	頁岩	頁岩B	48525	-	105
	S408	C-15	Ⅲ	使用断片	-	4.08	6.61	1.25	36.00	砂岩	-	82	-	105
2-148	S409	D-23	Va	使用断片	-	3.99	7.03	1.66	48.80	頁岩	頁岩B	56211	-	105
	S410	E-5	Va	使用断片	-	5.56	8.99	1.73	67.60	ホルンフェルス	-	51623	-	105
	S411	C-15	Ⅲ	使用断片	-	4.99	9.66	0.87	38.10	ホルンフェルス	-	387	-	105
	S412	C-20	V	使用断片	-	8.74	6.49	1.25	53.10	頁岩	頁岩B	16823	-	105
	S413	D-21	V	使用断片	-	10.25	4.17	1.71	49.80	玉髄	-	9331	-	105
	S414	D-9	IvB	石核	-	1.58	1.57	1.05	2.67	黒曜石	黒曜石C	29368	-	106
	S415	D-7	Va	石核	-	2.34	2.53	2.17	12.60	黒曜石	黒曜石A	48469	-	106
	S416	E-4	IvB	石核	-	2.60	3.90	1.85	17.56	黒曜石	黒曜石A	25835	-	106
	S417	D-23	Va	石核	-	2.35	5.39	2.60	36.80	黒曜石	黒曜石A	55892	-	106
	S418	D-23	Va	石核	-	2.49	3.50	2.14	15.50	チャート	-	55088	-	106
2-150	S419	C-6	Va	石核	-	7.90	5.90	4.20	254.52	石英	-	23456	-	106
	S420	C-12	IvB	石核	-	9.42	11.12	6.78	743.00	ホルンフェルス	-	15950	-	106
	S421	F-22	IvB	石核	-	11.70	12.29	5.36	781.00	ホルンフェルス	-	20677	-	106
	S422	C-18	IvB	石核	-	11.18	9.86	9.16	1245.00	ホルンフェルス	-	8300	-	106
	S423	E-22	V	礫石	Cd	4.70	3.78	3.00	58.10	石英	-	16099	-	106

第2-22表 包含層石器観察表4

持回 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真 掲載	
						長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)						
2-151	S424	D-7	Va	原石	Cc	5.44	4.52	3.00	89.50	石莖	-	48472	-	106
	S425	B-12	Iv	磨製石斧	I	(7.59)	(4.14)	(2.92)	106.00	ホルンfels	-	10690	-	-
2-152	S426	D-5	Iv	磨製石斧	I	(10.60)	(5.41)	(3.46)	227.00	ホルンfels	-	31103	-	107
	S427	B-9	Iv	磨製石斧	I	(10.71)	6.01	3.79	355.87	ホルンfels	-	27907	-	107
	S428	C-21	V	磨製石斧	I	(5.28)	(3.50)	(2.71)	71.00	ホルンfels	-	16813	-	-
	S429	D-9	Iv	磨製石斧	I	(8.07)	(4.51)	(3.47)	135.00	ホルンfels	-	34837	-	-
	S430	C-16	Iv	磨製石斧	I	(11.17)	(5.85)	(4.62)	349.00	ホルンfels	-	11805	-	107
	S431	B-8	Iv	磨製石斧	I	12.38	6.22	3.40	307.08	ホルンfels	-	28285	-	-
	S432	F-6	Iv	磨製石斧	I	10.44	4.74	3.32	239.00	ホルンfels	-	30030	-	-
2-153	S433	D-10	Iv	磨製石斧	I	9.72	4.59	3.08	148.00	ホルンfels	-	43020	赤色顔料付着	107
	S434	C-12	Iv	磨製石斧	I	8.12	5.40	3.22	174.79	ホルンfels	-	24470	-	-
	S435	D-12	Iv	磨製石斧	I	9.30	5.95	4.16	307.00	ホルンfels	-	21115	-	-
	S436	E-9	Ia	磨製石斧	I	9.35	5.39	3.98	282.00	ホルンfels	-	27968	-	-
	S437	C-15	Iv	磨製石斧	I	9.81	5.21	3.78	268.00	ホルンfels	-	4286	-	107
	S438	C-7	Iv	磨製石斧	I	11.10	6.71	4.14	505.03	ホルンfels	-	29811	-	-
2-154	S439	C-5	Iv	磨製石斧	I	10.57	6.03	4.42	460.00	ホルンfels	-	32944	-	107
	S440	F-8	Iv	磨製石斧	I	11.30	5.30	3.70	310.00	ホルンfels	-	43004	-	107
	S441	D-15	II	磨製石斧	I	(5.95)	(6.13)	(3.85)	168.10	ホルンfels	-	303	-	-
	S442	C-24	Iv	磨製石斧	II	23.29	6.73	4.19	933.00	ホルンfels	-	36900	-	107
2-155	S443	D-16	Iv	磨製石斧	II	17.91	6.36	3.45	547.00	ホルンfels	-	6899	-	107
	S444	C-34	Iv	磨製石斧	II	16.29	6.48	3.35	486.50	ホルンfels	-	104124	-	107
2-156	S445	B-7	Va	磨製石斧	II	23.92	8.13	3.10	896.00	珪岩	頁岩B	47501	-	107
	S446	F-8	Iv	磨製石斧	II	10.99	7.00	2.93	360.00	珪岩	頁岩B	23146	-	108
2-157	S447	D-10	Iv	磨製石斧	II	6.12	7.10	3.22	146.57	ホルンfels	-	29128	-	-
	S448	D-7	Iv	磨製石斧	II	13.50	5.22	3.95	362.41	ホルンfels	-	28882	-	-
2-158	S449	B-14	Iv	磨製石斧	II	12.85	6.53	3.67	390.00	珪岩	頁岩B	15444	-	108
	S450	B-8	Iv	磨製石斧	II	13.30	6.80	3.90	513.77	ホルンfels	-	28312	-	-
2-158	S451	D-10	Iv	磨製石斧	II	12.25	6.29	4.29	444.00	ホルンfels	-	29141	-	-
	S452	C-14	Iv	磨製石斧	II	(10.37)	6.00	(3.33)	290.50	ホルンfels	-	10380	-	-
	S453	E-16	Ia	磨製石斧	II	(10.23)	6.27	3.79	395.00	ホルンfels	-	5878	-	-
	S454	E-8	Iv	磨製石斧	II	12.13	6.63	3.80	471.50	ホルンfels	-	28459	-	108
	S455	D-16	Iv	磨製石斧	II	8.02	6.60	3.16	246.00	頁岩	頁岩B	6997	-	-
	S456	B-6	Ia	磨製石斧	II	8.50	6.07	3.88	278.90	ホルンfels	-	25484	-	-
	S457	D-24	Iv	磨製石斧	II	(8.63)	7.51	(3.01)	257.00	ホルンfels	-	30294	-	108
2-159	S458	B-10	Iv	磨製石斧	II	6.36	5.20	3.29	129.52	ホルンfels	-	29681	-	-
	S459	D-25	Iv	磨製石斧	II	(8.93)	(7.23)	(3.47)	330.00	ホルンfels	-	40393	-	-
	S460	C-17	Iv	磨製石斧	II	(11.58)	(7.09)	(2.79)	266.00	ホルンfels	-	9431	-	108
	S461	D-8	Iv	磨製石斧	II	(10.75)	7.01	2.61	325.00	ホルンfels	-	29020	-	-
2-160	S462	D-10	Iv	磨製石斧	II	(13.15)	7.41	4.36	664.50	ホルンfels	-	34938	-	-
	S463	B-6	Iv	磨製石斧	II	8.71	7.05	3.65	282.00	ホルンfels	-	46368	-	-
2-161	S464	C-9	Va	磨製石斧	II	8.25	6.84	3.80	349.90	ホルンfels	-	48780	-	-
	S465	E-12	Ia	磨製石斧	II	10.64	7.07	4.05	470.00	ホルンfels	-	4408	-	108
	S466	B-19	Iv	磨製石斧	II	12.34	7.55	3.64	607.00	ホルンfels	-	4926	-	-
2-162	S467	E-10	Iv	磨製石斧	II	11.89	7.15	4.20	665.17	ホルンfels	-	29238	-	-
	S468	B-8	Iv	磨製石斧	II	11.75	6.80	4.00	510.77	ホルンfels	-	30466	-	-
	S469	B-5	Va	磨製石斧	II	(7.02)	(6.45)	(3.60)	241.10	ホルンfels	-	52710	-	-
	S470	F-9	Iv	磨製石斧	II	10.15	6.30	4.00	421.00	ホルンfels	-	26093	-	-
	S471	F-7	Iv	磨製石斧	II	10.30	7.10	4.30	512.51	ホルンfels	-	23484	-	-
	S472	C-9	Iv	磨製石斧	II	10.62	6.04	3.46	378.55	ホルンfels	-	28740	-	-
	S473	F-12	Iv	磨製石斧	II	10.60	6.80	4.19	472.00	ホルンfels	-	23216	-	108
2-163	S474	C-7	Ia	磨製石斧	II	6.24	7.77	3.62	259.90	ホルンfels	-	23734	-	-
	S475	F-9	Iv	磨製石斧	II	7.16	7.00	4.45	300.50	ホルンfels	-	48911	-	-
	S476	D-7	Iv	磨製石斧	II	8.22	6.13	4.35	335.63	ホルンfels	-	28881	-	-
	S477	B-9	Iv	磨製石斧	II	10.55	7.50	4.50	617.00	ホルンfels	-	46550	-	108
2-165	S478	C-15	Iv	磨製石斧	II	14.03	5.99	3.09	340.00	ホルンfels	-	10000	-	108
	S479	14T	Iv	磨製石斧	II	11.67	4.34	2.35	174.00	ホルンfels	-	147-194	-	108
	S480	E-10	Iv	磨製石斧	II	12.31	5.00	2.80	240.92	ホルンfels	-	29225	-	108
	S481	F-6	Iv	磨製石斧	II	13.24	5.05	2.33	167.10	ホルンfels	-	30014	-	-
	S482	D-18	Iv	磨製石斧	II	13.19	4.70	1.90	140.10	ホルンfels	-	5703	-	-
	S483	C-3	Iv	磨製石斧	II	11.31	4.65	1.82	120.80	ホルンfels	-	31665	-	-
	S484	C-13	Ia	磨製石斧	II	9.72	5.20	2.00	116.93	ホルンfels	-	13252	-	-
2-166	S485	C-5	-	磨製石斧	II	(8.43)	(5.20)	(2.66)	145.00	ホルンfels	-	33642	-	-
	S486	B-5	Iv	磨製石斧	II	(6.12)	(5.99)	(2.75)	102.50	ホルンfels	-	31112	-	-
	S487	D-24	Iv	磨製石斧	II	(7.64)	(5.43)	(3.22)	197.00	ホルンfels	-	39290	-	108
	S488	F-8	Iv	磨製石斧	II	(9.05)	5.32	3.14	239.00	ホルンfels	-	30764	-	-

第2-23表 包含層石器観察表5

持回 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真 掲載	
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)						重量 (g)
2-166	S489	B-4	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(6.20)	(6.13)	(2.95)	113.80	ホルンfels	-	34065	-	-
	S490	C-13	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(5.10)	(5.17)	(2.17)	89.90	ホルンfels	-	18560	-	-
	S491	C-16	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(5.40)	(5.66)	(1.64)	55.50	ホルンfels	-	13123	-	-
	S492	D-9	I/b	磨製石斧	Ⅲ	7.80	5.45	3.15	199.90	ホルンfels	-	47230	-	-
2-167	S493	C-8	I/b	磨製石斧	Ⅲ	7.32	5.90	3.80	232.93	ホルンfels	-	26236	-	100
	S494	D-29	I/b	磨製石斧	Ⅲ	14.62	4.11	2.13	176.00	ホルンfels	-	45697	-	100
	S495	C-23	I/b	磨製石斧	Ⅲ	12.41	5.16	2.15	204.00	ホルンfels	-	35342	-	100
	S496	F-23	I/c	磨製石斧	Ⅲ	9.45	4.55	1.52	94.96	ホルンfels	-	104811	-	100
2-168	S497	C-16	I/a	磨製石斧	Ⅲ	(6.73)	(4.97)	(1.56)	80.44	ホルンfels	-	3517	-	100
	S498	C-33	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(8.79)	4.21	2.04	111.61	ホルンfels	-	104564	-	100
	S499	B-10	I/a	磨製石斧	Ⅲ	8.58	4.93	2.41	134.10	ホルンfels	-	54487	-	-
	S500	D-3	I/b	磨製石斧	Ⅲ	7.36	5.33	2.51	146.80	ホルンfels	-	26874	-	-
2-169	S501	C-9	I/b	磨製石斧	Ⅲ	12.41	5.21	1.75	134.11	頁岩	頁岩B	28775	-	100
	S502	C-15	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(10.47)	4.70	1.46	106.00	ホルンfels	-	4624	-	-
	S503	B-2	V/a	磨製石斧	Ⅲ	(4.84)	(4.92)	(2.00)	65.30	ホルンfels	-	47885	-	-
	S504	F-8	I/b	磨製石斧	Ⅲ	4.22	5.78	1.93	60.00	ホルンfels	-	28414	-	100
	S505	F-38	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(7.73)	(5.53)	(1.73)	104.62	ホルンfels	-	101573	-	100
	S506	E-9	I/b	磨製石斧	Ⅲ	6.21	5.13	1.50	62.56	頁岩	頁岩B	29342	-	100
	S507	B-10	I/a	磨製石斧	Ⅲ	4.61	4.56	1.93	37.99	ホルンfels	-	22870	-	-
	S508	D-5	I/b	磨製石斧	Ⅲ	5.82	2.79	1.00	23.20	ホルンfels	-	46235	-	100
	S509	E-39	I/b	磨製石斧	V	7.40	3.59	1.28	48.00	ホルンfels	-	101831	-	100
	S510	E-3	I/b	磨製石斧	V	6.24	3.16	1.45	39.00	ホルンfels	-	39020	-	100
2-170	S511	C-15	I/b	磨製石斧	V	(5.92)	3.20	0.71	22.10	ホルンfels	-	12107	-	100
	S512	C-15	I/b	磨製石斧	V	5.50	3.45	1.15	33.61	ホルンfels	-	14140	-	100
	S513	C-15	I/b	磨製石斧	V	6.50	3.55	0.80	29.54	ホルンfels	-	14428	-	100
	S514	B-7	I/b	磨製石斧	V	8.73	2.76	1.17	45.47	ホルンfels	-	31923	-	100
	S515	I4T	N	磨製石斧	V	(7.37)	3.94	1.14	50.00	ホルンfels	-	177	-	100
	S516	C-8	I/a	磨製石斧	V	3.20	3.87	0.80	13.88	ホルンfels	-	22356	-	-
	S517	C-6	-	磨製石斧	V	5.74	1.46	0.93	14.99	ホルンfels	-	カタラン一括	-	100
	S518	I2T	I/b	磨製石斧	V	7.04	1.11	1.11	15.36	ホルンfels	-	236	-	100
	S519	D-7	I/b	磨製石斧	V	7.42	1.17	1.24	19.33	ホルンfels	-	47723	-	100
	S520	E-7	I/b	磨製石斧	V	10.10	2.32	1.82	77.81	ホルンfels	-	30428	-	100
2-171	S521	C-6	I/b	磨製石斧	V	(5.38)	2.04	1.25	27.60	ホルンfels	-	44488	-	100
	S522	C-16	I/a	磨製石斧	V	(5.92)	(1.20)	0.90	9.80	ホルンfels	-	2569	-	100
	S523	C-13	-	磨製石斧	V	5.83	1.71	0.96	14.76	ホルンfels	-	機械一括	-	100
	S524	F-6	I/b	磨製石斧	V	(6.80)	1.72	1.13	23.40	ホルンfels	-	35338	-	100
	S525	C-5	I/b	磨製石斧	V	(7.25)	2.27	1.36	36.54	ホルンfels	-	33607	-	100
	S526	D-11	I/a	磨製石斧	V	4.20	1.80	0.85	7.19	ホルンfels	-	44072	-	100
	S527	B-5	I/b	磨製石斧	V	(7.50)	(1.89)	0.87	14.90	ホルンfels	-	35724	-	100
	S528	C-12	I/b	磨製石斧	V	(5.22)	(1.71)	0.48	4.70	ホルンfels	-	15485	-	100
	S529	D-5	I/b	磨製石斧	V	8.71	3.68	1.28	45.20	頁岩	頁岩B	33147	-	100
	S530	F-13	I/a	磨製石斧	V	9.50	3.26	1.86	75.40	ホルンfels	-	23980	-	100
2-172	S531	D-15	Ⅲ	磨製石斧	V	7.87	3.36	2.01	73.10	ホルンfels	-	188	-	100
	S532	C-12	I/b	磨製石斧	V	(7.45)	2.76	2.49	77.00	ホルンfels	-	18480	-	-
	S533	D-34	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(9.07)	(6.11)	(1.64)	113.20	ホルンfels	-	104410	-	-
	S534	E-8	I/b	磨製石斧	Ⅲ	5.80	3.24	1.30	31.61	ホルンfels	-	28470	-	-
	S535	E-5	I/b	磨製石斧	Ⅲ	6.10	5.30	1.59	60.71	ホルンfels	-	26673	-	-
	S536	D-9	I/a	磨製石斧	Ⅲ	7.63	5.95	2.25	149.50	ホルンfels	-	21179	-	-
	S537	C-5	I/b	磨製石斧	Ⅲ	8.89	5.50	1.75	100.55	ホルンfels	-	30295	-	-
	S538	B-3	I/b	磨製石斧	Ⅲ	11.05	5.52	2.52	181.30	頁岩	頁岩B	26330	-	-
	S539	D-8	I/b	磨製石斧	Ⅲ	9.80	5.10	2.58	154.26	ホルンfels	-	28996	-	-
	S540	D-9	I/b	磨製石斧	Ⅲ	7.92	4.52	1.99	91.00	ホルンfels	-	47793	-	-
2-173	S541	E-5	I/b	磨製石斧	Ⅲ	6.12	6.40	2.18	92.77	ホルンfels	-	26665	-	-
	S542	B-5	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(8.29)	(5.90)	(1.63)	100.00	ホルンfels	-	32705	-	-
	S543	C-5	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(11.02)	(4.91)	(1.44)	99.30	ホルンfels	-	32865	-	-
	S544	D-7	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(9.24)	(6.30)	(1.73)	136.00	ホルンfels	-	26338	-	-
	S545	D-7	I/a	磨製石斧	Ⅲ	6.28	4.30	1.45	48.97	ホルンfels	-	21932	-	-
	S546	D-15	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(5.96)	(4.70)	(1.65)	37.00	ホルンfels	-	2326	-	-
	S547	D-3	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(5.27)	(4.87)	(1.40)	34.80	ホルンfels	-	39679	-	-
	S548	D-10	I/b	磨製石斧	Ⅲ	4.88	3.45	0.71	16.41	頁岩	頁岩B	29114	-	-
	S549	B-5	I/b	磨製石斧	Ⅲ	(7.05)	(5.34)	(1.28)	62.60	ホルンfels	-	32776	-	-
	S550	E-10	I/b	打製石斧	I	15.25	6.00	2.15	248.00	ホルンfels	-	28077	-	110
2-174	S551	B-24	I/b	打製石斧	I	14.26	5.93	2.05	238.30	ホルンfels	-	36886	-	110
	S552	D-14	I/b	打製石斧	I	14.85	5.23	1.78	161.10	ホルンfels	-	3580	-	110
	S553	C-10	I/a	打製石斧	I	14.80	6.41	2.16	177.23	ホルンfels	-	28570	-	110

第2-24表 包含層石器観察表6

持出番号	掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真 掲載		
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)						重量 (g)	
2-174	S554	C-17	I/b	打製石斧	I	9.17	4.31	1.58	79.00	ホルンフェルス	-	13597	-	-	
	S555	C-15	III	打製石斧	I	(7.07)	4.97	1.58	62.80	ホルンフェルス	-	115	-	-	
	S556	C-9	I/b	打製石斧	I	9.72	4.99	2.05	97.30	ホルンフェルス	-	25757	-	-	
2-175	S557	F-10	I/b	打製石斧	I	12.47	6.79	1.45	135.07	ホルンフェルス	-	28216	-	110	
	S558	C-7	I/a	打製石斧	I	13.15	6.55	2.73	194.05	ホルンフェルス	-	22300	-	-	
	S559	C-9	I/b	打製石斧	I	10.67	4.88	1.58	117.94	ホルンフェルス	-	28748	-	-	
	S560	D-10	I/a	打製石斧	I	7.91	5.90	1.32	66.28	頁岩	頁岩B	21210	-	-	
	S561	D-11	I/b	打製石斧	I	9.12	5.77	1.60	104.34	ホルンフェルス	-	24030	-	-	
	S562	F-22	I/b	打製石斧	I	9.37	6.95	2.29	190.00	ホルンフェルス	-	30404	-	110	
	S563	B-35	I/b	打製石斧	IIa	17.63	6.20	1.87	245.28	ホルンフェルス	-	107700	-	110	
	S564	C-9	I/b	打製石斧	IIa	15.65	5.59	1.77	202.12	ホルンフェルス	-	28747	-	110	
	S565	D-18	I/a	打製石斧	IIa	10.91	4.88	1.40	92.00	ホルンフェルス	-	7301	-	110	
	S566	D-11	I/a	打製石斧	IIa	13.03	6.58	1.95	202.80	ホルンフェルス	-	44078	-	110	
2-176	S567	D-10	I/b	打製石斧	IIa	14.91	5.60	1.68	131.59	ホルンフェルス	-	22992	-	110	
	S568	D-11	I/b	打製石斧	IIa	13.91	5.53	1.89	172.27	ホルンフェルス	-	22288	-	110	
	S569	D-8	I/b	打製石斧	IIa	8.29	4.74	1.43	62.20	ホルンフェルス	-	28220	-	-	
	S570	D-8	I/a	打製石斧	IIa	10.19	4.20	1.20	45.19	ホルンフェルス	-	22599	-	-	
	S571	C-10	I/b	打製石斧	IIb	15.62	7.85	2.60	307.30	ホルンフェルス	-	27336	-	111	
	S572	C-40	I/a	打製石斧	IIb	11.05	5.81	1.48	94.64	ホルンフェルス	-	101834	-	111	
	S573	D-8	I/a	打製石斧	IIb	11.77	7.01	1.62	164.14	ホルンフェルス	-	21994	-	111	
	S574	E-10	I/b	打製石斧	IIb	13.50	6.02	1.52	112.34	ホルンフェルス	-	29235	-	-	
	S575	4T-C-37	-	-	IIb	11.76	7.38	1.59	155.50	ホルンフェルス	-	4T	-	111	
	S576	E-10	I/b	打製石斧	IIb	9.71	6.69	1.83	132.60	ホルンフェルス	-	35046	-	-	
2-177	S577	F-24	I/b	打製石斧	IIb	9.85	5.94	1.96	145.00	ホルンフェルス	-	30234	-	-	
	S578	D-10	I/b	打製石斧	III	11.32	8.25	1.60	149.67	ホルンフェルス	-	25942	-	111	
	S579	C-9	I/b	打製石斧	III	12.29	7.19	1.50	144.00	ホルンフェルス	-	43017	-	111	
	S580	B-34	I/a	打製石斧	III	10.13	8.88	1.86	166.80	ホルンフェルス	-	103476	-	-	
	S581	B-5	I/b	打製石斧	III	15.90	8.49	2.09	255.90	ホルンフェルス	-	30238	-	111	
	S582	B-29	I/b	打製石斧	III	15.00	9.13	2.02	228.30	ホルンフェルス	-	45685	-	111	
	S583	D-5	I/a	打製石斧	III	19.55	10.94	2.69	644.00	ホルンフェルス	-	25538	-	111	
	2-181	S584	E-14	I/a	打製石斧	III	11.86	9.57	1.52	175.60	頁岩	頁岩B	923	-	-
		S585	C-8	I/a	打製石斧	III	5.67	6.70	1.40	50.49	頁岩	頁岩B	21795	-	-
		S586	C-15	III	打製石斧	III	6.29	5.64	1.96	79.60	ホルンフェルス	-	180	-	-
2-182	S587	C-11	I/b	打製石斧	IV	7.00	10.04	2.88	199.56	ホルンフェルス	-	24091	-	-	
	S588	E-10	I/a	打製石斧	IV	7.20	4.20	1.97	60.73	ホルンフェルス	-	27795	-	-	
	S589	B-7	I/b	打製石斧	IV	9.49	7.38	2.49	176.55	ホルンフェルス	-	29975	-	-	
2-183	S590	D-8	I/b	打製石斧	IV	9.06	9.39	1.95	187.00	ホルンフェルス	-	28031	-	111	
	S591	C-6	I/b	打製石斧	IV	11.96	10.32	1.62	170.00	ホルンフェルス	-	46741	-	-	
	S592	F-10	I/b	打製石斧	IV	(8.64)	6.58	(2.39)	189.80	ホルンフェルス	-	35012	-	-	
	S593	C-10	I/b	打製石斧	IV	13.62	5.88	1.99	149.77	ホルンフェルス	-	27519	-	-	
	S594	B-35	I/b	打製石斧	IV	7.81	11.51	2.20	169.50	ホルンフェルス	-	103691	-	-	
	S595	E-9	I/a	打製石斧	IV	12.00	5.60	2.12	147.21	ホルンフェルス	-	27946	-	-	
	2-184	S596	D-5	I/b	打製石斧	IV	12.21	6.94	4.95	422.00	ホルンフェルス	-	33140	-	-
		S597	E-24	I/b	打製石斧	IV	18.63	9.57	4.61	625.50	ホルンフェルス	-	40907	-	-
		S598	E-15	III	礫部	-	(6.00)	(7.78)	(2.36)	109.80	ホルンフェルス	-	317	-	-
	2-185	S599	D-16	I/b	礫部	-	6.94	8.39	5.65	369.50	砂岩	-	7837	-	112
S600		E-4	I/b	礫部	-	11.51	6.91	3.40	289.00	砂岩	-	45767	-	112	
S601		F-9	-	礫部	-	9.45	12.35	3.70	507.50	ホルンフェルス	-	45504	-	112	
S602		4T	IV	礫部	-	14.99	8.54	4.62	706.00	ホルンフェルス	-	10	-	112	
S603		D-19	V	礫部	-	12.31	12.03	4.10	592.10	ホルンフェルス	-	16104	-	112	
S604		B-19	V	礫部	-	18.66	10.43	6.75	1515.10	ホルンフェルス	-	19736	-	112	
2-186	S605	E-15	III	礫部	-	7.48	(6.80)	(1.98)	156.80	砂岩	-	311	-	-	
	S606	D-3	I/b	礫部	-	7.67	8.19	3.08	227.50	砂岩	-	39041	-	112	
	S607	B-16	I/b	礫部	-	6.92	11.44	3.55	400.00	ホルンフェルス	-	19245	-	112	
	S608	D-3	I/b	礫部	-	9.96	13.55	5.83	761.06	ホルンフェルス	-	26561	-	112	
	S609	F-5	I/b	礫部	-	9.13	11.19	3.21	414.00	ホルンフェルス	-	37300	-	112	
	S610	D-37	I/b	礫部	-	10.67	15.84	4.96	1042.70	ホルンフェルス	-	103437	-	112	
	S611	F-8	I/b	磨-磁石	I	6.40	3.67	3.15	98.65	花崗岩	-	28412	-	-	
	S612	E-8	I/b	磨-磁石	I	5.60	5.13	4.23	150.91	安山岩	安山岩B	30537	-	113	
	S613	E-8	I/b	磨-磁石	I	7.27	5.09	4.26	200.64	砂岩	-	30524	-	113	
	S614	D-9	I/b	磨-磁石	I	6.72	5.80	4.42	244.71	安山岩	安山岩B	36997	-	113	
2-187	S615	D-7	Va	磨-磁石	I	7.10	6.12	4.30	261.50	安山岩	安山岩B	54513	-	113	
	S616	D-23	Va	磨-磁石	I	7.28	5.13	4.50	197.70	安山岩	安山岩B	55953	-	-	
	S617	F-8	I/b	磨-磁石	I	7.18	6.02	5.58	302.50	花崗岩	-	28415	-	113	
	S618	C-19	I/a	磨-磁石	I	8.04	6.21	4.60	285.50	安山岩	安山岩B	19747	-	赤色顔料付着	

第2-25表 包含層石器觀察表7

採回 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真 掲載	
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)						重量 (g)
2-187	S619	D-14	Ⅱ	磨-燧石	I	8.81	5.91	3.10	213.00	安山岩	安山岩B	209	-	-
	S620	D-5	Ⅱb	磨-燧石	I	7.45	6.78	5.24	302.95	安山岩	安山岩B	25735	赤色顔料付着	-
	S621	E-5	Ⅱb	磨-燧石	I	7.90	8.12	5.52	433.50	花崗岩	-	27371	-	113
	S622	C-6	Ⅱa	磨-燧石	I	7.90	7.50	5.67	352.50	石英	-	28822	-	113
2-188	S623	E-4	Ⅱb	磨-燧石	I	7.28	6.94	5.56	402.20	安山岩	安山岩B	45951	-	-
	S624	E-4	Ⅱb	磨-燧石	I	7.03	7.72	5.69	451.50	安山岩	安山岩B	45952	-	113
	S625	E-21	V	磨-燧石	I	9.18	7.68	6.10	564.00	砂岩	-	4682	-	-
	S626	C-14	Ⅱ	磨-燧石	I	9.88	7.65	5.10	542.90	安山岩	安山岩B	354	-	-
2-189	S627	F-5	Ⅱa	磨-燧石	I	11.40	8.90	6.98	1072.50	安山岩	安山岩B	25659	-	-
	S628	C-8	Va	磨-燧石	I	11.18	8.02	6.10	743.20	砂岩	-	53964	-	-
	S629	B-9	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱa	5.40	5.08	2.69	81.39	花崗岩	-	22973	-	-
	S630	C-7	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	6.26	5.99	3.30	165.30	安山岩	安山岩B	35416	-	113
2-190	S631	D-3	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	7.50	6.68	3.95	265.74	安山岩	安山岩B	27622	-	-
	S632	C-11	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱa	7.68	6.95	4.31	349.00	砂岩	-	5568	-	113
	S633	E-8	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱa	7.73	7.19	4.44	353.50	花崗岩	-	28435	-	-
	S634	E-9	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱa	9.70	8.63	5.40	674.50	花崗岩	-	27926	-	-
	S635	D-7	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	7.87	7.70	5.25	509.80	花崗岩	-	46189	-	113
	S636	C-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	9.40	8.21	5.40	693.30	花崗岩	-	28936	-	113
	S637	C-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	9.16	9.10	5.20	611.00	砂岩	-	30562	-	-
	S638	F-8	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱa	8.82	8.18	4.27	461.00	砂岩	-	28403	-	113
	S639	D-9	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	9.80	9.00	6.28	794.00	砂岩	-	43222	-	113
	S640	D-15	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.16	9.46	5.11	763.50	砂岩	-	11899	-	-
2-191	S641	F-7	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.09	9.40	5.11	682.50	花崗岩	-	45834	-	-
	S642	B-9	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	9.77	9.08	3.18	673.00	花崗岩	-	46396	-	-
	S643	C-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.41	9.35	5.05	797.00	花崗岩	-	35385	-	113
	S644	C-10	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.21	9.46	4.56	740.00	花崗岩	-	47022	-	113
2-192	S645	D-13	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.79	9.59	4.87	866.50	花崗岩	-	39335	-	-
	S646	F-7	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.36	9.58	5.03	839.50	花崗岩	-	45835	-	-
	S647	C-11	Ⅱ	磨-燧石	Ⅱa	11.11	9.93	5.46	977.50	花崗岩	-	25255	-	-
	S648	D-14	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱa	11.48	9.82	5.39	973.00	花崗岩	-	1011	-	-
	S649	E-7	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.71	10.00	5.31	877.50	安山岩	安山岩B	47445	-	113
	S650	B-5	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.23	9.51	5.70	871.00	砂岩	-	31955	-	-
	S651	B-2	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	11.74	10.16	4.96	913.00	砂岩	-	44809	-	-
	S652	C-16	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	11.29	10.22	6.35	1052.50	砂岩	-	13800	-	-
	S653	F-13	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱa	9.03	8.52	3.80	430.50	安山岩	安山岩B	23973	-	-
	S654	E-4	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.14	10.50	2.90	401.70	安山岩	安山岩B	45769	-	-
2-193	S655	D-10	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	10.38	9.44	3.31	397.30	凝灰岩	-	27860	-	113
	S656	E-9	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱa	12.98	11.87	5.29	1297.30	安山岩	安山岩B	30889	-	-
	S657	C-7	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱb	8.85	5.75	4.00	309.96	安山岩	安山岩B	29837	-	-
	S658	F-8	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱb	9.20	7.90	4.90	481.00	安山岩	安山岩B	24111	-	-
	S659	D-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱc	12.48	9.32	4.57	899.00	安山岩	安山岩B	27427	-	114
	S660	D-11	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱb	11.61	8.12	4.52	772.00	安山岩	安山岩B	960	-	-
	S661	D-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱb	11.12	8.99	4.74	761.00	砂岩	-	31007	-	114
	S662	D-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱb	12.65	9.80	4.75	940.00	花崗岩	-	30446	-	114
	S663	C-10	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱb	12.24	8.27	4.17	625.00	ホルツァース	-	25969	-	114
	S664	C-15	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱb	8.79	7.82	4.66	479.00	ホルツァース	-	13671	-	114
2-194	S665	D-11	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱb	9.95	8.50	4.90	696.00	安山岩	安山岩B	24057	-	-
	S666	C-10	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱb	11.80	9.10	5.00	846.50	砂岩	-	27524	-	-
	S667	C-10	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱb	11.00	9.15	3.30	467.00	安山岩	安山岩B	22967	-	114
	S668	D-11	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱb	10.80	8.80	3.30	545.50	安山岩	安山岩B	23325	-	-
	S669	D-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱc	6.98	6.12	2.88	181.68	花崗岩	-	26324	-	-
	S670	B-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱc	8.05	6.22	2.29	184.00	花崗岩	-	28314	-	114
	S671	B-10	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱc	10.10	6.69	3.23	350.53	花崗岩	-	29577	-	-
	S672	E-8	Ⅱa	磨-燧石	Ⅱc	10.20	7.08	3.28	326.60	花崗岩	-	28447	-	-
	S673	B-5	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱc	8.40	7.80	5.30	526.00	花崗岩	-	30125	-	114
	S674	C-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱc	8.98	9.03	2.90	322.96	花崗岩	-	30578	-	-
2-195	S675	B-5	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱd	9.36	9.38	6.37	859.00	安山岩	安山岩B	33681	-	-
	S676	E-22	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱd	10.68	8.94	4.57	666.00	砂岩	-	7648	-	-
	S677	C-16	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱd	10.41	8.72	4.46	653.50	砂岩	-	6033	-	-
	S678	E-8	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱd	9.90	9.70	6.31	852.00	砂岩	-	30534	-	-
	S679	F-5	Va	磨-燧石	Ⅱd	9.20	6.50	3.80	322.00	安山岩	安山岩B	48547	-	114
	S680	C-10	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱd	8.50	7.59	5.29	539.73	安山岩	安山岩B	27367	-	-
2-196	S681	B-19	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱd	12.21	10.80	5.53	1140.00	砂岩	-	3311	-	114
	S682	B-3	Ⅱb	磨-燧石	Ⅱ	4.51	4.15	3.91	190.40	砂岩	-	41532	-	-
S683	B-9	Va	磨-燧石	Ⅱ	5.15	5.64	4.29	163.30	砂岩	-	49364	-	114	

第2-26表 包層石器觀察表8

種別 番号	掲載 番号	出土区	層	部類	分期	法量			石材	石材分類	取土番号	備考	写真 掲載		
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)							
2-196	S684	B-12	Iv	磨-礫石	Ⅲ	6.30	5.92	2.71	149.70	砂岩	-	462	-	114	
	S685	C-14	Iv	磨-礫石	Ⅲ	6.50	5.78	2.69	164.50	砂岩	-	1948	-	-	
	S686	B-7	Iv	磨-礫石	Ⅲ	6.41	6.34	3.33	204.70	砂岩	-	3089	-	-	
	S687	D-12	Iv	磨-礫石	Ⅲ	8.00	7.59	4.33	300.08	砂岩	-	24074	-	-	
	S688	C-9	Iv	磨-礫石	Ⅲ	8.40	8.47	3.42	384.00	砂岩	-	47198	-	114	
	S689	C-8	Iv	磨-礫石	Ⅲ	10.15	8.30	5.30	528.86	花崗岩	-	27982	-	-	
	S690	D-7	Iv	磨-礫石	Ⅲ	10.00	6.91	5.87	547.50	花崗岩	-	28883	-	-	
	S691	B-8	Iv	磨-礫石	Ⅲ	5.60	10.79	7.10	552.50	花崗岩	-	29689	-	-	
	S692	B-8	Iv	磨-礫石	Ⅲ	6.93	10.69	5.90	596.50	花崗岩	-	29622	-	115	
	S693	D-8	Iv	磨-礫石	Ⅲ	6.40	9.67	6.00	539.00	花崗岩	-	29638	-	115	
S694	D-8	Iv	磨-礫石	Ⅲ	7.03	10.39	6.73	691.50	花崗岩	-	26326	-	-		
S695	C-9	Iv	磨-礫石	Ⅲ	8.49	10.96	6.49	865.50	花崗岩	-	27366	-	-		
S696	D-38	Iv	磨-礫石	Ⅲ	7.28	11.19	5.46	630.70	花崗岩	-	103151	-	115		
S697	C-6	Iv	磨-礫石	Ⅲ	7.50	10.83	7.79	919.00	花崗岩	-	28880	-	-		
S698	D-39	Iv	磨-礫石	Ⅲ	11.20	6.86	6.54	696.60	花崗岩	-	101051	-	-		
S699	C-8	Iv	磨-礫石	Ⅲ	9.19	10.40	7.42	881.00	花崗岩	-	27993	-	-		
S700	F-11	Iv	磨-礫石	Ⅲ	(8.09)	(11.14)	(7.30)	942.50	花崗岩	-	22891	-	-		
2-197	S701	B-34	Iv	磨-礫石	Va	10.13	2.87	2.76	122.00	ホルンフェルス	-	104510	-	115	
	S702	B-7	Iv	磨-礫石	Va	10.70	4.22	3.21	201.50	ホルンフェルス	-	34709	-	115	
	S703	C-10	Iv	磨-礫石	Va	11.78	4.00	2.88	188.47	砂岩	-	22500	-	-	
	S704	D-15	Iv	磨-礫石	Va	11.68	5.55	3.90	359.60	ホルンフェルス	-	534	-	-	
	S705	E-11	Iv	磨-礫石	Va	11.42	4.14	3.38	238.00	花崗岩	-	5460	-	115	
	S706	B-10	Iv	磨-礫石	Va	15.37	7.36	4.65	614.20	ホルンフェルス	-	54488	-	115	
	S707	E-7	Iv	磨-礫石	Va	12.04	8.49	6.52	771.00	ホルンフェルス	-	30828	-	115	
	S708	D-6	Va	磨-礫石	Va	21.81	7.59	6.65	1170.40	ホルンフェルス	-	48627	-	-	
	S709	D-7	Iv	磨-礫石	Vb	6.90	3.30	2.13	72.01	砂岩	-	26344	-	115	
	S710	C-3	Iv	磨-礫石	Vb	7.29	2.96	2.59	74.80	砂岩	-	39000	-	-	
2-198	S711	E-7	Iv	磨-礫石	Vb	8.00	3.42	2.80	99.44	ホルンフェルス	-	47432	-	115	
	S712	E-7	Iv	磨-礫石	Vb	8.53	4.97	3.74	258.96	砂岩	-	23021	-	115	
	S713	E-8	Iv	磨-礫石	Vb	9.34	5.09	3.45	235.64	砂岩	-	36339	-	-	
	S714	D-25	Iv	磨-礫石	Vb	9.62	6.57	4.16	366.00	砂岩	-	40376	-	115	
	S715	C-7	Iv	磨-礫石	Vb	11.79	5.88	3.77	363.00	砂岩	-	45788	-	115	
	S716	C-12	Iv	磨-礫石	Vb	9.66	4.07	3.99	241.00	砂岩	-	10750	-	115	
	S717	E-7	Iv	磨-礫石	Vb	10.90	7.90	6.40	933.00	安山岩	安山岩B	23145	-	115	
	S718	D-10	Iv	磨-礫石	Vc	17.89	5.48	3.89	489.50	ホルンフェルス	-	26071	-	115	
	S719	C-9	Iv	磨-礫石	Vt	6.50	5.44	1.80	65.13	砂岩	-	28172	-	-	
	S720	F-4	表土	磨-礫石	Vt	(5.45)	(4.30)	(4.38)	133.00	安山岩	安山岩B	一括	赤色顔料付着	114	
2-199	S721	E-7	Va	磨-礫石	Vt	(5.67)	6.19	3.20	114.80	安山岩	安山岩B	48824	-	-	
	S722	F-5	Va	磨-礫石	Vt	(8.16)	(4.30)	(4.60)	193.60	砂岩	-	48545	-	-	
	S723	F-11	Iv	磨-礫石	Vt	7.99	9.30	5.10	517.91	安山岩	安山岩B	23875	-	-	
	S724	G-15	Iv	磨-礫石	Vt	11.44	(5.30)	6.82	639.00	砂岩	-	20399	-	114	
	S725	E-6	Iv	磨-礫石	Vt	7.53	2.51	1.99	40.51	ホルンフェルス	-	38966	-	-	
	S726	F-9	Iv	磨-礫石	Vt	6.40	4.00	1.49	60.67	砂岩	-	26151	-	-	
	S727	E-8	Iv	磨-礫石	Vt	9.70	4.00	3.21	144.42	ホルンフェルス	-	28451	-	-	
	S728	C-7	Iv	磨-礫石	Vt	9.06	5.48	3.96	273.58	ホルンフェルス	-	30066	-	-	
	S729	D-12	Iv	石皿	Ia	36.60	24.30	11.20	13730.00	花崗岩	-	20829	①1.720.4	-	
	S730	C-2	Iv	石皿	Ia	47.20	38.30	11.40	27500.00	花崗岩	-	42326	①3.75②1.7	117	
2-200	S731	D-12	Iv	石皿	Ia	25.30	31.40	9.10	10300.00	花崗岩	-	25301	-	-	
	S732	B-17	Iv	石皿	Ib	28.00	23.80	11.70	7800.00	安山岩	安山岩B	11612	-	-	
	S733	E-5	Iv	石皿	Ib	40.20	29.20	18.20	22800.00	安山岩	安山岩B	45455	①0.75	117	
	S734	表土-様1	I	石皿	Ib	(41.40)	37.50	14.50	24000.00	花崗岩	-	一括	①5.95②1.73③0.7	-	
	S735	C-8	Iv	石皿	Ib	39.40	24.60	11.70	13700.00	花崗岩	-	46297	①(3.0)②0.8	-	
	S736	D-6	Iv	石皿	Ib	(45.90)	(19.90)	10.30	13600.00	花崗岩	-	25339	-	-	
	S737	E-5	Va	石皿	Ib	43.10	35.60	12.90	29200.00	花崗岩	-	49883	①4.8	117	
	S738	C-7	-	石皿	Ib	27.40	18.70	13.90	600.00	花崗岩	-	45399	-	-	
	S739	C-7	Iv	石皿	Ib	35.00	25.30	6.10	8300.00	花崗岩	-	47500	-	-	
	S740	C-2	Iv	石皿	Ib	42.50	18.70	7.70	8300.00	花崗岩	-	42669	-	-	
2-201	S741	B-4	Iv	石皿	Ib	36.80	23.40	8.20	10700.00	花崗岩	-	45770	-	-	
	S742	D-5	Vt	石皿	Ib	31.40	58.60	7.70	19000.00	花崗岩	-	52382	①(1.1)	117	
	S743	C-9	Iv	石皿	Ib	25.81	21.07	7.40	5300.00	砂岩	-	45000	①0.5	-	
	S744	D-27	Iv	石皿	Ib	24.00	23.20	9.20	5700.00	砂岩	-	44335	-	-	
	S745	F-5	Va	石皿	Ib	31.58	26.63	8.70	12500.00	砂岩	-	29568	-	-	
	S746	E-19	V	石皿	Ib	40.79	28.39	11.60	16300.00	砂岩	-	16224	①0.25	-	
	S747	E-8	Vt	石皿	Ib	44.41	18.77	9.80	11700.00	砂岩	-	45877	①0.4	117	
	2-202	S748	F-10	Vt	石皿	V	44.93	20.45	19.70	27000.00	安山岩	安山岩B	45484	-	117

第2-27表 包含層石器観察表9

採回 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真 掲載	
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)						重量 (g)
2-306	S749	F-4	I/b	石皿	Ⅳ	24.90	13.50	9.20	4400.00	花崗岩	-	45988	-	-
	S750	C-7	-	石皿	Ⅳ	19.80	21.70	9.00	5300.00	花崗岩	-	45988	-	-
	S751	F-4	I/b	石皿	Ⅳ	26.20	22.70	10.20	5800.00	花崗岩	-	25	-	-
	S752	3T	I/b	石皿	Ⅳ	36.90	20.00	9.20	9200.00	花崗岩	-	170	-	-
	S753	C-11	I/b	石皿	Ⅳ	(22.70)	31.70	20.00	19100.00	花崗岩	-	20960	-	-
	S754	D-9	I/b	石皿	Ⅳ	9.85	6.80	2.90	277.82	花崗岩	-	27415	-	-
2-307	S755	D-10	I/b	石皿	Ⅳ	8.85	8.49	2.70	292.40	花崗岩	-	27425	-	-
	S756	F-8	I/a	石皿	Ⅳ	13.12	7.16	3.20	457.25	花崗岩	-	28404	-	-
	S757	F-10	I/b	石皿	Ⅳ	13.22	7.02	2.40	306.56	花崗岩	-	26212	-	-
	S758	D-9	I/b	石皿	Ⅳ	12.65	9.37	2.35	445.76	花崗岩	-	27477	-	-
	S759	C-10	I/b	石皿	Ⅳ	10.25	12.40	2.70	447.25	花崗岩	-	27495	-	-
	S760	E-10	I/b	石皿	Ⅳ	12.30	13.40	2.89	606.16	花崗岩	-	25012	-	-
	S761	E-9	I/b	石皿	Ⅳ	15.45	20.22	7.10	2940.00	花崗岩	-	29359	-	-
	S762	E-15	Ⅲ	石皿	Ⅳ	(16.11)	(19.03)	(8.97)	2968.90	礫岩	-	312	-	-
	S763	B-2	V/a	砥石	-	6.14	5.95	1.00	48.80	砂岩	-	47884	-	119
	2-308	S764	C-4	I/b	砥石	-	(7.44)	8.46	1.66	130.00	砂岩	-	36387	-
S765		B-4	I/b	砥石	-	(6.73)	(8.19)	(2.15)	112.80	砂岩	-	38507	-	119
S766		D-10	I/b	砥石	-	7.25	5.95	3.60	226.12	砂岩	-	29159	-	119
S767		C-12	I/b	砥石	-	(14.24)	(7.48)	(2.88)	202.00	砂岩	-	20928	-	119
S768		F-5	V/a	砥石	-	(8.83)	(3.31)	4.50	151.30	砂岩	-	48548	-	119
S769		F-6	I/b	砥石	-	(10.09)	(9.10)	(2.63)	345.50	砂岩	-	45152	-	119
S770		B-11	I/a	砥石	-	9.40	11.30	2.60	332.50	砂岩	-	5121	-	-
S771		B-17	I/b	砥石	-	7.68	5.30	1.25	75.10	砂岩	-	9412	-	119
S772		D-8	I/b	砥石	-	13.86	7.19	2.31	339.00	砂岩	-	30455	-	119
S773		E-32	I/b	砥石	-	12.28	9.86	2.55	433.50	砂岩	-	104681	-	119
S774		B-3	I/b	砥石	-	6.75	6.09	1.93	97.30	砂岩	-	39765	-	119
S775		D-4	I/b	砥石	-	7.10	6.70	2.08	143.52	砂岩	-	25865	-	-
S776		E-35	I/b	砥石	-	6.84	6.15	2.40	123.10	砂岩	-	100523	-	119
2-309		S777	F-38	I/b	砥石	-	8.84	3.56	1.44	35.92	礫岩	-	100203	-
	S778	C-12	Ⅲ	砥石	-	16.87	15.12	8.32	2530.00	砂岩	-	24451	-	-
	S779	E-24	I/b	砥石	-	18.54	21.60	6.28	1511.00	礫岩	-	41001	-	-
	S780	C-15	I/b	磨切石器	-	2.96	(3.95)	0.44	7.50	砂岩	-	17605	-	119
	S781	I2T	-	磨切石器	-	(4.94)	(4.44)	(0.57)	19.20	砂岩	-	一括	-	119
	S782	C-4	I/b	磨切石器	-	3.50	6.30	0.64	24.20	砂岩	-	39970	-	119
	S783	D-11	I/b	磨切石器	-	4.52	5.35	0.50	11.80	砂岩	-	一括	-	119
	S784	C-4	I/b	磨切石器	-	(7.41)	(6.02)	0.98	39.00	砂岩	-	37809	-	119
	S785	D-2	I/b	磨切石器	-	(6.85)	(8.19)	0.95	78.33	砂岩	-	46559	-	119
	S786	C-4	I/b	磨切石器	-	5.45	7.83	0.98	50.59	砂岩	-	36260	-	119
S787	C-15	I/b	磨切石器	-	6.79	7.11	0.85	49.09	砂岩	-	772	-	119	
2-311	S788	C-15	I/b	石鏃	1a	3.88	4.09	1.72	36.36	安山岩	安山岩B	17600	-	118
	S789	C-9	I/b	石鏃	1a	5.25	4.90	1.40	52.99	ホルツァムス	-	25777	-	118
	S790	D-15	I/b	石鏃	1a	6.11	4.83	1.65	56.64	ホルツァムス	-	9079	-	118
	S791	C-4	表土	石鏃	1a	6.04	4.78	1.80	69.10	安山岩	安山岩B	393	-	118
	S792	D-9	I/a	石鏃	1a	5.86	4.95	1.55	55.49	ホルツァムス	-	24319	-	118
	S793	C-17	I/b	石鏃	1a	5.96	5.20	1.63	78.56	砂岩	-	8255	-	118
	S794	E-14	I/b	石鏃	1a	6.79	6.12	2.13	119.73	砂岩	-	15228	-	118
	S795	E-5	I/b	石鏃	1a	6.45	7.08	1.90	132.65	砂岩	-	26636	-	118
	S796	C-5	I/b	石鏃	1a	6.80	7.30	2.25	154.58	砂岩	-	30398	-	118
	S797	C-10	I/a	石鏃	1a	5.88	6.75	1.93	107.24	砂岩	-	28574	-	118
	S798	D-11	I/b	石鏃	1a	7.37	8.00	2.72	233.50	安山岩	安山岩B	24050	-	-
	S799	C-16	I/b	石鏃	1a	7.51	6.83	2.53	192.90	ホルツァムス	-	9531	-	-
	S800	C-7	I/a	石鏃	1a	6.40	6.82	1.99	91.93	安山岩	安山岩B	22296	-	-
	S801	C-6	I/b	石鏃	1a	6.26	6.80	2.47	121.88	ホルツァムス	-	29527	-	-
S802	C-3	I/b	石鏃	1a	6.44	4.15	1.33	44.56	ホルツァムス	-	40712	-	118	
2-312	S803	B-9	I/b	石鏃	1a	5.20	7.26	2.30	134.70	砂岩	-	30735	-	118
	S804	F-10	I/a	石鏃	1a	5.29	7.99	2.80	161.40	砂岩	-	21456	-	118
	S805	B-8	I/b	石鏃	1a	9.94	7.47	1.68	179.30	砂岩	-	31934	-	-
	S806	C-12	I/b	石鏃	1b	6.86	4.54	1.70	79.47	砂岩	-	20917	-	118
	S807	F-14	I/b	石鏃	1b	6.40	6.20	2.17	21.60	花崗岩	-	24225	-	118
	S808	C-9	I/b	石鏃	1b	6.88	6.40	1.98	121.20	ホルツァムス	-	25782	-	118
	S809	B-17	I/b	石鏃	1b	6.30	4.87	2.08	95.12	ホルツァムス	-	31898	-	118
	S810	D-16	I/b	石鏃	1b	7.46	5.62	2.16	97.00	ホルツァムス	-	11728	-	-
	S811	C-9	I/b	石鏃	1b	6.75	6.04	2.47	115.98	ホルツァムス	-	47146	-	118
	S812	C-8	I/b	石鏃	1b	6.98	7.08	2.51	143.20	ホルツァムス	-	35365	-	118
	S813	F-15	I/b	石鏃	1b	8.68	6.63	2.65	236.00	ホルツァムス	-	20386	-	-

第2-28表 包含層石器観察表10

採回番号	掲載番号	出土区	層	器種	分類	法量			石材	石材分類	取上番号	備考	写真掲載	
						長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)						
2-212	S814	F-9	IVb	石鎌	1b	7.50	7.11	3.17	218.00	砂岩	-	47277	-	118
	S815	14T	IV	石鎌	1b	8.41	7.40	2.35	224.00	砂岩	-	201	-	-
	S816	C-8	IVa	石鎌	1b	8.09	6.56	2.20	166.70	砂岩	-	21788	-	118
	S817	B-6	IVa	石鎌	1b	7.50	6.96	2.77	192.20	砂岩	-	25490	-	-
	S818	E-8	IVa	石鎌	1c	6.25	8.00	2.40	186.20	砂岩	-	28062	-	118
	S819	E-7	IVa	石鎌	1c	7.31	7.50	1.45	122.60	砂岩	-	22099	-	118
	S820	D-8	IVb	石鎌	1c	8.89	8.95	2.07	221.60	砂岩	-	30432	-	118
	S821	C-10	IVb	石鎌	1c	8.39	8.10	3.83	333.50	砂岩	-	29736	-	-
	S822	F-15	V	石鎌	1d	5.36	4.07	1.20	34.50	ホルンフェルス	-	16034	-	-
	S823	C-15	II	石鎌	1d	(6.13)	(5.57)	1.50	75.00	ホルンフェルス	-	125	-	-
2-213	S824	E-8	IVa	石鎌	1d	6.30	5.83	2.38	114.76	花崗岩	-	24186	-	-
	S825	C-4	IVb	石鎌	1d	6.47	6.52	2.14	100.20	砂岩	-	31394	-	-
	S826	D-8	IVb	石鎌	1d	5.00	7.45	2.55	114.73	砂岩	-	28664	-	118
	S827	D-16	IVb	石鎌	II	6.66	5.61	2.46	126.10	花崗岩	-	6999	-	118
	S828	D-5	IVb	石鎌	II	7.71	5.48	2.19	126.80	ホルンフェルス	-	32347	-	118
	S829	D-9	IVb	石鎌	II	6.30	7.39	2.15	123.60	砂岩	-	27479	-	-
	S830	C-8	IVb	石鎌	II	7.61	7.95	2.57	218.80	砂岩	-	27988	-	118
	S831	C-17	IVb	石鎌	II	7.90	6.99	2.19	152.60	ホルンフェルス	-	3285	-	118
	S832	C-16	IVb	石鎌	II	8.40	6.93	2.44	187.70	ホルンフェルス	-	6040	-	-
	S833	D-2	IVb	石製品	-	2.77	1.72	0.49	2.60	砂岩	-	46903	-	120
2-214	S834	E-24	IVa	石製品	-	(4.22)	(1.71)	0.25	3.21	花崗岩	-	57000	-	120
	S835	E-8	IVa	石製品	-	11.17	3.45	1.48	72.97	頁岩	頁岩B	30087	-	120
	S836	B-4	IVb	石製品	-	5.88	3.25	2.65	60.69	ホルンフェルス	-	31627	-	120
	S837	B-16	IVb	石製品	-	(4.16)	3.07	1.07	18.09	砂岩	-	12000	-	-
	S838	D-12	IVb	石製品	-	4.35	2.60	1.72	28.97	ホルンフェルス	-	24063	-	120
	S839	B-3	IVb	軽石加工品	-	8.76	5.01	3.25	21.04	軽石	-	41068	-	-
	S840	B-5	IVb	軽石加工品	-	8.30	7.95	5.20	79.77	軽石	-	31060	-	120
	S841	C-4	IVb	軽石加工品	-	8.05	4.22	2.07	13.53	軽石	-	39947	-	120
	S842	C-6	IVa	軽石加工品	-	8.53	7.51	5.47	123.50	軽石	-	23435	-	120
	S843	C-5	IVb	軽石加工品	-	7.54	9.98	4.34	56.00	軽石	-	42022	-	120
2-216	S844	B-11	IVb	軽石加工品	-	9.57	10.44	6.31	112.00	軽石	-	9112	-	120
	S845	C-4	IVb	軽石加工品	-	9.28	13.55	7.37	131.00	軽石	-	39588	-	-
	S846	C-15	IVb	軽石加工品	-	13.36	9.53	5.52	181.50	軽石	-	668	赤色顔料付着	120
	S847	E-8	IVa	軽石加工品	-	6.10	5.59	1.73	21.06	軽石	-	28061	-	-
	S848	C-8	IVa	軽石加工品	-	12.25	7.40	3.10	30.33	軽石	-	28978	-	-
	S849	E-10	IVb	軽石加工品	-	8.25	12.45	4.05	92.38	軽石	-	26265	-	-
	S850	E-10	VI	軽石加工品	-	(22.00)	29.90	8.50	1793.00	軽石	-	45485	-	-

第2-29表 包含層石器掲載一覧表

	黒曜石 A	黒曜石 B	黒曜石 C	黒曜石 D	黒曜石 E	頁岩 A	頁岩 B	頁岩 C	安山岩 A	安山岩 B	安山岩 C	砂岩	凝灰岩	ホルンフェルス	花崗岩	蛇紋岩	チャート	玉髓	鉄石英	石英	軽石	その他	計
石鎌	7	3	21	4	1	5	7	32						1			16	3					100
石鎌	1						1		3			1							3				9
石匙	1	1					1				2						7	10		1			23
スタレイバー				1	1	1	4	1			2	3		10			1	1					25
二次加工剥片	1	1		1			2				3			2					1				11
使用痕剥片							7				3	1		3			1	2					17
石核・原石	3		1											3		1					3		11
磨製石斧							8							116	1								125
打製石斧							3							45									48
礮器												4		9									13
磨・敲石									31		36	1	13	36						1			118
石皿									3		5			25								1	34
砥石											15	2											17
擦切石器											8												8
石鎌									4		20			18	3								45
石製品						1					2			2		1							6
軽石加工品																						12	12
合計	13	5	22	6	2	6	34	1	35	38	10	95	3	222	65	1	26	19	1	5	12	1	622

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 (52)
東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

小牧遺跡 4（縄文時代前期～弥生時代初頭編） 第 2 分冊（全 3 分冊）

発行年月 2023年3月

編集・発行 鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576

印刷 株式会社 トライ社
〒892-0834 鹿児島市南林寺町12-6
TEL 099-226-0815 FAX 099-225-7933

